

京都美術工芸大学

シラバス [2021 年度版]

1. 教養教育科目 - 教養科目

歴史学	…	2
森林学概論	…	3
美学	…	4
技芸と文学	…	5
栄養学入門	…	6
生涯学習論	…	7
生活と法律	…	8
博物館概論	…	9
科学と芸術	…	10
工芸と経済	…	11
伝統と学び	…	12
哲学	…	13
教育学	…	14
世界文化遺産論	…	15
地域社会論	…	16
人間関係の科学	…	17
人間関係の心理臨床	…	18
表現技術論	…	19

2. 教養教育科目 - 伝統文化科目

日本工芸美術史	…	21
京都学	…	22
伝統芸術入門Ⅰ（茶道）	…	23
伝統芸術入門Ⅰ（華道）	…	24
伝統芸術入門Ⅰ（書道）	…	25
伝統芸術入門Ⅱ（茶道）	…	26
伝統芸術入門Ⅱ（華道）	…	27
伝統芸術入門Ⅱ（書道）	…	28
日本文化史	…	29
京都学演習Ⅰ（Aクラス）	…	30
京都学演習Ⅰ（Bクラス）	…	31
京都学演習Ⅱ	…	32

3. 教養教育科目 - コミュニケーション科目

日本語表現法	…	34
英会話Ⅰ（Aクラス）	…	35
英会話Ⅰ（Bクラス）	…	36
英会話Ⅰ（Cクラス）	…	37
英会話Ⅰ（Dクラス）	…	38
英会話Ⅰ（Eクラス）	…	39
英会話Ⅰ（Fクラス）	…	40

美術工芸英語（Aクラス）	…	41
美術工芸英語（Bクラス）	…	42
美術工芸英語（Cクラス）	…	43
美術工芸英語（Dクラス）	…	44
美術工芸英語（Eクラス）	…	45
美術工芸英語（Fクラス）	…	46
英会話Ⅱ（Aクラス）	…	47
英会話Ⅱ（Bクラス）	…	48
英会話Ⅱ（Cクラス）	…	49
英会話Ⅱ（Dクラス）	…	50
英語コミュニケーション（Aクラス）	…	51
英語コミュニケーション（Bクラス）	…	53
情報基礎演習（Aクラス）	…	54
情報基礎演習（Bクラス）	…	55
総合コミュニケーション	…	56

4. 教養教育科目 - キャリア形成科目

しごと論Ⅰ	…	58
しごと論Ⅱ	…	59
社会活動Ⅰ	…	60
社会活動Ⅱ	…	61
インターンシップ	…	62
メディアリテラシー	…	63
現代社会論	…	65

5. 専門教育科目 - 美術工芸科目・基本科目

工芸概論	…	67
建築概論	…	68
伝統工芸概論	…	69
構成基礎演習（Aクラス）	…	70
構成基礎演習（Bクラス）	…	71
構成基礎演習（Cクラス）	…	72
伝統住居概論	…	73
色彩学（Aクラス）	…	74
色彩学（Bクラス）	…	75
日本美術史	…	76
素描	…	77
デザイン概論	…	78
社寺建築概論	…	79
西洋美術史	…	80
東洋美術史	…	81
伝統絵画技法Ⅰ	…	82
建築計画Ⅰ	…	83

建築構造力学Ⅰ	…	84
文化財概論	…	85

建築設備	…	126
建築一般構造Ⅱ	…	127
建築構造力学Ⅲ	…	129
建築施工法	…	130
公共デザイン論	…	131

6. 専門教育科目 - 美術工芸科目・基幹科目

色彩理論演習	…	87
伝統住居論	…	88
デザイン作図演習（Ａクラス）	…	89
デザイン作図演習（Ｂクラス）	…	90
デザインと法規	…	91
伝統絵画技法Ⅱ	…	92
社寺建築論	…	93
伝統空間論	…	94
伝統建築環境学	…	95
文献・絵画資料概論	…	96
伝統構造学	…	97
ＩＴ活用応用演習（Ａクラス）	…	98
ＩＴ活用応用演習（Ｂクラス）	…	99
コンピューターデザイン演習（Ａクラス）	…	100
コンピューターデザイン演習（Ｂクラス）	…	101
建築計画Ⅱ	…	102
建築一般構造Ⅰ	…	103
建築材料	…	105
建築法規	…	106
建築構造力学Ⅱ	…	107
建築環境工学	…	108
文化財修理論	…	109
文化財マネジメント論	…	110
インテリア設計	…	111

8. 専門教育科目 - 専門演習・実習（美術工芸学科）

芸術導入演習	…	133
芸術導入実習	…	134
造形基礎演習Ⅰ	…	135
造形基礎演習Ⅱ	…	136
工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（漆芸）	…	137
工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（木工・彫刻）	…	138
工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（陶芸）	…	139
工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（デザイン）	…	140
工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（漆芸）	…	141
工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（木工・彫刻）	…	142
工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（陶芸）	…	144
工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（デザイン）	…	145
工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（文化財）	…	146
専門実習Ⅰ（漆芸）	…	147
専門実習Ⅰ（木工・彫刻）	…	148
専門実習Ⅰ（陶芸）	…	150
専門実習Ⅰ（デザイン）	…	151
専門実習Ⅰ（文化財）	…	152
専門実習Ⅱ（漆芸）	…	153
専門実習Ⅱ（木工・彫刻）	…	154
専門実習Ⅱ（陶芸）	…	156
専門実習Ⅱ（デザイン）	…	157
専門実習Ⅱ（文化財）	…	158
専門実習Ⅲ（漆芸）	…	159
専門実習Ⅲ（木工・彫刻）	…	160
専門実習Ⅲ（陶芸）	…	162
専門実習Ⅲ（デザイン）	…	163
専門実習Ⅲ（文化財）	…	164
プロジェクト演習Ⅰ	…	165
プロジェクト演習Ⅱ	…	166
プロジェクト演習Ⅲ	…	167
卒業制作研究（漆芸）	…	168
卒業制作研究（木工・彫刻）	…	169
卒業制作研究（陶芸）	…	171
卒業制作研究（デザイン）	…	172
卒業制作研究（文化財）	…	173

7. 専門教育科目 - 美術工芸科目・展開科目

伝統工芸産業工学	…	113
伝統工芸材料科学	…	114
工芸経営論	…	115
立体造形	…	116
伝統文様	…	117
古文書解読演習Ⅰ	…	118
伝統建築図（応用）	…	119
室内意匠論	…	120
古文書解読演習Ⅱ	…	121
伝統建築論Ⅰ	…	122
伝統建築論Ⅱ	…	123
建築計画Ⅲ	…	124
建築計画Ⅳ	…	125

9. 専門教育科目 - 専門演習・実習（建築学科）

工芸実習導入（建築デザイン）	…	175
工芸実習基礎Ⅰ（建築デザイン）	…	177
建築実習基礎Ⅱ（建築デザイン）	…	179
建築デザイン演習Ⅰ	…	181
建築デザイン演習Ⅱ	…	183
建築デザイン演習Ⅲ	…	185
伝統建築専門実習Ⅰ	…	187
伝統建築専門実習Ⅱ	…	188
伝統建築専門実習Ⅲ	…	189
卒業制作（建築）	…	190

10. 博物館学芸員養成科目

生涯学習論	…	192
博物館概論	…	193
博物館経営論	…	194
博物館資料論	…	195
博物館資料保存論	…	196
博物館展示論	…	197
博物館情報・メディア論	…	198
博物館教育論	…	199
博物館実習	…	200

京都美術工芸大学 科目ナンバリング

2021.1.15 京都美術工芸大学事務局

ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序などを表し、教育課程の体系性を明示する仕組み。

ナンバリングルール

設置コード 英字3桁	ハイフン -	科目区分 英字2桁	配当年次（レベル） 数字1桁	連番※ 数字2桁	形態 英字1桁
CRA 工芸学部・共通 Crafts	-	GE 教養教育科目：教養 General Education	0 初年次教育・導入	01～99	L 講義 Lecture
CAC 工芸学部・美術工芸学科 Crafts / Arts and Crafts		TR 教養教育科目：伝統文化 Traditional Culture	1 1年次（基礎）		P 実習 Pratical Training
CAT 工芸学部・建築学科 Crafts / Architecture		CO 教養教育科目：コミュニケーション Communication	2 2年次（基礎）		S 演習 Seminar
MAT 大学院・建築学専攻 Master / Architecture		CA 教養教育科目：キャリア形成 Career	3 3年次（応用・発展）		U 未分類 Unclassified
		BA 専門教育科目：基本科目 Basic Subjects	4 4年次（応用・発展）		
		MA 専門教育科目：基幹科目 Mainstay Subjects	5 M1年		
		DE 専門教育科目：展開科目 Development Subjects	6 M2年		
		SP 専門演習・実習科目 Seminar or Pratical Training	9 レベル無し（ボランティア系）		
		CU 学芸員 Curator			
		AC 大学院：美術工芸科目 Arts and Crafts			
		SL 大学院：専門特論科目 Special Lecture			
		SR 大学院：専門研究科目 Specialty Research			

※連番は学則科目一覧の並び順を基本とする

- ➡ 専門教育科目のうち、基幹科目と展開科目については、両学科でそれぞれ並び順が違うため統合する
- ➡ 学部の学則科目の並び順で連番を振り、学部共通・美術工芸学科・建築学科で分ける
- ➡ 別表を作成

例） 京都学 ➡ 工芸学部・共通 + 教養・伝統文化 + 1年次 + 連番 + 講義 ➡ CRA-TR102L
IT活用応用演習（Aクラス） ➡ 工芸学部・美術工芸学科 + 専門・基幹 + 2年次 + 連番 + 演習 ➡ CAC-MA211S
IT活用応用演習（Bクラス） ➡ 工芸学部・建築学科 + 専門・基幹 + 2年次 + 連番 + 演習 ➡ CAT-MA213S
社会活動Ⅰ ➡ 工芸学部・共通 + 教養・キャリア形成 + レベル無し + 連番 + 演習 ➡ CRA-CA001S

1. 教養教育科目 – 教養科目

講義名	歴史学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 中村 みどり	KYOB I 工芸学部

到達目標	教養としての通史的な理解を深めるばかりでなく、歴史を複数の視点から考える多角的な視野と、歴史的事象がどのような情勢と人々の動きによって築かれたのかという「生きた歴史学」を身につけ、理解してもらうことを目標とする。
授業概要	本授業では古代から近代までの日本における歴史と文化を通史的に概説し、中でも特に京都に関わる歴史的事象を取り上げ、適宜詳説してゆく。授業は毎時間レジュメを配布し講義形式によって行い、適宜質問に回答してゆくフィードバックの時間を設けるものとする。 本科目は工芸学部のディプロマポリシー 1、2 に該当する。
授業計画 授業内容	第 1 回 歴史学概論 第 2 回 古代国家の成立 第 3 回 奈良時代と天平文化 第 4 回 平安時代の始まりと安定 第 5 回 摂関時代と国風文化 第 6 回 院政期と武士の台頭 第 7 回 鎌倉時代とその盛衰 第 8 回 室町時代と応仁の乱 第 9 回 室町時代の文化と習俗 第 10 回 戦国時代と天下統一 第 11 回 南蛮文化と桃山文化 第 12 回 江戸時代の政治と改革 第 13 回 江戸文化 第 14 回 明治維新と文明開化 第 15 回 文化財保護の現在
成績評価	評価ポイント：期末レポート（70%）、授業参加態度（30%）
教科書	特になし
参考書 参考資料	山川出版社『詳説 日本史 B』 岩波書店『岩波日本史辞典』
履修上の注意	特になし
予習・復習指導	必要とする時間については自己判断に任せる。 特に予復習は課さないが、参考書にあげているような教科書レベル等の通史を事前に頭に入れて授業に臨むように。なお授業中の分からなかった単語等もすぐに辞書等を引き自習しておくことが望ましい。
関連科目	日本文化史、京都学、日本美術史、文化財概論
課題に対するフィードバックの方法	特になし
教員の実務経験	なし
科目ナンバリング	CRA -GE 2 01 L

講義名	森林学概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 森本 幸裕	KYOB I 工芸学部

到達目標	森林に親しみ、その恵みを持続可能な形で利用するにあたって重要な現代的課題を理解できるようになる。また、京都の代表的な森林景観の実態が理解できるようになる。
授業概要	最も発達した陸上生態系である森林は地球生命圏の恒常性を支える基盤でもある。また素材としても、モチーフとしても美術工芸と関わりが深い。その多様な側面を具体例から解説し、地球環境変動の渦中における課題とその取り組みについても紹介する。自主的フィールドワークを推奨し、課題としてmy図鑑を作成する。 本科目は工芸学部ディプロマポリシーの1に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 森林と樹木 : ウォッチングの基本 第2回 機能する森林 : 森とヒトとガイア仮説 第3回 日本の森林と林業 : 多面的機能と社会的位置づけ 第4回 宝ヶ池の森 : 身近な里山の危機 第5回 糺の森 : 攪乱と森林 第6回 京都三山の森 : 風水と景観生態学 第7回 吉野山 : サクラの森 第8回 にほんの里 : アートと多様な林産物 第9回 平安神宮の森 : 美と生物多様性とフラクタル 第10回 自然公園の森 : ウィルダネスの継承 第11回 万博の森 : 都市に自然林をつくる 第12回 いのちの森 : アーバンエコロジーパーク 第13回 癒しの森 : 次世代統合医療 第14回 世界の森林 : グリーンインフラとしての森林生態系 第15回 まとめ : 森林の未来
成績評価	授業態度 (25%)、小レポート (25%)、およびmy図鑑 (50%)
教科書	樹木を同定するための図鑑 (特に指定しない)
参考書 参考資料	『景観の生態史観～攪乱が再生する豊かな大地』森本幸裕編著 (京都通信社)
予習・復習指導	一講義 (1コマ) に対して4.5時間の予習復習をすること。 (具体的な内容) 休日等に樹木と森林のウォッチングを行い、講義で解説する方法でmy図鑑の作成を行うこと。 授業で配布する資料やノートで、キーワードを復習すること。
課題に対するフィードバックの方法	提出物については特徴的なものを選んで、授業の際等にコメントする。
教員の実務経験	国および自治体の森林を含む環境や風致に関する「審議会委員」として30年以上。 (公財)京都市都市緑化協会理事長として、「都市緑地の指定管理」
教員の实務経験有無	実務経験有
科目ナンバリング	CRA GE 1 02 L

講義名	美学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 村上 真樹	KYOB I 工芸学部

到達目標	「美」や「見かけ」に対するさまざまな異なった見解を学び、その変遷をたどることを通して、「見る」ということについての反省的視座を獲得することを目指す。
授業概要	この授業では「見かけ」を意味する「仮象」の概念を軸に、西洋美学史を概観する。芸術作品だけではなく、私たちの日々の生活の中にも見出される「美しい見かけ」という問題がこれまでどのように論じられてきたのかを確認することを通して、「美」という価値観について改めて考え直す機会としたい。 本科目は工芸学部ディプロマポリシーの1、2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 導入 第2回 プラトンのイデア論 第3回 キリスト教美術と宗教改革 第4回 ルネサンスの美術理論 第5回 啓蒙主義と仮象 第6回 ドイツ観念論美学の展開 第7回 ロマン主義の美学 第8回 ニーチェの仮象概念 第9回 19世紀の唯美主義 第10回 化粧、装飾、表面性 第11回 芸術の都パリ 第12回 モダニズムと機能主義 第13回 現代アートの美学 第14回 現代文化に見る「見かけ」と「本質」 第15回 まとめ
成績評価	受講態度（30%）、期末レポート（70%）によって評価する。
教科書	使用しない。
参考書 参考資料	『仮象小史』、ノルベルト・ボルツ著、山本尤訳、法政大学出版局。 『美の中断——ベンヤミンによる仮象批判』、村上真樹著、晃洋書房。
履修上の注意	特別な予備知識は必要としないが、受講生には美と芸術について深く思考しようとする姿勢を期待したい。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の復習をすること （具体的な内容） 授業で取り上げる作品や理論について復習し、特に興味を持った点に関しては専門の書籍などを通して理解を深めること。
関連科目	美術史、哲学との関連が深い。
課題に対するフィードバックの方法	期末レポート終了後、全体的な解説・講評をclassroomに公開する。
教員の実務経験	無
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	CRA-GE103L

講義名	技芸と文学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 武藤 タ佳里	KYOB I 工芸学部

到達目標	物事に対する興味ばかりでなく、問題意識をも喚起し、多角的な視座を追究する姿勢を育む。同時に、論理性ある思考力と自らの感受や感性を表現する創造力を養う。提出課題とするA調査メモ、B調査メモ、C研究調査ノートの作成を通し、自らの思考を整理し、表現に導く手法を学ぶ。
授業概要	本講義では人間の暮らしと営みを通して、日本の歴史と文化について考える。その際に基軸とするのが技芸にみるものづくり、人との関係性であり、文学をはじめとした文芸の世界から読み解く。各回に多彩な史資料を取り上げ、技芸がどのように私たちの生活に寄り添い、彩ってきたのかを見る。人とのをめぐる様々な物語を知り、これまでの学習を一步進め、自らで考える歴史、文化、技芸を学び確立していく機会とする。本科目は工芸学部のディプロマポリシー2,3に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 技芸と文学—はじめに 第2回 技芸と文学—古典 第3回 技芸と文学—意匠 第4回 技芸と文学—色彩 第5回 技芸と文学—茶道 * (A調査メモの提出) 第6回 近代と技芸①日本—万博との出会い 第7回 近代と技芸②海外—芸術の時代・ジャポニズム 第8回 近代日本の工芸①外国人著作物にみる日本の旅 第9回 近代日本の工芸②外国人著作物にみる京都 第10回 近代日本の工芸③外国人著作物にみる近代七宝 * (B調査メモの提出) 第11回 現代への道①日本庭園と文芸 第12回 現代への道②民芸と文芸 第13回 現代への道③作家と言葉—個性創作 第14回 現代への道④創造と革新—日本の伝統 * (C研究調査ノートの提出) 第15回 まとめ
成績評価	・講義、授業への積極的参加 ・A調査メモ:技芸 (工芸ほか) を一つ取り上げ、素材や技術など製作に関わる背景を調べる。 ・B調査メモ:A調査メモで取り上げた対象物に関わる文芸的要素や背景を調べる。 ・C研究調査ノート 調査メモAとBを踏まえて対象物の歴史と文化について自分の考えをまとめる。
教科書	特に定めない
参考書 参考資料	時々に資料を配布する。
履修上の注意	「技芸と文芸」を難しく捉えず、文化に育まれてきた真心をみる気持ちで励んでほしい。提出課題は自らの学習や創作を助ける要素となりうることを意識して意欲的に取り組んでほしい。
予習・復習指導	① 1コマに対し、2時間程度の事前学習をする 例: 関連する展覧会や建造物などをみたり、図録や資料をさがしてみる。 ② 1コマに対し、2.5時間の復習をすること 例: 講義でふれた内容について、改めて自分でも史資料などで調べてみる。 (具体的な内容) 課題に取り組み史資料の収収を行い調べる。A.Bの調査メモ、C研究調査ノートについて第1回目の授業で説明をする。日々の生活の中で積極的にもの (工芸や造形物、作品ほか) や文学と出会い、自分が興味を持った対象物について調べる。物事に対する感受を育む意識を持ち、人との様々な付き合い (みる、つかう、つくる、かざる、…) を改めて考える機会とする。
関連科目	自分を育み養うひとつの要素とし、他の科目へ学習を拡げる際の素地となりうる。
課題に対するフィードバックの方法	A、B調査メモは、必要に応じて調べ方や史資料の紹介を授業の中で言及し、C研究調査ノートの完成を助ける。
教員の実務経験	有り/学芸員・会社員
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-GE 3 04L

講義名	栄養学入門		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 桑原 彩	KYOB I 工芸学部

到達目標	人間の身体活動を支える栄養素に関する基礎的理解をはかると共に、生命活動と密接に関わる各種栄養素について考察し、さらに実践的な食事へ反映させることができる。また日本及び世界の食文化への理解を深めることができる。
授業概要	人間の身体活動の基礎となる各種栄養素について解説する。生活に密着した食事内容や水分補給、サプリメントの知識等を扱うこととする。また、食のもつ精神的な意味合い、歴史等を食文化の視点からも解説する。 本科目は工芸学部のディプロマポリシー 2 に該当する。
授業計画 授業内容	第1回 オリエンテーション 受講内容と講義計画の説明 第2回 栄養とは何か、食事摂取基準について 第3回 五大学栄養素について（炭水化物、脂質） 第4回 五大学栄養素について（たんぱく質、ビタミン） 第5回 五大学栄養素について（ミネラル、水分補給） 第6回 障害予防（貧血予防、免疫力アップの食事など） 第7回 減量のための食事と行動変容 第8回 サプリメントについて、食品衛生について 第9回 ライフステージ別の栄養について 第10回 日本の食文化の歴史① 第11回 日本の食文化の歴史② 第12回 日本の行事食と郷土食について 第13回 西洋の食文化について 第14回 中国の食文化について 第15回 紅茶の歴史、講義のまとめ
成績評価	課題提出及び最終レポートにより評価する。
教科書	栄養の基本がわかる図解辞典 成美堂出版
参考書 参考資料	食の文化／石毛直道／味の素食の文化センター
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 （具体的な内容） 講義の際、指示のあった名称について教科書を確認しその働きを理解すること。
課題に対するフィードバックの方法	課題における問題点、質問事項は順次講義内で解説し共有する。
科目ナンバリング	CRA-GE 1 05 L

講義名	生涯学習論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 吉富 千恵	KYOB I 工芸学部

到達目標	①人間の生涯に渡る発達について学ぶ ②生涯学び続けることの意義と必要性を理解する ③生涯学習支援と推進の方法を学ぶ
授業概要	本講義では、生命誕生の瞬間から高齢期まで、それぞれの時期における発達と課題を詳しく学ぶことを通して、生涯学習について考えます。 本科目は、工芸学部ディプロマポリシーの3に該当します。
授業計画 授業内容	第1回 オリエンテーション 第2回 胎児期① 第3回 胎児期② 第4回 乳幼児期① 第5回 乳幼児期② 第6回 児童期① 第7回 児童期② 第8回 青年期① 第9回 青年期② 第10回 中年期① 第11回 中年期② 第12回 高齢期① 第13回 高齢期② 第14回 生涯学習論の背景① 第15回 生涯学習論の背景②
成績評価	受講態度30%、期末テスト70%
教科書	特に指定しない、適宜レジュメを配布する。
参考書 参考資料	『現代の生涯学習』 岩永雅也 放送大学教材
履修上の注意	私語厳禁です。
予習・復習指導	特になし
関連科目	博物館学芸員養成科目
課題に対するフィードバックの方法	コメント、質問のフィードバックを次回以降の講義内で行う。
科目ナンバリング	CRA-GE 1 06 L

講義名	生活と法律		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 右近 潤一	KYOB I 工芸学部

到達目標	・身近に様々な法律が存在することを理解することができる。 ・法律が関係するニュース報道を理解することができる。 ・憲法・民法・刑法の意義と役割を理解することができる。
授業概要	・本講義を受講することにより、身の回りにある法律がどのように自らに関わるのかを認識することができるようになる。 ・本科目は工芸学部ディプロマポリシーの2に該当する。
授業計画 授業内容	第1回 法学とは？何を何のために学ぶか（教科書Theme1） 第2回 法律が憲法に違反すると（教科書Theme4） 第3回 憲法で守られる人権とは（教科書Theme5） 第4回 憲法は差別問題についてどう考えているか（教科書Theme6） 第5回 【小テスト1】テスト1解説：六法とは何か（教科書Theme2） 第6回 テスト1講評：民法の適用は年齢によって区別されるか（教科書Theme7） 第7回 契約は守らなければならないか（教科書Theme8） 第8回 子どもの遊びが原因の事故でも損害賠償請求に応じなければならないか（教科書Theme9） 第9回 お父さんと呼べるのはなぜ（教科書Theme10） 第10回 【小テスト2】テスト2解説：裁判所は何をするところか（教科書Theme3） 第11回 テスト2講評：夫婦は同一姓を名乗らなければならないか（教科書Theme11） 第12回 相続のルールはなぜ必要なの（教科書Theme12） 第13回 冤罪事件を防ぐには（教科書Theme13） 第14回 裁判員になって死刑判決にかかわる（教科書Theme14） 第15回 【小テスト3】テスト3解説：AI のある生活（教科書Theme16）
成績評価	・各講義の最後に講義に関連した「今日の質問」をするので、それに回答してもらう。【40%】 ・3回の小テストを各回 20 点で行う。【60%】 なお、オンラインで行う場合には、意見を求めた際に反応がなかったときは、今日の質問に回答されていても、採点せず欠席といたします。
教科書	渡邊博己・右近潤一『法学ナビ：16 の物語から考える』（北大路書房）
参考書 参考資料	道垣内弘人『リーガルベシス民法入門』（日本経済新聞出版）
履修上の注意	・遅刻や早退のほか、途中退室が散見されます。他の方の妨げになりますので、スケジュール管理をしっかり行い、また体調を整えて、受講しましょう。 ・スマホゲームは教室外で。 ・オンラインで行う場合にも、意見を求めます。その際、反応がなければ、欠席といたします。 ・教科書を手に入れずに受講される方がありますが、普段皆さんが学ばれていることとは異なる内容ですので、できる限り教科書を手元に置かれることをおすすめします。講義内でも、教科書の一部を讀上げて、意見を求めることもあります。
予習・復習指導	- 一講義（1 コマ）に対し、2時間の事前学習及び2時間の復習をすること（具体的な内容） ・講義の前後に教科書の、講義内容欄にある各回のTheme部分を一読すること。 ・講義に関連するニュースについて言及することがあるので、そのニュースについてネットで良いので一読しておくこと。 ・復習に際しては、レジュメ下部にある『今日の質問』を頼りに当該講義のポイントをつかんでおくこと。
課題に対するフィードバックの方法	・回収した「今日の質問」は翌週の講義で採点の上返却します。必要な場合には、そこにコメントを入れてあります。また、誤解されているようなポイントがある場合には、全体に対してコメントすることがあります。小テストにもかわる内容ですので、各自で自身の回答と評価、また個別コメントも参照して、自身の解答のどこがまずかったのか、メモしておきましょう。 ・小テストについては、テスト後に簡単なコメントをいたします。間違いの多い設問については、採点後に講義内でコメントすることがあります。また、返却致します。
教員の実務経験	なし
科目ナンバリング	CRA - GE 1 07 L

講義名	博物館概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 岡 達也	KYOB I 工芸学部

到達目標	博物館活動の概要を把握するとともに、博物館の諸活動に従事するために不可欠な基礎的知識を総合的に習得する。
授業概要	博物館は、さまざまな博物館資料を調査・研究、さらに展示・活用し、幅広く社会と関わる学習活動の拠点である。本講義では、博物館活動の具体例を提示し、現代社会における博物館の役割と意義を理解することを目指す。 工芸学部のディプロマポリシー 1 に該当する。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス 第2回 博物館とはなにか 第3回 学芸員の仕事① 第4回 学芸員の仕事② 第5回 博物館建築と機能 第6回 博物館の歴史① 第7回 博物館の歴史② 第8回 博物館と収集・保存 第9回 博物館資料と情報化 第10回 博物館と展示① 第11回 博物館と展示② 第12回 博物館とデジタル技術 第13回 博物館と学校教育 第14回 博物館と地域 第15回 総括
成績評価	授業時の小レポート（40%）、期末試験（60%）によって総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	加藤有次、鷹野光行、西源二郎、山田英徳、米田耕司『新版博物館学講座1 博物館概論』雄山閣出版
履修上の注意	博物館学芸員資格取得希望者は必ず受講すること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	博物館学芸員養成関連科目
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを講義内でおこなう。
科目ナンバリング	CRA-GE108L

講義名	科学と芸術		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 三木 勲	KYOB I 工芸学部

到達目標	自分なりに、芸術における科学の役割を見極め、その役割の是非を判断し、きちんと説明できるようにする。さらには、芸術について科学的な知見を導入しながら発想を行い、果たしてその自らの発想は人類に対してどのような影響を及ぼすものであるのかを指摘できるようにする。
授業概要	古来、芸術は科学とどのような関係性を持ちながら展開されてきたのか。この点について、画期となった概念や理論また方法や人物に着目しながら考察し、芸術を科学的に創造することの意義を検討する。本科目は工芸学部ディプロマポリシーの1, 2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 イントロダクション：科学と芸術の起源 第2回 自由学芸と機械技芸の関係性 第3回 ルネサンス期における芸術論の生成 第4回 ルネサンス期における芸術論の展開 第5回 レオナルド・ダ・ヴィンチの「トリセツ」 第6回 レオナルド・ダ・ヴィンチの思考 第7回 芸術のさらなる科学化？ 第8回 古典的な美への眼差し 第9回 新古典主義的な美学 第10回 古典的な美学からの逃走劇 1 第11回 古典的な美学からの逃走劇 2 第12回 マルセル・デュシャンの「創造性」 1 第13回 マルセル・デュシャンの「創造性」 2 第14回 現代アートと科学 第15回 新しい制作・表現の可能性
成績評価	出席と受講態度（コメントなど）を合わせて60%、レポート課題（1回）を40%の割合で評価の対象とする。
教科書	特に指定はない。適宜、文献などの関連資料を紹介していく。
参考書 参考資料	B・コロミーナ、M・ウィグリー『我々は人間なのか？ — デザインと人間をめぐる考古学的覚書き —』牧尾晴喜訳 ビー・エヌ・エヌ新社 2017年。森美術館監修『未来と芸術』美術出版社 2020年。 M・カルボ『アルファベット そして アルゴリズム：表記法による建築—ルネサンスからデジタル革命へ—』美濃部幸郎訳 鹿島出版会 2014年。
履修上の注意	できるかぎり予習・復習をしておくのが望ましい。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 （具体的な内容） 上記参考書・参考資料以外に必要であれば、毎回事前に、講義内容（第2回で自由学芸と機械技芸の関係性）に関連する文献などの資料も示す。それらに基づき、当該講義内容に関する事柄について情報収集に努め関心を高めておく。また、受講後は、学んだ事柄について重要な点を中心に確認し、整理する。なお、不明な点があれば、次回受講後等の機会に、質問できるように準備しておく。
関連科目	美術史、科学史、建築史、デザイン史、工芸史、美学、哲学、倫理学など
課題に対するフィードバックの方法	評価の方法や基準などをweb掲示板で公表する。
教員の実務経験	なし
科目ナンバリング	CRA - GE 2 11 L

講義名	工芸と経済		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 岩田 均	KYOB I 工芸学部

到達目標	・経済学の基本的な考え方を理解し、あるべき社会の構想力を獲得する。 ・工芸・建築・デザインと経済との関係性について理解する。 ・研究課題を自ら設定し、課題解決に取り組む力を養う。 ・研究課題を自ら設定し、課題解決に取り組む力を養う。
授業概要	現代の標準的な経済学には、美術や工芸の価値を正しく評価する能力が備わっていない、という重大な欠陥がある。そこで、固有価値や文化資本等の概念を取り入れた新たな経済学（文化経済学）から学び、人間の創造的能力が開花する社会を構築する力を養う講義とする。
授業計画 授業内容	第1回 講義概要：講義の目標、全体計画、受講の要領、経済学の原理 第2回 近現代社会の基本構造：コモンズの解体、市場の勃興、近代国家の形成 第3回 経済学の誕生：スミスの経済思想、産業革命の影響 第4回 経済学の展開：マーシャルの地域経済学、ラスキンの芸術経済学 第5回 Arts & Craftsの経済学：芸術財のジレンマ、ボウモル病、芸術の外部性 第6回 価値を問い直す：労働価値論と効用価値論、ケインズ経済学 第7回 固有価値論：固有価値と享受能力、職人仕事の本質と外部性 第8回 資本を問い直す：経済資本、私的資本、社会資本、社会関係資本 第9回 文化と経済発展：企業と文化、地域と文化、工業の工芸化 第10回 財(主体)を問い直す：私的財と公共財、共同財化による問題解決 第11回 社会企業の時代：公を担う市民、営利企業の社会企業化 第12回 工芸の復興：柳の民衆工芸論、クラフト産業の再評価、価値の探求 第13回 次世代産業論：創造産業論、産業クラスター論、産業集積論 第14回 理想社会の創造：新産業発展論、理想社会の姿、地域経営者の役割 第15回 総括と到達度テスト
成績評価	ミニレポートや積極性などの平常点（50％）と最終段階での到達度テスト（記述、50％）によって総合的に評価する。
教科書	講義用資料を電子データで配信する。
参考書 参考資料	池上惇『文化と固有価値の経済学』岩波書店 スロスビー『文化経済学入門』日本経済新聞社
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、1時間の事前学習及び3時間の復習を目安とすること。 講義の中で提示する課題などに取組んで、講義内容を応用して役立てよう心がけてください。
課題に対するフィードバックの方法	ミニレポートや質問などについて、次回以降の講義の中で対応する。
教員の実務経験	京都府庁で24年間、シンクタンクで7年間の実務経験を有す。
科目ナンバリング	CRA-GE 2 12 L

講義名	伝統と学び		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 齋藤 桂	KYOB I 工芸学部

到達目標	多様な音楽やその他の文化を考える基礎的な視点・考察方法を身に着ける。また、それを適切に表現する手段を習得する。
授業概要	日本に限らず「伝統文化」と呼ばれるものは世界中にあるが、その定義は様々である。本講義では、おもに音楽の事例を通じて、人々が「伝統」をどのように捉え、表現してきたかを解説する。日本の狭義の伝統音楽に留まらず、現代のポピュラー音楽やあるいは他の国・地域の事例、また文学や美術、映像等を含めて扱うことで、文化を相対的に把握し、考察する。
授業計画 授業内容	講義は以下の予定で行うが、進捗状況により前後が入れ替わることがある。 ①はじめに：「伝統」の定義について ②「創られた伝統」の議論 1 ③「創られた伝統」の議論 2 ④各国・各地の伝統音楽 1（日本の事例） ⑤各国・各地の伝統音楽 2（日本の事例） ⑥各国・各地の伝統音楽 3（日本以外の事例） ⑦各国・各地の伝統音楽 4（日本以外の事例） ⑧「伝統」に関する研究史1 ⑨「伝統」に関する研究史2 ⑩「伝統」と社会問題 1（伝統と著作権） ⑪「伝統」と社会問題2（伝統と文化の非対称性） ⑫文化をどう書くか（レポートについて）1 ⑬文化をどう書くか（レポートについて）2 ⑭身近な文化と伝統 ⑮まとめ：再度「伝統」とは何か
成績評価	中間で実施する課題と期末レポート
教科書	特になし。
参考書 参考資料	小谷野敦『日本文化論のインチキ』（幻冬舎、2010）、輪島裕介『創られた「日本の心」神話：「演歌」をめぐる戦後大衆音楽史』（光文社、2010）等。その他は講義中に適宜指示する。
履修上の注意	特になし。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して3.5時間の復習をすること。 （具体的な内容） 講義で紹介した音楽や映像の視聴、文献の精読など。
課題に対するフィードバックの方法	講義期間内の課題については講義中にフィードバックを行う。
教員の実務経験	なし
科目ナンバリング	CRA - GE 3 13 L

講義名	哲学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 村上 真樹	KYOB I 工芸学部

到達目標	近代の哲学・思想の歩みをたどり、そこで何が議論されてきたかを把握する。また近代における芸術の機能を理解し、制作に活かす。
授業概要	この授業では、17世紀以降の哲学および思想を概観し、「近代」と呼ばれる時代について考察する。近代において人々の考え方・価値観がどのように変化したのかをたどることで、現代の生活がどのような基盤の上に成り立っているのか、そして今後どのように展開してゆくのかを考える機会とした。本科目は工芸学部ディプロマポリシーの2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 導入 第2回 理性と啓蒙 第3回 近代精神の確立 第4回 ドイツ観念論の哲学 第5回 観念論とロマン主義 第6回 実践哲学の台頭 第7回 生の哲学 第8回 精神分析の世紀 第9回 自我と無意識 第10回 現象学と実存主義 第11回 自由とアンガジュマン 第12回 構造による世界把握 第13回 複製技術時代の芸術作品 第14回 ポストモダンの精神 第15回 まとめ
成績評価	受講態度（30%）、期末レポート（70%）によって評価する。
教科書	使用しない。
参考書 参考資料	『超訳 哲学者図鑑』、富増章成著、かんき出版。 その他、適宜授業内で指示する。
履修上の注意	特別な予備知識は必要としないが、受講生には哲学上の問題について深く思考しようとする姿勢を期待したい。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し1コマに対し、1時間の事前学習及び3.5時間の復習をすること（具体的な内容） 授業で取り上げる哲学者の理論について復習し、特に興味を持った人物・思想に関しては専門の書籍などを通して理解を深めること。
関連科目	美学との関連が深い。
課題に対するフィードバックの方法	期末レポート終了後、全体的な解説・講評をclassroomに公開する。
教員の実務経験	無
教員の实務経験有無	無
科目ナンバリング	CRA-GE314L

講義名	教育学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 吉富 千恵	KYOB I 工芸学部

到達目標	①教育学についての基礎知識を学ぶ ②人間の発達、成長過程について理解する ③自分自身の教育観を形成する
授業概要	本講義では、教育心理学や発達心理学にて蓄積された豊富な研究結果を紹介しながら、よりよい教育について考える。人間の発達を軸に、その時々で必要な学習と教育について学ぶ。 本科目は、工芸学部ディプロマポリシーの3に該当する。
授業計画 授業内容	第1回 教育学を学ぶにあたって 第2回 生命誕生と教育① 第3回 生命誕生と教育② 第4回 乳幼児と教育① 第5回 乳幼児と教育② 第6回 児童と教育① 第7回 児童と教育② 第8回 青年と教育① 第9回 青年と教育② 第10回 発達障がいと教育 第11回 現代の教育問題① 第12回 現代の教育問題② 第13回 現代の教育問題③ 第14回 現代の教育問題④ 第15回 総まとめ
成績評価	出席点2点×15回＝30点、期末テスト70点
教科書	特に指定しない、毎回レジュメを配布する。
参考書 参考資料	木村元・小玉重夫・船越一男『教育学をつかむ』（有斐閣、2009年）
履修上の注意	私語厳禁です。
予習・復習指導	特になし
関連科目	「生涯学習論」
課題に対するフィードバックの方法	コメント、質問のフィードバックを次回以降の講義内で行う。
科目ナンバリング	CRA-GE 3 15 L

講義名	世界文化遺産論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 三木 勲	KYOB I 工芸学部

到達目標	文化遺産を保存し、過去を継承していくことの意味についての確に理解し説明できるようにする。さらには、様々な文化遺産を身近な存在と捉え、その保全や活用に関して、自分なりに問題点を見出し、解決策を提案できるようにする。
授業概要	世界文化遺産の理念、歴史、制度、類型（タイプ）について把握する。その上で、国内外における文化遺産の保全や活用に関わる考え方や取り組みをみながら、文化遺産保護の望ましい在り方について考察していく。なお、適宜、できるだけ多くの事例や最新の動向（トレンド）を紹介し、理解を深められるように努める。本科目は工芸学部ディプロマシーの1, 2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 インTRODakション：世界遺産の概要と歴史 第2回 世界文化遺産の評価と登録 第3回 世界遺産条約を支える考え方 第4回 世界文化遺産関連の組織と憲章 第5回 世界文化遺産の類型（タイプ）の捉え方 第6回 世界文化遺産の類型と具体例①（歴史的建造物） 第7回 世界文化遺産の類型と具体例②（文化的景観） 第8回 世界文化遺産の類型と具体例③（産業遺産） 第9回 世界文化遺産の類型と具体例④前編（20世紀遺産） 第10回 世界文化遺産の類型と具体例④後編（20世紀遺産） 第11回 世界文化遺産の類型と具体例⑤（負の遺産） 第12回 文化遺産保護の意義 第13回 文化遺産と地域社会 第14回 無形文化遺産 第15回 文化遺産保護の課題と展望
成績評価	出席と受講態度（コメントなど）を合わせて60%、レポート課題（1回）を40%の割合で評価の対象とする。
教科書	特に指定はない。適宜、文献などの関連資料を紹介していく。
参考書 参考資料	西村幸夫・本中眞（編）『世界文化遺産の思想』東京大学出版会 2017年。中村俊介『世界遺産—理想と現実のはざままで—』岩波書店 2019年。TBS『THE世界遺産』（TVプログラム）1996年～。NHK『シリーズ世界遺産100』（TVプログラム）2005-2009年。
履修上の注意	できるかぎり予習・復習をしておくのが望ましい。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 （具体的な内容） 日ごろから、実物や媒体（メディア）を通して、世界文化遺産に関する情報収集に努め関心を高めておく。得られた知見については、重要な点を確認し直し、さらには、自身の専門分野との関連性を見出しながら、まとめるようしておく。
関連科目	建築史、美術史、工芸史、デザイン史、庭園史、保存修復論など
課題に対するフィードバックの方法	評価の方法や基準などをweb掲示板で公表する。
教員の実務経験	なし
科目ナンバリング	CRA-GE 1 16 L

講義名	地域社会論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 岩田 均	KYOB I 工芸学部

到達目標	①身近な地域社会の実態を調べ、課題を発見し、課題解決策を考えること。 ②地域社会づくりへの参画を学生時代に体験すること。 ③地域に根ざした仕事や地域の公人として生きること、などに関心を持つこと。
授業概要	伝統社会において人の暮らしは地域社会と共に存在したのであるが、近代化が浸透する過程で地域社会の存在感は薄れ、いま社会には諸問題が山積している。この授業では、地域社会の変容を巨視的につかみ、その実態や課題を経済学や社会学等の知見により読み解き、具体的な事例を交えながら健全な地域社会が復活する展望を提示する。本科目は工芸学部ディプロマシーの2に該当する。
授業計画 授業内容	第1回 講義概要：受講の心得、講義計画、主体的な学び方 第2回 地域社会の変容：伝統社会の構造、コモンズ、循環型社会、近代化 第3回 近代の勃興：産業革命、市場の原理、私的財、市場の失敗 第4回 近代国家の成立：政府セクターの原理、公共財、国民主権、政府の失敗 第5回 日本経済概観：戦後復興、経済成長、バブル経済、日本の経営 第6回 政策と行政：財政・金融・税制、産業政策、公務員の仕事 第7回 地方分権論：地方自治、地方財政制度、地域政策の立案、地域ブランド 第8回 市民セクター論：コモンズの復活、新しい公共、社会企業、SDGs、労協法 第9回 地域文化論：祭りや伝統行事、地域文化＝インフラ論、文化の継承&交流 第10回 地域産業論：地域特化産業、産業クラスター、産業集積論 第11回 Arts and Crafts：ラスキンとモリス、柳宗悦、仕事の本質、匠の精神 第12回 地域と仕事：コミュニティビジネス、地域力を育む事業、地域経営力 第13回 まちづくり：創造都市、地域の質、住まいと地域、都市設計、理想の地域社会像 第14回 地域社会への参画：社会貢献活動、市民社会の主体、職業的自立、実践習 第15回 総括と到達度テスト
成績評価	ミニレポートや受講意欲などの平常点（50%）と最終段階での到達度テスト（記述、50%）によって総合的に評価する。
教科書	講義用資料をネット配信する。
参考書 参考資料	内山節『ローカリズム原論』農文協
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、時間の事前学習及び3.5時間の復習を目安とする。 講義の中で提示する課題に積極的に取り組むなど、しっかり復習して講義内容を身につけて役立ててください。
関連科目	工芸と経済、工芸経営論
課題に対するフィードバックの方法	ミニレポートや質問などについて、次回以降の講義で解説するなどの方法でフィードバックする。
教員の実務経験	京都府庁で24年間、シンクタンクで7年間、地域振興に関する実務経験を有する。
科目ナンバリング	CRA-GE 1 18 L

講義名	人間関係の科学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 藤居 尚子	KYOB I 工芸学部

到達目標	臨床心理学の基本的知見を活用して自分自身のところや周囲の人たちとの関わりのなかで起きていることについて理解を深め、またそれを学生生活や今後の人生に活かしていくための基礎的な素養を培う。 本科目は工芸学部ディプロマポリシーの1, 3に該当する。
授業概要	ここでは人間関係を通じて育まれる。とくに学生期は、諸々の人間関係をめぐる課題に出会う中で、自分についての理解を深め、社会的な自立へ向け自己の確立をめざす過程である。本授業では主に臨床心理学の基本的知見を紹介し、そのメカニズムや意味について共に考える。聴講中心の授業であるが、受講生相互や講師とのコミュニケーションをできるだけ組み込むので、積極的に参加されたい。
授業計画 授業内容	以下は現時点での予定です。授業形態はオンラインまたは対面（回ごとに指示）です。 第1回 オリエンテーション(授業の進め方、聴講上の論理・約束ごと) 第2回 人間関係やところをめぐる社会の状況 第3回 暮らしの中の人間関係1(親子関係) 第4回 暮らしの中の人間関係2(友達関係) 第5回 ところ・人間関係を理解する視点や方法について 第6回 ところに関する見方・考え方1(行動主義を中心に) 第7回 ところに関する見方・考え方2(精神分析理論を中心に) 第8回 話の聴き方、コミュニケーション 第9回 ところのメカニズム 第10回 ところが傷つくとき 第11回 ところの不調についての理解と援助 第12回 さまざまな個性と共に生きる1(発達障害) 第13回 さまざまな個性と共に生きる2(多様なセクシュアリティ) 第14回 青年期のところ 第15回 大学生活を考える、学びのまとめ
成績評価	授業時の小レポート50%、期末レポート50%を基準に、総合的に評価する。
教科書	指定しない
参考書 参考資料	授業時に資料を配付する。追加の参考資料は授業中に適宜、紹介する。
履修上の注意	身近な人間関係や心のありようについて、自身の日々の体験に関心を向けながら授業に臨んで下さい。オンライン授業時には、授業や自分の心に集中して向き合える環境を整えて下さい。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の復習をすること。 授業後には配布資料を見直し、そこで紹介した事項について不明点のないよう補習し、かつそれらに照らして身近な生活や自分自身を振り返るよう心がけること。さまざまな人の生き方や、それを表現した種々の作品に触れ、授業内容と関連づけて考察を試みることを。
関連科目	人間関係の心理臨床
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業時に、前回の授業で提出された小レポート内容について総合的にコメントを行う。
教員の実務経験	臨床心理士、公認心理師
科目ナンバリング	CRA-GE 1 19 L

講義名	人間関係の心理臨床		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 藤居 尚子	KYOB I 工芸学部

到達目標	対人関係の中で自分についての理解を深め、それを自己確立や社会的自立につなげていけるように、他者や社会に聞かれたところと人間関係力を備える基礎を培う。 本科目は工芸学部ディプロマポリシーの1, 3に該当する。
授業概要	心理臨床とは目の前の人のことを共に見つめ、その人が自身の困難を解決し、新しい生き方を見出す歩みに寄り添う営みである。本授業では漫画作品の登場人物たちの生き方も題材に用いながら、とくに青年期に関わりの深いところや人間関係の課題について心理臨床の観点から考えていく。授業では講師や他の受講生と意見交換・交流する機会をできるだけ取り入れる。
授業計画 授業内容	以下は現時点での予定です。授業形態は対面を想定しています。 第1回 オリエンテーション(授業の進め方、聴講上の倫理・期待・約束等) 第2回 現代社会と学生生活 を考える 第3回 青年期のころ 第4回 自己を知る：コミュニケーションのありかた1（コミュニケーションの意義） 第5回 自己を知る：コミュニケーションのありかた2（多様なコミュニケーション） 第6回 基礎になる人間観・パーソナリティ論1（行動主義を中心に） 第7回 基礎になる人間観・パーソナリティ論2（精神分析理論を中心に） 第8回 基礎になる人間観・パーソナリティ論3（精神分析理論を中心に つづき） 第9回 漫画から学ぶ心理臨床1（思春期・青年期の友達関係） 第10回 漫画から学ぶ心理臨床1（思春期・青年期の恋愛を考える） 第11回 漫画から学ぶ心理臨床1（思春期・青年期の親子関係） 第12回 アイデンティティ：エリクソンの理論 第13回 漫画から学ぶ心理臨床2（アイデンティティの模索） 第14回 漫画から学ぶ心理臨床2（アイデンティティ形成の困難をめぐって） 第15回 まとめと学びの振り返り
成績評価	授業時の小レポート50%、期末レポート50%を基準に、総合的に評価する。
教科書	指定しない。
参考書 参考資料	授業時に資料配付。可能な限り、授業で扱う漫画の通読を推奨する。『あたしんち』（けらえいこ、メディアファクトリー）、『3月のライオン』（羽海野チカ、白泉社）、『ソラニン』（浅野いにお、小学館）
履修上の注意	身近な人間関係や心のありようについて、自身の日々の体験に関心を向けながら授業に臨んで下さい。なお講師や他の受講生との意見交換・交流には積極的な参加が求められます。
予習・復習指導	一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。毎回の授業資料で紹介した事項を日常での自身の経験と結び付けて見直すこと。また可能な範囲で、授業でとりあげる漫画作品を読み進めること。あるいは、それ以外の様々なジャンルの作品にも積極的に触れ、毎回の授業で取り上げた事項と絡めて、こころや人間関係の側面から考察すること。
関連科目	人間関係の科学
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業時に、前回の授業で提出された小レポート内容について総合的にコメントを行う。
教員の実務経験	臨床心理士、公認心理師
科目ナンバリング	CRA-GE 3 20 L

講義名	表現技術論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 工芸学部

到達目標	各表現の特長、コンセプト、テクニックなどを理解し、自身の表現力の向上を目指す。
授業概要	表現技術の多様性を講述する。 工芸学部ディプロマポリシー1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 オムニバス形式 第1回 全体ガイダンス 表現技術と心 第2回 写真表現「虚と実」 第3回 写真表現「作意と無作意」 第4回 オノマトペ 1 第5回 オノマトペ 2 第6回 ポスター表現 1 第7回 ポスター表現 2 第8回 光の表現 1 第9回 光の表現 2 第10回 まち灯り 第11回 建物の表現 1 第12回 建物の表現 2 第13回 美の表現 1 第14回 美の表現 2 第15回 美の表現 3 * 講師の都合により内容の変更および講師の入れ替えがあります
成績評価	履修態度70%、各小レポート30%
教科書	配布資料、映像など
参考書 参考資料	適宜紹介する。
履修上の注意	講師の都合により内容、順番などの変更がある。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 想定範囲内において各講義の内容について調べる。 講義後はわからなかったことを中心に調べ講義の内容を十分に理解する。
関連科目	科学と芸術 伝統と学び 工芸概論 デザイン概論 しごと論Ⅰ、Ⅱ 発想と表現
課題に対するフィードバックの方法	第15回終了後に総評をweb上に公開する。
科目ナンバリング	CRA-GE221L

2. 教養教育科目 – 伝統文化科目

講義名	日本工芸美術史		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 近藤 利江子	KYOB I 工芸学部

到達目標	日本工芸美術史の流れを各分野・各時代を通して理解し、それぞれの作品をより深く鑑賞する能力を身につける。
授業概要	この授業は江戸時代までの日本美術史のうち、工芸作品を対象とし、日本工芸美術史の流れを分野ごとに概観する講義である。各時代の代表的な作品を取り上げ、画像による作品鑑賞を行い、各作品の時代ごとの様式的・技法の特徴を解説する。本科目は工芸学部ディプロマポリシーの1に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 概説 講義の進め方と講義計画 第2回 漆芸史（原始・古代） 第3回 漆芸史（中世） 第4回 漆芸史（近世） 第5回 染織史（原始・古代） 第6回 染織史（中世） 第7回 染織史（近世） 第8回 陶芸史（原始・古代） 第9回 陶芸史（中世） 第10回 陶芸史（近世） 第11回 金工史（古代） 第12回 金工史（中世・近世） 第13回 南蛮工芸 第14回 和の意匠 第15回 まとめ
成績評価	評価ポイント：期末試験（60%）、毎回小テスト（40%）
参考書 参考資料	日高薫『日本美術のことは案内』小学館 2003年
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、4.5時間の事前学習及び復習をすること。数回分をまとめて行うことも可能。 （具体的な内容） 授業中に紹介する参考図書やウェブサイトを参照する。また、状況が可能であれば、展覧会情報も紹介するので、実際に美術館・博物館などへ行き、本物の作品を鑑賞する。
課題に対するフィードバックの方法	小テストのフィードバックを次回以降の講義内で行う
教員の実務経験	あり
教員の実務経験有無	あり
科目ナンバリング	CRA-TR 1 01 L

講義名	京都学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷 裕久	KYOB I 工芸学部

到達目標	「京都市行政」を通じて日本文化の中心である京都の伝統と文化を学ぶ。また、京都の大学の学生として地域発展に結びつく連携の重要性について学ぶ。
授業概要	京都は歴史に育まれた多彩な文化が生活の中に息づいている。国内外から年間5千万人を超える観光客が訪れる、京都の奥深い魅力に触れるための、具体的な体験メニューや情報収集法などについて学ぶ。本学は、京都市と「包括連携協定」を結んでおり、地域連携の意義について理解を深める。授業はオムニバス方式であり、京都市の多岐にわたる分野（行政の総合企画局、産業観光局、都市計画局、文化市民局、保健福祉局、消防局、東山区役所、美術館等）の職員がゲストスピーカーとして登壇し、京都について総合的な理解を深める。 工芸学部ディプロマポリシー1、2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回（オムニバス方式） ※第2回～14回については、京都市の担当部門の職員がゲストスピーカーとして登壇 第1回 京都国立博物館・京の大仏について／事務局長 植田義雄 第2回 「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進／総合企画局総合政策室大学政策担当 第3回 文化庁の京都への全面的な移転に向けて／総合企画局文化庁移転推進室 第4回 留学生施策の推進／総合企画局総合政策室大学政策担当 第5回 これからの京都観光～持続可能で満足度の高い国際文化観光都市へ～／産業観光局観光MICE推進室 第6回 時を超え光り輝く京都の景観づくり／都市計画局都市景観部景観政策課・広告景観づくり推進室 第7回 都心再生のまちづくり／都市計画局まち再生・創造推進室 第8回 京都市の文化財保護について／文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課 第9回 わたしたちの伝統産業／産業観光局クリエイティブ産業振興室 第10回 SDGs（持続可能な開発目標）とは？／総合政策局総合政策室SDGs・市民協働推進室担当 第11回 美術館とは何か／文化市民局文化芸術都市推進室 美術館 第12回 みやこユニバーサルデザインをみんなで考え、進めよう！／保健福祉局障害保健福祉推進室 第13回 家族を守る、地域を守る消防団 ／消防局総務部消防団課 第14回 東山区のまちづくり 山紫水明の都 結び合う心 東山の未来／東山区役所地域力推進室 第15回 まとめ「京都美術工芸大学は京都でなにをするのか？」／学長 新谷裕久 ※テーマ、日程等は都合により変更となる場合があります。
成績評価	受講態度（10%）、毎回講義中に実施する小レポート（90%）をもって評価する。 受講態度は、遅刻、レポートの提出遅れなどが該当する（減点方式）。 原則、レポート提出のない場合は欠席とみなす。公欠による欠席の場合は、追レポートにより評価を行う。
教科書	講義ごとに事前に資料を配布する（クラスルームに添付）。
参考書 参考資料	京都市ホームページ（ www.city.kyoto.lg.jp ）
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話聞きながら要点を箇条書きでノートに取るように努める。クラスルームで資料の配布、出席管理、小レポートの提出等を行うので、パソコンを持参すること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習は、各テーマごとの「京都市ホームページ」等をチェックしておくこと。また、事前に講義資料を配布するので目を通し、質問等があれば整理しておくこと。 復習は、各テーマごとの講義ノートと配布された資料を整理し、理解しておくこと。
関連科目	京都学演習Ⅰ、社会活動Ⅰ、社会活動Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	授業開始前に、前回の小レポートの総評ならびに質問に対する回答等を行う。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	CRA-TR102L

講義名	伝統芸術入門Ⅰ（茶道）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大室 瑞恵	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	手塚 博子	KYOB I 工芸学部

到達目標	繰り返し稽古をすることによって、所作の道具の扱いに慣れる。
授業概要	日本の伝統文化、茶道とは一期一会を心し、お茶を通してもてなしもてなされる文化のことである。実践を通して、それぞれの所作の意味、道具の位置づけ、その扱い方を学ぶ。掛け軸、花、菓子等を通して、日本の四季やしきたりに触れる。 本科目は工芸学部ディプロマポリシーの1に該当する。
授業計画 授業内容	第1回 茶道選択の思い等自己紹介(レポート提出)教本持ち物の説明 第2回 お菓子の頂き方、お茶の飲み方、茶の歴史 第3回 お菓子の頂き方、お茶の飲み方、茶碗の拝見の仕方 第4回 お菓子の頂き方、お茶の飲み方、茶碗の拝見の仕方 第5回 席入 茶室での立ち居振る舞い(座り方 立ち方 お辞儀の仕方等) 第6回 席入 茶室での立ち居振る舞い(座り方 立ち方 お辞儀の仕方等) 第7回 席入 茶室での立ち居振る舞い(座り方 立ち方 お辞儀の仕方等) 第8回 席入 茶室での立ち居振る舞い(座り方 立ち方 お辞儀の仕方等) 第9回 席入 茶室での立ち居振る舞い(座り方 立ち方 お辞儀の仕方等) 第10回 席入 茶室での立ち居振る舞い(座り方 立ち方 お辞儀の仕方等) 第11回 席入 茶室での立ち居振る舞い(座り方 立ち方 お辞儀の仕方等) 第12回 お点前にむけて割稽古(袱紗の扱い) 第13回 お点前にむけて割稽古(袱紗の扱い 茶器 茶杓の扱い) 第14回 お点前にむけて割稽古(袱紗の扱い 茶器 茶杓の扱い) 第15回 お点前にむけて割稽古(袱紗の扱い 茶器 茶杓の扱い 茶筌とおし) お点前にむけて割稽古をします。
成績評価	授業内容理解度 30% 授業態度 70%
教科書	決定版 「初めての茶の湯」 主婦の友社
参考書 参考資料	菅田健三著 「茶席の花十二ヶ月」 講談社
履修上の注意	装飾品(時計 指輪 プレスレット等)不着用 白靴下(初回授業より必要)着用 長髪はまとめる
予習・復習指導	「初めての茶の湯」「茶席の花 十二ヶ月」を読んで読んで予習をしてもらう。
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評を行う。 質疑応答を随時行う。
科目ナンバリング	CRA-TR 2 03 S

講義名	伝統芸術入門Ⅰ（華道）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 高林 佑丞	KYOB I 工芸学部

到達目標	華道の基本的な所作を習得し、いけばなの基礎を理解する。
授業概要	基本的な華道具の扱い方や植物の要素、花器との関係等を学び、五感を通じて草木花に楽しく関心をよせることで、いけばなの基礎の形や姿を学ぶ。 目は工芸学部ディプロマポリシーの2に該当する。 本科目は工芸学部ディプロマポリシーの2に該当する。 本科
授業計画 授業内容	全 15 回 第 1 回 講義 : いけばなの歴史・様式・華道具について 第 2 回 自由花 自然的表現と意匠的表現・素材要素の特徴 第 3 回 自由花 自然的表現 季節感と表現 第 4 回 自由花 意匠的表現 花器と構成 第 5 回 自由花 意匠的表現 形態自由 第 6 回 自由花 自由花表現と構成要素（線・点） 第 7 回 自由花 自由花表現と構成要素（面・マッス） 第 8 回 講義 : 生花概論 陰陽と出生 第 9 回 生花 一種生（真行草の区分） 真の花形 第 10 回 生花 一種生（あしらいの働きと効果） 真の花形 第 11 回 生花 二種生（根の意義） 行の花形 第 12 回 生花 三種生 融合美と取り合わせ 第 13 回 自由花 造形表現 線・面の変化 第 14 回 生花 草木集の花 一種生 葉物 第 15 回 生花 草木集の花 対照効果
成績評価	授業態度（60%）、技術の習熟度および作品（40%）
教科書	はじめる いけばな 学校華道
参考書 参考資料	・池坊いけばなテキスト「生花Ⅰ」・「生花Ⅱ」改訂版・いけばな池坊歴史読門
履修上の注意	演習で使用した花材は、大切に持ち帰ること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して1.5時間の予習復習をすること。 演習後、持ち帰った花を生け直し、復習をすること。花と人とのふれあいを大切に、草木の生命を尊ぶこと。
課題に対するフィードバックの方法	演習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	生花店勤務
科目ナンバリング	CRA-TR 2 03 S

講義名	伝統芸術入門Ⅰ（書道）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 吉岡 利彦	KYOB I 工芸学部

到達目標	書道に於ける初唐は、過去を集大成し将来への発展の大道を開いた時代であり、楷書の三大家の書法を見極める。行書の運・用筆に於いて目を配り様々な筆使いの基本を理解し、書の感性を育てる。
授業概要	楷書・篆刻・行書・仮名の単元に分け、本授業ではこの内、楷書・行書について学ぶ。各々3～4種の臨書を行い、各時代の美意識が集約された古典の美に直接ふれながら、運筆・用筆を学び、表現技術の上達に努める。 本科目は工芸学部ディプロマポリシーの1に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 書の変遷の説明 楷書の説明 虞法の説明・練習 第2回 「孔子廟堂碑」の臨書（穏やかで内に秘めた力強さの表現） 第3回 欧法の説明 虞法との比較 欧法の練習。 第4回 「九成宮醴泉銘」の臨書1（高朗な気品を示す正整美の表現） 第5回 「九成宮醴泉銘」の臨書2（1と文字を変えて） 第6回 褚法の説明・練習 第7回 「雁塔聖教序」の臨書（隸意の起筆・収筆、変化に富む勁い線の表現） 第8回 中唐の顔法の説明 顔法の練習 第9回 「建中告身帖」の臨書（重厚・力強い書法に留意） 第10回 行書の説明 王羲之・「集字聖教序」の説明・臨書 第11回 「集字聖教序」の臨書（起筆・収筆・運筆・気脈に留意） 第12回 「争坐位稿」の臨書（草稿で作意がなく自然で、ゆったりとした動きに留意） 第13回 「争坐位稿」の臨書（文字の大小・抑揚の変化を多彩に蔵した動きを表現） 第14回 「蜀素帖」の説明 「集字聖教序」と比較し、臨書 第15回 「蜀素帖」の臨書（墨の濃淡、太細の変化に留意）
成績評価	授業態度50%、課題提出作品の評価50% によって評価する。
教科書	必要に応じて資料配布
参考書 参考資料	「明解書道史」・「大学書道 中国編」
予習・復習指導	1コマに対して1時間の予習復習をすること。 （具体的な内容） 字形・線質をよく見て理解しておくこと。
課題に対するフィードバックの方法	その都度添削、但し提出日は採点のみ。
科目ナンバリング	CRA- TR 2 03 S

講義名	伝統芸術入門Ⅱ（茶道）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大室 瑞恵	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	手塚 博子	KYOB I 工芸学部

到達目標	所作の意味をより理解し、繰り返し稽古することによって自然で美しい所作を身に付ける。
授業概要	伝統芸術入門Ⅰに引き続き、もてなしもてなされる文化を学ぶ。所作の意味をより理解し、自然の流れとして振舞うことが出来るよう稽古していく中で、盆点前を体験し、その流れを学ぶことによってより茶の心を学ぶ。 本科目は工芸学部ディプロマポリシーの1に該当する。
授業計画 授業内容	第1回 前期の復習(席入 立ち居振る舞い) 第2回 お点前 割稽古(袱紗 茶器 茶杓 茶巾の扱い方 茶筌とおし) 第3回 お点前 風炉 客の作法 第4回 お点前 風炉 客の作法 第5回 お点前 風炉 客の作法 第6回 お点前 風炉 客の作法 第7回 お点前 風炉 客の作法 第8回 お点前 風炉 客の作法 第9回 お点前 風炉 第10回 お点前 炉 第11回 お点前 炉 第12回 お点前 炉 小間で濃茶 先生がお点前 第13回 お点前 炉 第14回 お点前 炉 第15回 お点前 炉 第12回目初釜形式で
成績評価	授業内容理解度 30% 授業態度 70%
教科書	決定版 「初めての茶の湯」 主婦の友社
参考書 参考資料	菅田健三著 「茶席の花十二ヶ月」 講談社
履修上の注意	装飾品(時計 指輪 プレスレット等)不着用 白靴下(初回授業より必要)着用 長髪はまとめる
予習・復習指導	「初めての茶の湯」「茶席の花 十二ヶ月」を読んで予習をしてもらう。
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評を行う。質疑応答を随時行う。
科目ナンバリング	CRA-TR 2 04 S

講義名	伝統芸術入門Ⅱ（華道）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 高林 佑丞	KYOB I 工芸学部

到達目標	いけばなにおける “和” の本質を十分に理解し、自身を反映するいけばなを創作する。
授業概要	「伝統芸術入門Ⅰ」に加え、いけばなの歴史をひも解きながら、更なる演習を積み重ね、伝統文化といけばな芸術について思考する機会とする。歴史を基に、いけばなにおける普遍的な “和と美” の本質を十分に理解し、草木美を生かした表現力を身に付けることで、作者自身の想いが反映するいけばなを創作する。本科目は工芸学部ディプロマポリシーの2に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 回 第 1 回 講義：花伝書概要 五ヶ条・七種伝 第 2 回 生花 草木集の花 陰陽と出生 第 3 回 生花 草木集の花 葉物 第 4 回 生花 一種生 洋花の現代空間への活用 第 5 回 自由花 技術の応用と表現Ⅰ 第 6 回 自由花 技術の応用と表現Ⅱ 第 7 回 自由花 技術の応用と表現Ⅲ 第 8 回 講義：大巻伝の考察と草木の生命感 第 9 回 生花 二種生 原則と禁忌事項の確認 第 10 回 生花 草木集の花 伝花 第 11 回 自由花 行事の花 加工素材と構成 第 12 回 自由花 生活空間を彩る花 第 13 回 生花 一種生 枝物 第 14 回 自由花 グループ制作Ⅰ 第 15 回 自由花 グループ制作Ⅱ
成績評価	授業態度（60％）、技術の習熟度および作品（40％）
教科書	はじめる いけばな 学校華道
参考書 参考資料	池坊いけばなテキスト「生花Ⅰ」・「生花Ⅱ」改訂版 いけばな池坊歴史読本
履修上の注意	演習で使用した花材は、大切に持ち帰ること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、1.5時間の復習をすること。 演習後、持ち帰った花を生け直し、復習をすること。 花と人とのふれあいを大切に、草木の生命を尊ぶこと。
課題に対するフィードバックの方法	演習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	生花店勤務
科目ナンバリング	CRA-TR 2 04 S

講義名	伝統芸術入門Ⅱ（書道）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 吉岡 利彦	KYOB I 工芸学部

到達目標	書道の所作の発展と、古代において中国最初の統一国家を作り上げた秦の始皇帝による文字の書体の統一による、大篆から小篆への漢字の発展度を考えると共に、日本の仮名の古典の持つ伝統的な美を感受する。
授業概要	「伝統芸術入門Ⅰ」に引き続き、篆刻で篆書を学び名前の文字を造形化し、印材に印刀で彫り、線と造形美を追求する。仮名は高野切第三種を中心に臨書を行い運筆・用筆を習得しながら「和様」の趣を体感する。 本科目は工芸学部ディプロマポリシーの1に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 篆刻及び篆書の説明 自由印の作成 印面の調整 → 校字 第2回 草稿を書く → 印稿を作る 第3回 布字 → 運刀 第4回 補刀 → 押印 → 鑑賞 第5回 実用書の説明（種類等） 手紙文の練習 第6回 漢字仮名交りの手紙文作成（行の中心・行間・天地・太細に留意） 第7回 仮名と漢字の線質の違い及び単体による「いろは」の留意点の説明・練習 第8回 単体による「いろは」の臨書 第9回 2連綿の虚線の種類を理解・練習 第10回 2連綿の臨書 第11回 「高野切第三種」の説明 変体仮名の説明 「高野切第三種」を臨書 第12回 「高野切第三種」の臨書（行の流れ・連綿美に留意） 第13回 「高野切第三種」の臨書（行の流れ・連綿美に加え空間美に留意） 第14回 俳句・短歌の散らし書きの説明・作品制作 第15回 俳句・短歌の散らし書き・作品制作（空間美・行間美に留意）
成績評価	授業態度50%、課題提出作品の評価50% によって評価する。
教科書	必要に応じて資料配布
参考書 参考資料	「明解書道史」・「標準 篆刻篆書字典」
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して1時間の予習復習をすること。 字形・線質をよく見て理解しておくこと。
課題に対するフィードバックの方法	その都度添削、但し提出日は採点のみ。
科目ナンバリング	CRA-TR 2 04 S

講義名	日本文化史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	4		
必修選択区分	選択		

担当教員		
職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 村上 隆	K Y O B I 工芸学部
非常勤講師	杉本 歌子	K Y O B I 工芸学部

到達目標	細かい知識の習得ではなく、歴史の流れを大きく掴むことにより以下の項目に取り組む ・「日本文化」の骨組みと特徴を確認する ・「京都」で学んだ意義を再認識する ・これからの「日本」を考え、21世紀を生き抜くための知恵を磨く
授業概要	日本の歴史を踏まえて、「日本文化とは何か」を改めて問い直す。新しい文化の創造は、先人の礎を学ぶこと、すなわち「温故知新」によって開かれることを様々な観点から問う。また、KYOBの最終学年において、京都の「大学」で学ぶことの意義を再確認する。本科目は工芸学部ディプロマポリシーの2、3に該当する。
授業計画 授業内容	1 イン트로ダクション・・・本講義の構成と達成 目標を提示・・・（村上担当） 2 「京都からみた日本文化とその歴史」（第2～7回）（杉本担当） 3 京都市中で江戸時代から続く商家として有形・無形の京町衆の文化を後世に継承保存してきた杉本家の四 4 季折々の姿から、京都に根付いた「日本文化」に迫る。 5 ・重要文化財「杉本家住宅」の今昔 6 ・江戸時代後期の京商人の暮らしをのぞき見 7 ・京の町衆文化とは？ご近所付き合いから商家のしきたりまで ・京町家にみる美しい暮らしの日本文化 ・京都人はイケズなのか？？京ことばの裏にひそむ「心遣い」など その他 8 「温故知新の日本文化史」（第8～14回）（村上担当） 9 暗記中心の日本史から脱却し、さまざまな事象を大きな流れとして「日本文化」 10 をとらえる考え方を身につける。 11 ・日本文化とは何か 12 ・日本文化の基層 13 ・日本文化の潮流 14 ・日本文化各論Ⅰ～Ⅳ ・日本文化の未来を考える 15 総括 （村上担当）
成績評価	最終レポート（50％） 小レポート（50％）
教科書	特に使わない
参考書 参考資料	村上 隆「金・銀・銅の日本史」 片山杜秀「歴史という教養」など その他、講義の中で適宜紹介
履修上の注意	事前学習は特に求めないが、講義中に興味を持った事項を次の講義までに調べてレポートとして提出する
予習・復習指導	予習： 特に求めない 復習： 講義の中で特に興味をもったテーマを深く追求し、レポートにまとめる ※ネット検索だけではなく、図書館などで実資料にあたることを心掛けること 講義1コマに対し、1時間の復習をすること
関連科目	開講されているすべての科目
課題に対するフィードバックの方法	授業内で、小レポートに対して随時コメントし、テーマごとに適時ディスカッションを行う
教員の実務経験	・国立の研究所、博物館などで、日本のものづくりの歴史の実践研究 ・さまざまな大学で「ものづくり」を中心に講義 その他講演多数
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-TR 4 07 L

講義名	京都学演習Ⅰ (Aクラス)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 工芸学部
教授	浅見 武	KYOB I 工芸学部
教授	渡邊 俊博	KYOB I 工芸学部
特任教授	ヒルド 麻美	KYOB I 工芸学部

到達目標	「京都」を対象とし、各専攻の専門性における歴史的知識や見識を身につける。
授業概要	1200年の歴史をもつ京都の文化的価値や現代生活との関係を学ぶ。 美術工芸学科のディプロマポリシー 1、3に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回各専攻別オリエンテーション 演習全般に関する説明、グループ編成 第2回調査指導 文献調査、資料収集を行う。 途中回演習プログラムの内容についての助言 プログラム1ー調査内容の作成 途中回演習プログラムの内容についての助言 プログラム2ー調査および調査報告書の作成 第15回演習プログラムの内容確認 調査報告書の提出 評価 ※上記日程は各専攻ごとに組み立てる。
成績評価	履修態度および調査内容 (50%) 調査報告書のレベル (50%) により評価する。
教科書	特になし
参考書 参考資料	京都府の歴史散歩上・下 京都府歴史遺産研究会編 山川出版 アジア古都物語 京都千年の水脈 NHK出版 景観を歩く京都ガイド 清水泰博 岩波アクティブ新書
履修上の注意	特に校外活動の際は、規律のある行動をとる
予習・復習指導	準備学習を行う 自身の興味(視点)と京都における調査対象を定めるため、京都の案内書や歴史書、文化財資料などを学習する。 調査対象を選択し視点と関係する内容を詳細に抽出する。
関連科目	「日本美術史」「伝統住居概論」「文化財概論」「博物館概論」「日本工芸美術史」「社寺建築概論」「文化財修理論」「伝統絵画技法」「京都学」「伝統建築論Ⅰ」「文献-絵画資料概論」「博物館資料論」
課題に対するフィードバックの方法	調査報告書の評価について提出後web掲示板に公開する。
科目ナンバリング	CRA-TR208S

講義名	京都学演習 I (Bクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 高田 光雄	KYOB I 工芸学部
教授	新海 俊一	KYOB I 工芸学部
准教授	井上 年和	KYOB I 工芸学部
准教授	生川 慶一郎	KYOB I 工芸学部
助教	江本 弘	KYOB I 工芸学部

到達目標	京都における建築、町なみなどの成り立ちを知るとともに、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高める。
授業概要	京都における特徴的な建築、構造物、町なみなどをグループワークにより調査し、シートにまとめ、プレゼンテーションを行う。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション、課題説明 第2回 フィールドワーク① 第3回 フィールドワーク② 第4回 フィールドワーク③ 第5回 フィールドワーク④ 第6回 フィールドワーク⑤ 第7回 フィールドワーク⑥ 第8回 エスキスチェック① 第9回 追加調査① 第10回 追加調査② 第11回 エスキスチェック② 第12回 資料作成① 第13回 資料作成② 第14回 プレゼンテーション 第15回 成果物の評価フィールドワーク ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	提出シート、プレゼンテーション
教科書	なし（配布資料あり、パワーポイントなどを使用）
参考書 参考資料	建築MAP京都、京都の近代化遺産、京都近代の記録など
履修上の注意	本講義中に行うフィールドワークには必ず出席し、ワークショップに臨むこと。 フィールドワーク時には、大学生としての自覚を持ち、事故のないよう注意すること。 校外学習を行う際は、規律のある行動をとること。
予習・復習指導	フィールドワーク、シートの作成などに当たっては、グループの連携を計り、プレゼンテーションの完成度を高めること。
関連科目	京都学、伝統建築論Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	最終回に成果品、プレゼンテーションに対し講評を行う。
教員の実務経験	調査研究実務経験豊富
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-TR 2 08 S

講義名	京都学演習Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	4		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 大上 直樹	KYOB I 工芸学部
准教授	井上 年和	KYOB I 工芸学部

到達目標	“とある地域”の風土に根差した文化をタイトルとして取り上げ、そこに点在する個々の文化遺産を構成要素として選定し、世代を超えて受け継がれている伝承、風習などを踏まえたストーリーを作成する。京都府に存する史跡、名勝、歴史的建造物、伝統的建造物群保存地区、美術品などの文化財に対する理解を深めるとともに、自己の観察力や洞察力、表現力、協調性、自発性を高めることを目標とする。
授業概要	タイトルを決めて、その構成要素を選定し、その歴史や特性を調べ、Googleマイマップにピン止めし、ストーリーを盛り込んだ紹介用パンフレットを作成する。
授業計画 授業内容	夏季集中講座 第1回 ガイダンス・課題説明・環境設定 第2～13回 進捗状況発表(プロット状況、パンフレットエスキースチェック、質問等) 第14回 作品提出 第15回 作品講評会
成績評価	受講態度、提出物、プレゼンテーションから総合評価を行う。
教科書	特になし
参考書 参考資料	特になし
履修上の注意	パソコンの環境設定を確実にすること。 見学、調査を行う際は、感染症の感染拡大防止に努め、規律ある態度をとること。
予習・復習指導	選定物件に対し、十分な知識を得たうえで、構想を練り練り成果物提出へつなげること。
関連科目	京都学演習Ⅰ
課題に対するフィードバックの方法	最終回に講評を行う。
科目ナンバリング	CRA-TR 4 09 S

3. 教養教育科目 – コミュニケーション科目

講義名	日本語表現法		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 吉富 千恵	KYOB I 工芸学部

到達目標	①日本語コミュニケーションの仕組みを理解し、 ②日本語コミュニケーション力を高め、 ③他者との円滑な人間関係を築く力を養うことを、目標とする。
授業概要	本講義では、日本語表現を、「日本語コミュニケーション論」と捉え、社会心理学や言語学にて蓄積された豊富な研究結果を紹介しつつ、日本語コミュニケーション能力を高めることに主眼を置く。本科目は、工芸学部のディプロマポリシーの3に該当する。
授業計画 授業内容	第1回 日本語表現法とは？ 第2回 コミュニケーションの仕組み① 第3回 コミュニケーションの仕組み② 第4回 非言語コミュニケーションとは① 第5回 非言語コミュニケーションとは② 第6回 言語コミュニケーション 第7回 異文化間コミュニケーション 第8回 日本人のコミュニケーションについて 第9回 コミュニケーションスキル 基礎編 第10回 コミュニケーションスキル 発展編 第11回 恋愛コミュニケーション 第12回 伝える力 第13回 アサーティブトレーニング 基礎編 第14回 アサーティブトレーニング 発展編 第15回 総まとめ
成績評価	受講態度30%、期末テスト70%
教科書	特に指定しない。毎回レジュメを配布する
参考書 参考資料	末田清子・福田浩子著『コミュニケーション学—その展望と視点—』松柏社
履修上の注意	私語厳禁です。
予習・復習指導	特になし
関連科目	「人間関係の科学」
課題に対するフィードバックの方法	感想、質問等レポートを課した場合には、次回以降の講義内で行う。
科目ナンバリング	CRA-CO 1 01 L

講義名	英会話 I (Aクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 工芸学部

到達目標	英語の基礎を知識としてではなく、言語として使用できるようにする。そのためには十分な語彙数が必要となる。語彙数の習熟度には個人差があるが、各々コミュニケーションに必要な語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。ユネスコ世界遺産についての映像を英語で聞き、内容を理解できるようにする。英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週 科目説明 Orientation, Self Introduction in English 第2週 工芸建築英語 1, Listening & Speaking Practice 1 第3週 工芸建築英語 2, Listening & Speaking Practice 2 第4週 Review 1 第5週 工芸建築英語 3, Listening & Speaking Practice 3 第6週 工芸建築英語 4, Listening & Speaking Practice 4 第7週 Review 2 第8週 工芸建築英語 5, Listening & Speaking Practice 5 第9週 工芸建築英語 6, Listening & Speaking Practice 6 第10週 Review 3 第11週 工芸建築英語 7, Listening & Speaking Practice 7 第12週 工芸建築英語 8, Listening & Speaking Practice 8 第13週 Review 4 第14週 Speaking 確認 (1), 学年共通Listening Exercise(1) 第15週 Speaking 確認 (2), 学年共通Listening Exercise(2) (授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。)
成績評価	共通リスニングテスト 20%, Speaking 確認 30%, 小テスト 30%, 積極的な授業への参加 20%
教科書	授業時に資料を配布する
参考書 参考資料	英和辞典、和英辞典
予習・復習指導	練習するスピーキングを自分で時折話してみて、こんな場合にはどのように言えばよいのだろう、と疑問に思ったところを調べてみて、授業でフィードバックする。練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。
関連科目	美術工芸英語、英会話II、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出されるプリント等については確認後必ず翌週に返却し、質問を受け付け、Reviewと Feedbackを行います。クラス内テストについても、採点后、必ず翌週返却し、質問を受け付け、Review と Feedbackを行います。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、国際会議のコーディネーターを担当してきた。英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-CO 1 02 S

講義名	英会話 I (Bクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 工芸学部

到達目標	英語の基礎を知識としてではなく、言語として使用できるようにする。そのためには十分な語彙数が必要となる。語彙数の習熟度には個人差があるが、各々コミュニケーションに必要な語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。ユネスコ世界遺産についての映像を英語で聞き、内容を理解できるようにする。英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週 科目説明 Orientation, Self Introduction in English 第2週 工芸建築英語 1, Listening & Speaking Practice 1 第3週 工芸建築英語 2, Listening & Speaking Practice 2 第4週 Review 1 第5週 工芸建築英語 3, Listening & Speaking Practice 3 第6週 工芸建築英語 4, Listening & Speaking Practice 4 第7週 Review 2 第8週 工芸建築英語 5, Listening & Speaking Practice 5 第9週 工芸建築英語 6, Listening & Speaking Practice 6 第10週 Review 3 第11週 工芸建築英語 7, Listening & Speaking Practice 7 第12週 工芸建築英語 8, Listening & Speaking Practice 8 第13週 Review 4 第14週 Speaking 確認 (1), 学年共通Listening Exercise (1) 第15週 Speaking 確認 (2), 学年共通Listening Exercise (2) (授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。)
成績評価	共通リスニングテスト 20%, Speaking 確認 30%, 小テスト 30%, 積極的な授業への参加 20%
教科書	授業時に資料を配布する
参考書 参考資料	英和辞典、和英辞典
履修上の注意	
予習・復習指導	練習するスピーキングを自分で時折話してみて、こんな場合にはどのように言えばよいのだろう、と疑問に思ったところを調べてみて、授業でフィードバックする。 練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。
関連科目	美術工芸英語、英会話 II、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出されるプリント等については確認後必ず翌週に返却し、質問を受け付け、Review と Feedbackを行います。クラス内テストについても、採点后、必ず翌週返却し、質問を受け付け、Review と Feedbackを行います。
教員の実務経験	京都国立博物館、において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-CO 1 02 S

講義名	英会話 I (クラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 工芸学部

到達目標	英語の基礎を知識としてではなく、言語として使用できるようにする。そのためには十分な語彙数が必要となる。語彙数の習熟度には個人差があるが、各々コミュニケーションに必要な語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。建築英語の基本的な語句やいいまわしを学ぶ。主に聞き取りに重点を置く。英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週 科目説明 Orientation, Self Introduction in English 第2週 工芸建築英語 1, Listening & Speaking Practice 1 第3週 工芸建築英語 2, Listening & Speaking Practice 2 第4週 Review 1 第5週 工芸建築英語 3, Listening & Speaking Practice 3 第6週 工芸建築英語 4, Listening & Speaking Practice 4 第7週 Review 2 第8週 工芸建築英語 5, Listening & Speaking Practice 5 第9週 工芸建築英語 6, Listening & Speaking Practice 6 第10週 Review 3 第11週 工芸建築英語 7, Listening & Speaking Practice 7 第12週 工芸建築英語 8, Listening & Speaking Practice 8 第13週 Review 4 第14週 Speaking 確認 (1), 学年共通Listening Exercise(1) 第15週 Speaking 確認 (2), 学年共通Listening Exercise(2) (授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。)
成績評価	共通リスニングテスト 20%, Speaking 確認 30%, 小テスト 30%, 積極的な授業への参加 20%
参考書 参考資料	英和辞典、和英辞典
予習・復習指導	練習するスピーキングを自分で時折話してみて、こんな場合にはどのように言えばよいのだろう、と疑問に思ったところを調べてみて、授業でフィードバックする。練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。
関連科目	美術工芸英語、英会話 II、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出されるプリント等については確認後必ず翌週に返却し、質問を受け付け、Reviewと Feedbackを行います。クラス内テストについても、採点后、必ず翌週返却し、質問を受け付け、Review と Feedbackを行います。
教員の実務経験	京都国立博物館、において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、国際会議のコーディネーターを担当してきた。英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-CO 1 02 S

講義名	英会話 I (Dクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 工芸学部

到達目標	英語の基礎を知識としてではなく、言語として使用できるようにする。そのためには十分な語彙数が必要となる。語彙数の習熟度には個人差があるが、各々コミュニケーションに必要な語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。建築英語の基本的な語句やいいまわしを学ぶ。主に聞き取りに重点を置く。英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週 科目説明 Orientation, Self Introduction in English 第2週 工芸建築英語 1, Listening & Speaking Practice 1 第3週 工芸建築英語 2, Listening & Speaking Practice 2 第4週 Review 1 第5週 工芸建築英語 3, Listening & Speaking Practice 3 第6週 工芸建築英語 4, Listening & Speaking Practice 4 第7週 Review 2 第8週 工芸建築英語 5, Listening & Speaking Practice 5 第9週 工芸建築英語 6, Listening & Speaking Practice 6 第10週 Review 3 第11週 工芸建築英語 7, Listening & Speaking Practice 7 第12週 工芸建築英語 8, Listening & Speaking Practice 8 第13週 Review 4 第14週 Speaking 確認 (1), 学年共通Listening Exercise(1) 第15週 Speaking 確認 (2), 学年共通Listening Exercise(2)
成績評価	共通リスニングテスト 20%, Speaking 確認 30%, 小テスト 30%, 積極的な授業への参加 20%
参考書 参考資料	英和辞典、和英辞典
予習・復習指導	練習するスピーキングを自分で時折話してみて、こんな場合にはどのように言えばよいのだろう、と疑問に思ったところを調べてみて、授業でフィードバックする。練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。
関連科目	美術工芸英語、英会話 II、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出されるプリント等については確認後必ず翌週に返却し、質問を受け付け、Reviewと Feedbackを行います。クラス内テストについても、採点后、必ず翌週返却し、質問を受け付け、Review と Feedbackを行います。
教員の実務経験	京都国立博物館、において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、国際会議のコーディネーターを担当してきた。英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-CO 1 02 S

講義名	英会話 I (Eクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 工芸学部

到達目標	英語の基礎を知識としてではなく、言語として使用できるようにする。そのためには十分な語彙数が必要となる。語彙数の習熟度には個人差があるが、各々コミュニケーションに必要な語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。建築英語の基本的な語句やいいまわしを学ぶ。主に聞き取りに重点を置く。英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週 科目説明 Orientation, Self Introduction in English 第2週 工芸建築英語 1, Listening & Speaking Practice 1 第3週 工芸建築英語 2, Listening & Speaking Practice 2 第4週 Review 1 第5週 工芸建築英語 3, Listening & Speaking Practice 3 第6週 工芸建築英語 4, Listening & Speaking Practice 4 第7週 Review 2 第8週 工芸建築英語 5, Listening & Speaking Practice 5 第9週 工芸建築英語 6, Listening & Speaking Practice 6 第10週 Review 3 第11週 工芸建築英語 7, Listening & Speaking Practice 7 第12週 工芸建築英語 8, Listening & Speaking Practice 8 第13週 Review 4 第14週 Speaking 確認 (1), 学年共通Listening Exercise(1) 第15週 Speaking 確認 (2), 学年共通Listening Exercise(2) (授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。)
成績評価	共通リスニングテスト 20%, Speaking 確認 30%, 小テスト 30%, 積極的な授業への参加 20%
教科書	Basic English for Architecture: Listening & Speaking (建築を学ぶ人のための総合練習 リスニング&スピーキング) 南雲堂
参考書 参考資料	英和辞典、和英辞典
予習・復習指導	練習するスピーキングを自分で時折話してみて、こんな場合にはどのように言えばよいのだろう、と疑問に思ったところを調べてみて、授業でフィードバックする。 練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。
関連科目	美術工芸英語、英会話 II、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出されるプリント等については確認後必ず翌週に返却し、質問を受け付け、Reviewと Feedbackを行います。クラス内テストについても、採点后、必ず翌週返却し、質問を受け付け、Review と Feedbackを行います。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-CO 1 02 S

講義名	英会話 I (Fクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 工芸学部

到達目標	英語の基礎を知識としてではなく、言語として使用できるようにする。そのためには十分な語彙数が必要となる。語彙数の習熟度には個人差があるが、各々コミュニケーションに必要な語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。建築英語の基本的な語句やいいまわしを学ぶ。主に聞き取りに重点を置く。英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週 科目説明 Orientation, Self Introduction in English 第2週 工芸建築英語 1, Listening & Speaking Practice 1 第3週 工芸建築英語 2, Listening & Speaking Practice 2 第4週 Review 1 第5週 工芸建築英語 3, Listening & Speaking Practice 3 第6週 工芸建築英語 4, Listening & Speaking Practice 4 第7週 Review 2 第8週 工芸建築英語 5, Listening & Speaking Practice 5 第9週 工芸建築英語 6, Listening & Speaking Practice 6 第10週 Review 3 第11週 工芸建築英語 7, Listening & Speaking Practice 7 第12週 工芸建築英語 8, Listening & Speaking Practice 8 第13週 Review 4 第14週 Speaking 確認 (1), 学年共通Listening Exercise(1) 第15週 Speaking 確認 (2), 学年共通Listening Exercise(2) (授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。)
成績評価	共通リスニングテスト 20%, Speaking 確認 30%, 小テスト 30%, 積極的な授業への参加 20%
参考書 参考資料	英和辞典、和英辞典
予習・復習指導	練習するスピーキングを自分で時折話してみて、こんな場合にはどのように言えばよいのだろう、と疑問に思ったところを調べてみて、授業でフィードバックする。 練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。
関連科目	美術工芸英語、英会話 II、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出されるプリント等については確認後必ず翌週に返却し、質問を受け付け、Reviewと Feedbackを行います。クラス内テストについても、採点后、必ず翌週返却し、質問を受け付け、Review と Feedbackを行います。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-CO 1 02 S

講義名	美術工芸英語 (Aクラス)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 工芸学部

到達目標	世界文化遺産に関する英文を読み、聞くことで美術工芸と文化財に関する幅広い知識と英語力をつける。 専門分野における簡単な英語表現が理解できるようにする。また美術工芸だけでなく、建築分野も含む基本的な英語の用語や表現を学ぶ。
授業概要	世界の文化遺産について学ぶことで、グローバルな視野を持ち、異文化理解を深め、多様な人々に対して敬意をもつとともに働く協調性を身につける。英語のコミュニケーション力、表現力を高める。
授業計画 授業内容	第1週 科目説明 Orientation, Self Introduction in English 第2週 Cappadocia-1, Listening & Speaking Practice 1 第3週 Cappadocia-2, Listening & Speaking Practice 2 第4週 Review 1 第5週 首里城とグスク-1, Listening & Speaking Practice 3 第6週 首里城とグスク-2, Listening & Speaking Practice 4 第7週 Review 2 第8週 Alhambra-1, Listening & Speaking Practice 5 第9週 Alhambra-2, Listening & Speaking Practice 6 第10週 Review 3 第11週 Pompeii-1, Listening & Speaking Practice 7 第12週 Pompeii-2, Listening & Speaking Practice 8 第13週 Review 4 第14週 Speaking 確認 (1), 学年共通Listening Exercise (1) 第15週 Speaking 確認 (2), 学年共通Listening Exercise (2) (授業内容は習熟度や諸事情にあわせて変更することがあります。)
成績評価	共通リスニングテスト 20%, Speaking 確認 30%, 小テスト 30%, 積極的な授業への参加 20%
教科書	授業時に資料を配布する
参考書 参考資料	英和辞典 和英辞典
履修上の注意	日本語での知識が豊富であるほど英文資料は読みやすく、聞きやすい。世界遺産について興味をもってもらえると英語理解も円滑になる。
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。(1日約10分余、1週90分を目安とする。) 自分に役立ちそうな表現を毎回pick upし、それを次回から自由に使えるようにする。
関連科目	英会話I 英会話II 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出されるプリント等については確認後必ず翌週に返却し、質問を受け付け、Reviewと Feedbackを行う。クラス内テストについても、採点后、必ず翌週返却し、質問を受け付け、Review とFeedbackを行う。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、国際会議のコーディネーターを担当してきた。また、京都市内外のさまざまな社寺の英文解説を担当してきた。英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-CO 1 03 S

講義名	美術工芸英語 (Bクラス)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 工芸学部

到達目標	世界文化遺産に関する英文を読み、聞くことで美術工芸と文化財に関する幅広い知識と英語力をつける。 専門分野における簡単な英語表現が理解できるようにする。また美術工芸だけではなく、建築分野も含む基本的な英語の用語や表現を学ぶ。
授業概要	世界の文化遺産について学ぶことで、グローバルな視野を持ち、異文化理解を深め、多様な人々に対して敬意をもってともに働く協調性を身につける。英語のコミュニケーション力、表現力を高める。
授業計画 授業内容	全15回 第1週 科目説明 Orientation, Self Introduction in English 第2週 Cappadocia-1, Listening & Speaking Practice 1 第3週 Cappadocia-2, Listening & Speaking Practice 2 第4週 Review 1 第5週 首里城とグスク-1, Listening & Speaking Practice 3 第6週 首里城とグスク-2, Listening & Speaking Practice 4 第7週 Review 2 第8週 Alhambra-1, Listening & Speaking Practice 5 第9週 Alhambra-2, Listening & Speaking Practice 6 第10週 Review 3 第11週 Pompeii-1, Listening & Speaking Practice 7 第12週 Pompeii-2, Listening & Speaking Practice 8 第13週 Review 4 第14週 Speaking 確認 (1), 学年共通Listening Exercise(1) 第15週 Speaking 確認 (2), 学年共通Listening Exercise(2)
成績評価	共通リスニングテスト 20%, Speaking 確認 30%, 小テスト 30%, 積極的な授業への参加 20%
教科書	授業時に資料を配布する
参考書 参考資料	英和辞典 和英辞典
履修上の注意	日本語での知識が豊富であるほど英文資料は読みやすく、聞きやすい。世界遺産について興味をもってもらえると英語理解も円滑になる。
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。(1日約10分余、1週90分を目安とする。) 自分に役立ちそうな表現を毎回pick upし、それを次回から自由に使えるようにする。
関連科目	英会話I 英会話II 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出されるプリント等については確認後必ず翌週に返却し、質問を受け付け、Reviewと Feedbackを行う。クラス内テストについても、採点后、必ず翌週返却し、質問を受け付け、Review とFeedbackを行う。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、国際会議のコーディネーターを担当してきた。また、京都市内外のさまざまな社寺の英文解説を担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-CO 1 03 S

講義名	美術工芸英語 (Cクラス)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 工芸学部

到達目標	専門分野における簡単な英語表現が理解できるようにする。建築とインテリアに関する簡単な専門表現を読み、聞き、話せるようにする。
授業概要	建築分野の基本的な英語の用語や表現に慣れる。コミュニケーションの手段として英語の「聞く」「読む」「話す」を主体に訓練する。単に建築関連の用語を学ぶだけではなく、英語学習により異文化理解をさらに促進することで、グローバルな視野を持ち、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力および表現力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週 科目説明 Orientation, Self Introduction in English 第2週 工芸建築英語 1, Listening & Speaking Practice 1 第3週 工芸建築英語 2, Listening & Speaking Practice 2 第4週 Review 1 第5週 工芸建築英語 3, Listening & Speaking Practice 3 第6週 工芸建築英語 4, Listening & Speaking Practice 4 第7週 Review 2 第8週 工芸建築英語 5, Listening & Speaking Practice 5 第9週 工芸建築英語 6, Listening & Speaking Practice 6 第10週 Review 3 第11週 工芸建築英語 7, Listening & Speaking Practice 7 第12週 工芸建築英語 8, Listening & Speaking Practice 8 第13週 Review 4 第14週 Speaking 確認 (1), 学年共通Listening Exercise (1) 第15週 Speaking 確認 (2), 学年共通Listening Exercise (2) (授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。)
成績評価	共通リスニングテスト 20%, Speaking 確認 30%, 小テスト 30%, 積極的な授業への参加 20%
教科書	『建築を学ぶ人のための総合英語リスニング&スピーキング』ホートン広瀬恵美子他著 南雲堂 ISBN 978-4-523-17872-9
参考書 参考資料	英和辞典 和英辞典
履修上の注意	日本語での知識があればあるほど関連英文は読みやすく、聞き取りやすくなる。専門科目の授業をしつかりと受講すること。
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。(1日約10分余、1週90分を目安とする。) 自分に役立ちそうな表現を毎回pick upし、それを次回から自由に使えるようにする。
関連科目	英会話I 英会話II 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出されるプリント等については確認後必ず翌週に返却し、質問を受け付け、Reviewと Feedbackを行う。クラス内テストについても、採点后、必ず翌週返却し、質問を受け付け、Review とFeedbackを行う。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、国際会議のコーディネーターを担当してきた。また、京都市内外のさまざまな社寺の英文解説を担当してきた。英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-CO 1 03 S

講義名	美術工芸英語 (Dクラス)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 工芸学部

到達目標	専門分野における簡単な英語表現が理解できるようにする。建築とインテリアに関する簡単な専門表現を読み、聞き、話せるようにする。
授業概要	建築分野の基本的な英語の用語や表現に慣れる。コミュニケーションの手段として英語の「聞く」「読む」「話す」を主体に訓練する。単に建築関連の用語を学ぶだけではなく、英語学習により異文化理解をさらに促進することで、グローバルな視野を持ち、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力および表現力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週 科目説明 Orientation, Self Introduction in English 第2週 工芸建築英語 1, Listening & Speaking Practice 1 第3週 工芸建築英語 2, Listening & Speaking Practice 2 第4週 Review 1 第5週 工芸建築英語 3, Listening & Speaking Practice 3 第6週 工芸建築英語 4, Listening & Speaking Practice 4 第7週 Review 2 第8週 工芸建築英語 5, Listening & Speaking Practice 5 第9週 工芸建築英語 6, Listening & Speaking Practice 6 第10週 Review 3 第11週 工芸建築英語 7, Listening & Speaking Practice 7 第12週 工芸建築英語 8, Listening & Speaking Practice 8 第13週 Review 4 第14週 Speaking 確認 (1), 学年共通Listening Exercise(1) 第15週 Speaking 確認 (2), 学年共通Listening Exercise(2) (授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。)
成績評価	共通リスニングテスト 20%, Speaking 確認 30%, 小テスト 30%, 積極的な授業への参加 20%
参考書 参考資料	英和辞典 和英辞典
履修上の注意	日本語での知識があればあるほど関連英文は読みやすく、聞き取りやすくなる。専門科目の授業をしっかり受講すること。
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。(1日約10分余、1週90分を目安とする。) 自分に役立ちそうな表現を毎回pick upし、それを次回から自由に使えるようにする。
関連科目	英会話Ⅰ 英会話Ⅱ 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出されるプリント等については確認後必ず翌週に返却し、質問を受け付け、Reviewと Feedbackを行う。クラス内テストについても、採点后、必ず翌週返却し、質問を受け付け、Review とFeedbackを行う。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、国際会議のコーディネーターを担当してきた。また、京都市内外のさまざまな社寺の英文解説を担当してきた。英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-CO 1 03 S

講義名	美術工芸英語 (Eクラス)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 工芸学部

到達目標	専門分野における簡単な英語表現が理解できるようにする。建築に関する簡単な専門表現を読み、聞き、話せるようにする。
授業概要	建築分野の基本的な英語の用語や表現に慣れる。コミュニケーションの手段として英語の「聞く」「読む」「話す」を主体に訓練する。単に建築関連の用語を学ぶだけではなく、英語学習により異文化理解をさらに促進することで、グローバルな視野を持ち、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力および表現力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週 科目説明 Orientation, Self Introduction in English 第2週 工芸建築英語 1, Listening & Speaking Practice 1 第3週 工芸建築英語 2, Listening & Speaking Practice 2 第4週 Review 1 第5週 工芸建築英語 3, Listening & Speaking Practice 3 第6週 工芸建築英語 4, Listening & Speaking Practice 4 第7週 Review 2 第8週 工芸建築英語 5, Listening & Speaking Practice 5 第9週 工芸建築英語 6, Listening & Speaking Practice 6 第10週 Review 3 第11週 工芸建築英語 7, Listening & Speaking Practice 7 第12週 工芸建築英語 8, Listening & Speaking Practice 8 第13週 Review 4 第14週 Speaking 確認 (1), 学年共通Listening Exercise(1) 第15週 Speaking 確認 (2), 学年共通Listening Exercise(2) (授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。)
成績評価	共通リスニングテスト 20%, Speaking 確認 30%, 小テスト 30%, 積極的な授業への参加 20%
参考書 参考資料	英和辞典 和英辞典
履修上の注意	日本語での知識があればあるほど関連英文は読みやすく、聞き取りやすくなる。専門科目の授業をしっかり受講すること。
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。(1日約10分余、1週90分を目安とする。) 自分に役立ちそうな表現を毎回pick upし、それを次回から自由に使えるようにする。
関連科目	英会話 I、英会話 II、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出されるプリント等については確認後必ず翌週に返却し、質問を受け付け、Reviewと Feedbackを行う。クラス内テストについても、採点后、必ず翌週返却し、質問を受け付け、Review とFeedbackを行う。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、国際会議のコーディネーターを担当してきた。また、京都市内外のさまざまな社寺の英文解説を担当してきた。英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-CO 1 03 S

講義名	美術工芸英語 (Fクラス)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 工芸学部

到達目標	専門分野における簡単な英語表現が理解できるようにする。建築に関する簡単な専門表現を読み、聞き、話せるようにする。
授業概要	建築分野の基本的な英語の用語や表現に慣れる。コミュニケーションの手段として英語の「聞く」「読む」「話す」を主体に訓練する。単に建築関連の用語を学ぶだけではなく、英語学習により異文化理解をさらに促進することで、グローバルな視野を持ち、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力および表現力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週 科目説明 Orientation, Self Introduction in English 第2週 工芸建築英語 1, Listening & Speaking Practice 1 第3週 工芸建築英語 2, Listening & Speaking Practice 2 第4週 Review 1 第5週 工芸建築英語 3, Listening & Speaking Practice 3 第6週 工芸建築英語 4, Listening & Speaking Practice 4 第7週 Review 2 第8週 工芸建築英語 5, Listening & Speaking Practice 5 第9週 工芸建築英語 6, Listening & Speaking Practice 6 第10週 Review 3 第11週 工芸建築英語 7, Listening & Speaking Practice 7 第12週 工芸建築英語 8, Listening & Speaking Practice 8 第13週 Review 4 第14週 Speaking 確認 (1), 学年共通Listening Exercise(1) 第15週 Speaking 確認 (2), 学年共通Listening Exercise(2) (授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。)
成績評価	共通リスニングテスト 20%, Speaking 確認 30%, 小テスト 30%, 積極的な授業への参加 20%
教科書	
参考書 参考資料	英和辞典 和英辞典
履修上の注意	日本語での知識があればあるほど関連英文は読みやすく、聞き取りやすくなる。専門科目の授業をしっかり受講すること。
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。(1日約10分余、1週90分を目安とする。) 自分に役立ちそうな表現を毎回pick upし、それを次回から自由に使えるようにする。
関連科目	英会話I、英会話II、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出されるプリント等については確認後必ず翌週に返却し、質問を受け付け、Reviewと Feedbackを行う。クラス内テストについても、採点后、必ず翌週返却し、質問を受け付け、Review とFeedbackを行う。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、国際会議のコーディネーターを担当してきた。また、京都市内外のさまざまな社寺の英文解説を担当してきた。英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。
科目ナンバリング	CRA-CO 1 03 S

講義名	英会話Ⅱ（Aクラス）上級		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 工芸学部

到達目標	1年次で練習した英語会話を応用し、さらに英語を意思疎通の言語として活用できるようにする。英語の基礎を知識としてではなく、言語として使用できるようにする。そのためには十分な語彙数が必要となる。語彙数の習熟度には個人差があるが、各々コミュニケーションに必要な語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。2年次では日常会話にとどまらず、専門分野についても英語で表現できるようにチャレンジする。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。また、日常会話からさらに進み、本学を訪れる留学生等と自分の専門分野に関して英語で意見交換ができることを目指す。 英語学習により異文化理解をさらに促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週 科目説明 Orientation, Self Introduction in English 第2週 Listening & Speaking および総合 Practice 1 第3週 Listening & Speaking および総合 Practice 2 第4週 Review 1 第5週 Listening & Speaking および総合 Practice 3 第6週 Listening & Speaking および総合 Practice 4 第7週 Review 2 第8週 Listening & Speaking および総合 Practice 5 第9週 Listening & Speaking および総合 Practice 6 第10週 Review 3 第11週 Listening & Speaking および総合 Practice 7 第12週 Listening & Speaking および総合 Practice 8 第13週 Review 4 第14週 Listening & Speaking および総合 Exercise(1) 第15週 Listening & Speaking および総合 Exercise(2) （授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。）
成績評価	定期試験20%、Speaking 確認Test 40%、小テスト 20%、積極的な授業への参加 20%
教科書	授業時に資料を配布する
参考書 参考資料	英和辞典、和英辞典
履修上の注意	総合的に英語の運用練習を行う。TOEIC学内団体受験のサポートを行う。
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。専門分野の授業においてもこんな時に英語では何というのだろうか、と考えて調べてみる（1日10分余、1週間で90分を目安とする。） 自分に役立ちそうな表現を毎回授業でpick upしそれを次回から自由に使えるようにする。
関連科目	英会話Ⅰ、美術工芸英語、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出されるプリント等については確認後必ず翌週に返却し、質問を受け付け、Reviewと Feedbackを行います。クラス内テストについても、採点后、必ず翌週返却し、質問を受け付け、Review と Feedbackを行う。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-C0 2 04 S

講義名	英会話Ⅱ（Bクラス）中級		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 工芸学部

到達目標	1年次で練習した英語会話を応用し、さらに英語を意思疎通の言語として活用できるようにする。英語の基礎を知識としてではなく、言語として使用できるようにする。そのためには十分な語彙数が必要となる。語彙数の習熟度には個人差があるが、各々コミュニケーションに必要な語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。2年次では日常会話にとどまらず、専門分野についても英語で表現できるようにチャレンジする。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。また、日常会話からさらに進み、本学を訪れる留学生等と自分の専門分野に関して英語で意見交換ができることを目指す。 英語学習により異文化理解をさらに促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週 科目説明 Orientation, Self Introduction in English 第2週 Listening & Speaking および総合 Practice 1 第3週 Listening & Speaking および総合 Practice 2 第4週 Review 1 第5週 Listening & Speaking および総合 Practice 3 第6週 Listening & Speaking および総合 Practice 4 第7週 Review 2 第8週 Listening & Speaking および総合 Practice 5 第9週 Listening & Speaking および総合 Practice 6 第10週 Review 3 第11週 Listening & Speaking および総合 Practice 7 第12週 Listening & Speaking および総合 Practice 8 第13週 Review 4 第14週 Listening & Speaking および総合 Exercise(1) 第15週 Listening & Speaking および総合 Exercise(2) (授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。)
成績評価	定期試験20%, Speaking 確認Test 40%, 小テスト 20%, 積極的な授業への参加 20%
教科書	授業時に資料を配布する
参考書 参考資料	英和辞典、和英辞典
履修上の注意	英語の総合的運用練習とTOEIC学内団体受験サポートを行う。
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。専門分野の授業においてもこんな時に英語では何というのだろうか、と考えて調べてみる（1日10分余、1週間で90分を目安とする。） 自分に役立ちそうな表現を毎回授業でpick upしそれを次回から自由に使えるようにする。
関連科目	英会話Ⅰ、美術工芸英語、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出されるプリント等については確認後必ず翌週に返却し、質問を受け付け、Reviewと Feedbackを行います。クラス内テストについても、採点后、必ず翌週返却し、質問を受け付け、Review と Feedbackを行う。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-CO 2 04 S

講義名	英会話Ⅱ (Cクラス) 初級		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 工芸学部

到達目標	1年次で練習した英語会話を応用し、さらに英語を意思疎通の言語として活用できるようにする。英語の基礎を知識としてではなく、言語として使用できるようにする。そのためには十分な語彙数が必要となる。語彙数の習熟度には個人差があるが、各々コミュニケーションに必要な語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。2年次では日常会話にとどまらず、専門分野についても英語で表現できるようにチャレンジする。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。また、日常会話からさらに進み、本学を訪れる留学生等と自分の専門分野に関して英語で意見交換ができることを目指す。 英語学習により異文化理解をさらに促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週 科目説明 Orientation, Self Introduction in English 第2週 Listening & Speaking および総合 Practice 1 第3週 Listening & Speaking および総合 Practice 2 第4週 Review 1 第5週 Listening & Speaking および総合 Practice 3 第6週 Listening & Speaking および総合 Practice 4 第7週 Review 2 第8週 Listening & Speaking および総合 Practice 5 第9週 Listening & Speaking および総合 Practice 6 第10週 Review 3 第11週 Listening & Speaking および総合 Practice 7 第12週 Listening & Speaking および総合 Practice 8 第13週 Review 4 第14週 Listening & Speaking および総合 Exercise (1) 第15週 Listening & Speaking および総合 Exercise (2) (授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。)
成績評価	定期試験20%, Speaking 確認Test 40%, 小テスト 20%, 積極的な授業への参加 20%
教科書	授業時に資料を配布する
参考書 参考資料	英和辞典、和英辞典
履修上の注意	英語の総合的な運用練習を行う。あわせてTOEIC学内団体受験のサポートを行う。
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。専門分野の授業においてもこんな時に英語では何というのだろうか、と考えて調べてみる (1日10分余、1週間で90分を目安とする。) 自分に役立ちそうな表現を毎回授業でpick upしそれを次回から自由に使えるようにする。
関連科目	英会話Ⅰ、美術工芸英語、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出されるプリント等については確認後必ず翌週に返却し、質問を受け付け、Reviewと Feedbackを行います。クラス内テストについても、採点后、必ず翌週返却し、質問を受け付け、Review と Feedbackを行う。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-C0 2 04 S

講義名	英会話Ⅱ（Dクラス）中級		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 工芸学部

到達目標	1年次で練習した英語会話を応用し、さらに英語を意思疎通の言語として活用できるようにする。英語の基礎を知識としてではなく、言語として使用できるようにする。そのためには十分な語彙数が必要となる。語彙数の習熟度には個人差があるが、各々コミュニケーションに必要な語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。2年次では日常会話にとどまらず、専門分野についても英語で表現できるようにチャレンジする。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。また、日常会話からさらに進み、本学を訪れる留学生等と自分の専門分野に関して英語で意見交換ができることを目指す。 英語学習により異文化理解をさらに促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週 科目説明 Orientation, Self Introduction in English 第2週 Listening & Speaking および総合 Practice 1 第3週 Listening & Speaking および総合 Practice 2 第4週 Review 1 第5週 Listening & Speaking および総合 Practice 3 第6週 Listening & Speaking および総合 Practice 4 第7週 Review 2 第8週 Listening & Speaking および総合 Practice 5 第9週 Listening & Speaking および総合 Practice 6 第10週 Review 3 第11週 Listening & Speaking および総合 Practice 7 第12週 Listening & Speaking および総合 Practice 8 第13週 Review 4 第14週 Listening & Speaking および総合 Exercise(1) 第15週 Listening & Speaking および総合 Exercise(2) (授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。)
成績評価	定期試験20%, Speaking 確認Test 40%, 小テスト 20%, 積極的な授業への参加 20%
教科書	授業時に資料を配布する
参考書 参考資料	英和辞典、和英辞典
履修上の注意	英語の総合的な運用練習を行う。あわせてTOEIC学内団体受験のサポートを行う。
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。専門分野の授業においてもこんな時に英語では何というのだろうか、と考えて調べてみる（1日10分余、1週間で90分を目安とする。） 自分に役立ちそうな表現を毎回授業でpick upしそれを次回から自由に使えるようにする。
関連科目	英会話Ⅰ、美術工芸英語、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出されるプリント等については確認後必ず翌週に返却し、質問を受け付け、Reviewと Feedbackを行います。クラス内テストについても、採点后、必ず翌週返却し、質問を受け付け、Review と Feedbackを行う。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-C0 2 04 S

講義名	英語コミュニケーション (Aクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 工芸学部

到達目標	リスニング練習を繰り返し、文法・読解・リスニング力をつけ、就職・進学に向けて英語力を強化する。また、自分の制作物についてパワーポイントを用いて、英語でプレゼンテーションを行えるようにする。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「聞く」「話す」を主体に訓練する。自分の専門分野について英語で開設できる英語力をつける。英語学習により異文化理解をさらに促進することで、グローバルな視野を持ち、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力および表現力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週 科目説明 Orientation, Self Introduction in English 第2週 Listening & Speaking および総合 Practice 1 第3週 Listening & Speaking および総合 Practice 2 第4週 Review 1 第5週 Listening & Speaking および総合 Practice 3 第6週 Listening & Speaking および総合 Practice 4 第7週 Review 2 第8週 Listening & Speaking および総合 Practice 5 第9週 Listening & Speaking および総合 Practice 6 第10週 Review 3 第11週 Listening & Speaking および総合 Practice 7 第12週 Listening & Speaking および総合 Practice 8 第13週 Review 4 第14週 Listening & Speaking および総合 Exercise (1) 第15週 Listening & Speaking および総合 Exercise (2) (授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。) 定期試験 40%、小テスト 40%、積極的な授業への参加 20%
成績評価	Listening 実力テスト 20%、プレゼンテーション 40%、Listening Practice Review 20%、積極的な授業への参加 20%
教科書	授業時に資料を配布する
参考書 参考資料	英和辞典 和英辞典
履修上の注意	このクラスは、コミュニケーション科目の単位不足を補うためのセーフティーネットではありません。英会話IIの単位を落とした人は、このクラスではなく、英会話IIを再履修してください。英会話IIをまだ履修していない人は、まず英会話IIを履修してください。 この授業を履修する場合「英語コミュニケーション B」は履修できません。
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。専門分野の授業においてもこんな時に英語では何というのだろうか、と考えて調べてみる (1日10分余、1週間で90分を目安とする。) 自分に役立ちそうな表現を毎回授業でpick upしそれを次回から自由に使えるようにする。
関連科目	英会話 I・美術工芸英語・英会話 II
課題に対するフィードバックの方法	提出されるプリント等については確認後必ず翌週に返却し、質問を受け付け、Reviewと Feedbackを行います。クラス内テストについても、採点后、必ず翌週返却し、質問を受け付け、Review と Feedbackを行う。

教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-CO 3 05 S

シラバス〔2021年度版〕

講義名	英語コミュニケーション (Bクラス)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 工芸学部

到達目標	TOEIC 形式の練習を繰り返し、文法・読解・リスニング力をつけ、就職・進学に向けて英語力を強化する。また、自分の制作物についてパワーポイントを用いて、英語でプレゼンテーションを行えるようにする。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「聞く」「話す」を主体に訓練する。自分の専門分野について英語で開設できる英語力をつける。英語学習により異文化理解をさらに促進することで、グローバルな視野を持ち、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力および表現力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週 科目説明 Orientation, Self Introduction in English 第2週 Listening & Speaking および総合 Practice 1 第3週 Listening & Speaking および総合 Practice 2 第4週 Review 1 第5週 Listening & Speaking および総合 Practice 3 第6週 Listening & Speaking および総合 Practice 4 第7週 Review 2 第8週 Listening & Speaking および総合 Practice 5 第9週 Listening & Speaking および総合 Practice 6 第10週 Review 3 第11週 Listening & Speaking および総合 Practice 7 第12週 Listening & Speaking および総合 Practice 8 第13週 Review 4 第14週 Listening & Speaking および総合 Exercise (1) 第15週 Listening & Speaking および総合 Exercise (2) (授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。)
成績評価	定期試験 40%、プレゼンテーション 10%、小テスト 30%、積極的な授業への参加 20%
教科書	授業時に資料を配布する
参考書 参考資料	英和辞典 和英辞典 TOEIC問題集 TOEIC語彙集
履修上の注意	この授業は、1年次、2年次に続けてさらに英語力を向上させるためのもので、コミュニケーション科目の単位不足を補うためのセーフティネットとしての基礎英語ではありません。安易な気持ちで単位のためだけに登録すると失敗します。 この授業を履修する場合「英語コミュニケーション A」は履修できません。
予習・復習指導	毎週の課題を中心に毎日英語に接するようにする。専門分野の授業においてもこんな時に英語では何というのだろうか、と考えて調べてみる(1日10分余、1週間で90分を目安とする。) 自分に役立ちそうな表現を毎回授業でpick upしそれを次回から自由に使えるようにする。
関連科目	英会話 I ・ 美術工芸英語 ・ 英会話 II
課題に対するフィードバックの方法	提出されるプリント等については確認後必ず翌週に返却し、質問を受け付け、Reviewと Feedbackを行います。クラス内テストについても、採点后、必ず翌週返却し、質問を受け付け、Review と Feedbackを行います。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-G0 3 05 S

講義名	情報基礎演習 (Aクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 木村 奈保	KYOB I 工芸学部
助教	加納 奈都	KYOB I 工芸学部

到達目標	・ Word、Excel、PowerPoint の活用方法を習得する。 ・ AdobeIllustrator、AdobePhotoshopの基本操作を習得する。
授業概要	パソコンの基礎および実務用ソフト (Word、Excel、PowerPoint) と、デザイン系ソフト (AdobeIllustrator、AdobePhotoshop) の基本操作、活用方法を習得する。実務用ソフトでは、思い通りの書式で文書を作ることや、効率的な計算処理および処理結果の表示・表現方法を習得する。デザイン系ソフトではロゴやイラスト、広告作成、画像編集など自由に描画、編集する為の基本的な操作方法を習得する。 工芸学部ディプロマポリシーの1、3に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 第2回 Word：文章の作成・フォントや書式の設定 第3回 Excel：表の作成・表のデザイン・表計算 第4回 PowerPoint：スライドの作成・ビジュアル要素の設定 第5回 PowerPoint：プレゼンター作成 第6回 AdobeIllustrator、AdobePhotoshopの概要説明 第7回 AdobeIllustratorの基本操作① 第8回 AdobeIllustratorの基本操作② 第9回 AdobeIllustratorの基本操作③ 第10回 AdobePhotoshopの基本操作① 第11回 AdobePhotoshopの基本操作② 第12回 AdobePhotoshopの基本操作③ 第13回 最終課題 第14回 最終課題 第15回 投票・総括 ※毎回練習問題をやりながら理解を深めていきます。 ※理解状況に応じて、適宜内容を変更する場合があります。
成績評価	出席・授業態度 (30%)、各演習課題 (70%) で成績評価を行う
教科書	データにて配布
参考書 参考資料	『しっかり学ぶWord/Excel/PowerPoint 標準テキスト』 定平誠 技術評論社 『世界一わかりやすい Illustrator 操作とデザインの教科書』 技術評論社
履修上の注意	個人のノートPC にて授業を行うので、忘れないようにすること。
予習・復習指導	一講義 (1コマ) に対して3時間の予習復習をすること。
関連科目	「コンピューターデザイン演習」
課題に対するフィードバックの方法	授業内で適宜対応する。
科目ナンバリング	CRA-C0106S

講義名	情報基礎演習 (Bクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 岡北 一孝	KYOB I 工芸学部
講師	永井 秀幸	KYOB I 工芸学部
講師	根来 宏典	KYOB I 工芸学部
助教	新谷 謙一郎	KYOB I 工芸学部

到達目標	・パソコンにおけるデータの入力・出力・保存・読み込み方法を習得する。 ・Google Workplaceの各種アプリ (Gmail、Googleカレンダー、Googleドライブ、Googleドキュメント、Googleスプレッドシート、Googleスライド) の基礎、及び活用方法を習得する。 ・Illustratorを用いて簡単な図像やロゴを作成する。 ・最終目標：Googleドキュメントに表や図像を挿入し、建築家や建築作品についてのレポートを作成できる。
授業概要	PCの基本的な構成 (Hardware、Software) やOS (Operation System) 、及び実務用ソフトGoogle Workplace (Gmail、Googleカレンダー、Googleドライブ、Googleドキュメント、Googleスプレッドシート、Googleスライド) の基礎的な活用方法を習得することを目的とする。 各種アプリの単純な使い方だけではなく、大学の授業で必要とされる活用方法を示す。例えば、レポートや論文の書き方や体裁、フィールドワークや文献調査で収集したデータの整理と分析、建築設計作品に関するレポート作成の基本である。なお、レポートに挿入する図像をIllustratorを用いて作成することで、Illustratorの基本的な使用法も解説する。 本演習は、工芸学部のディプロマポリシー1、3に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション：パソコンの共通操作・共通言語の理解 第2回 Gmail：メール作成の基本 第3回 Googleカレンダー：情報・予定の整理 第4回 Googleドライブ：データの整理と共有 第5回 Googleドキュメント：伝える技術 第6回 Googleドキュメント：建築系の論文やレポートの体裁や書き方 第7回 Googleスプレッドシート：スプレッドシートとは？ 第8回 Googleスプレッドシート：より伝わるデータの作成 第9回 Googleスライド：プレゼンテーションとは？ 第10回 Googleスライド：効果的なプレゼンテーション 第11回 Adobeアプリのインストール 第12回 Adobe Illustratorを触ってみる 第13回 総合課題：レポート作成1 第14回 総合課題：レポート作成2 第15回 優秀レポートのプレゼンテーション ※なお、学習への理解・到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	演習課題で成績評価を行う。
教科書	阿部信行『Illustrator & Photoshop & InDesign これ1冊で基本が身につくデザイン教科書』
参考書 参考資料	武田雅人『Google アプリ徹底入門の教科書2020 Google アプリの教科書シリーズ2020年版』 (Kindle) 500円程度なので、できれば購入する。
履修上の注意	パソコン操作は習うより慣れることが重要である。常時パソコンを携帯し慣れ親しむ習慣をつける。また、最初に設定するアプリケーションのIDとパスワードは忘れずに管理する。
予習・復習指導	一講義 (1コマ) に対して1.5時間の予習復習をすること。
関連科目	「コンピューターデザイン演習」、「IT 活用応用演習」、「工芸実習導入」
科目ナンバリング	CRA-CO 1 06 S

講義名	総合コミュニケーション		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 渡邊 俊博	KYOB I 工芸学部

到達目標	自分に自信をつけることを最大の目標とし、心のこもったプレゼンテーションができる土台を創りあげる。 プレゼンテーションに自信がもてるテクニックとフィニッシュワークを完成させる。
授業概要	プレゼンとはいかにそのモノが優れているか、いかに大多数の共感を得られるかが大切な鍵になる。授業では「話す能力」、「伝えるための資料」、「見応えのある作品」の3つに加えて、特に重要な「納得させる力」を習得することを学ぶ。 相手を納得させるプレゼンテーションとは、「大切な人に心のこもったプレゼントを渡すような心持ち」となることである。その心持ちを得るには、まず自分をしっかりと理解する事が重要である。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション、課題説明 第2回 目的と考え方・プレゼンテーションの使い方 第3回 自分の正しい伝え方・自分を知る 第4回 グループワーク・自分プレゼン (5名1組) 第5回 グループワークをまとめる力 1 第6回 グループワークをまとめる力 2 第7回 発表 グループワークプレゼンテーション 第8回 パワーポイントで資料作り 1 (パワーポイントの使い方) 第9回 パワーポイントで資料作り 2 第10回 パワーポイントで資料作り 3 第11回 ビジュアルコミュニケーション術 1 (グラフィックレコーディング) 第12回 ビジュアルコミュニケーション術 2 第13回 ビジュアルコミュニケーション術 3 第14回 ビジュアルコミュニケーション術 4 第15回 総合まとめ
成績評価	授業態度、課題制作の完成度 70%、プレゼンテーション 30% によって評価する。
教科書	「考える・伝える技術グラフィックレコード」フォレスト出版
参考書 参考資料	授業内で適宜紹介する。
履修上の注意	積極的なアクティブラーニングの実施。 各自プレゼンテーションの意味を理解して、就職活動に活用できるようまとめあげる。
予習・復習指導	一講義 (1コマ) に対して1.5 時間の予習復習をすること。 普段から様々な人々の優れたコミュニケーションやプレゼンテーションに関心を持ち、自分に不足するものが何か、どうすれば身につくかを考えるようにすること。 自分の内面をしっかりと引き出せるように、普段から自身の言動、行動を把握すること。
関連科目	社会活動 I・II インターンシップ
課題に対するフィードバックの方法	7回、15回の各発表会内で講評を行う。
科目ナンバリング	CRA-C0307S

4. 教養教育科目 – キャリア形成科目

講義名	しごと論 I		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 工芸学部

到達目標	・「しごと」の多様性とその意義を理解する。 ・自身の将来の「しごと」について思考する。
授業概要	さまざまな仕事での貴重な経験談を通して、人の心のありようを知ることや、知恵、努力の様を学ぶ。 工芸学部のディプロマポリシー 1、2に該当する。
授業計画 授業内容	オムニバス形式／全15回 第1回 新谷 裕久（大学企画・広報） 第2回 宮本 貞治（木工） 第3回 三木 表悦（漆芸家） 第4回 浜田 泰介（画家） 第5回 コシノ・ジュンコ（デザイナー） 第6回 阿部 祐二（報道リポーター） 第7回 宮沢 孝幸（京都大学 ウイルス・再生医科学研究所） 第8回 細尾 真孝（西陣織） 第9回 国広 ジョージ（建築） 第10回 西堀 耕太郎（伝統工芸） 第11回 堀木 エリ子（和紙デザイナー） 第12回 大西 英玄（清水寺成就院住職） 第13回 今井 政之（陶芸家） 第14回 高田 光雄（建築家） 第15回 中井川 正道（環境デザイン） ※順番は前後する場合があります ※講師の都合により、他の講師と入れ替える場合があります
成績評価	毎回の小レポート80%、期末試験（論述形式）20%によって評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	授業を通して適宜紹介する。
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話聞きながら要点を箇条書きでノートに取るように努めること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 想定範囲内において各講師の仕事内容について調べておく。 講義後は分からなかった内容や用語などを調べて講義の内容を把握する。
関連科目	3年次には引き続き「しごと論Ⅱ」を受講することが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	試験の解答・解説等を試験終了後にweb掲示板に公開する。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	CRA-CA101L

講義名	しごと論Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 安藤 真吾	KYOB I 工芸学部

到達目標	将来の就職において、学科、コースの専門性をどのように活かしていくのか。就職への助言にとどまらず、改めて仕事に向かうべく姿勢を再認識させ、社会に対して新たな視点をもつ機会とする。
授業概要	1年次の「しごと論Ⅰ」では、新入生ということで具体的にイメージすることのできなかった社会人としての自覚の高揚を改めて3年次を実施する。美術工芸、建築の実務家教員によるオムニバス方式授業として、教員の専門的テーマから具体的なイメージを与えることにより、将来の就職への方向性を明確にする。 工芸学部のディプロマポリシー 1、2に該当する。
授業計画 授業内容	オムニバス方式 / 全 15 回 第 1 回 (新谷 裕久) ガイダンス、防災・安全衛生管理について 第 2 回 (高田 光雄) 建築計画について 第 3 回 (浅見 武) 陶芸について 第 4 回 (井上 年和) 歴史的建造物の保存修理について 第 5 回 (小林 泰弘) 文化財について 第 6 回 (中井川正道) 環境デザインについて 第 7 回 (遠藤 公誉) 漆芸について 第 8 回 (岡北 一孝) 西洋の歴史的建造物の改修について 第 9 回 (玉村 嘉章) 木工について 第 10 回 (安田 光男) ミラノでの「しごと」について 第 11 回 (山内 貴博) 建築とランドスケープについて 第 12 回 (人見 将敏) 建築設計と社会との関わりについて 第 13 回 (井上 晋一) 集合住宅の調査と設計について 第 14 回 (津村 健一) 美術と造形について 第 15 回 (安藤 真吾) ものづくりデザインについて、総括
成績評価	毎回の小レポート (80%)、期末試験 (論述形式) (20%) によって評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話聞きながら、要点を箇条書きでノートに取るように努めること。
予習・復習指導	一講義 (1コマ) に対して4.5 時間の予習復習をすること。 配布資料や講義内容から、専門用語 (作品・作家・技法) について復習し、関連用語 (作品・作家・技法) についても調べるなど理解を深めておくこと。
関連科目	1 年次開講科目である「しごと論Ⅰ」に引き続き履修することが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	授業開始前に、前回の小レポートの総評ならびに質問に対する回答等を行う。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	CRA-CA302L

講義名	社会活動 I		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷 裕久	KYOB I 工芸学部
教授	津村 健一	KYOB I 工芸学部
准教授	井上 年和	KYOB I 工芸学部
講師	青木 太一	KYOB I 工芸学部
講師	人見 将敏	KYOB I 工芸学部
助教	加納 奈都	KYOB I 工芸学部
特任教授	宮本 貞治	KYOB I 工芸学部

到達目標	社会人として必要なコミュニケーション能力や行動力を身につける。
授業概要	地域の清掃、催事にボランティア活動として参加することや学校行事に積極的に参加することにより、コミュニケーション能力や行動力などの社会性を育成する機会とする。 工芸学部のディプロマポリシー3に該当する。
授業計画 授業内容	下記の社会活動により延べ5日間選択する。 1. 新日吉神宮ちまき組み立て作業奉仕 1日 (4/17) /20名 2. 鴨川トレッキング&清掃活動 1日 (4/24) /250名 3. 七条大橋・貞教学区清掃活動 1日×3 (8/7, 9/7, 11/7) / (10~50名) 4. 祇園祭支援活動 1日 (7/24) /5名 5. 貞教学区夏祭り1日 (7/31) / (30~100名) 6. 園部演習林保全活動 1日 (9月上旬) /30名 7. 貞教学区体育祭 2日 (10/9~10/10) / (30~100名) 8. KYOB I祭支援活動4日 (10/29, 10/30, 10/31, 11/1) / (30~250) 9. 東山ふれあい広場支援活動 1日 (11月上旬) /30名 10. 京都伝統工芸館・鴨川七条ギャラリー展示活動 1日×4 (年4回随時) / (10~50名) 11. オープンキャンパス支援活動 1日×11 (4/25, 5/30, 6/20, 7/11, 7/18, 7/25, 8/1, 8/8, 8/22, 8/29, 9/19) / (10~50名)
成績評価	実習態度 (30%)、小レポート (70%) 実習態度は、実習への積極性、遅刻、レポートの提出遅れ等について評価する (減点方式)。 5つの課題 (5日) の実習とレポート提出をもって修了とする。 予約した課題において公欠・体調不良等で欠席する場合は、クラスルーム上で各自で予約変更を行う。但し、各課題の定員を超えないようにすること。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	実習を通して適宜紹介する。 フィールドワークの安全については入学時に配布する「防災・安全対策マニュアル」を参照のこと。 また、新型コロナウイルス感染対策マニュアルも参照すること。
履修上の注意	学外での活動が多いので安全面に注意すること。集合時間等は厳守すること。 新型コロナウイルス感染症対策 (3密を避ける、マスクの着用、手洗い、換気等) を徹底すること。
予習・復習指導	予習・復習は特に必要ないが、各実習ごとに実施される打合せならびに反省会に参加すること。 具体的な日程については事前に掲示する。
関連科目	1年次は、伝統文化科目である「京都学」で学ぶ地域社会との関連性が高い。 2年次には引き続き「社会活動Ⅱ」を選択することが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	一実習 (1コマ) に対して、修了時に反省会を実施し、口頭にて所見を述べる。
科目ナンバリング	CRA-CA103P

講義名	社会活動Ⅱ		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷 裕久	KYOB I 工芸学部
教授	津村 健一	KYOB I 工芸学部
准教授	井上 年和	KYOB I 工芸学部
講師	青木 太一	KYOB I 工芸学部
講師	人見 将敏	KYOB I 工芸学部
助教	加納 奈都	KYOB I 工芸学部
特任教授	宮本 貞治	KYOB I 工芸学部

到達目標	高度な社会人として必要なコミュニケーション能力や行動力を身につける。
授業概要	社会活動Ⅰにより身につけたコミュニケーション能力や行動力などの社会性を地域活動や学校催事への参加を重ねることにより発展させる。 工芸学部のディプロマポリシー2、3に該当する。
授業計画 授業内容	下記の社会活動により延べ5日間選択する。 1. 新日吉神宮ちまき組み立て作業奉仕 1日 (4/17) /20名 2. 鴨川トレッキング&清掃活動 1日 (4/24) /250名 3. 七条大橋・貞教学区清掃活動 1日×3 (8/7, 9/7, 11/7) / (10~50名) 4. 祇園祭支援活動 1日 (7/24) /5名 5. 貞教学区夏祭り1日 (7/31) / (30~100名) 6. 園部演習林保全活動 1日 (9月上旬) /30名 7. 貞教学区体育祭 2日 (10/9~10/10) / (30~100名) 8. KYOB I祭支援活動4日 (10/29, 10/30, 10/31, 11/1) / (30~250) 9. 東山ふれあい広場支援活動 1日 (11月上旬) /30名 10. 京都伝統工芸館・鴨川七条ギャラリー展示活動 1日×4 (年4回随時) / (10~50名) 11. オープンキャンパス支援活動 1日×11 (4/25, 5/30, 6/20, 7/11, 7/18, 7/25, 8/1, 8/8, 8/22, 8/29, 9/19) / (10~50名)
成績評価	実習態度 (30%)、小レポート (70%) 実習態度は、実習への積極性、遅刻、レポートの提出遅れ等について評価する (減点方式)。 5つの課題 (5日) の実習とレポート提出をもって修了とする。 予約した課題において欠席・体調不良等で欠席する場合は、クラスルーム上で各自で予約変更を行う。但し、各課題の定員を超えないようにすること。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	実習を通して適宜紹介する。 フィールドワークの安全については入学時に配布する「防災・安全対策マニュアル」を参照のこと。 また、新型コロナウイルス感染症対策マニュアルも参照すること。
履修上の注意	学外での活動が多いので安全面に注意すること。集合時間等は厳守すること。 新型コロナウイルス感染症対策 (3密を避ける、マスクの着用、手洗い、換気等) を徹底すること。
予習・復習指導	予習・復習は特に必要ないが、各実習ごとに実施される打合せならびに反省会に参加すること。 具体的な日程については事前に掲示する。
関連科目	1年次の「社会活動Ⅰ」に引き続きを選択することが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	一実習 (1コマ) に対して、修了時に反省会を実施し、口頭にて所見を述べる。
科目ナンバリング	CRA-CA204P

講義名	インターンシップ*		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 山田 幸秀	KYOB I 工芸学部

到達目標	①仕事の現場を体験し大学で学ぶ意義を再確認する ②社会人として必要な知識やスキルを身につける ③卒業後の進路に対する明確な意識を醸成し、進路選択のミスマッチを防ぐ ④仕事の現場での能動性（課題の設定・解決策の実践等）を高める
授業概要	卒業後のキャリア人生を充実したものにするため、社会人としての仕事を実体験するカリキュラム。3年次前期の事前学習を通じて就業体験を希望する企業、事業所等を見つけ、原則として夏季休暇中の5日間（各日8時間）を実習期間にあて、レポートやプレゼンテーションによって振り返りを行う。特に仕事現場での問題解決や自己の成長を図るため、適切な課題設定を行って実習に臨むことを重視する。 京都美術工芸大学工芸学部ディプロマポリシー3に該当する。
授業計画 授業内容	■令和2年度の予定 ①事前学習（1） ガイダンス ②事前学習（2） 業界研究＜1＞ ③事前学習（3） 業界研究＜2＞ ④事前学習（4） インターンシップの心得など ⑤事前学習（5） 実習計画書作成 ⑥事前学習（6） メンタルケア ⑦実 習 夏季休暇中、原則として5日間の実習スケジュールを実習先と相談のうえ各自が設定 ⑧事後学習（1） 報告書の書き方指導 ⑨事後学習（2） 感想発表 ⑩事後学習（3） プレゼン＜1＞ ⑪事後学習（4） プレゼン＜2＞ * 予定は変更になることがあるので、掲示などで確認すること ■想定される実習先 各種工房、工芸・建築・デザイン関連企業、京都伝統工芸協議会会員企業、京都府物産協会会員企業、業界団体・組合、公的機関など * 原則として学生が自ら実習先を開拓する。帰省先等での実習も可能。就職を希望する業界や企業での就業体験を特に推奨する
成績評価	事前・事後学習（30%）、実習先での学びと行動（＝実習報告書40%）、実習先の評価（30%）により総合的に評価する
履修上の注意	・履修したものの実習に行かなかった場合は成績が「不可」となるので注意すること。その場合、後期の履修取り消し期間内に取り消しの手続きができる。特に夏休みに建築士試験対策講座などを受講する者は注意を要する ・コロナ感染拡大防止のため、インターンシップをオンラインに切り替える企業や事業所が出てくるのが考えられる。この場合は感染拡大防止を最優先とし、オンラインも実習として認める
予習・復習指導	インターンシップは心と技を磨く貴重な教育機会であるため、履修者には十分な準備と能動的な姿勢が要求される。1コマあたり1・5時間の予習・復習が必要。
課題に対するフィードバックの方法	実習先の選定などの相談や質疑を随時受け付ける
教員の実務経験	塾/予備校講師、国会議員秘書、情報誌の編集、新聞の連載、外国領事館査証発給業務など
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-CA003E

講義名	メディアリテラシー		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 山田 幸秀	KYOB I 工芸学部

到達目標	・大学の研究や日常生活において情報を適切に収集、活用する意識と能力を高める。 ・積極的にニュースメディアに接する習慣を身につけ、社会への適応能力を養う。 ・特に海外ニュースについては、英字メディアや英文サイトから一次情報にアクセスする技術を習得する。 ・新聞、テレビ、ラジオなどのメディア関係者から直接、話を聞くことで、ニュースや情報に対する関心を深めるとともに、発信する側の思いや取り組みを知る。
授業概要	テレビや新聞などの既存メディアに加え、わたしたちはインターネットを通じてさまざまな情報を得ている。一方でSNSによって個人による情報発信が可能になった結果、インターネット上にはさまざまな情報があふれ、その真偽を見極めるチカラが求められるようになった。大学の研究や日常生活に情報をどう生かせばいいかを考え、社会生活においてメディアを活用する技術を身につけるため、メディアの特性を知るとともに、一線で活躍するメディア関係者らの話を聞く。 また、“USA TODAY” “Washington Post”などの英字紙、“Rotten Tomatoes” “Box Office Mojo”などの英文の映画情報サイトからタイムリーなトピックをピックアップし、日本では報道されない情報や、海外の視点に触れる。 さらに、日々のニュースの主役であり、普段は取材対象となる警察関係者、外交官、政治家からメディアのフィルターを通さずに直接話を聞く機会を設ける。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス：メディアリテラシーとは — メディア情報を大学生活にどう生かすか 第2回 メディアの種類と特性 — 新聞、テレビ、ラジオ、通信社、雑誌、フリーペーパー、インターネット 第3回 メディアを巡る諸問題(1) — 誤報、客観報道と情報操作 第4回 メディアを巡る諸問題(2) — 実名報道 第5回 英字メディアのリテラシー(1) 第6回 英字メディアのリテラシー(2) 第7回 テレビ局の仕事 第8回 新聞社の仕事 第9回 FMラジオ局のさまざまな取り組み — 音楽からアートまで 第10回 ソーシャルメディアの功罪 第11回 ニュースの主役(1) — 警察 第12回 ニュースの主役(2) — 外交官 第13回 ニュースの主役(3) — 政治家 第14回 動画広告の世界（「カンヌライオンズ国際クリエイティビティフェスティバル」歴代入賞作品の紹介） 第15回 情報収集・分析のプロたち — インテリジェンスとは
成績評価	・出欠、受講態度、小レポートを点数化し、評価する。
教科書	毎回、テーマに関連する資料を配付する。
参考書 参考資料	「実名と報道」（日本新聞協会 編集委員会） ※同協会のウェブサイトから無料でダウンロードできます。
履修上の注意	・受け身の姿勢ではなく、自分のアタマで考えながら受講すること。 ・ゲストには積極的に質問を。
教員の実務経験	産経新聞社で情報誌の編集、米全国紙“USA TODAY”のプロモーション（ダイジェスト版の翻訳）、新聞の紙面連載などに携わる。 その後、在大阪カンボジア王国名誉領事館館長としてビザの発給業務のほか、カンボジアー日本の二国間交流や米国、台湾など各国在外公館との国際交流に従事。 情報誌では特集、エッセイ、旅行などの連載を担当したほか「湾岸戦争特集」を発行。クウェートを解放した多

	国籍軍に130億ドルもの資金を提供しながら、クウェート政府が米国の主要新聞に出した国際社会への感謝広告に日本の国名がなかった問題を取り上げた。また、新聞のインタビューでは政治家、外交官、大学教授ら数多くの人物取材し、紙面で紹介した。 シラバス [2021年度版] このほか新聞社で「日米関係フォーラム」を企画・プロデュース。3代にわたる米国総領事をメインゲストとして招き、日米関係やテロ対策について米国を代表する立場から語っていただいた。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA CA 1 06 L

講義名	現代社会論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 福田 安佐子	KYOB I 工芸学部

到達目標	この講義は本授業の目標は、現代社会に対する理解を深めることである。特に「ゾンビ」や「身体」と言った観点から、様々な時代や場所において、規範や感性がいかにして形成されてきたかを学び、それが現代社会といかなる関係を保っているか、自ら考える力をつける。
授業概要	本科目では映像作品や文化現象を手掛かりに、その表現にはどのような心性や価値観が反映しているかを読み解いていく。現代アート、ゾンビ、身体観の変遷を基本的なテーマとし、それら個々の表現を読み解き、さらに現代を生きる我々との関係を考えることによって、現代社会がいかに形成されてきたかについてより深い理解を目指す。 本科目は京都美術工芸大学ディプロマポリシーの1および2に該当する。
授業計画 授業内容	第1回：＜オリエンテーション＞現代アート、ゾンビ、身体と現代社会 第2回：＜講義＞ゾンビ概論：「なぜ我々はゾンビ映画を見るのか：近代」 第3回：＜講義＞ゾンビ概論2：「なぜ我々はゾンビ映画を見るのか：現代」 第4回：＜講義＞植民地における人間とゾンビ：映画「ホワイトゾンビ」(1931) 第5回：＜講義＞人種化・植民地化される身体と文明 第6回：＜講義＞1930年代から第二次世界大戦後までの身体と文明 第7回：＜講義＞身体的美醜：二十世紀の身体表象 第8回：＜講義＞1968年の世界：映画「ナイト・オブ・ザ・リビングデッド」(1968)と＜病＞ 第9回：＜講義＞アブジェクション：体液、血液、皮膚の表象 第10回：＜講義＞アブジェクション：内蔵、腐敗、生殖の表象 第11回：＜講義＞美しい身体、商品化される身体：映画「バイオハザード」(2002) 第12回：＜講義＞現代における感染と新・植民地主義の表象 第13回：＜講義＞現代の黙示録：映画「28日後…」(2002)における廃墟と崇高の美学 第14回：＜講義＞未来の身体：二十一世紀の身体表象 第15回：＜講義＞ポストヒューマニズムと現代社会
成績評価	授業へのコメントペーパー（50％）と期末レポート（50％）で評価する
参考書 参考資料	マキシム・クロンブ著『ゾンビの小哲学』武田宙也・福田安佐子訳、人文書院、2019年。
履修上の注意	ホラー映画を扱う回があることに留意する。ただし視聴については任意である。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、2時間の事前学習および2.5時間の復習をすること （具体的な内容） 授業で挙げた作品や論文などを各自でも熟覧・熟読し、分からない用語や概念が出てきた場合には、質問できるよう準備しておくこと。
課題に対するフィードバックの方法	コメントペーパーへの質問などについては次の授業内で回答する
教員の実務経験	特になし
科目ナンバリング	CRA-CA307L

5. 専門教育科目 － 美術工芸科目・基本科目

講義名	工芸概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 玉村 嘉章	KYOB I 工芸学部

到達目標	・ 広く工芸全般の意味を理解する。 ・ 工芸に対する広い視野を身につける。
授業概要	広く工芸の意味を理解すると共に、古くから伝わる工芸が世界のそして日本の文化としていかに我々の生活に定着しているかを各専門分野の切り口をとおして論じる。 美術工芸学科のディプロマポリシー1、2、3に該当する
授業計画 授業内容	オムニバス / 全 15 回 第 1～ 3 回 陶磁器業界の近況と今後を概観すると共に、「ものづくり」の変遷を成形技法、加飾技法、素材などを通じて解説し、工芸への理解を深める（横山直範） 第 4～ 7 回 物造りという観点から時代をさかのぼり彫刻作品、仏像彫刻作品が、生活に定着し馴染んできたか、映像、写真資料を参考に学ぶ（青木太一） 第 8～10 回 木工の技術・材料・デザイン等の解説。現在活躍している工芸家の作品・映像等を通して多様な工芸のスタイルを紹介する（玉村嘉章） 第11～14 回 伝統的な漆工芸品の歴史、構造、制作技法、諸道具について、また漆工芸を支える素材の内、主に国産漆の現状について概略を説明する（遠藤公誉） 第 15 回 総括（玉村嘉章） ※順番が前後する場合や担当者が変更になる可能性があります。
成績評価	複数回実施する小レポート及び最終レポートにより評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	『工芸の見かた感じ方』（東京国立近代美術館工芸課編淡交社）
履修上の注意	期末時に、講師の中から一人を選び、その講師の担当した講義に関する最終レポートを提出する。
予習・復習指導	1コマに対し4.5時間の復習をする事。 配布資料や講義内容から、専門用語（作品・作家・技法など）について復習し、関連用語（作品・作家・技法など）についても調べるなど理解を深めておくこと。
関連科目	「伝統工芸概論」
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを次回以降の講義内で行う
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	CRA-BA101L

講義名	建築概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 種村 俊昭	KYOB I 工芸学部
講師	岡北 一孝	KYOB I 工芸学部

到達目標	・「建築は住宅から始まり住宅に終わる」と言われるように「住空間」を中心に広く建築の意味を認識、理解する。 ・建築に対する幅広い視野を身につける。
授業概要	建築は、人間の「生活（生き生きした活動）」を支える「衣食住」の一要素として古くから時代や地域に即して発展してきた。日本にも世界にも、文化として受け継がれた伝統的な建築が魅力を醸し出している地域や、新しい建築による快適で魅力的な都市もあるが、改善すべき環境もある。広く建築の意味を理解すると共に、建築が世界のそして日本の文化としていかに我々の生活に定着しているかを最も身近な「住空間」を中心に各専門分野の関連科目の導入を兼ねて概説する。 建築ディプロマポリシーの1に係る。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス、建築とは、設計とは、建築の学びの基本について 第2回 建築の生産：建築関連職業と知識・技術・技能 第3回 建築の歴史・伝統建築：どのように生まれ、どのように展開してきたか 第4回 建築の定義・種類・分類・範囲、関連書籍の紹介 第5回 建築の基本的要件：機能・性能・意義： 第6回 建築教育・学習・実習・演習： 第7回 建築計画・設計（1）：建築計画 第8回 建築計画・設計（2）：建築設計（デザイン） 第9回 建築計画・設計（3）：地域・都市計画・地域・都市デザイン 第10回 建築環境工学・建築設備 第11回 建築一般構造・建築力学 第12回 建築材料 第13回 建築施工・積算・各種実験 第14回 建築法規・その他の規制 第15回 その他：関連教養学問・総括 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	「小レポート（小テスト）＋期末試験（期末レポート）」により成績評価を行う。 授業態度（出席も含め30%）も考慮し、最終成績とする。
教科書	「住空間計画学」学芸出版社、自作プリント
参考書 参考資料	各座学の教科書、配布資料、授業中に紹介
履修上の注意	基礎教養として経済学、社会学、法学などの基礎を理解し、社会の仕組みを（ある程度）理解していること、現代の問題・課題をニュース、新聞等から日々情報を得て、自らの課題として認識、意識していることが重要である。（「認識力」）また、豊かな生活実現、都市環境のあり方などに興味を持ち、いろいろな場面、機会などを捉え、豊かな生活実現と都市・街などのあり方、情景などについて日々発見する心掛けが重要である。（「観察力」＋「構想力」）
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	建築各分野の関連科目の導入を兼ねている。
課題に対するフィードバックの方法	中間レポート（テスト）は講義中に結果報告を行い、期末レポート（テスト）は掲示等で結果報告を行う。
教員の実務経験	32年間の各種建築計画・設計実務経験を有する。また、大学の専任教員として11年間の実務経験を有する。
教員の实務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	GRA-BA 1 02 L

講義名	伝統工芸概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 浅見 武	KYOB I 工芸学部

到達目標	・工芸業界の裾野の広さを理解する。 ・各工芸について基本的な知識を身につける。
授業概要	京都の伝統工芸業界の実務者による講演形式の授業を実施することで、工芸業界の裾野の広さを学ぶ。 京都美術工芸大学ディプロマポリシー 1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	オムニバス／全15回 第1回 浅見 武 概論 第2回 藤井 収 漆芸 第3回 小田 珠生 表具 第4回 内田 俊秀 伝統工芸品 第5回 八田 誠治 友禅・西陣 第6回 須藤 拓 鍍金・鍛金・彫金 第7回 若林 卯兵衛 仏壇・仏具① 第8回 若林 卯兵衛 仏壇・仏具② 第9回 綾部 之 京指物 第10回 小林 泰弘 文化財 第11回 野口 康 金箔 第12回 猪飼 祐一 京焼 第13回 石田 正一 竹工芸 第14回 渡邊 晶 刃物 第15回 浅見 武 陶芸 および 総括 ※順番が前後する場合があります。
成績評価	毎回実施する小レポート及び最終レポートにより評価する。
教科書	各講義の担当教員が必要に応じて資料を配布する。
参考書 参考資料	工芸の見かた・感じかた(東京国立近代美術館工芸課：編)淡交社 明日への伝統工芸(浅見 薫著)財京都伝統工芸産業支援センター [その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する]
履修上の注意	各講師が指示する内容のレポートを提出する。
予習・復習指導	(内容)各講義の担当教員の略歴や特徴、用語や作品など、重要と感じることについて調べること。 (時間)講義1コマに対して4.5時間の事前学習をすること。
関連科目	同じく必修科目である「工芸概論」と併せて工芸の知識を深める。
課題に対するフィードバックの方法	レポートに含まれる質疑応答については、各講義の担当教員からの情報をまとめて総括の時間に行う。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	CRA-BA103L

講義名	構成基礎演習 (Aクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 渡邊 俊博	KYOB I 工芸学部

到達目標	・造形要素の性質を理解する。 ・造形的バランス感覚を習得する。 ・造形的操作によって変化する心理的效果をとらえる。
授業概要	知覚のメディアが多様化する現代においては、デザインの分野も多岐に渡るが、いずれの場合も基本となる造形的バランス感覚が必要である。実際の視覚体験では、色彩と形態、構成、テクスチャ等の造形要素が複雑に絡み合っているが、本科目では、構成について、点・線・面・という造形要素による平面構成の基礎課題演習を行う。その中で、造形的操作によって変化する心理的效果を考察する。 美術工芸学科のディプロマポリシー 1 に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション：授業の目標、受講に対する留意点等 第2回 造形要素1：「点」の性質 第3回 造形要素2：「点」による構成 第4回 造形要素3：「線」の性質 第5回 造形要素4：「線」による構成 第6回 造形要素5：「面」の性質 第7回 造形要素6：「面」による構成 第8回 構成基礎1：位置と比率 第9回 構成基礎2：対比と同調 第10回 構成基礎3：分割と秩序 第11回 構成基礎4：密度と空間 第12回 構成とイメージ1：造形要素による心理表現「要素とテーマの発見」 第13回 構成とイメージ2：造形要素による心理表現「テーマに対する構成」 第14回 構成とイメージ3：造形要素による心理表現「構成の可能性」 第15回 合評会：講評と総括
成績評価	受講態度 (20%)、成果物 (80%) によって評価する。
教科書	必要に応じて、資料を配布する
参考書 参考資料	朝倉直巳「芸術・デザインの平面構成」六耀社
履修上の注意	課題終了時に用紙を配布し、作品への評価やコメントの記入を求める。 提出期限を厳守すること。
予習・復習指導	一講義 (1コマ) に対して1.5時間の予習復習をすること。 (具体的な内容) 課題の試作や制作を行うこと。また課題ごとに試作したものを整理、まとめておくこと。
関連科目	「素描」 「色彩理論演習」 「造形基礎演習Ⅰ」 「造形基礎演習Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	課題毎に合評を行い作品へのコメントを行う。
科目ナンバリング	CRA-BA 1 04 S

講義名	構成基礎演習 (Bクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 渡邊 俊博	KYOB I 工芸学部

到達目標	・造形要素の性質を理解する。 ・造形的バランス感覚を習得する。 ・造形的操作によって変化する心理的效果をとらえる。
授業概要	知覚のメディアが多様化する現代においては、デザインの分野も多岐に渡るが、いずれの場合も基本となる造形的バランス感覚が必要である。実際の視覚体験では、色彩と形態、構成、テクスチャ等の造形要素が複雑に絡み合っているが、本科目では、構成について、点・線・面・という造形要素による平面構成の基礎課題演習を行う。その中で、造形的操作によって変化する心理的效果を考察する。 美術工芸学科のディプロマポリシー 1 に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション：授業の目標、受講に対する留意点等 第2回 造形要素 1：「点」の性質 第3回 造形要素 2：「点」による構成 第4回 造形要素 3：「線」の性質 第5回 造形要素 4：「線」による構成 第6回 造形要素 5：「面」の性質 第7回 造形要素 6：「面」による構成 第8回 構成基礎 1：位置と比率 第9回 構成基礎 2：対比と同調 第10回 構成基礎 3：分割と秩序 第11回 構成基礎 4：密度と空間 第12回 構成とイメージ 1：造形要素による心理表現「要素とテーマの発見」 第13回 構成とイメージ 2：造形要素による心理表現「テーマに対する構成」 第14回 構成とイメージ 3：造形要素による心理表現「構成の可能性」 第15回 合評会：講評と総括
成績評価	受講態度 (20%)、成果物 (80%) によって評価する。
教科書	必要に応じて、資料を配布する
参考書 参考資料	朝倉直巳「芸術・デザインの平面構成」六耀社
履修上の注意	課題終了時に用紙を配布し、作品への評価やコメントの記入を求める。 提出期限を厳守すること。
予習・復習指導	一講義 (1コマ) に対して1.5時間の予習復習をすること。 (具体的な内容) 課題の試作や制作を行うこと。また課題ごとに試作したものを整理、まとめておくこと。
関連科目	「素描」 「色彩理論演習」 「造形基礎演習Ⅰ」 「造形基礎演習Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	課題毎に合評を行い作品へのコメントを行う。
科目ナンバリング	CRA-BA 1 04 S

講義名	構成基礎演習 (Cクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 種村 俊昭	KYOB I 工芸学部
准教授	河村 大助	KYOB I 工芸学部
講師	人見 将敏	KYOB I 工芸学部
講師	永井 秀幸	KYOB I 工芸学部
助教	江本 弘	KYOB I 工芸学部
特任教授	小椋 吉隆	KYOB I 工芸学部

到達目標	・造形物の様々な特性を理解する。 ・平面・立体構成の感覚、空間把握能力を養う。 ・自身の考えを描写を通じて具現化し、他者に伝える能力を習得する。
授業概要	本科目では造形の基礎演習として、形を生み出す上で最も重要な線の描き方と構成の方法を、様々な事物を描写する中で体得し、かつ描き出したものから発見的に考察していく。まず自身の身近なものを描くことから始め、次に平面での構成の練習、そして平面から立体空間構成への展開、最後に総合的な課題として、家具（椅子）による立体空間を構成しその描写を行う。 工芸学部のディプロマポリシーの1、2に係る。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション：授業の目標や留意点等の説明 起こし絵課題1：課題説明、実測説明 第2回 起こし絵課題2：実測図の作成 起こし絵課題3：起こし絵の作成 第4回 起こし絵課題4：作品発表、スケッチ課題1：作図基礎、添景の描写 スケッチ課題2：インテリアスケッチと構成への発展 第6回 平面構成1：点と線 第7回 平面構成2：点・線・面・色彩 第8回 総合課題1：椅子のデザイン1 第9回 総合課題2：椅子のデザイン2 第10回 総合課題3：椅子のデザイン3 第11回 総合課題4：椅子のデザイン4・発展 第12回 立体課題1：立体の構成1 第13回 立体課題2：立体の構成2 第14回 立体課題3：光の箱1 第15回 立体構成4：光の箱2・総評
成績評価	受講態度（20%）、各課題提出物の評価（80%）
教科書	フランシス・D・K・チン著、太田邦夫訳『建築ドローイングの技法』
参考書 参考資料	必要に応じて参考資料を配布する。 その他の参考書として、 小沢剛、塚本由晴著『線の演習 建築学生のための美術入門』 小嶋一浩、伊藤香織、他編著『空間練習帳』
履修上の注意	毎回の授業に積極的に参加すること。また、提出期限を厳守すること。
予習・復習指導	各回1.5時間の予習復習をすること。 授業内に終了しなかった作品の完成、ならびにより良い作品作りに向けて作業を行うこと。
関連科目	「工芸実習導入」「工芸実習基礎Ⅰ」「デザイン作図演習」
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CRA-BA 1 04 S

講義名	伝統住居概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井上 年和	KYOB I 工芸学部

到達目標	建築史研究、歴史的建造物の調査研究、設計・施工に必要な基本的な知識を習得する。
授業概要	日本の伝統的な住居について、変遷過程や形態、特徴を史料、遺構等に基づき解説する。 建築学科のディプロマポリシーの1、2に係る。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 史跡と古墳 第2回 原始的な住居と集落 第3回 都城と宮殿 第4回 寝殿造 第5回 書院造 第6回 城郭 第7回 武家屋敷 第8回 都市と村落 第9回 民家 第10回 町屋（町家） 第11回 劇場 第12回 茶室と数寄屋 第13回 近代和風建築 第14回 洋風住宅 第15回 歴史的な町並み
成績評価	レポートおよび定期試験結果により評価を行う。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書 参考資料	日本建築学会『日本建築史図集』彰国社、小沢朝江・水沼淑子『日本住居史』吉川弘文館
履修上の注意	配布プリント、講義ノートを毎回持参する。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 配布プリント、講義ノートを毎回持参する。
関連科目	社寺建築概論、伝統構造学
課題に対するフィードバックの方法	期末試験を実施し、試験後に解答を公開する。
教員の実務経験	文化財建造物修復、歴史的建造物設計監理
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-BA 1 05 L

講義名	色彩学 (Aクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 安藤 真吾	KYOB I 工芸学部

到達目標	・色彩を体系立てて理論的にとらえる。 ・工芸・デザインや建築に役立つ配色調和手法を体系的に学ぶ。 ・色彩検定試験にチャレンジできる知識の修得。
授業概要	色彩は、私たちの環境・生活全てに大きく関わっている。色彩を単に感性だけで処理するのではなく、体系立てて理論的に学ぶ。配色カード等を活用し、理論を実務に応用するためのセンスアップトレーニングを並行して行う。この講義は色彩検定の受験対策にも役立つ内容とする。 工芸学部のディプロマポリシー 1、2 に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 回 第 1 回 オリエンテーション 色感テスト 第 2 回 光と色(なぜ色が見えるのか?) カラーダイアル作成(1) 第 3 回 色の表示方法(PCCS 色彩体系) カラーダイアル作成(2) 第 4 回 色の表示(マンセル・JIS の色名) カラーダイアル作成(3) 第 5 回 色の混合(混色の方法) スライド上映(色とデザイン) 第 6 回 色と心理的効果 演習(色の見え) 第 7 回 色彩調和(1) 演習(ナチュラルハーモニー、コンプレックスハーモニー) 第 8 回 色彩調和(2) 演習(色相配色、トーン配色) 第 9 回 色彩調和(3) 演習(グラデーション、セパレーション) 第 10 回 配色技法(1) 演習(トーンオントーン、トーンイントーン配色) 第 11 回 配色技法(2) 演習(古典的配色技法) 第 12 回 配色技法(3) 演習(イメージ配色) 第 13 回 色彩計画(1) (カラーデザインとユニバーサルデザイン) 第 14 回 色彩計画(2) (インテリアスタイルと配色、素材の色) 第 15 回 色彩計画(3) (住宅のエクステリアの色彩、景観調和)
成績評価	評価ポイント：受講態度 (20%)、演習課題の評価 (50%)、期末試験の評価 (30%)
教科書	『カラーコーディネーター入門「色彩」』(日本色研事業株式会社) 『新配色カード 199a』(日本色研事業株式会社)
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	演習内容は配色カードを貼り付けるものとなるので、ハサミとスティック糊を毎回持参すること。
予習・復習指導	一講義 (1 コマ) に対して 4.5 時間の予習復習をすること。 次回の授業内容について、シラバスに準じて教科書の内容を読んでおくこと。
関連科目	「デザイン概論」「色彩理論演習」
課題に対するフィードバックの方法	演習課題のフィードバックは次回以降の講義時間内で行う。
科目ナンバリング	CRA-BA106L

講義名	色彩学 (Bクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 安藤 真吾	KYOB I 工芸学部

到達目標	・色彩を体系立てて理論的にとらえる。 ・工芸・デザインや建築に役立つ配色調和手法を体系的に学ぶ。 ・色彩検定試験にチャレンジできる知識の修得。
授業概要	色彩は、私たちの環境・生活全てに大きく関わっている。色彩を単に感性だけで処理するのではなく、体系立てて理論的に学ぶ。配色カード等を活用し、理論を実務に応用するためのセンスアップトレーニングを並行して行う。この講義は色彩検定の受験対策にも役立つ内容とする。 工芸学部のディプロマポリシー 1、2 に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 回 第 1 回 オリエンテーション 色感テスト 第 2 回 光と色(なぜ色が見えるのか?) カラーダイアル作成(1) 第 3 回 色の表示方法(PCCS 色彩体系) カラーダイアル作成(2) 第 4 回 色の表示(マンセル・JIS の色名) カラーダイアル作成(3) 第 5 回 色の混合(混色の方法) スライド上映(色とデザイン) 第 6 回 色と心理的効果 演習(色の見え) 第 7 回 色彩調和(1) 演習(ナチュラルハーモニー、コンプレックスハーモニー) 第 8 回 色彩調和(2) 演習(色相配色、トーン配色) 第 9 回 色彩調和(3) 演習(グラデーション、セパレーション) 第 10 回 配色技法(1) 演習(トーンオントーン、トーンイントーン配色) 第 11 回 配色技法(2) 演習(古典的配色技法) 第 12 回 配色技法(3) 演習(イメージ配色) 第 13 回 色彩計画(1) (カラーデザインとユニバーサルデザイン) 第 14 回 色彩計画(2) (インテリアスタイルと配色、素材の色) 第 15 回 色彩計画(3) (住宅のエクステリアの色彩、景観調和)
成績評価	評価ポイント：受講態度 (20%)、演習課題の評価 (50%)、期末試験の評価 (30%)
教科書	『カラーコーディネーター入門「色彩」』(日本色研事業株式会社) 『新配色カード 199a』(日本色研事業株式会社)
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	演習内容は配色カードを貼り付けるものとなるので、ハサミとスティック糊を毎回持参すること。
予習・復習指導	一講義 (1 コマ) に対して 4.5 時間の予習復習をすること。 次回の授業内容について、シラバスに準じて教科書の内容を読んでおくこと。
関連科目	「デザイン概論」「色彩理論演習」
課題に対するフィードバックの方法	演習課題のフィードバックは次回以降の講義時間内で行う。
科目ナンバリング	CRA-BA106L

講義名	日本美術史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 水萌	KYOB I 工芸学部

到達目標	日本美術史の流れを理解し、基礎的な知識を得ることを目標とする。
授業概要	日本の各時代における代表的な作品を取り上げ、古代からの日本美術の流れについて概観する。作品の様式・技法・成立背景、また文化的社会的側面などを紹介し、授業内での映写等を通して作品の鑑賞を行い理解を深めていく。 本科目は工芸学部のディプロマポリシーの1に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス 第2回 日本美術史のはじまり 第3回 奈良時代の美術① 第4回 奈良時代の美術② 第5回 平安時代の美術① 第6回 平安時代の美術② 第7回 平安時代の美術③ 第8回 鎌倉時代の美術① 第9回 鎌倉時代の美術② 第10回 鎌倉時代の美術③ 第11回 室町時代の美術① 第12回 室町時代の美術② 第13回 江戸時代の美術① 第14回 江戸時代の美術② 第15回 総括
成績評価	期末レポート(70%)、小レポート等(30%)
教科書	特になし
参考書 参考資料	山下裕二、高岸輝監修『美術出版ライブラリー歴史編 日本美術史』美術出版、2014年 古田亮編著『教養の日本美術史』ミネルヴァ書房、2019年 ほか講義中に指示する
予習・復習指導	〈予習復習等に必要な時間〉 1コマに対し、1時間の事前学習及び1時間の復習をすること (具体的な内容) 配布資料に事前に目を通し、専門用語について読みや意味を調べておくこと。講義内容の復習の際、疑問点についても調べる
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックは次回以降の講義内で行う
教員の実務経験	専門分野における実務の経験を有し、概ね3年以上の実務の経験を有している
科目ナンバリング	CRA-BA 1 07 L

講義名	素描		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 津村 健一	KYOB I 工芸学部
教授	渡邊 俊博	KYOB I 工芸学部
助教	加納 奈都	KYOB I 工芸学部

到達目標	創造活動のプロセスにおいて不可欠である透視図法を習得する。また基本となる単純な構造やプロポーションを正確に把握する能力を養い、より複雑な形態へも対応出来る様、応用力をつける。
授業概要	物づくりにおいて、自身のエスキースや他者との視覚的コミュニケーションを正確かつ効率的に進める為には透視図法の習得が不可欠である。本科目では対象物の構造を2次元に落とし込む作業を行う演習により、2点透視図法を習得する。また、プロポーションの把握や空間・量感の表現にも重点を置き、全体という秩序の中で部分を計画出来るバランス感覚を要請する。 美術工芸学科のディプロマポリシー1に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 準備課題 : 矩形と球体を用いた透視図法の説明 第2回 フォルムと構造 : 1辺11cmの立方体を2点透視図法で描く 第3回 プロポーション : プロポーションの基本「1:1」を様々な角度から描く 第4回 プロポーション応用 : 基本プロポーション「1:1」からの展開 第5回 フォルムと構造応用 : 与えられたモチーフの構造を2点透視図法で捉える 第6回 固有色・量感・材質感 : モチーフの量感・色・材質感を表現する 第7回 円について : 正方形の中に円を、円の中に正方形を描く 第8回 円柱1 : 直立した円柱を描く 第9回 円柱2 : 横倒しの円柱を描く 第10回 円柱応用 : 円柱を基本構造にもつモチーフの構造・おプロポーションを捉える。 第11回 円柱応用 : 円柱応用1で捉えた形態に固有色・量感・材質感を加える 第12回 複合形態1 : 基本形態が組み合わさった複合形態の構造・プロポーションを捉える 第13回 複合形態2 : 複合形態1で捉えた構造に固有色・量感・材質感を加える 第14回 想定描写 : 文章によって指示された形態や色、材質などを視覚化する 第15回 合評会 : 2点透視図法のまとめと補足
成績評価	受講態度40%、課題制作の完成度60%により評価する。
教科書	なし
参考書 参考資料	適宜資料を配布する。
履修上の注意	素描経験者も1から学ぶ姿勢で臨むこと。
予習・復習指導	透視図法などの遠近法を理解するため、課題モチーフと同じ形態のモチーフを用いて反復練習すること。 講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。
関連科目	構成基礎演習、立体造形
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CRA-BA108S

講義名	デザイン概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 安藤 真吾	KYOB I 工芸学部

到達目標	・ 広義のデザイン概念を理解する。 ・ 近代デザインの歴史と作品を認識する。 ・ 現代のデザイナーやその活動を知る。 ・ これからの社会とデザインの関わりを考える。
授業概要	デザインの本来の意味や語源、領域等にわたって述べると共に、産業革命以後の近代デザイン史を概説する。また、デザインがいかに社会の動きと連動してきたか事例を挙げて解説すると共に、デザインの価値についても論じる。さらには、現代社会におけるデザインの役割と課題についても言及し、ヨーロッパにおけるデザインムーブメントや、わが国におけるデザイン啓蒙活動の紹介を通して理解を深める。 工芸学部のディプロマポリシー 1、2 に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション、イントロダクション 第2回 近代デザインの歴史①：アーツ・アンド・クラフツ運動から 第3回 近代デザインの歴史②：バウハウスの与えた影響 第4回 アメリカの工業デザインの黎明期：「レイモンドローウィー」 第5回 日本におけるグッドデザイン賞の位置づけ 第6回 日本の著名なプロダクトデザイナー 第7回 デザイナー研究「佐藤オオキ」(VIDEO) 第8回 世界のデザイン動向①：ミラノサローネを中心に 第9回 世界のデザイン動向②：パリデザインウィークとルーブル・ランス 第10回 欧米のデザイン動向③：フィンランドのデザイン 第11回 北欧（デンマーク）家具の歴史とデザイン 第12回 スペシャルレクチャー「ポートフォリオの作り方」 第13回 グラフィックデザインについて 第14回 ユニバーサルデザインについて 第15回 ECOデザイン+BOPデザインについて
成績評価	評価ポイント：受講態度（20%）、毎回のレポート（80%）によって評価する。
教科書	毎回レジュメを配布する。
参考書 参考資料	「カラー版世界デザイン史」美術出版社
履修上の注意	毎回講義内容に関する小レポートを提出していただき、理解度を確認する。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 配布資料や講義内容から、デザイナーやデザイン分野、専門用語について復習し、関連事項についても調べるなど理解を深めておくこと。
関連科目	「色彩学」
課題に対するフィードバックの方法	授業開始前に、前回の小レポートの総評ならびに質問に対する回答等を行う。
科目ナンバリング	CRA-BA109L

講義名	社寺建築概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井上 年和	KYOB I 工芸学部

到達目標	建築史研究、歴史的建造物の調査研究、設計・施工に必要な基本的な知識を習得する。
授業概要	社寺建築について、変遷過程や形態、特徴を史料、遺構等に基づき解説する。 また、歴史的建造物の保存修復について、その理念や具体的な手法について論ずる。 建築学科のディプロマポリシーの1、2に係る。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 建築史学の発展 第2回 神社建築(1) 古代の社殿形式 第3回 神社建築(2) 神社本殿の形式と社殿配置 第4回 寺院建築(1) 寺院の登場と奈良時代の仏教建築 第5回 寺院建築(2) 平安時代の仏教建築－密教、浄土教－ 第6回 寺院建築(3) 中世の仏教建築－大仏様、禅宗様、折衷様、中世仏堂－ 第7回 寺院建築(4) 近世の仏教建築およびその他の宗教関連施設 第8回 生産体制と雛形本 第9回 社寺建築の構造形式 第10回 社寺建築の細部意匠 第11回 近代における西洋技術の導入 第12回 近代建築 第13回 近代化遺産 第14回 文化財建造物の分類と修理技術 第15回 歴史的建造物の保存と活用
成績評価	レポートおよび定期試験結果により評価を行う。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書 参考資料	日本建築学会『日本建築史図集』彰国社、太田博太郎『日本建築史序説』彰国社、近藤豊『古建築の細部意匠』大河出版、後藤治『日本建築史』共立出版
履修上の注意	配布プリント、講義ノートを毎回持参する。
予習・復習指導	一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	伝統住居概論、伝統構造学
課題に対するフィードバックの方法	期末試験を実施し、試験後に解答を公開する。
教員の実務経験	文化財建造物修復、歴史的建造物の設計監理
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-BA 2 10 L

講義名	西洋美術史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

到達目標	1. 作品の「記述」を通して、美術作品を「見る」力を身につける。 2. 西洋美術史の基本的な流れを理解し、現代にもつながる美術と社会の関わりについて考える。
授業概要	西洋における古代から20世紀までの美術（主に絵画、建築、彫刻）の歴史を、各時代の主要な作品を取り上げながら概観する。毎回の授業で作品の詳細な記述・分析に取り組み、それぞれの時代や地域における様式的特徴を学ぶ。芸術作品における表現の是非について取りざたされる昨今、これまで人々が時代や社会背景をふまえてどのように視覚的な表現を試みてきたのか。この授業を通して考えるきっかけを作してほしい。 本科目は工芸学部ディプロマポリシーの1に該当する。
授業計画 授業内容	1 ガイタンスとイントロダクション：「美術史」とは何か？ 2 古代ギリシャ・ローマ：人体表現の模索と規範 3 中世：キリスト教中心の世界と美術 4 初期ルネサンス：古代の復興と革新 5 ルネサンス2：「巨匠」の時代 6 イタリア・バロック：対抗宗教改革と絶対王政 7 17世紀オランダとスペイン：市民階級の台頭と風俗画 8 新古典主義：美術の規範とアカデミー 9 ロマン主義：古典主義へのオルタナティブ 10 レアリスム：ロマン主義の反動と現実へのまなざし 11 印象派：モダン・アートの誕生 12 ポスト印象派：20世紀美術への橋渡し 13 キュビズムとダダ：芸術の実験と破壊 14 美術史と女性、フェミニズム 15 20世紀の美術：表現の多様化
成績評価	期末試験（50％）、小レポート（30％）、授業への参加度（20％）
教科書	特になし。
参考書 参考資料	池上英洋『西洋美術史入門』筑摩書房、2012年 『西洋美術館』小学館、1999年 その他、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	特になし。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習を取ること。 各自、参考資料やオンラインの画像検索を活用して、授業中に取り上げた作品を再度鑑賞・分析することで、さらなる作品理解に努めること。また、美術館や展覧会にできるだけ足を運び、実際の作品をじっくり鑑賞する機会を積極的ににつくってほしい。
関連科目	日本美術史、東洋美術史
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを次回以降の講義の冒頭で行う。
教員の実務経験	なし
教員の实務経験有無	無
科目ナンバリング	CRA-BA 2 11 L

講義名	東洋美術史		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 浅湊 毅	KYOB I 工芸学部

到達目標	広い東洋世界の中で、仏教を信仰し（あるいはかつて信仰していた）地域、範囲を理解し、それぞれの地域でうみだされた作品が、同様の主題のもとに製作されているながらもいかに異なるかを理解するとともに、日本文化の基層をなす仏教美術への理解を深めることを目標とする。せっかく仏教美術の聖地京都で学んでいるのだから、仏教美術のエキスパートを目指そうではないか。
授業概要	「東洋」という言葉が指し示す範囲は広く、また場合に応じてその範囲も変化する。本講は広い東洋世界の中で作り続けられてきた美術作品の中でも、とくに日本と関係の深い「仏教美術」を中心に学ぶ。地理的にはインドから東南アジア、中国、朝鮮を経て日本へ、時間的には古代から現代にいたるまでの仏教美術の特色を、実際の作例映像などを通じてみていく。きらめく仏教美術の世界を、本講を通じてともに旅しよう。本科目は工芸学部ディプロマポリシーの1に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス 東洋世界と仏教美術の基礎知識 第2回 日本の仏教美術 1 飛鳥時代 1 法隆寺を中心に 第3回 日本の仏教美術 2 飛鳥時代 2 白鳳文化とは 第4回 日本の仏教美術 3 奈良時代 1 東大寺・興福寺を中心に 第5回 日本の仏教美術 4 奈良時代 2 唐招提寺と鑑真 第6回 日本の仏教美術 5 平安時代 1 最澄・空海と密教の美術 第7回 日本の仏教美術 6 平安時代 2 仏師定朝の時代 第8回 日本の仏教美術 7 鎌倉時代 1 運慶の登場 第9回 日本の仏教美術 8 鎌倉時代 2 鎌倉と禅宗の美術 第10回 日本の仏教美術 9 南北朝から近・現代まで 第11回 見学 京都国立博物館の展示（時期未定） 第12回 朝鮮（韓国）の仏教美術 朝鮮三国時代から統一新羅時代 第13回 中国の仏教美術 中国南北朝時代から唐時代 第14回 東南アジアの仏教美術 ベトナム・カンボジア・タイ・ミャンマー 第15回 南アジアの仏教美術 インド・パキスタン・スリランカ
成績評価	受講態度70% 期末テスト30%
教科書	とくになし
参考書 参考資料	小学館『日本美術全集』『世界美術全集 東洋編』等の美術書 このほか書店に数多くある「仏像入門」に類する本に目を通しておくこと
予習・復習指導	適宜、京都国立博物館や寺社などを訪れ、実際の作例をしっかりとみておくこと 事前に配る資料を確認しておくこと 一講義（1コマ）に対して1時間の予習と1時間の復習をすること。
課題に対するフィードバックの方法	レポートは採点し、コメントを付して返却する
科目ナンバリング	CRA-BA 3 12 L

講義名	伝統絵画技法Ⅰ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 長谷川 雅也	KYOB I 工芸学部

到達目標	・ 花卉、蔬菜を写生し基礎的画材を用いて描写できる。 ・ 古典の描線、彩色の意識を理解する。
授業概要	日本の絵画は、古くは中国および朝鮮半島の影響を強く受けながら独自の発展を遂げてきた。明治時代以降「日本画」というカテゴリーの中で制作されるようになってからも西洋の絵画理論とは異なる「写意・写生」の意識や伝統的絵画技術を保ち続けている。本科目では、「写生」の伝統に学ぶため、花卉、蔬菜を写生し基礎的画材を用いて描写する。併せて、日本の古典作品の模写により古典の描線、彩色の意識について学ぶ。本科目は工芸学部ディプロマポリシーの1に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 画材・技法・進行手順の説明、受講時の留意点等 第2回 古典作品の模写による描法① (運筆) 第3回 古典作品の模写による描法② (運筆) 第4回 作品の模写による描法③ (彩色) 第5回 作品の模写による描法④ (彩色) 第6回 作品の模写による描法⑤ (彩色) 第7回 植物の制作① 第8回 植物の制作② 第9回 植物の制作③ 第10回 植物の制作④ 第11回 植物の制作⑤ 第12回 植物の制作⑥ 第13回 植物の制作⑦ 第14回 植物の制作⑧ (彩色・描き込み) 第15回 植物の制作⑨ (彩色・描き込み・仕上げ)
成績評価	出席、遅刻、課題制作の完成度によって評価する。
教科書	必要に応じて適時資料を提示する。
参考書 参考資料	模写手本 (コピー手本)
予習・復習指導	授業の進行より遅れが生じた場合は、自主的に翌週までに課題制作を進めておくこと。欠席時も同様。課題制作物の提出を厳守する。
科目ナンバリング	CRA-BA 2 13 S

講義名	建築計画 I		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 人見 将敏	KYOB I 工芸学部
特任教授	種村 俊昭	KYOB I 工芸学部

到達目標	建築を具体的な形にしていく計画・設計手法とそのため必要となる基礎的知識を学び、その知識が応用できることが必要最低限の目標である。 風土や建築環境を調査結果から読み取り、人々の生活・行動・意識とのかかわりを考慮しながらコンセプトを立案し、小規模な建物の機能図を描き、プランのスケッチができるようになるための知識を習得することが到達目標とする。
授業概要	建築に携わる者にとって基礎的で必須の教科。建築そのものを理解するための基礎知識や建築計画・設計に要求される知識・技術、計画・設計手法を体系的に学習する。 前半において計画の基礎となる人間の知覚と行動、建築空間の性能、形態、後半において設計の基礎となる建築の計画手法、空間構成の技法、外部空間の構成手法、計画の表現技法などを学習する。建築設計実習・演習と関連した授業計画としている。建築学科のディプロマポリシーの1.2.3.4に係る。
授業計画 授業内容	全15 回 第 1回 ガイダンス、建築計画の目的、意義など 第 2回 人間の知覚と行動 1：（形態知覚の特性、心理環境と形態） 第 3回 人間の知覚と行動 2：（人間の行動と形態） 第 4回 寸法と規模の計画 1：（寸法の計画） 第 5回 寸法と規模の計画 2：（単位空間の寸法） 第 6回 空間の性能 1：（空間の機能、安全性） 第 7回 空間の性能 2：（耐久性、経済性、省エネルギー） 第 8回 空間の形態：（地理的環境と形態、機能と形態） 第 9回 計画の技法 1：（設計プロセス） 第10回 計画の技法 2：（空間構成の要素） 第11回 空間構成の技法 第12回 造形技法 第13回 外部空間の構成と配置計画 1：（外部空間のスケール、歩行空間の形態） 第14回 外部空間の構成と配置計画 2：（外部空間の構成、建物の配置形態） 第15回 表現技法 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	「小レポート（小テスト）＋期末試験（期末レポート）」により成績評価を行う。 授業態度（出席も含め30%）も考慮し、最終成績とする。
教科書	「現代建築学 新訂 建築計画Ⅰ」 岡田光正著他 鹿島出版会
参考書 参考資料	第3版「コンパクト建築設計資料集成」 日本建築学会 丸善株式会社
履修上の注意	基礎教養として社会学、心理学などの基礎を理解し、社会の仕組みを（ある程度）理解していること、建築に関わる現代的問題・課題をニュース、新聞等から日々情報を得て、自らの課題として認識していることも重要である。（「認識力」） また、人間の行動実態や、豊かな生活環境のあり方などに興味をもち、いろいろな場面、機会などを捉え、豊かな生活環境などのあり方、情景などについて日々発見する心掛けが重要である。（「観察力」）
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	「工芸実習基礎Ⅰ、Ⅱ」、「建築デザイン演習Ⅰ、Ⅱ」、「建築計画Ⅱ、Ⅲ」
課題に対するフィードバックの方法	中間レポートは講義中に結果報告を行い、期末試験は掲示等で結果報告する。
教員の実務経験	32年間の各種建築計画・設計実務経験を有する。11年間の大学専任教員の実務経験を有する。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	CRA-BA 1 14 L

講義名	建築構造力学Ⅰ（再）		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 戸高 太郎	KYOB I 工芸学部
助教	新谷 謙一郎	KYOB I 工芸学部

到達目標	力学理論の基礎を学び、将来実務者として適切な判断を行う素養を身に付ける。
授業概要	静定梁、静定ラーメンに生じる力の算出方法、応力度の算定方法を身に付け、建築構造設計に必要な構造力学の基礎を習得することを目的とする。 建築学科のディプロマポリシー 1 に係る
授業計画 授業内容	全15回 第 1 回 オリエンテーション／力の基礎（1） 力の分解 第 2 回 力の基礎（2）モーメントの計算 第 3 回 力の釣合い 第 4 回 構造物に生じる外力／荷重・支点反力／反力計算（1） 第 5 回 反力計算（2） 第 6 回 反力計算（3） 第 7 回 反力計算（4） 第 8 回 部材断面に生じる力／応力計算（1） 第 9 回 応力計算（2） 第 10 回 応力計算（3） 第 11 回 応力計算（4）／3 ヒンジラーメンの反力計算 第 12 回 応力図を描く（1） 第 13 回 応力図を描く（2） 第 14 回 応力図を描く（3） 第 15 回 応力図を描く（4） ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	定期試験の結果（40%） 演習課題提出状況・内容（60%）
教科書	初学者の建築講座「建築構造力学（第三版）」 市ヶ谷出版社
参考書 参考資料	演習問題等の資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する演習課題を毎回行う。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の復習をすること。 （授業ノートの整理、前回演習課題の復習等）
関連科目	「建築構造力学Ⅱ」 「建築構造力学Ⅲ」
課題に対するフィードバックの方法	演習課題のフィードバックを次の講義内で行う。
科目ナンバリング	CRA-BA 1 15 L

講義名	文化財概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 中谷 武雄	KYOB I 工芸学部

到達目標	文化財に対する経済的な視点と考え方の変化・発展を理解し、保護から活用へ、観光資源化への流れのなかで、とくに生活や地域における文化財の役割について、文化的、政治的、社会的、経済的な内容を理解する。
授業概要	文化経済学の立場から、文化財を媒介に文化と経済の関係を講義するとともに、文化財保護法の内容と改正の歴史を手がかりに、文化財に関連した社会的・政治的・経済的な保存、保護、活用の仕組みを学習して、その背景にある文化・文化財に関する考え方（意義・意味・役割）の変化、発展を、情報通信・科学技術の発達とも関連づけて解説する。工芸学部ディプロマシー1、2に該当する。
授業計画 授業内容	1 社会と文化と文化財 （文化財保護法改正） 2 文化財と文化的財 （文化経済学：経済と文化） 3 文化財保護の歴史 （文化の商品化・産業化・民主化） 4 知的財産（権） （著作権の経済学） 5 文化財保護法 （改正の歴史と文化（財）の拡張） 6 有形文化財と無形文化財 （文化財の体系・種類） 7 民俗文化財と記念物 中間試験予定 8 伝統的建造物群（文化遺産を活かした地域活性化） 9 重要文化的景観 （景観法） 10 登録文化財 （文化遺産の経済学） 11 世界遺産 （古都京都の文化財） 12 ユネスコの文化政策 （文化遺産と文化多様性） 13 日本遺産 （文化財の観光資源化） 14 文化によるまちづくり （文化交流文化観光推進法） 15 まちづくりと地域おこし （文化資本の循環・形成・蓄積・発展）
成績評価	期末レポート：30% 中間テスト：20% ‘毎回の’提出物：50%
教科書	文化庁：未来に伝えよう文化財 文化庁：文化財の保護とまちづくり ほか
参考書 参考資料	岩城卓二・高木博史編『博物館と文化財の危機』人文書院、2020年、194頁、300＋税 ほか
履修上の注意	文化・文化財と社会の関係を重視して、政治・経済の動きにも目を配ること。
予習・復習指導	1コマに対し1.5時間の事前学習および1.5時間の復習をするとともに、適宜フィールドワークに従事すること。 （具体的な内容） 「私のふるさと（地域社会）の文化財」（仮）というテーマの期末レポート作成（1000字程度）のため、関連文献や資料に目を通すとともに、日頃からまちあるきに親しみ、現場／現物を観察／鑑賞しておくこと。
関連科目	工芸と経済 世界文化遺産論 地域社会論
課題に対するフィードバックの方法	提出物に対する事前相談と、コメントを加えて、最終提出とする。
教員の実務経験	なし
教員の実務経験有無	なし
科目ナンバリング	CRA-BA 1 16L

6. 専門教育科目 – 美術工芸科目・基幹科目

講義名	色彩理論演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 安藤 真吾	KYOB I 工芸学部
教授	渡邊 俊博	KYOB I 工芸学部
助教	加納 奈都	KYOB I 工芸学部

到達目標	・色彩の基本構造を理解する。 ・色彩理論を習得する。 ・色彩表現の可能性と効果を理解する。
授業概要	色彩は非常に人の記憶に刻まれやすい性質をもっており、創造活動において非常に重要なエレメントである。本科目では、色彩の基本構造を理解するための基礎課題の制作を行った後、課題を行うことで色彩理論によって客観的に捉え得るという事を感じ得る。課題ではテーマや条件を指定された中で、その目的に応じた色彩構成を行うものとし、色彩の理論が現実に応用されている事を確認する。 美術工芸学科のディプロマポリシー 1 に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション、配色計画：色彩とイメージ① 第2回 配色計画：色彩とイメージ ② 第3回 配色計画：色彩とイメージ ③講評 第4回 絵画と配色：カラーストラクチャー（構成と配色）① 第5回 絵画と配色：カラーストラクチャー（構成と配色）② 第6回 絵画と配色：カラーストラクチャー（構成と配色）③講評 第7回 配色の実践1：ゆかたデザインと色彩 ① 第8回 配色の実践1：ゆかたデザインと色彩 ② 第9回 配色の実践1：ゆかたデザインと色彩 ③ 第10回 配色の実践1：ゆかたデザインと色彩 ④講評 第11回 配色の実践2：ロゴマークデザインと色彩 ① 第12回 配色の実践2：ロゴマークデザインと色彩 ② 第13回 配色の実践2：ロゴマークデザインと色彩 ③ 第14回 配色の実践2：ロゴマークデザインと色彩 ④ 第15回 配色の実践2：ロゴマークデザインと色彩 ⑤講評・総括
成績評価	受講態度(20%)、成果物(80%)によって評価する。
教科書	必要に応じて、資料を配布する。
参考書 参考資料	『カラーコーディネーター入門 色彩』（日本色研事業）
履修上の注意	主にコンピュータによる課題制作を行う。 提出期限を厳守すること。
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 （具体的な内容） 課題の試作や制作を行うこと。また課題ごとに試作したものを整理、まとめておくこと。
関連科目	「色彩学」、「コンピュータデザイン演習」
課題に対するフィードバックの方法	課題毎に講評を行い作品へのコメントを行う。
科目ナンバリング	CRA-MA 2 01 S

講義名	伝統住居論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 江本 弘	KYOB I 工芸学部

到達目標	① 現代までに至る、建築・都市の近代化過程についての大枠・流れを理解すること。 ② ①の理解に際し、建築家・建築作品のみに着目せず、その背景（地理・社会・文化など）をふまえて考察できるようになること。
授業概要	この授業は現在の建築環境に関わる、建築・都市の近代化過程についての講義を行う。わたしたちの暮らしのまわりや雑誌媒体では、日々さまざまな建築が生まれ、わたしたちの目に触れている。本科目は、そうした身近な現代建築がつくられる世界的状況を俯瞰的に理解するために、現代から逆行するかたちで近現代建築史を語りおこす。 本科目は工芸学部ディプロマポリシーの1, 3に該当する。
授業計画 授業内容	全15コマ 1. ガイダンス 2. 近現代建築史を読み解く視点：教科書の構成から 3. 21世紀の建築へ 4. ポスト・モダニズム（1）：1980年代～ 5. ポスト・モダニズム（2）：1960年代末～ 6. 戦後建築史（1）：1960年代 7. 戦後建築史（2）：終戦～1950年代 8. モダニズム（1）：1930年代 9. モダニズム（2）：1930年代の日本 10. モダニズム（3）：1920年代 11. モダニズム（4）：1920年代の日本 12. 建築の世紀初頭 13. 建築の世紀末 14. 日本の状況：明治維新以降 15. 19世紀の建築理論へ ※なお、学習への理解・到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	毎回配布する小レポート（30%）と期末レポート（70%）により総合的に評価する。レポートの課題内容については追って知らせる。
教科書	本田昌昭、末包伸吾『テキスト建築の20世紀』
参考書 参考資料	日笠直彦『日本近現代建築の歴史 明治維新から現代まで』 江本弘『歴史の建設——アメリカ近代建築論壇とラスキン受容』
履修上の注意	講義では、西洋・日本近代の大まかな流れにポイントを絞って解説する。そのため、建築家・建築作品等の詳細な内容については、教科書や参考書、その他の書籍から情報を自発的に得ること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 （具体的な内容） 予習： 次回授業の該当年代にあたる建築物等について教科書で確認する。 復習： 講義内容の整理。関連文献（別途指示）の参照。
関連科目	「伝統住居概論」「伝統空間論」「伝統建築論Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	授業レポートのフィードバックを次回以降の講義内で行う予定。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-MA 2 02 L

講義名	デザイン作図演習 (Aクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 渡邊 俊博	KYOB I 工芸学部
特任教授	八木 光也	KYOB I 工芸学部

到達目標	・図法の役割を体系立てて理論的にとらえる。 ・図面を読む力、空間を図面で示す力を学ぶ。 ・製図表現力を身につける。
授業概要	デザインに不可欠な伝達法は図面を作成し提示することにある。CAD の時代といえども手描きを基本とした基礎的な作図能力を備えてこそデザイナーとしての資質となる。そこで、特に正投影図法、等測投影図法に力点を置くと共に、透視図法によるパース（完成予想図）の要領を習得する。 あわせて、2級インテリア設計士の資格取得講座（実技）を併設（希望者のみ）する。 工芸学部のディプロマポリシー1に該当する。 * 資格試験を目的としない学生については、授業内容に即しながらも画力を向上させることに比重をおいた授業を行う。第1回オリエンテーション時に選択する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 第2回 正投影図の演習 / 第三角法の理解 (1) 第3回 正投影図の演習 / 第三角法の理解 (2) 第4回 等測投影図法の演習 / アイソメ図の理解 (1) 第5回 等測投影図法の演習 / アイソメ図の理解 (2) 第6回 アクソメトリック図の演習 (1) 第7回 アクソメトリック図の演習 (2) 第8回 一点透視図法の演習 (1) 第9回 一点透視図法の演習 (2) 第10回 二点透視図法の演習 (1) 第11回 二点透視図法の演習 (2) 第12回 二点透視図法による室内空間の表現 第13回 応用演習 / 家具の作図表現 (1) 第14回 応用演習 / 家具の作図表現 (2) 第15回 合評会、総括 2 級インテリア設計士 資格取得講座(実技) 【企画・計画】 空間デザインの計画 コンセプト 仕様書の作成 【表現技術】 室内設計図の作成 平面図・天井伏図・展開図・透視図・家具図・スケッチ等
成績評価	受講態度40%、演習課題の作図精度60%によって評価する。
教科書	毎回資料を配布する。 （2級インテリア設計士受験テキスト：受験希望者のみ）
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介する。 スケッチパース インテリア編 宮後浩 山本勇気 秀和システム
履修上の注意	製図用具を毎回持参すること。演習課題は授業時間内で完成させること。
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3 時間の予習復習をすること。 2級インテリア設計士の資格取得希望者は別途学科試験講座も受講すること。
関連科目	IT 活用応用演習
課題に対するフィードバックの方法	授業内で適宜課題の評価や解説を行う。
科目ナンバリング	CRA-MA203S

講義名	デザイン作図演習 (Bクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森重 幸子	KYOB I 工芸学部
准教授	河村 大助	KYOB I 工芸学部
講師	根来 宏典	KYOB I 工芸学部
助教	江本 弘	KYOB I 工芸学部
特任教授	小椋 吉隆	KYOB I 工芸学部
特任講師	杏 義啓	KYOB I 工芸学部

到達目標	もののづくりの原点は、創造的アイデア・デザインの構築である。一方で、そのアイデアを他者へ伝え理解してもらわなければいかに素晴らしいアイデアでも実現しない。この授業では自己のアイデアを構築する練習だけでなく他者への伝達ツールの獲得を目指す。
授業概要	- 透視図法の基礎的原理を学習し、3次元の空間を2次元の平面上に表現する手法を理解する。 - 線による描画手法の演習を通して、建築物の外観・内観や、人物、樹木などをスケッチとして描く手法を身につける。 - 建築物を対象とし、プロポジション、ディテール、素材などについて観察して読み取る目を養う。 建築学科のディプロマポリシーの2、4に該当する。
授業計画 授業内容	全15 回／1回2コマ 第1 回：オリエンテーション、線の練習、線による描写演習導入 第2 回：透視図法の基礎（1）：一点透視図法、スケッチパース演習 第3 回：透視図法の基礎（2）：二点透視図法、スケッチパース演習 第4 回：表現手法演習（1）：線による描写演習、外観スケッチ 第5 回：表現手法演習（2）：線による描写演習、外観スケッチ、点景 第6 回：表現手法演習（3）：線による描写演習、内観スケッチ、点景 第7 回：表現手法演習（4）：線による描写演習、パース書き起こし1 第8 回：表現手法演習（5）：線による描写演習、パース書き起こし2 第9 回：空間表現演習（1）：外観スケッチ、プロポジション 第10 回：空間表現演習（2）：ディテールスケッチ、構成 第11 回：空間表現演習（3）：街並みスケッチ 第12 回：空間表現演習（4）：インテリアスケッチ、家具 第13 回：プレゼンテーション（1）：ポートフォリオ作成 第14 回：プレゼンテーション（2）：ポートフォリオ作成 第15 回：プレゼンテーション（3）：総括、作品発表
成績評価	受講態度（30%）、演習作品の完成度等（70%）によって評価する。
教科書	フランシスD.K. チン『建築ドローイングの技法』彰国社
参考書 参考資料	毎回配布する資料を参考にすること。
履修上の注意	鉛筆（2B）、消しゴム、カッター、および初回に配布するスケッチブックを毎回持参すること。
予習・復習指導	1回の演習（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 任意の建築物や、関連科目において自らが設計した作品などを対象として、各自でスケッチの練習を行うこと。 教科書の第1章を読んでおくこと。また、第2章「線ードローイングの本質」を読み、鉛筆で線の練習をしておくこと。授業後には、各回授業の内容に関連する教科書ページについて読んでおくこと。
関連科目	工芸実習基礎Ⅰ・Ⅱ、建築デザイン演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
課題に対するフィードバックの方法	各回ごとにその日書いたスケッチを見ながら講評を行う。最終回には、作成したポートフォリオに対して全体での講評を行う。
科目ナンバリング	CRA-MA 2 03 S

講義名	デザインと法規		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 松井 宏記	KYOB I 工芸学部

到達目標	社会において、デザイン関係の活動をする上で、1どんな問題が起こり得るか、2問題が起きたらどう到達目標 のように専門家に相談したら良いのか、3問題はどのような流れで解決されるか、について大まかに知って欲しい。(自分で解決できるようになる必要はありません。)
授業概要	近年、デザインの創作や利用にあたって、法律面でのケアが重要となっている。他人のデザインを加工する場合、作品を事業に用いる場合など、場面ごとにケアする内容も異なる。本講義では、デザインが直接問題となる法律(意匠法、商標法、著作権法、不正競争防止法)を扱う。制度の基礎から、各制度での効果的な権利取得方法などを事例を交えて解説する。 本科目は工芸学部ディプロマシーの1に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション:デザインと知的財産の関係について 第2回 意匠法1:意匠法の基本的内容について 第3回 意匠法2:意匠法の具体的内容について 第4回 意匠法3:意匠法の活用方法について 第5回 意匠法4:意匠法の権利行使、意匠調査のやり方等について 第6回 商標法1:商標法の基本的内容について 第7回 商標法2:商標法の具体的内容について 第8回 商標法3:商標法の活用方法について 第9回 商標法4:商標権に関する事件の紹介 第10回 意匠法・商標法まとめ 第11回 著作権法1:著作権法で守られる権利について 第12回 著作権法2:著作権侵害について 第13回 著作権法3:著作権の利用について 第14回 不正競争防止法:不正競争防止法の内容について 第15回 まとめ
成績評価	試験および出席回数にて評価を行う
教科書	なし。
参考書 参考資料	講師作成のテキストを毎回の授業で配布(ダウンロード)
予習・復習指導	一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。 (具体的な内容) 法律の基本的な内容を理解し、法律と自分との関わりを考え、さらに、日々生活やデザインをする場で自分はどのようにすべきかを考えること。
課題に対するフィードバックの方法	小レポートや質問のフィードバックを講義の中で行う。
教員の業務経験	弁理士登録23年
科目ナンバリング	CRA-MA 2 04 L

講義名	伝統絵画技法Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 長谷川 雅也	KYOB I 工芸学部

到達目標	・より高度な伝統絵画技法を身につける。 ・基底材とその性質について理解する。
授業概要	「伝統絵画技法Ⅰ」で修得した描写力をもとに、実技を行い鉄線描、たらし込み、溜め塗り等の伝統的絵画技法が現代においてもリアルな感覚を持つことについて理解を深める。 本科目は工芸学部ディプロマポリシーの1に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 第2回 野菜の制作① 写生（鉛筆・色鉛筆・顔彩による） 第3回 野菜の制作② 写生（鉛筆・色鉛筆・顔彩による） 第4回 野菜の制作③ 本紙（パネル、薄美濃紙）準備、構成検討 第5回 野菜の制作④ 背景、マチュール作り、背景作り、モチーフ描き入れ 第6回 野菜の制作⑤ 背景、モチーフの彩色、背景彩色 第7回 野菜の制作⑥ 彩色 第8回 野菜の制作⑦ 彩色 第9回 野菜の制作⑧ 彩色 第10回 野菜の制作⑨ 彩色 第11回 植物の制作⑩ 彩色、仕上げ 第12回 異素材を使つての制作① 第13回 異素材を使つての制作② 第14回 異素材を使つての制作③ 第15回 異素材を使つての制作④
成績評価	出席、遅刻、課題制作の完成度によって評価する。
教科書	必要に応じて適時資料を配布する。
予習・復習指導	授業の進行より遅れが生じた場合は、自主的に翌週までに課題制作を進めておくこと。欠席時も同様。課題制作物の提出を厳守する。 展覧会等実際の作品を鑑賞し絵肌・筆跡等を観察しておく。
科目ナンバリング	CRA-MA 2 06 S

講義名	社寺建築論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	4		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 大上 直樹	KYOB I 工芸学部

到達目標	社寺建築を単に様式で捉えるのではなく、決定された寸法の根拠や意味まで深く考察できる知識と思考法を体得する。
授業概要	「社寺建築概論」で得た様式上の基礎知識のうえに、社寺建築の各部構造がどのような設計原理と様式によって決定がなされてきたかについて論じ、社寺建築の本質にせまろうとする。 建築学科のディプロマポリシーの1、2に係る。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 授業ガイダンス 社寺建築を理解するための基礎知識 第2回 基礎廻りの構造と様式的変遷 第3回 軸部の構造と様式的変遷 第4回 組物の構造と様式的変遷 その1 古代・中世の組物 第5回 組物の構造と様式的変遷 その2 近世の組物と中備 第6回 軒の構造と様式的変遷 その1 古代・中世の軒 第7回 軒の構造と様式的変遷 その2 近世・近代の軒 第8回 軒の構造と様式的変遷 その3 扇垂木 第9回 小屋組みの構造と様式的変遷 第10回 屋根葺きの構造と様式的変遷 第11回 天井の構造と様式的変遷 第12回 建具の構造と様式的変遷 第13回 細部意匠論 その1 木鼻・虹梁 第14回 細部意匠論 その2 高欄・格狭間・その他 第15回 授業のまとめ
成績評価	レポートで評価をおこなう
教科書	近藤豊『古建築の細部意匠』大河出版
参考書 参考資料	滋賀県、京都府、奈良県、和歌山県、文化財建造物保存技術協会などが刊行した文化財建造物修理工事報告書
履修上の注意	「社寺建築概論」の既習を条件とする
予習・復習指導	日頃から文化財建造物の修理工事報告書に慣れ親しんでほしい。そこから常識ではなく、実物から復元することができる知識、能力を学びたい。また現地に赴き実際の社寺建築を見学する行動力と観察眼を身につけたい。
関連科目	「社寺建築概論」「伝統建築図」
課題に対するフィードバックの方法	提出したレポートに対して講評・質疑応答をおこなう
教員の実務経験	担当教員は文化財建造物修理事業における設計監理に30年以上従事しており、とくに伝統建築のうちでも社寺建築について十分な経験がある。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CAT-MA 4 07 L

講義名	伝統空間論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 工芸学部

到達目標	屋外空間のほとんどが日本固有の風土や文化、社会体制の影響下に形成されていることを理解する。
授業概要	日本における伝統空間＝屋外空間のありようを理解する。特に「内」、「外」の空間概念のとらえ方が西欧とは違っていること、また生活様式に屋外空間が必要不可欠であったこと、身分と空間の関係などを学習する。 工芸学部ディプロマポリシー 1、2 に該当する。
授業計画 授業内容	全15 回 第 1 回 授業ガイダンス（屋外空間の意義、役割） 第 2 回 「内」・「外」の空間概念の誕生 第 3 回 自然環境と生活空間 1 （雨、湿度、日照、風、台風、雪、四季など） 第 4 回 自然環境と生活空間 2 （暮らし、集住など） 第 5 回 戦いがもたらす屋外空間 （集住、防御など） 第 6 回 戦いがもたらす屋外空間 （西欧との比較） 第 7 回 寺社がもたらす屋外空間 1 （浄土、石庭、参道、鎮守の杜 遍拝山など） 第 8 回 寺社がもたらす屋外空間 2 第 9 回 貴族、大名がもたらす屋外空間 1 （枯山水、池泉回遊式庭園、大名庭、茶庭など） 第10回 貴族、大名がもたらす屋外空間 2 第11回 江戸期の都市空間 1 （火除地、橋詰、広小路など） 第12回 江戸期の都市空間 2 第13回 現代都市における空間 1 （街路、広場、公園など） 第14回 現代都市における空間 2 第15回 現代都市空間と社会システム
成績評価	履修態度60%、期末試験40%により評価する。
教科書	配布資料、映像等
参考書 参考資料	「風土」和辻哲郎 「作庭記」田村剛 「日本建築史図録」
履修上の注意	常に自身の生活空間（屋外）とまちを比較する意識を頭に置きながら授業を受ける。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 日頃から現代の道路や公園の形状、広さ、空間の役割などに着目する。 また、それらの昔の姿（街道、庭園）などについても調べ、興味をもつ。 屋内、屋外の両方の空間を我々は生活に合わせて作ってきたことを常に念頭におくことが授業を理解する近道となる。文献等を調べることに加え外出時に体験的学習を行うこと。
関連科目	「建築概論」「伝統住居概論」「社寺建築論」「伝統建築環境学」など
課題に対するフィードバックの方法	期末試験後に試験の解答、解説をweb掲示板に公開する。
科目ナンバリング	CRA-MA308S

講義名	伝統建築環境学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山内 貴博	KYOB I 工芸学部

到達目標	建築空間と外部空間の集積としての地域・都市の成り立ちを知り、そのことから、古代から現代までの都市形成・造営と都市デザインの歴史を振り返りながら、時代と社会が求めてきた伝統建築環境、地域・都市造営・デザインとはどのようなものかを理解して、未来の有り様を創造できることを到達目標とする。
授業概要	単体の住宅や様々な建築はその敷地形状や周辺の状況によって形式・形態や空間形成に強く影響を受けてきた。古代から近世以前までの都市形成・造営と都市デザインの歴史を振り返りながら、その時代と社会が求めてきた都市造営・デザインとはどのようなものかを解説。次に、近世以降、特に産業革命後の市街地形成の概要と課題、近代都市計画の誕生の経緯など近代都市デザインの歩みを通して、都市と建築、ランドスケープデザインの考え方を解説。そして、歴史的環境活用例として歴史的遺産を活用した地域再生や歴史的景観を活かした街づくり例を紹介する。 建築学科のディプロマポリシー 1、3に係る。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 内外 — 内部空間と外部空間のあるべき姿・形、そしてその同型性 第2回 起源 — 人類の起源と都市の起源 第3回 施設 — 都市の基本施設、そして地球環境における多様な住まい 第4回 環境 — 環境負荷の削減と環境品質の向上 第5回 格子 — 自然発生的な都市と格子割の都市 第6回 庭園 — 日本における庭園と建物の関係 第7回 民家 — 民家の環境形成 第8回 緒言 — 空間の2つの原点 第9回 日本 — 日本の都市空間 第10回 前後 — 近代都市と前近代都市の比較と都市形成・計画の視点 第11回 自然 — 北欧のチャペル空間にみる場の構想 第12回 田園 — 田園都市（タビオラ等） 第13回 景観 — 山形県金山町の景観（街並み）づくり 第14回 東西 — アメリカにおけるランドスケープデザインの近代 第15回 南北 — ヨーロッパにおけるランドスケープデザインの近代 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	評価ポイント：授業態度（30%）、期末レポート（70%）。
教科書	適宜プリントを配布。
参考書 参考資料	「都市計画の歴史」 日端康雄 講談社、「日本の都市空間 都市デザイン研究体 彰国社 「建築設計資料集成」[地域・都市Ⅰ～プロジェクト編]及び[地域・都市Ⅱ～データ編] 日本建築学会 編 丸善株 この他にも授業で適宜紹介する。
履修上の注意	基礎教養として経済学、社会学、法学などの基礎を理解し、社会の仕組みを（ある程度）理解していること、現代の問題・課題をニュース、新聞等から日々情報を得て、自らの課題として認識、意識していることが重要である。（「認識力」）また、豊かな生活実現、都市環境のあり方などに興味をもち、いろいろな場面、機会などを捉え、豊かな生活実現と都市・街などのあり方、情景などについて日々発見する心掛けが重要である。（「観察力」＋「構想力」）
予習・復習指導	授業で配布する資料は図版のみなので、そこに授業で知った解説をメモやスケッチしてオリジナルノートを作成すること。また、その中で特に興味を持った事柄について深く調べること。 1コマに対し4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	「建築計画Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」、「伝統住居概論」、「伝統住居論」、「伝統空間論」、「公共デザイン論」他
課題に対するフィードバックの方法	期末試験／期末レポートに関してフィードバックをする場合は、点数だけではなくコメント等を記載して返却する。
科目ナンバリング	CRA-MA309L

講義名	文 献 ・ 絵 画 史 料 概 論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西山 克	K Y O B I 工芸学部

到達目標	絵画を窓と考えてみよう。そこには分厚いカーテンがかかっていて、外の景色は私たちには見えない。どのような手段でこのカーテンを開けることができるのか、それこそが学問の方法である。実際の絵画（そこに关わる範囲で文献も）を使って、昔の社会や思想、文化を読み解く力を身につける。
授業概要	歴史学は、まずは文献（文字史料）の解釈を基礎に成り立っている学問である。しかし非文字史料もまた文献と同様に、さまざまな歴史の情報を私たちに提供してくれる。本講義では、日本中世の絵画を中心にとりあげ、その画面の解釈を通して、それが制作され、また受容された時代の何が読み取れるのかを考えていく。 工芸学部のディプロマポリシー 1 に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 絵画を史料とすること 第2回 絵巻物① 春日権現験記絵 第3回 絵巻物② 一遍聖絵 第4回 絵巻物③ 絵師草紙 第5回 絵巻物④ 百鬼夜行図 第6回 絵巻物⑤ 道成寺縁起絵巻 第7回 寺社絵図① 伊勢参詣曼荼羅 第8回 寺社絵図② 那智参詣曼荼羅 第9回 寺社絵図③ 清水寺参詣曼荼羅 第10回 寺社絵図④ 北野曼荼羅 第11回 仏画① 普賢十羅刹女像 第12回 仏画② 童子経曼荼羅図 第13回 仏画③ 六道絵 第14回 仏画④ 熊野観心十界図 第15回 まとめ
成績評価	出席・授業への姿勢・コメントシート60%、期末試験40%
教科書	授業中にプリントを配布する。
参考書 参考資料	授業期間の要所で参考図書を紹介する。
履修上の注意	受講に関するルールは初回の授業で説明する。また講義で扱う絵画については、教室でプリントを配布するが、予習・復習の時点で図書やWebを介して閲覧しておくことが望ましい。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 なお講義中でふれる絵画史料については、プリントを配布するが、予習・復習の時点で図書やWebなどを介し自身で検索・閲覧を必ずおこなうこと。
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを次回以降の講義内で行う。
科目ナンバリング	CRA-MA 2 10 L

講義名	伝統構造学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井上 年和	KYOB I 工芸学部

到達目標	社寺建築、古民家、町屋、煉瓦造建造物など、日本の歴史的建造物について構造的特徴を理解し、調査研究、設計・施工に活かすための素養を身につける。
授業概要	歴史的建造物の基礎、軸部、壁、屋根など各部の構造形式、技法、工法、耐震技術などを学び、耐震診断や構造設計の基本を理解する。建築学科のディプロマポリシーの2、3に係る。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 歴史的建造物の地震被害 第2回 耐震対策の歴史 第3回 伝統工法と在来工法 第4回 基礎の工法 第5回 伝統木造の工法（1）床組 第6回 伝統木造の工法（2）軸組 第7回 伝統木造の工法（3）小屋組 第8回 伝統木造の工法（4）軒廻り、妻飾り 第9回 伝統木造の工法（5）雑作 第10回 屋根の工法 第11回 壁の工法 第12回 木造以外の歴史的建造物 第13回 伝統工法の耐震技術 第14回 伝統工法の構造設計 第15回 在来工法の構造設計
成績評価	定期試験結果により評価を行う。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書 参考資料	伝統のディテール研究会『伝統のディテール』障国社、渋谷五郎他『新訂 日本建築』学芸出版社
履修上の注意	配布プリント、講義ノートを毎回持参する。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	建築一般構造Ⅰ・Ⅱ、伝統住居概論、社寺建築概論
課題に対するフィードバックの方法	期末試験を実施し、試験後に答案を公開する。
教員の実務経験	文化財建造物、歴史的建造物の設計監理
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-MA 2 11 L

講義名	I T 活用応用演習 (Aクラス)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 木村 奈保	K Y O B I 工芸学部
助教	加納 奈都	K Y O B I 工芸学部

到達目標	Fusion360 の操作と3D データ作成技術の習得
授業概要	3次元CADソフトFusion360の活用方法を習得する。 造形設計と表現を効率化することができ、CADで作成したデータは、 さまざまなメディアと連携することが容易となる。 これにより、作品発表の場を広げることも可能となり、 ポートフォリオへの活用や学外コンペ等への応募等に役立てることができる。 3次元CAD を使用しモデリング技術を習得する。 美術工芸学科のディプロマポリシー1、2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション、Fusion360 の特徴・ソフトウェアの準備 第2回 画面操作・モデリング基礎・データの管理方法 第3回 スケッチの基本操作 第4回 モデリング基礎 第5回 モデリング基礎・レンダリング基礎 第6回 モデリング基礎 作成したデータの編集 第7回 モデリング基礎 下絵からモデリング作成 第8回 モデリング基礎 復習課題 第9回 モデリング基礎 第10回 モデリング基礎、2D 変換・3D 出力について 第11回 モデリング応用 第12回 モデリング応用 第13回 演習課題 第14回 演習課題 第15回 課題のプレゼンテーション・講評 ※毎回練習問題をやりながら理解を深めていきま ※理解状況に応じて、適宜内容を変更する場合があります。
成績評価	授業態度 (30%) 課題提出 (70%) で成績評価を行う。
教科書	データにて配布
参考書 参考資料	『Fusion360操作ガイド』 三谷大暁/別所智広/坂元浩二 (共著) スリプリ
履修上の注意	個人のノートPC にて授業を行うので、忘れないようにすること。 データをクラウド上で作成、管理していくため、LANケーブルは必須。 データ作成にはマウスの使用を推奨。
予習・復習指導	一講義 (2コマ) に対して3時間の復習 (学んだ操作方法を使用し、独自に作品を作成) をすること。
関連科目	「情報基礎演習」「コンピューターデザイン演習」
課題に対するフィードバックの方法	授業内で、適宜説明、解説する。
科目ナンバリング	CRA-MA213S

講義名	I T 活用応用演習 (Bクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 晋一	KYOB I 工芸学部
教授	安田 光男	KYOB I 工芸学部
教授	山内 貴博	KYOB I 工芸学部
講師	永井 秀幸	KYOB I 工芸学部
講師	根来 宏典	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	中村 卓	KYOB I 工芸学部

到達目標	・ 2D CAD及び3D CADの操作と活用方法を習得する。 ・ モデリングデータ作成技術を身につける。
授業概要	建築設計におけるCAD (Computer Aided Design) ソフトの活用方法を習得する。 CADを活用することで造形設計を効率化するとともに様々な表現方法が可能となる。またCAD化されたデータは様々なソフトウェアと連携することが可能となる。演習では、2D-CADソフトによる図面作成と、近年建築業界で普及してきたBIM (Building Information Modeling) ソフトによる3Dモデリング操作を学びながら、様々なプレゼンテーション手法を習得する。 建築学科のディプロマポリシー1、2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 2D-CAD の特徴・ソフトウェアの準備 第2回 2D-CAD 基礎演習 1 第3回 2D-CAD 基礎演習 2 第4回 2D-CAD 応用演習 1 第5回 2D-CAD 応用演習 2 第6回 3D-CAD (BIM) の特徴・ソフトウェアの準備 第7回 3D-CAD 基本演習 1 第8回 3D-CAD 基本演習 2 第9回 3D-CAD 基本操作 3 第10回 3D-CAD モデリング基礎演習 1 第11回 3D-CAD モデリング基礎演習 2 第12回 3D-CAD モデリング基礎演習 3 第13回 演習課題 1 第14回 演習課題 2 第15回 課題のプレゼンテーション・講評 ※なお、学習への理解・到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	評価ポイント：学習状況 (40%)、提出課題 (60%)。
教科書	授業に応じて作成資料、データなどを配布する。
参考書 参考資料	授業の中で適宜紹介する。
履修上の注意	パソコン操作は習うより慣れることが重要である。常時パソコンを携帯し慣れ親しむ習慣をつける。また、最初に設定するアプリケーションのIDとパスワードは忘れずに管理する。
予習・復習指導	一講義 (2コマ) に対して3時間の予習復習をすること。
関連科目	「情報基礎演習」「コンピューターデザイン演習」
課題に対するフィードバックの方法	演習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CRA-MA213S

講義名	コンピュータデザイン演習 (Aクラス)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 木村 奈保	KYOB I 工芸学部
助教	加納 奈都	KYOB I 工芸学部

到達目標	・Illustratorでイラストやマークの描画ができる。 ・Illustratorでイラストやマークの描画ができる。 ・Illustratorで文字の入力と編集ができる ・Photoshopで画像の加工や合成ができる。 ・両ソフトを使用してグラフィック作品の制作ができる。
授業概要	2次元グラフィックソフト (Adobe Illustrator/Photoshop) の操作を学び、「絵を描く」「文字を書く」「画像を加工する」といった基礎的な技術を習得する。グラフィックソフトの操作ができることによって、様々なデザイン表現力の広がりや、プレゼンテーション力 (ポートフォリオ/企画書作成など) の向上を目的とする。 工芸学部ディプロマポリシーの1、3に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション/2次元グラフィックソフトの基礎知識 第2回 Illustrator の基本的な操作 第3回 Illustrator による描画 (1) 第4回 Illustrator による文字入力 第5回 Illustrator による課題制作: 展示会DM 第6回 Illustrator による描画 (2) 第7回 Illustrator による課題制作 (1): 企画書 第8回 Illustrator による課題制作 (2): 企画書/プレゼンテーション 第9回 Photoshop 基本的な操作 第10回 Photoshop による画像加工 (1) 第11回 Photoshop による画像加工 (2) 第12回 IllustratorとPhotoshopの連携 第13回 総合演習課題制作 (1) 第14回 IllustratorとPhotoshopの連携による課題制作 (2) 第15回 IllustratorとPhotoshopの連携による課題制作 (3) / 講評
成績評価	評価ポイント: 授業態度60%・課題40%
教科書	授業に応じて資料、データなどを配付する。
参考書 参考資料	Illustrator & Photoshop 操作とデザインの教科書 (技術評論社)
履修上の注意	・PC持参 (Adobe Illustrator・Photoshopをインストールし、ソフトを起動できる状態にしておくこと) ・段階的なスキルアップを目標とするので、特に継続した出席が重要です。(特に第1回~第4回はこの授業での基礎を学ぶ上で重要な回となります) ・各回、授業の冒頭にPC操作の解説を行います。遅刻すると理解が困難になるので、定刻に出席するよう努めること。
予習・復習指導	一講義 (2コマ) に対して3時間の予習復習をすること。 (具体的な内容) 授業で学んだ操作技術を用いて、作品づくりに取り組む。
関連科目	「情報基礎演習」
課題に対するフィードバックの方法	実習・演習課題ごとに講評・質疑応答等を行う
科目ナンバリング	CRA-MA 1 14 S

講義名	コンピュータデザイン演習 (Bクラス)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新海 俊一	KYOB I 工芸学部
教授	安田 光男	KYOB I 工芸学部
講師	永井 秀幸	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	中村 卓	KYOB I 工芸学部

到達目標	・Photoshop により画像の加工・修正・合成方法を習得する。 ・Illustrator により図形描画や文字入力方法を習得する。 ・Photoshop とIllustrator を活用しグラフィック作品を作成する。 ・AutoCADを通して、2次元CADの操作方法に関する基本的な概念を習得する。
授業概要	グラフィックソフト (Adobe Photoshop、Illustrator) を使用し、画像処理や図形描画の基礎を学ぶ。 Photoshopでは主に写真などのペイント系ラスターデータの処理方法を学ぶ。 Illustratorではドロー系ベクターデータの処理方法を学ぶ。これらのグラフィックソフトを活用し、デザイン表現力やプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的とする。 また、AutoCADの基本的な操作方法、CAD上の空間概念を習得し、2次元CADによる建築設計図面の作成能力を高める。 【ディプロマポリシー】 ・京都美術工芸大学ディプロマポリシーの1 ・美術工芸学科ディプロマポリシーの1 ・建築学科ディプロマポリシーの4
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション・グラフィックソフトの理解 第2回 Illustrator (描画) : 基本操作、案内図を描く (課題①) 第3回 Illustrator (文字) : フォントを知る・ロゴマークを考える 第4回 Illustrator (制作) : ロゴマークをデザインする (課題②) 第5回 Photoshop (画像処理) : 基本操作 第6回 Photoshop (画像処理) : 写真の加工技術を学ぶ 第7回 Photoshop (画像処理) : 写真の合成方法を学ぶ (課題③) 第8回 Autocad: 基本操作1 第9回 Autocad: 基本操作2 第10回 Autocad: 画層設定・スナップ 第11回 Autocad: 寸法・文字・ハッチング 第12回 Autocad: モデル空間とペーパー空間・印刷とペン設定 第13回 総合演習課題 1 第14回 総合演習課題 2 第15回 総合演習課題のプレゼンテーション・講評 ※本授業は、最終的に「総合演習課題」へと到達する構成としているが、学習への理解・到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	学習状況 (20%)、提出課題 (80%) により成績評価を行う。
教科書	CADの基礎と演習、赤城徹也他著 (共立出版)
参考書 参考資料	デザインの学校 これからはじめる AutoCADの本 Autodesk AutoCAD 2021 / AutoCAD LT 2021公式トレーニングガイド、稲葉幸行著 (技術評論社)
履修上の注意	パソコン操作は習うより慣れることが重要である。常時パソコンを携帯し慣れ親しむ習慣をつける。また、最初に設定するアプリケーションのIDとパスワードは忘れずに管理する。
予習・復習指導	デザインのアイデアや様々なグラフィックイメージの事例及びCADによる作図方法についての知識を図書館・ウェブ等で調べ、蓄積していくこと。 一講義 (1コマ) に対して2時間の予習復習をすること
関連科目	「情報基礎演習」「IT活用応用演習」
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う
科目ナンバリング	CRA-MA 1 14 S

講義名	建築計画Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 安田 光男	KYOB I 工芸学部

到達目標	生活に関する多面的な知見に触れながら、住居に関する建築計画についての基礎的な専門知識の理解を深め、現代のライフスタイルに応じた住居の計画・設計を行える能力を身につける。
授業概要	住居は人間生活を行うためのシェルターであり、あらゆる建築物の起源と言われる。本講義では、「住まう」ということに関する、さまざまな原理・原則について、具体的な例を用いて解説を行う。「住まう」ことについての現代的なテーマについても触れながら、時代とともに変化していく、ライフスタイルに応じた居住空間の計画、設計に関する基本的な知識を学ぶ。建築学科のディプロマポリシーの2、3に係る。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス、住居の建築計画学について 第2回 ライフスタイルと社会の変化について 第3回 住空間の計画プロセス1 第4回 住空間の計画プロセス2 第5回 住宅の単位空間 第6回 住空間の機能と組織 第7回 住環境としつらえ 第8回 住居計画 (屋根と階段、開口部と水回り) 第9回 住居計画 (外構・植栽、住宅の構成) 第10回 住居計画 (住戸の定型とバリエーション) 第11回 集合住宅の系譜 第12回 集合住宅の種類と規模 第13回 現代における集合住宅 第14回 優秀レポート発表 第15回 総括・ディスカッション
成績評価	学習状況 (30%) とレポート課題 (30%) 及び期末試験 (40%) によって評価する。
教科書	「住むための建築計画」 佐々木誠著他 彰国社
参考書 参考資料	「住宅の計画学入門」 岡田光正著他 鹿島出版会
履修上の注意	住居に関する建築計画に関して、幅広く興味を持って、学ぼうとする姿勢を持つこと。
予習・復習指導	一講義 (1コマ) に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	「建築計画Ⅰ」「建築計画Ⅲ」「建築計画Ⅳ」「室内意匠論」
課題に対するフィードバックの方法	レポート課題については優秀レポート作成者の発表を通して総評を行う。 期末試験については解説・総評を掲示する。
科目ナンバリング	CRA-MA 2 15 L

講義名	建築一般構造Ⅰ（1年生）		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 戸高 太郎	KYOB I 工芸学部
助教	新谷 謙一郎	KYOB I 工芸学部

到達目標	「木構造」の構成を覚え、基本原理を理解する。在来軸組工法における床組・小屋組の設計方法を理解する。
授業概要	1. 建築物の架構としての「木構造」の構成、基本原理について学ぶ。 2. 「木構造」が水平力へ抵抗するメカニズムを学ぶ。 3. 部材の継手・仕口、造作等、「木構造」のディテールについて学ぶ。 建築学科のディプロマポリシー 1 に係る
授業計画 授業内容	全15回 第 1 回 建築工法の分類 第 2 回 木構造（ 1 ） 木材の特徴 第 3 回 木構造（ 2 ） 木構造の基本構成 第 4 回 木構造（ 3 ） 軸組／耐力壁 第 5 回 木構造（ 4 ） 耐力壁量・耐力壁の配置 第 6 回 木構造（ 5 ） 耐力壁量・耐力壁の配置 第 7 回 木構造（ 6 ） 床組の構成／床組の設計 第 8 回 木構造（ 7 ） 床組の設計／部材の継手・仕口 第 9 回 木構造（ 8 ） 床組の設計 第 10 回 木構造（ 9 ） 小屋組の構成 第 11 回 木構造（ 10 ） 小屋組の設計 第 12 回 木構造（ 11 ） 小屋組の設計 第 13 回 木構造（ 12 ） 接合金物・造作・仕上げ 第 14 回 木構造（ 13 ） 造作・仕上げ 第 15 回 木構造（ 14 ） 枠組壁工法（2×4工法） ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	定期試験の結果（40%） 授業レポート提出状況・内容（60%）
教科書	『建築構法』第五版 内田祥哉著 市ヶ谷出版社 『世界で一番楽しい建物できるまで図鑑 木造住宅』 大野隆司著 エクスナレッジ
参考書 参考資料	資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する授業レポートの提出を毎回行う。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習：0.5時間（テキストの次回講義部分を読む） 復習：4.0時間（授業ノートの整理等）
関連科目	「工芸実習基礎Ⅱ」 「建築材料」 「建築施工法」 「建築一般構造Ⅱ」 他
課題に対するフィードバックの方法	授業レポートのフィードバックを次回の講義内で行う。
科目ナンバリング	CRA-MA 2 16 L

講義名	建築一般構造Ⅰ（2年生）		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 戸高 太郎	KYOB I 工芸学部
助教	新谷 謙一郎	KYOB I 工芸学部

到達目標	「木構造」の構成を覚え、基本原理を理解する。在来軸組工法における床組・小屋組の設計方法を理解する。
授業概要	1. 建築物の架構としての「木構造」の構成、基本原理について学ぶ。 2. 「木構造」が水平力へ抵抗するメカニズムを学ぶ。 3. 部材の継手・仕口、造作等、「木構造」のディテールについて学ぶ。 建築学科のディプロマポリシー 1 に係る
授業計画 授業内容	全15回 第 1 回 建築工法の分類 第 2 回 木構造（ 1 ） 木材の特徴 第 3 回 木構造（ 2 ） 木構造の基本構成 第 4 回 木構造（ 3 ） 軸組／耐力壁 第 5 回 木構造（ 4 ） 耐力壁量・耐力壁の配置 第 6 回 木構造（ 5 ） 耐力壁量・耐力壁の配置 第 7 回 木構造（ 6 ） 床組の構成／床組の設計 第 8 回 木構造（ 7 ） 床組の設計／部材の継手・仕口 第 9 回 木構造（ 8 ） 床組の設計 第 10 回 木構造（ 9 ） 小屋組の構成 第 11 回 木構造（ 10 ） 小屋組の設計 第 12 回 木構造（ 11 ） 小屋組の設計 第 13 回 木構造（ 12 ） 接合金物・造作・仕上げ 第 14 回 木構造（ 13 ） 造作・仕上げ 第 15 回 木構造（ 14 ） 枠組壁工法（2×4工法） ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	定期試験の結果（40%） 授業レポート提出状況・内容（60%）
教科書	『建築構法』第五版 内田祥哉著 市ヶ谷出版社 『世界で一番楽しい建物できるまで図鑑 木造住宅』 大野隆司著 エクスナレッジ
参考書 参考資料	資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する授業レポートの提出を毎回行う。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習：0.5時間（テキストの次回講義部分を読む） 復習：4.0時間（授業ノートの整理等）
関連科目	「工芸実習基礎Ⅱ」 「建築材料」 「建築施工法」 「建築一般構造Ⅱ」 他
課題に対するフィードバックの方法	授業レポートのフィードバックを次回の講義内で行う。
科目ナンバリング	CRA-MA 2 16 L

講義名	建築材料		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 根来 宏典	KYOB I 工芸学部

到達目標	建築物の設計に必要なとなる材料選定の基本を理解する。
授業概要	建築材料への見識を深めることによって得られる設計の魅力と可能性を学ぶ。その学ぶこととの間にリアリティを持たせるため、素材の産地や職人技術、手加工と機械加工の世界、その歴史的背景や現代的側面についても学ぶ。建築学科のディプロマシーに1に係わる。
授業計画 授業内容	第1回 建築材料を学ぶ上で知っておくべきことについて講義する。 第2回 木材について講義する。 第3回 木質材料について講義する。 第4回 植物材料について講義する。 第5回 金属材料（スチール・ステンレスなど）について講義する。 第6回 非鉄金属材料（アルミニウム・チタン・銅など）について講義する。 第7回 コンクリートについて講義する。 第8回 セメント・コンクリートについて講義する。 第9回 石について講義する。 第10回 土・漆喰・石膏について講義する。 第11回 焼成材料（タイル、レンガ、瓦など）について講義する。 第12回 ガラス、プラスチックについて講義する。 第13回 ファブリック、建具、古材など、その他の材料について講義する。 第14回 レポート発表会 第15回 機能材料（塗料、断熱材、吸音・遮音材、防火・耐火材、防水材など）について講義する。
成績評価	レポート及び期末試験により、総合的に評価する。
教科書	朝吹香葉子、他著「建築材料 新テキスト」彰国社
参考書 参考資料	藤森照信著「藤森照信、素材の旅」新建築社 JA109/隈研吾特集「Kengo Kuma:a LAB for materials」新建築社
履修上の注意	日頃から、身の回り、街中、建築雑誌で見かける様々な材料を観察する。興味を持ったら調べる。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 教科書の熟読、実際に当該材料が使われている建物を調べてみる。
関連科目	「建築施工法」
課題に対するフィードバックの方法	レポートは代表者数名による発表と総評を行う。期末試験は解答を公開する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-MA 2 17 L

講義名	建築法規		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 余谷 和則	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	山木 辰哉	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	寺本 健三	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	藤井 茂	KYOB I 工芸学部

到達目標	建築基準法及び関連規定の主旨や背景を学び、論理解釈及び文理解釈の法文読解力を養う。 更に、これらの規定を正しく読みこなし、設計や施工に活用できる能力を養うことを目標とする。
授業概要	建築物を建築する為には、様々な法的規制を知る必要がある。本講義では建築基準法を主とした、建築物を建築する際に遵守すべき法的規制の基本的な事項について説明する。 個々の建築物を地震、火災等から守り、その建築物を利用する人々の生命、健康、財産を守る観点からの規制や、個々の建築物ではなく、都市計画的な建築物の秩序という観点からの規制の他、最新の動向や景観条例などについて学ぶ。 本科目は建築学科のディプロマポリシー 1 に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 回 第 1 回 法の成り立ち並びに法の読み方及び解釈、用語の定義 第 2 回 建築基準法 : 制度規制 ; 手続き 第 3 回 建築基準法 : 単体規定① (一般構造 1) 第 4 回 建築基準法 : 単体規定② (一般構造 2) 第 5 回 建築基準法 : 単体規定③ (防火避難規定 1) 第 6 回 建築基準法 : 単体規定④ (防火避難規定 2) 第 7 回 建築基準法 : 単体規定⑤ (防火避難規定 3) 第 8 回 建築基準法 : 単体規定⑥ (防火避難規定 4) 第 9 回 建築基準法 : 集団規定① (敷地と道路) 第 10 回 建築基準法 : 集団規定② (建蔽率、容積率) 第 11 回 建築基準法 : 集団規定③ (高さ制限) 第 12 回 建築基準法 : 単体規定⑦ (構造強度 1) 第 13 回 建築基準法 : 単体規定⑧ (構造強度 2) 第 14 回 関連規定等 第 15 回 景観条例等 ※理解状況に応じて、適宜内容を変更する場合があります。
成績評価	受講態度 (50%) 及び期末試験 (50%) により総合的に評価する。
教科書	①井上建築関係法令集 [令和 3 年度版] (井上書院) ②改訂版 図説 やさしい建築法規 (学芸出版社)
参考書 参考資料	講義で適宜配布する。
履修上の注意	資格取得の為だけでなく、建築に携わっていく上で必要な知識であり、意欲的に臨むこと。
予習・復習指導	一講義 (1コマ) に対して 4.5 時間の予習復習をすること。 学んだ内容を必ず法令集で確認し、法律独特の表現方法に慣れる努力をすること。 法令集を読み、図面や実際の建築物を視ることで、知識の定着を図ること。
関連科目	「建築計画」 他、建築に関する科目
課題に対するフィードバックの方法	質問等がある場合、次回以降の講義で解説する。
教員の実務経験	京都市役所・京都確認検査機構
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-MA 2 18 L

講義名	建築構造力学Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 戸高 太郎	KYOB I 工芸学部
助教	新谷 謙一郎	KYOB I 工芸学部

到達目標	力学理論の基礎を学び、将来実務者として適切な判断を行う素養を身に付ける。
授業概要	静定トラスに生じる応力の算出方法、構造物の断面に生じる応力度の算定方法を身に付ける。また、許容応力度設計、不静定構造物の応力計算、塑性設計など構造設計における必要知識を習得する。 建築学科のディプロマポリシー 1 に係る
授業計画 授業内容	全15回 第 1 回 トラス構造物の部材に生じる力／トラス構造物の応力計算 (1) 第 2 回 トラス構造物の応力計算 (2) 第 3 回 トラス構造物の応力計算 (3) 第 4 回 トラス構造物の応力計算 (4) 第 5 回 断面諸量 (1) 断面 1 次モーメントと図心 第 6 回 断面諸量 (2) 断面 2 次モーメント 第 7 回 応力と応力度／応力度の計算 (1) 第 8 回 応力度の計算 (2) 第 9 回 応力度の計算 (3) 第 10 回 応力度の計算 (4) 第 11 回 応力度の計算 (5) 第 12 回 座屈現象と座屈荷重 第 13 回 部材の変形 (たわみ) 第 14 回 不静定構造 第 15 回 弾性と塑性／塑性設計 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	定期試験の結果 (40%) 演習課題の提出状況・内容 (60%)
教科書	初学者の建築講座「建築構造力学(第三版)」市ヶ谷出版社
参考書 参考資料	演習問題等の資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する演習課題を毎回行う。
予習・復習指導	一講義 (1 コマ) に対して 4.5 時間の復習をすること。 (授業ノートの整理、前回演習課題の復習等)
関連科目	「建築構造力学Ⅰ」 「建築構造力学Ⅲ」
課題に対するフィードバックの方法	演習課題のフィードバックを次の講義内で行う。
科目ナンバリング	CRA-MA 1 19 L

講義名	建築環境工学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 橋本 頼幸	KYOB I 工芸学部

到達目標	熱・光・空気・音などの環境要素の利用や制御技術の基礎を習得し、建物設計に生かす能力を養う。
授業概要	“本科目は工芸学部ディプロマポリシーの①に該当する。 人間生活の器であるとされる建築物に、直接・間接に影響をおよぼす内外の環境条件について総合的に理解し、計画設計に応用する能力を養う。本講義においては主に熱、空気、日照などについての理解を深める。”
授業計画 授業内容	1. 建築環境工学とは 2. 熱環境1—伝熱、熱貫流 3. 熱環境2—壁体各部の温度、断熱 4. 熱環境3—熱容量、空気線図、結露 5. 空気環境1—空気汚染物質、換気 6. 空気環境2—通風、換気の方法 7. 日照と日射1—太陽の位置、隣棟間隔 8. 日照と日射2—日射の種類、日照調整 9. 採光、照明と色彩1—採光の方法、昼光率 10. 採光、照明と色彩2—照明方式、照明計算 11. 採光、照明と色彩3—色彩、色の3属性、色彩調節 12. 音環境1—音の性質、音の量と単位、騒音 13. 音環境2—騒音防止、遮音と吸音、室内音響 14. 都市の熱環境、都市の空気環境 15. まとめ
成績評価	提出課題(20%)および期末試験(80%)
教科書	基礎力が身につく 建築環境工学(森北出版株式会社)
参考書 参考資料	エース建築環境工学<1><2>(朝倉書店)
履修上の注意	講義を通して学んだことは、実生活を通して観察、体験および計算をすることで理解を深めること。
予習・復習指導	一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。 教科書の当該部分を読み、環境工学が建築にどう生かされているかを実物を見て調べておくこと。
関連科目	「建築設備」他建築関連科目
課題に対するフィードバックの方法	出席プリントに記載された質問などは、次回以降の授業で解説・説明する。 期末試験の解答・解説はWebにて公表する。
教員の実務経験	有
科目ナンバリング	CRA-MA 2 20 L

講義名	文化財修理論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小林 泰弘	KYOB I 工芸学部

到達目標	文化財修理の歴史とそこから生まれてきた修復の理念や理論を理解し、これらの修理技術の修得や、実践における指針を得る。
授業概要	文化財の保存と活用は、将来のわが国の文化の向上発展の基礎をなすものである。長い歴史のなかでわが国の文化財がどのような方法、理念に基づいて修理が行われてきたのか、その過去と現在を理解するとともに、未来に伝えていくべき文化財修理の課題を考察する。 美術工芸学科ディプロマポリシーの①、③に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 小林 泰弘 (修理とは何か) 第2回 小林 泰弘 (修理の理念) 第3回 高橋 利明 (仏像修復師) 第4回 青木 太一 (仏像彫刻) 第5回 藤井 収 (漆工) 第6回 玉村 嘉章 (木工) 第7回 小林 泰弘 (仏像修復) 第8回 小林 泰弘 (仏像修復 他) 第9回 小田 珠生 (表具) 第10回 内田 俊秀 (民具) 第11回 八田 誠治 (染織) 第12回 川原 博一 (金属) 第13回 大上 直樹 (建築) 第14回 小林 泰弘 (複製) 第15回 小林 泰弘 (総評) ※順番は前後することがあります。
成績評価	授業中の態度 (30%)、レポート等の習得度 (70%) を基本に、総合的に判断する
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
履修上の注意	静かに履修をすること。
予習・復習指導	復習をすることで講義を深く理解するように努めること (3時間)。
関連科目	「文化財保存概論」「文化財概論」等の講義系科目
課題に対するフィードバックの方法	授業中の質疑応答。レポート等の質問には次回以降に応答する。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	CRA-MA221L

講義名	文化財マネジメント論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小林 俊和	KYOB I 工芸学部

到達目標	文化財活用の現状を理解する。 文化財保存の社会的な環境や持続的な仕組みについて理解する。
授業概要	この授業では、文化財の活用と再生を促すマネジメントについて、ケーススタディを交えながら学習する。ここでいう文化財の活用と再生とは、文化財を保存の対象とするだけに留めず活用の対象へと視野を広げることである。そして、文化財マネジメントとは、文化財に地域の社会的な問題を克服する新しい見方があることを発見することにある。これらの内容を具体的に個人別またはグループに分かれて意見交換しながら学ぶ。 本科目は工芸学部ディプロマポリシーの1、2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 文化財マネジメント概論 第2回 文化財マネジメントを学ぶ1ー 保護と優先順位 第3回 文化財マネジメントを学ぶ2ー 保護と重要度 第4回 日本の文化財保護の仕組み 第5回 文化財の保存 第6回 文化財の再現 第7回 文化財の被災シミュレーション 基礎 第8回 文化財の被災シミュレーション 所有者の視点から学ぶ 第9回 文化財の被災シミュレーション レスキューの視点から学ぶ 第10回 文化財の被災シミュレーション 防災マニュアルを考える 第11回 費用効果分析1 運用コストの計算 第12回 費用効果分析2 比較と分析 第13回 文化財の情報化 第14回 文化財の活用とプログラミング 第15回 総括
成績評価	個人ワークシートやグループワークシートの提出（40%）・期末テスト（60%）
教科書	後藤治『都市の記憶を失う前に』白揚社
参考書 参考資料	森まゆみ『東京遺産』岩波書店
履修上の注意	個人ワークのほかにグループに分かれてグループワークや意見交換する機会があります。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、2時間の事前学習及び2.5時間の復習をすること。 （具体的な内容） 授業終了時に、テキストの指定ページを読むように指示をします。次回の授業までに指示した視点でテキストを読み込み、見解をもつなどの予習を行ってもらいます。また、前回と次回の授業内容は関連していますので、テキストを読み込むには前回の授業内容を再度振り返り、各自の見解を深める作業が必要となります。
関連科目	文化財概論
課題に対するフィードバックの方法	授業終了前、または次回の授業開始時に全体に向けた総評を行う。
教員の実務経験	なし
教員の实務経験有無	なし
科目ナンバリング	CRA-MA 2 22 L

講義名	インテリア設計		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小椋 吉隆	KYOB I 工芸学部
教授	渡邊 俊博	KYOB I 工芸学部
特任准教授	富家 大器	KYOB I 工芸学部

到達目標	・ 作画の基礎を習得し、スケッチや透視図作成の基礎に繋げる。 ・ インテリアの作図（平面図、展開図、天井伏図）と、透視図を作成する力を身につける。 ・ インテリアデザインのオリジナル作品の企画から図面までを完成させ、発表する。
授業概要	作画・作図の基礎からインテリアデザイン計画に取り組む。 インテリアの計画は、どのような人がどのように使うかという生活行動を考慮し、目的に応じた空間を考えることである。課題に対して、その目標を達成するためのコンセプトを立案し、そのコンセプトを具現化する計画図（平面図、展開図、天井伏図、家具図、透視図、模型、マテリアル計画、グラフィックデザイン等）を作成し提案する。【インテリアプランナー合格者の実務免除科目】 美術工芸学科のディプロマポリシー 1、2 に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 回 第 1 回 ガイダンス・作画基礎 第 2 回 作画基礎 第 3 回 作画基礎 第 4 回 作画と一点透視図基礎 第 5 回 インテリア図（平面図）の作成 第 6 回 インテリア図（展開図・天井伏図）の作成 第 7 回 インテリア透視図の作成 第 8 回 インテリア透視図の作成 第 9 回 課題提示・事例調査 第 10 回 コンセプト作成 第 11 回 図面作成 第 12 回 図面作成 第 13 回 パース作成 第 14 回 プレゼンテーション準備 第 15 回 合評会
成績評価	授業態度 (40%)、作品・プレゼンテーション (60%) として評価する。
教科書	毎回資料を配布する。
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	インテリアプランナー合格者の実務免除科目として位置づけられている。毎回のスケジュール管理をしっかりと行い、必ず提出期限を守ること。
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。
関連科目	デザイン作図演習
課題に対するフィードバックの方法	演習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-MA 223 S

7. 専門教育科目 － 美術工芸科目・展開科目

講義名	伝統工芸産業工学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 遠藤 公誉	KYOB I 工芸学部

到達目標	産業としての伝統工芸について、業種ごとに成り立ちや技術的・意匠的特色について、また世の中での位置づけなど、概要を認識し理解する。ものづくりの高度な技について、工学的な側面からの理解を深める。
授業概要	伝統工芸産業について、その定義や業種ごとの特色、地域ごとの特色、問題点などについて多岐にわたり論じる。様々な技術を研究する応用科学である「工学」の立場より、伝統工芸・伝統産業について考察する。伝統工芸品を成立させる構造、意匠、技法、材料などの諸要素と、伝統工芸の産地を取り巻く地理的条件などのさまざまな要素の、密接な関連性について学び、工芸に対し更に認識を深める。 関連するディプロマポリシー：京都美術工芸大学ディプロマポリシー 1・2 美術工芸学科のディプロマポリシー 1・2・3 に係る
授業計画 授業内容	全15日／週1日 第1週 漆芸 第1回 大規模漆器産地 輪島について その1 第2週 漆芸 第2回 大規模漆器産地 輪島について その2 第3週 彫刻 第1回 仏師による仏像修復 第4週 彫刻 第2回 彫刻技法、加飾技法について 第5週 陶芸 第1回 素材と技法 第6週 陶芸 第2回 陶磁器業界の現状と今後 第7週 木工 第1回 木工・家具産業の歴史と構造 第8週 木工 第2回 五大家具産地の成り立ちと特徴 第9週 木工 第3回 機械化による木工業界の変化 第10週 漆芸 第3回 漆芸の道具 漆刷毛の構造と使用について 第11週 諸工芸 第4回 江戸時代のものでつくりと機械工学の融合 その1 第12週 諸工芸 第5回 江戸時代のものでつくりと機械工学の融合 その2 第13週 文化財 第1回 文化財について 第14週 文化財 第2回 文化財の現状とこれから 第15週 諸工芸 第3回 ある伝統産業の現代産業への転換について 総括
成績評価	講義ごとの小レポートの内容によって評価する。
教科書	なし
参考書 参考資料	「なぜ漆はジャパンと呼ばれたか」 中室勝郎著 六耀社 「近代漆器の産業技術と構造」 北野信彦著 雄山閣 その他講師ごとに参考書などを紹介する。
履修上の注意	オムニバス形式のため、担当する教員により配布資料が無い場合がある。講義の内容を注意深く聴講することは勿論であるが、分野が多岐にわたるため、予習時などに自主的に予備知識を獲得しておくこと。
予習・復習指導	1コマに対して予習に1.5時間、復習に3時間を目安とすること。 参考書「なぜ漆はジャパンと呼ばれたか」第三章 なぜ、輪島に輪島塗があるのか P115～173 を事前に読んでおくこと。
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「伝統工芸材料科学」「文化財修理論」
課題に対するフィードバックの方法	最終回において、レポートの内容について講評を行う。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	CAC-DE 301 L

講義名	伝統工芸材料科学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 浅見 武	KYOB I 工芸学部

到達目標	伝統的な「ものづくり」を科学の眼でみる視点を持つことを涵養する。
授業概要	伝統工芸の世界で用いられる材料は、長い間に培われた職人の経験と勘によって吟味されてきた歴史を持つ。現代の材料科学の観点から、伝統的な「ものづくり」に用いられた材料と技術を調査研究していくと、その選択の妥当性に改めて驚かされることが多い。本講では、伝統的な様々な素材を科学的な眼で見ていくことが新たな発見につながることを様々な事例で紹介する。 美術工芸学科のディプロマポリシー2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 横山 直範（陶芸）『陶芸材料についてⅠ』 第2回 横山 直範（陶芸）『陶芸材料についてⅡ』 第3回 宮本 貞治（木工）『木工材料について』 第4回 三木 表悦（漆芸）『漆芸材料について』 第5回 中井川 正道（デザイン）『舗装Ⅰ』 第6回 中井川 正道（デザイン）『舗装Ⅱ』 第7回 安藤 眞吾（デザイン）『塗装』 第8回 大上 直樹（伝統建築）『木材』 第9回 大上 直樹（伝統建築）『木材以外の伝統建築材料』 第10回 岡 達也（デザイン）『紙』 第11回 津村 健一（デザイン）『合成樹脂』 第12回 渡邊 俊博（デザイン）『カッティングシートの表現方法Ⅰ』 第13回 渡邊 俊博（デザイン）『カッティングシートの表現方法Ⅱ』 第14回 種村 俊昭（建築デザイン）『打放し仕上げとタイル』 第15回 種村 俊昭（建築デザイン）『石とガラス』
成績評価	毎回実施する小レポート及び最終レポートにより評価する。
教科書	特に使わない。
参考書 参考資料	授業中適宜紹介する
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して1時間の復習をすること。授業内容を深く理解するために、復習を怠らないこと。
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを次回以降の講義内で行う。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	CAC-DE 3 03 L

講義名	工芸経営論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 岩田 均	KYOB I 工芸学部

到達目標	・経営学の基礎的な考え方を理解する。 ・職業的自立を目指す工芸家に必要な経営学の要素を把握する。 ・研究テーマを設定しキャリアプランを策定する。
授業概要	現代において工芸で身を立てるには、ものをつくる技を身につけるとともに、その良さを自覚し社会に普及するための深い理解が不可欠である。そのため、従来の経営学の基礎を踏まえたうえで、現代の工芸家に必要な経営の考え方や事例を紹介する。卒業後の進路を見定め、自らのキャリア人生を拓くことに役立つ講義とする。
授業計画 授業内容	第1回 工芸経営・序論：講義ガイダンス、エレガントカンパニー 第2回 経営学の誕生：テイラー科学的管理、フォーティズム 第3回 経営学の展開：人間関係論、経営管理論、環境適合理論 第4回 経営戦略論：使命と戦略、戦略策定法、組織文化 第5回 マーケティング論：顧客の創造、マーケティングの4P、ユーザーイノベーション 第6回 消費者研究：ブランド論、顧客との関係性、購買代理業態 第7回 人間の理解：五段階欲求説、動機づけ理論、リーダー論、日本的経営 第8回 組織の理論：バーナードの組織論、大規模組織、次世代産業組織 第9回 伝統産業の組織：徒弟制、家業、社会的分業、問屋制、コミュニティ 第10回 資金と起業：資金マネジメント、起業の基礎知識、起業家精神 第11回 地域力経営：地域力を育む事業：農林業、商店、金融、エネルギーなど 第12回 文化力経営：見えざる資産、智慧の経営、ストーリー戦略、ナレッジマネジメント 第13回 生活様式論：ライフ&ワークスタイル、アーツ&クラフツ、新様式の創造 第14回 工芸経営の展望：共成経営、地域経営者の役割、地元アカデミー 第15回 総括と到達度テスト
成績評価	毎回のミニレポートや受講意欲などの平常点（50％）と最終段階での到達度テスト（記述、50％）によって総合的に評価する。
教科書	講義用資料を電子データで配信する。
参考書 参考資料	赤岡功『エレガント・カンパニー』有斐閣 ドラッカー『マネジメント』ダイヤモンド社
予習・復習指導	1コマに対し、1時間の事前学習及び3時間の復習を目安とすること。 講義の中で提示する課題に取り組むなど、しっかり復習して講義内容を役立てるように。
関連科目	地域社会論、工芸と経済
課題に対するフィードバックの方法	ミニレポートや質問などについて、次回以降の講義の中で対応する。
教員の実務経験	京都府庁で24年間、シンクタンクで7年間の実務経験を有す。
科目ナンバリング	CAC-DE 3 04 L

講義名	立体造形		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 渡邊 俊博	KYOB I 工芸学部
特任准教授	富家 大器	KYOB I 工芸学部

到達目標	主に重力や風力の影響を受ける立体造形は、素材の性質や構造、接合部の強度などの制約を受ける。それらの制約を理解した上で、芸術的価値やデザインの価値を有する造形表現を思考する力を身につける。
授業概要	立体物を創造する場合の考え方の一例として、立体は2次元の集合体ととらえることができる。つまり2次元の造形の良し悪しが3次元の立体の成果となる。さらに、立体物全体から2次元へフィードバックする過程も重要な造形要因となる。加えて重力、環境などの影響を考慮するという複雑な思考と判断力が必要となる。 一つの造形物を芸術的価値、デザインの価値を有するものに作り上げるための思考と表現力を養う。 美術工芸学科のディプロマポリシー1に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 授業概要説明 第2回 造形美について 第3回 表現の研究 第4回 何を表現したいのか？表現プレゼンテーション 第5回 課題制作1：エスキースの作成 第6回 課題制作2：素材の確定 第7回 作品プレゼンテーション 第8回 作品制作 実制作 1 第9回 作品制作 実制作 2 第10回 作品制作 中間チェック 第11回 作品制作 実制作 3 第12回 作品制作 実制作 4 第13回 作品制作 フィニッシュワークチェック 第14回 作品制作 フィニッシュワーク 第15回 提出・講評会
成績評価	授業態度40%、提出物の完成度60%、作品プレゼンテーション20%の総合評価
参考書 参考資料	資料を適宜配布する。
履修上の注意	芸術的価値や、デザインの意味を理解し、自らの造形に活かせるよう美の探求をすること。
予習・復習指導	専門性を高めるために、常に芸術性、デザイン性を意識して行動する。 一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。
関連科目	造形基礎演習Ⅰ、造形基礎演習Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-DE306S

講義名	伝統文様		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 岡 達也	KYOB I 工芸学部

到達目標	近代から現代に至る過程における工芸・デザイン概念の展開に関する大きな流れを時代背景と社会背景を踏まえたうえで理解する。
授業概要	本講義では、おもに近代以降の日本の工芸とデザイン概念の成立と展開について、作品や作家・デザイナーなどを紹介を交えて解説する。これを踏まえたうえで、「伝統」として現代まで続く工芸と新たな領域としてのデザインにおける、様式、装飾、文様などを諸要素として概観する。 工芸学部のディプロマポリシー 1 に該当する。 美術工芸学科のディプロマポリシー 1、3 に該当する。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス 第2回 工芸とデザイン概念の成立 1 第3回 工芸とデザイン概念の成立 2 第4回 工芸とデザイン概念の成立 3 第5回 工芸と日本の近代化 1 第6回 工芸と日本の近代化 2 第7回 工芸と日本の近代化 3 第8回 工芸と伝統 1 第9回 工芸と伝統 2 第10回 工芸と装飾・文様 1 第11回 工芸と装飾・文様 2 第12回 デザインと装飾・文様 1 第13回 デザインと装飾・文様 2 第14回 工芸・デザインと現代 第15回 総括
成績評価	授業態度、期末レポートによって総合的に評価する。
教科書	資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	北澤憲昭『美術のポリティクス―「工芸の」成り立ちを焦点として』2013年、ゆまに書房 木田拓也『工芸とナショナリズムの近代―「日本的なもの」の創出』2014年、吉川弘文館
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。
課題に対するフィードバックの方法	講義内で適宜対応する。
科目ナンバリング	CAC-DE307L

講義名	古文書解読演習Ⅰ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 三野 拓也	KYOB I 工芸学部

到達目標	文字のくずし方に慣れ、記載内容を理解する能力を習得する。
授業概要	美術・工芸・建築に関する思想や意匠をくみ取るためには、作品以外の情報も調査し理解する必要がある。本授業は、そのような情報を有している古文書を解読する能力を身につけることを目的とする。また、古文書だけでなく、木製品や布製品に記された墨書にも触れ、多様なくずし字を理解する力を養成する。 本科目は工芸学部ディプロマポリシーの1に該当する。
授業計画 授業内容	第1回 オリエンテーション 第2回 漢文の基礎文法 第3回 漢文の読解方法 第4回 古文書の基礎知識 第5回 古文書の読解① 第6回 古文書の読解② 第7回 古文書の読解③ 第8回 古文書の読解④ 第9回 古文書の読解⑤ 第10回 古文書の読解⑥ 第11回 古文書の読解⑦ 第12回 古文書の読解⑧ 第13回 古文書の読解⑨ 第14回 古文書の読解⑩ 第15回 まとめ
成績評価	評価ポイント：受講態度60%、期末試験40%
教科書	児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』（東京堂出版）
参考書 参考資料	角川『新字源』（漢和辞典）
履修上の注意	『くずし字用例辞典 普及版』と漢字辞典を持参すること。手持ちの漢字辞典がない場合には参考書記載のものを用意するのが望ましい。
予習・復習指導	読むことができなかった文字のくずし方を辞典で調べ、実際に書いてみることを。書く際には漢字の筆順を確認して、筆の流れを意識すること。 一講義（1コマ）に対して1.5時間の復習をすること。
関連科目	後期に「古文書解読演習Ⅱ」を続けて履修するのが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CRA-DE 3 08 S

講義名	伝統建築図（応用）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 大上 直樹	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	大田 精一	KYOB I 工芸学部

到達目標	伝統建築特に社寺建築特有の納まりや細部意匠の製図法を学ぶとともに製図道具の使い方を習得する。特に詳細図を中心に演習をおこない伝統建築における設計基準、寸法決定の流れを理解する。
授業概要	伝統建築の基礎的な納まりや寸法決定の流れを把握し、より高度な図面作成技術を得得するため、各回課題ごとに代表的な伝統建築の詳細図面を作図する。 また伝統建築の彩色技法についても演習をおこなう。 建築学科のディプロマポリシーの2、3に係る。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 授業ガイダンス 授業の目的、課題説明、製図道具の説明 第2回 伝統建築図面の基礎/√2～√4の作図 格子戸の割付け 第3回 伝統建築図面の細部意匠(1)/組物 中世和様 第4回 伝統建築図面の細部意匠(2)/墓股 古代本墓股 中世本墓股 第5回 伝統建築図面の細部意匠(3)/木鼻 中世大仏様 中世禅宗様 第6回 伝統建築図面の細部意匠(4)/木鼻 近世大工文書から 第7回 伝統建築図面の細部意匠(5)/破風板 近世神社本殿 第8回 伝統建築図面の細部意匠(6)/彩色技法 近世神社本殿 第9回 伝統建築図面の細部意匠(7)/彩色技法 近世神社本殿 第10回 伝統建築図面の細部意匠(8)/彩色技法 近世神社本殿 第11回 伝統建築図面の納まり(1)/軒廻り 中世和様 第12回 伝統建築図面の納まり(2)/詳細図 中世仏堂断面詳細図、規矩図、近世神社断面詳細図 第13回 伝統建築図面の納まり(3)/詳細図 中世仏堂断面詳細図、規矩図、近世神社断面詳細図 第14回 伝統建築図面の納まり(4)/詳細図 中世仏堂断面詳細図、規矩図、近世神社断面詳細図 第15回 図面の提出 講評 また授業では伝統建築特有の製図技法を学ぶために製図道具(烏口、面相筆、摺り定規等)の使用法も体験する。 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	すべての課題の提出図面によって成績評価する。
教科書	課題ごとに、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	日本建築史基礎資料集成（中央公論美術出版）、国宝、重要文化財修理工事報告書等
履修上の注意	毎回課題が提示されるため毎回の出席が望まれる。 また毎回授業時間内に課題を完成させることに努め、完成しない場合は時間外に作図をおこなうこと。
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること
関連科目	伝統建築専門実習への展開、履修することを薦める科目；伝統建築図（基礎）・（発展）
課題に対するフィードバックの方法	提出課題に対して講評・質疑応答をおこなう
教員の実務経験	大上教授は文化財建造物の解体修理事業に約40年近く従事しており、数多くの文化財建造物の設計監理の経験がある。また伝統建築の図面（文化庁に提出する永久保存図）も多数調製しており、伝統建築の製図法については熟知している。 大田講師も長年奈良薬師寺の造営工事の設計監理に携わり、現在も数多くの伝統建築の調査にも関わっており十分な実務経験がある。
科目ナンバリング	CRA-DE 3 09 S

講義名	室内意匠論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小椋 吉隆	KYOB I 工芸学部

到達目標	インテリアデザインに関する知識（計画、エレメント、スタイル、材料、環境等）を幅広く吸収し、魅力的かつ適切なインテリアデザインを行うための基礎知識と技術の習得を目的とする。
授業概要	インテリア空間は人間に最も身近な環境であり、時代の社会背景、生活文化、技術などから、様々な影響を受けている。本講義では室内デザインに関する原理・原則を基に、様々な観点から、さらに具体的な事例を通じての解説を交え、インテリアデザインにおける基本的な考え方、用語、技術等についての講義を行う。 工芸学部のディプロマシー1, 2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション、インテリアデザインとは、自己紹介 第2回 インテリア空間 第3回 インテリアエレメント、インテリアプランナー試験解説 第4回 インテリアスタイル 第5回 家具デザイン 第6回 ウインドトリートメント 第7回 ライティングデザイン、 第8回 インテリア設備 第9回 マテリアルコーディネート 第10回 カラーコーディネート 第11回 エルゴノミクス（人間工学） 第12回 室内環境 第13回 インテリア計画と発想 第14回 エンバ―サルデザイン、サステイナブルデザイン 第15回 インテリアデザインのプロセスと評価：修得確認レポート
成績評価	評価ポイント：授業態度（40%）、ミニレポートの提出および評価（40%）、修得確認レポート（20%）によって評価する。
教科書	図解テキスト「インテリアデザイン」 / 井上書院 / 小宮容一、加藤力、片山勢津子、塚口眞佐子、ペリー史子、西山紀子
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	室内意匠・生活文化に関して、日常から幅広く興味を持って、学ぼうとする姿勢を持つこと。
予習・復習指導	教科書の該当講義（1コマ）章を読み、専門用語（背景・技術）について調べ、理解を深めておくこと。
関連科目	「デザイン概論」「建築概論」「色彩学」「伝統工芸概論」「デザイン作図演習」
課題に対するフィードバックの方法	クラスルームのアイデアレポートの提出に対して、後日コメントによりフィードバックを行う。
科目ナンバリング	CRA-DE 3 10 L

講義名	古文書解読演習Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西山 克	KYOB I 工芸学部

到達目標	くずし字（ひらかな、漢字）の読解力を身につける。将来的に自らの力で解読できるようにするための方法、考え方の基礎を学ぶ。
授業概要	前近代のくずし字で書かれた文献に接し、くずし字の解読の基礎を学ぶ。前近代の文字とは言ってもほとんどは現代の私たちが使用している文字でもある。ただ筆書きのくずし字は読みにくい。まずはなれること。様式・難易度の異なるものをコピーし、順次に解読していく。 工芸学部のディプロマポリシー 1 に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 授業の内容、進め方について 第2回 一枚の文書から 第3回 前近代の文章に慣れる① 第4回 前近代の文章に慣れる② 第5回 前近代の文章に慣れる③ 第6回 絵巻物の詞書を読む① 第7回 絵巻物の詞書を読む② 第8回 絵巻物の詞書を読む③ 第9回 絵巻物の詞書を読む④ 第10回 古文書を読む① 第11回 古文書を読む② 第13回 古文書を読む③ 第14回 古文書を読む④ 第15回 まとめ
成績評価	出席・授業への姿勢60%、期末試験40%
教科書	授業中にプリントを配布する。
参考書 参考資料	児玉幸多編『くずし字用例字典（普及版）』（東京堂出版）などのくずし字に関する字典類
履修上の注意	受講に関するルールは初回の授業で説明する。適宜、授業中に意見・発表を求める場合がある。くずし字典は必ず持参すること。
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して2時間の予習復習をすること。 なお授業中に使用する絵画史料や古文書については、あらかじめプリントを配布するが、予習・復習の時点で図書やWebなどを介し自身で検索・閲覧をおこなっておくこと。
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを次回以降の授業内で行う。
科目ナンバリング	CRA-DE 3 11 S

講義名	伝統建築論 I		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 岡北 一孝	KYOB I 工芸学部

到達目標	ヨーロッパの建築や都市を解説することで、単なる様式理解に留まらず、実際にヨーロッパを旅行した際に、建築や街を鑑賞する手引きにもなるような「建築の見方」を獲得する。その知識はいま我々が生活する「場」を形作る建築や都市についての理解を深める。 なお、建築作品の詳細だけでなく、建築に独特の用語や、技術的な問題、建築創作における美的・哲学的な意識についても十分に理解する。 なお、教科書に書かれていることを十分に理解し、正確な知識を得られるために、「いかにして本を読むのか」についても学ぶ。
授業概要	この授業はヨーロッパの建築と都市の歴史を扱う。様式をてがかりに、編年的に古代から現代までを追っていく。 幅広い地域の建築や都市を扱うが、イタリアの事例が中心となる。様式史に従いつつ古代ギリシアから通史的に進める。各回の講義は古代、中世、ルネサンスと時代様式ごとに完結した内容で、いくつかの建築作品や都市を概観し、その特徴を述べる。様式を異にする事例との比較考察も随時織り交ぜることで、理解を深めていく。実際に形作られた建築や都市だけでなく、建築論や理想都市のような概念的、思弁的なものも取り上げて、建築文化の豊かさを示したい。最後に講義の内容の復習を兼ねて、教科書『リノベーションからみる西洋建築史』からいくつかの章を取り上げて、テキスト読解を進めながら、その内容を整理・議論する。 本科目は工芸学部ディプロマポリシーの1および建築学科のディプロマポリシー1、2に該当する。
授業計画 授業内容	全90分×15回 第01回：ガイダンスとイントロダクション 第02回：古代-古代ギリシアという起源、オーダーと比例 第03回：古代-ギリシアからローマへ 第04回：古代-古代ローマ建築の絶頂期 第05回：キリスト教建築のはじまり-信仰の空間、教会堂建築の誕生 第06回：中世-ロマネスク、「ローマ風」の建築 第07回：中世-ゴシック建築、大聖堂と中世の都市 第08回：ルネサンス-フィレンツェからイタリア各地へ 第09回：ルネサンス-ローマの傑作と理想都市への憧憬 第10回：ルネサンス-マニエリスムと各国のルネサンス建築 第11回：バロック-バロック都市とポツロミーニとベルニーニ 第12回：教科書第1章「都市組織の中に生き続ける古代建築」 第13回：教科書第2章「再利用による創造、改変 がもたらした保全」 第14回：教科書第3章「古代末期から中世へ」 第15回：教科書第8章「建築が紡ぐ人々の意志」 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	毎回配布する小レポート用紙(20%)と期末レポート(80%)の合算で評価する。レポート課題については追って知らせる。
教科書	伊藤喜彦・顕原澄子・岡北一孝・加藤耕一・黒田泰介・中島智章・松本裕・横手義洋『リノベーションからみる西洋建築史：歴史の継承と創造性』、彰国社、2020年
参考書 参考資料	教科書の他には、授業で使用するスライドをPDFデータ化したものを学内サーバにアップロードし、適宜自作のプリントや用語集を配布する。
予習・復習指導	一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。 講義中に出てくる専門用語(オーダー、フライング・バットレス等)について、配布した用語集や、スライドのPDFデータを活用し、調べておくこと。 なお教科書を丁寧に読み、授業との関連性を意識しながら、建築史と建築創作の関わりについて理解すること。
課題に対するフィードバックの方法	小レポート用紙に書かれた質問、疑問などについて、次の講義の冒頭にて返答、回答する。
科目ナンバリング	CAT DE 2 12 L

講義名	伝統建築論Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 高田 光雄	KYOB I 工芸学部
教授	井上 晋一	KYOB I 工芸学部
准教授	生川 慶一郎	KYOB I 工芸学部

到達目標	京町家や細街路（路地）の保全・継承・再生の意義、まちづくり（コミュニティ・デザイン）に関わる学理、方法、実践、社会システムを理解する。まちづくり（コミュニティ・デザイン）にかかわる実践的対応能力の開発を行う。
授業概要	京町家や細街路（路地）の保全・継承・再生の意義を概説するとともに、京町家などの伝統的建築が残る生活空間の現代的再編・再生を目的としたまちづくり（コミュニティデザイン）に関する講義を行う。また、フィールドワークやワークショップの方法を学んだ上でまちづくりの現代的課題と実践にかかわる演習を行う。 建築学科のディプロマポリシー 1、2、3、4に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 回 第 1 回 講義概要・履修指導 第 2 回 町家・細街路・リノベーション(1) 第 3 回 京町家・細街路・リノベーション(2) 第 4 回 京町家・細街路・リノベーション(3) 第 5 回 フィールドワーク論(1) 第 6 回 フィールドワーク論(2) 第 7 回 フィールドワーク論(3) 第 8 回 まち歩き 第 9 回 フィールドワーク演習準備 第10回 フィールドワーク演習(1) 第11回 フィールドワーク演習(2) 第12回 演習発表・講評(1) 第13回 ワークショップ(1) 第14回 ワークショップ(2) 第15回 演習発表・講評(2)
成績評価	演習（40点満点）と 提出課題（60点満点）の合計点が60点以上を合格とする。
教科書	なし（配布資料あり、パワーポイントなどを使用）
参考書 参考資料	講義において紹介する。
履修上の注意	本講義中に行うフィールドワークには必ず出席し、ワークショップに臨むこと。フィールドワーク時には、大学生としての自覚を持ち、事故のないよう注意すること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して、4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	伝統建築論Ⅰ
課題に対するフィードバックの方法	演習ごとに講評・質疑応答などを行う。
教員の実務経験	調査研究実務経験豊富
科目ナンバリング	CAT-DE 3 13 L

講義名	建築計画Ⅲ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 森重 幸子	KYOB I 工芸学部

到達目標	学校、美術館、図書館、ホールといった様々な建築物について、用途に応じて求められる計画的知識を身に着けるとともに、事例の分析を通じてそこで行われる人々の活動を豊かにする設計的な工夫について学ぶ。
授業概要	建築計画学の一般理論をビルディングタイプ別に講義する。また各種建築物の個別の計画手法について、具体的な建築家作品をあげながら解説する。複合施設や現代的な現象である変容についても言及し、今後の建築計画学のあり方についても展望する。 各自でも事例分析を行いレポートとしてまとめる。建築物の計画的な特徴について言語化することを通して、その建築物に求められる機能や、空間の豊かさ、計画的合理性など、多角的な観点から建築物を評価する力を養う。 建築学科のディプロマポリシーの1、2に該当する。
授業計画 授業内容	週1コマ×15回 第1回 ガイダンス、概論 第2回 文化施設:美術館・博物館・劇場(1) 第3回 文化施設:美術館・博物館・劇場(2) 第4回 文化施設:美術館・博物館・劇場(3) 第5回 教育施設:小学校、中学校(1) 第6回 教育施設:小学校、中学校(2) 第7回 教育施設:幼稚園、保育園 第8回 文化施設:図書館 第9回 事例分析、レポート発表 第10回 居住施設:集合住宅(1) 第11回 居住施設:集合住宅(2) 第12回 福祉施設:高齢者入居施設 第13回 福祉施設:病院 第14回 業務施設:オフィスビル 第15回 公共空間:外部空間
成績評価	期末テスト・小テスト(70%)とレポート及び学習状況(30%)により総合的に評価する。
教科書	川崎寧史他 『テキスト建築計画』学芸出版社
参考書 参考資料	『第3版コンパクト建築設計資料集成』(丸善)
履修上の注意	建築計画に関する事例研究をすることで、講義を深く理解するよう努めること。
予習・復習指導	一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。 各回の授業の前に、参考書の『コンパクト建築設計資料集成』の該当する建築用途のページを読み予習すること。授業後に、教科書の該当する建築用途のページを読み復習すること。 建築を学ぶ学生としていろいろな建物に興味を持ち見学する事を勧める。
関連科目	「建築デザイン演習Ⅰ、Ⅱ」、「建築計画Ⅰ、Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	レポートについてのフィードバックを講義時間内に行う。 小テストの解答・解説を授業時間内に行う。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	CAT-DE 2 16 L

講義名	建築計画Ⅳ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 高田 光雄	KYOB I 工芸学部

到達目標	建築計画学の基礎概念や現代的課題について理解する。また、それらをふまえて、居住空間の現代的再編・再生を目的とした、住居・住環境の計画、設計、整備、運営のあり方や方法に関する基礎的知識と技術を習得する。（建築の設計・計画的側面の理解能力の獲得）
授業概要	住居はあらゆる建築の原点である。本講義では、建築計画学の基礎的概念や現代的課題について概説するとともに、人間居住についての多面的考察をふまえ、様々なレベルでの居住空間の構成原理を示し、併せて、居住空間の現代的再編・再生を目的とした住居・住環境の計画、設計、整備、運営などに関わる学理と実践について具体的に講述する。 建築学科のディプロマポリシー 1、2、3、4に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 回 第1回 講義概要・履修指導 第2回 建築計画学・住居計画学とは何か 第3回 第二次世界大戦後のわが国の住まい 第4回 人間と建築・住居：近代建築の失敗に学ぶ 第5回 空間の機能：住宅は住むための機械なのか 第6回 空間の組織化：動線と空間組織図からみた建築・住居 第7回 中間まとめ：住居計画のための建築計画的基礎 第8回 公共性・社会性と住居計画（空間における公・共・私の関係） 第9回 地域性・場所性と住居計画（地方性と地域性・空間と場所） 第10回 多様性・適合性と住居計画（スケルトン・インフィル） 第11回 近未来の都市居住（実験集合住宅 NEXT21 の実験） 第12回 少子高齢社会と住居計画1（高齢社会と長寿社会） 第13回 少子高齢社会と住居計画2（自立と交流の支援）【演習課題出題】 第14回 地球環境問題と住居計画1（住居計画における環境配慮） 第15回 地球環境問題と住居計画2（生活文化の継承・発展と環境配慮）
成績評価	演習（30 点満点）と期末 試験（70 点満点）の合計点が60 点以上を合格とする。
教科書	なし（配布資料あり。パワーポイント、ビデオなどを使用）
参考書 参考資料	講義において紹介する。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して、4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	建築計画Ⅰ、建築計画Ⅱ、建築計画Ⅲ
課題に対するフィードバックの方法	講義の中で演習の講評や質疑、応答などを行う
科目ナンバリング	CAT-DE 3 17 L

講義名	建築設備		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 橋本 頼幸	KYOB I 工芸学部

到達目標	建築諸設備を、シェルターである建築構造や建築環境との相互関係を理解し、都市の基幹設備（インフラストラクチャー）や環境との関連を把握し、環境に配慮したシステム設計の基礎を習得する。
授業概要	本科目は工芸学部ディプロマポリシーの①に該当する。 シェルターとしての建築を安全・快適・健康・利便で、人間のあらゆる生活活動に供できる環境を作り上げるのに不可欠な建築の数々の設備システムの基礎を理解し、適切に設計する基礎技術の習得を目的とする。
授業計画 授業内容	1. 建築設備とは 2. 情報・通信設備 3. 給水設備 1 4. 給水設備 2 5. 給湯設備 6. 排水・通気設備 1 7. 排水・通気設備 2 8. ガス設備 9. 防災設備 1 10. 防災設備 2 11. 空調設備 1 システム 12. 空調設備 2 負荷計算 13. 空調設備 3 熱源 14. 空調設備 4 搬送 15. まとめ
成績評価	提出課題 (20%) および期末試験 (80%)
教科書	図解 建築設備 (森北出版株式会社)
参考書 参考資料	絵解き建築設備、吉村武、世良田崇、オーム社
履修上の注意	講義を通して学んだことは、実生活を通して観察、体験および計算をすることで理解を深めること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 （具体的な内容） 教科書の当該部分を読み、当該設備が建築にどう組み込まれているかを実物を見て調べておくこと。
関連科目	「建築設備」他建築関連科目
課題に対するフィードバックの方法	出席プリントに記載された質問などは、次回以降の授業で解説・説明する。 期末試験の解答・解説はWebにて公表する。
教員の実務経験	有
科目ナンバリング	CRA-DE 3 18 L

講義名	建築一般構造Ⅱ(1年生)		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 戸高 太郎	KYOB I 工芸学部
助教	新谷 謙一郎	KYOB I 工芸学部

到達目標	「鋼構造」・「鉄筋コンクリート」の構成を覚え、基本原理を理解する。
授業概要	1. 建築物の架構としての「鉄筋コンクリート構造」の構成、基本原理について学ぶ。 2. 建築物の架構としての「鋼構造」の構成、基本原理について学ぶ。 建築学科のディプロマポリシー 1 に係る
授業計画 授業内容	全15回 第 1 回 鉄筋コンクリート構造 (1) 鉄筋コンクリートラーメン構造の基本構成 第 2 回 鉄筋コンクリート構造 (2) 鉄筋コンクリートラーメン構造の基本構成 第 3 回 鉄筋コンクリート構造 (3) 鋼材及びコンクリートの特徴 第 4 回 鉄筋コンクリート構造 (4) 配筋原理 第 5 回 鉄筋コンクリート構造 (5) 部材の設計 第 6 回 鉄筋コンクリート構造 (6) 部材の設計 第 7 回 鉄筋コンクリート構造 (7) 陸屋根の防水 第 8 回 鉄筋コンクリート構造 (8) 仕上げ等 第 9 回 鋼構造 (1) 鋼材の特徴／鉄骨造の基本構成 第 10 回 鋼構造 (2) ボルト接合部の設計 第 11 回 鋼構造 (3) 溶接接合部の設計 第 12 回 鋼構造 (4) 床スラブ・壁 第 13 回 壁式構造 補強コンクリートブロック造、壁式鉄筋コンクリート造 第 14 回 各部構法 開口部、階段 第 15 回 造作と納まり 和室の造作 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	定期試験の結果 (40%) 授業レポートの提出状況・内容 (60%)
教科書	『建築構法』第五版 内田祥哉著 市ヶ谷出版社 『世界で一番楽しい建物できるまで図鑑 RC造・鉄骨造』 大野隆司著 エクスナレッジ
参考書 参考資料	資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する授業レポートの提出を毎回行う。
予習・復習指導	一講義 (1コマ) に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習: 0.5時間 (テキストの次回講義部分を読む) 復習: 4.0時間 (授業ノートの整理等)
関連科目	「工芸実習基礎Ⅱ」 「建築材料」 「建築施工法」 「建築一般構造Ⅰ」 「建築構造力学Ⅲ」 他
課題に対するフィードバックの方法	授業レポートのフィードバックを次回の講義内で行う。

講義名	建築一般構造Ⅱ(2年生)		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 戸高 太郎	KYOB I 工芸学部
助教	新谷 謙一郎	KYOB I 工芸学部

到達目標	「鋼構造」・「鉄筋コンクリート」の構成を覚え、基本原理を理解する。
授業概要	1. 建築物の架構としての「鉄筋コンクリート構造」の構成、基本原理について学ぶ。 2. 建築物の架構としての「鋼構造」の構成、基本原理について学ぶ。 建築学科のディプロマポリシー 1 に係る
授業計画 授業内容	全15回 第 1 回 鉄筋コンクリート構造 (1) 鉄筋コンクリートラーメン構造の基本構成 第 2 回 鉄筋コンクリート構造 (2) 鉄筋コンクリートラーメン構造の基本構成 第 3 回 鉄筋コンクリート構造 (3) 鋼材及びコンクリートの特徴 第 4 回 鉄筋コンクリート構造 (4) 配筋原理 第 5 回 鉄筋コンクリート構造 (5) 部材の設計 第 6 回 鉄筋コンクリート構造 (6) 部材の設計 第 7 回 鉄筋コンクリート構造 (7) 陸屋根の防水 第 8 回 鉄筋コンクリート構造 (8) 仕上げ等 第 9 回 鋼構造 (1) 鋼材の特徴／鉄骨造の基本構成 第 10 回 鋼構造 (2) ボルト接合部の設計 第 11 回 鋼構造 (3) 溶接接合部の設計 第 12 回 鋼構造 (4) 床スラブ・壁 第 13 回 壁式構造 補強コンクリートブロック造、壁式鉄筋コンクリート造 第 14 回 各部構法 開口部、階段 第 15 回 造作と納まり 和室の造作 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	定期試験の結果 (40%) 授業レポートの提出状況・内容 (60%)
教科書	『建築構法』第五版 内田祥哉著 市ヶ谷出版社 『世界で一番楽しい建物できるまで図鑑 RC造・鉄骨造』 大野隆司著 エクスナレッジ
参考書 参考資料	資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する授業レポートの提出を毎回行う。
予習・復習指導	一講義 (1コマ) に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習: 0.5時間 (テキストの次回講義部分を読む) 復習: 4.0時間 (授業ノートの整理等)
関連科目	「工芸実習基礎Ⅱ」 「建築材料」 「建築施工法」 「建築一般構造Ⅰ」 「建築構造力学Ⅲ」 他
課題に対するフィードバックの方法	授業レポートのフィードバックを次の講義内で行う。

講義名	建築構造力学Ⅲ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 新谷 謙一郎	KYOB I 工芸学部

到達目標	構造設計における構造力学の理解を深める。
授業概要	不静定構造について解説した後、動力学および地震応答解析の基本的な事柄を説明する。 建築学科のディプロマポリシーの1に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 第2回 静定と不静定について 第3回 不静定梁 (1) 第4回 不静定梁 (2) 第5回 不静定骨組 (1) 第6回 不静定骨組 (2) 第7回 不静定骨組 (3) 第8回 崩壊荷重 (1) 第9回 崩壊荷重 (2) 第10回 鉄筋コンクリート構造の設計 (1) 第11回 鉄筋コンクリート構造の設計 (2) 第12回 動力学 (1) 第13回 動力学 (2) 第14回 動力学 (3) 第15回 動力学 (4) ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	定期試験・小テストの結果 (50%) および演習課題の提出状況等 (50%) により評価する。
教科書	「はじめて学ぶ建築構造力学」 森北出版
参考書 参考資料	演習問題等の資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する演習課題を毎回行う。
予習・復習指導	一講義 (1コマ) に対して4.5時間の復習をすること。 (授業ノートの整理、前回演習課題の復習等)
関連科目	「建築構造力学Ⅰ」 「建築構造力学Ⅱ」 「建築一般構造Ⅰ」 「建築一般構造Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	演習課題のフィードバックを次回の講義内で行う。
科目ナンバリング	CAT - DE 3 20 L

講義名	建築施工法		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 河村 大助	KYOB I 工芸学部

到達目標	建築生産(1企画・計画、2設計、3施工、4保全、5解体・廃棄)の一連の流れの中での計画、設計、施工の位置づけと各生産工程の係わり合いおよび建築生産について理解する。
授業概要	この授業は将来、建築・インテリア等に関わる職業を志望する学生諸君を対象とし、「建物はどのように作られるか」について具体的事例をビジュアルに示しつつ平易に解説する。単に施工だけではなく建設の全体プロセスとの関係を重視し、前段階の計画・設計および完成後のリニューアルまで視野に入れた内容とすることにより、建築施工法のより深い理解を目指す。 本科目は建築学科のディプロマポリシーの1に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 自己紹介、ガイダンス、建築生産とは1 第2回 建築生産とは2、小テスト 第3回 解体工事、小テスト 第4回 準備工事(調査)、小テスト 第5回 準備工事(仮設)、山留め工事、小テスト 第6回 杭工事、土工事、小テスト 第7回 躯体工事(コンクリート)1、小テスト 第8回 躯体工事(コンクリート)2、小テスト 第9回 躯体工事(鉄骨)3、小テスト 第10回 外装工事、小テスト 第11回 内装工事、小テスト 第12回 設備工事、小テスト 第13回 外構・その他工事、竣工、小テスト 第14回 維持・保全・改修、小テスト 第15回 建築生産とデザイン、総括
成績評価	出席態度(40点)、各授業の最後に小テスト(60点)を行う。
教科書	「施工がわかる イラスト建築生産入門」 日本建設業連合会編 彰国社
参考書 参考資料	授業の中で随時紹介する
履修上の注意	各授業の中で随時指示する。
予習・復習指導	1講義(1コマ)に対して2時間の復習をすること。
関連科目	「建築計画」、「建築一般構造」、「建築材料」、「建築法規」、「建築構造力学1・2」
課題に対するフィードバックの方法	小テストについては、次の講義の冒頭で、回答及びポイントの解説を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-DE 3 21 L

講義名	公共デザイン論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山内 貴博	KYOB I 工芸学部
教授	中井川 正道	KYOB I 工芸学部

到達目標	公共物に対するデザインについて全般的な内容および価値観等を理解し、都市空間における問題点を解決する能力を養う。
授業概要	公共物、空間に対する社会的役割、価値について講述する。 工芸学部のディプロマポリシー 1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 デザイン・サーヴェイ 第2回 街の見方・調べ方 第3回 記憶の視点 第4回 街の分析 1 第5回 街の分析 2 第6回 土地利用 第7回 敷地計画 第8回 小レポート 第9回 土木分野における公共デザイン 第10回 土木施設の役割と景観 第11回 景観法と景観デザイン 第12回 施設形状、ボリュームのデザイン 第13回 色彩、素材のデザイン 第14回 住民コンセンサス手法 (アカウンタビリティ、ワークショップ他) 第15回 小レポート「景観デザインの役割について」
成績評価	授業態度60%、第8回小レポート各20%、第15回小レポート各20%
教科書	配布資料、映像等
参考書 参考資料	「路上と観察をめぐる表現史」フィルムアート社 「復刻 デザイン・サーヴェイ」彰国社 「住み継がれる家の価値総集編」財) 勤労者住宅協会 「シビックデザイン自然、都市、人々の暮らし」大成出版社 「カラーコーディネーションの実際」環境色彩 東京商工会議所
履修上の注意	講義内容は前半が山内担当、後半は中井川担当に別れるが、両分野は密接な関係にあり一体的なものである。従って、片方に偏ることなく受講すること。
予習・復習指導	一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。 都市計画、都市デザイン、ランドスケープ、土木、景観などに関する用語の概念をできるだけ調べ理解に努めること。
関連科目	建築計画Ⅱ 建築計画Ⅳ 伝統建築論Ⅱ デザイン概論 色彩理論演習
課題に対するフィードバックの方法	小レポートに関してフィードバックをする場合は、点数だけではなくコメント等を記載して返却する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-DE322L

8. 専門教育科目 － 専門演習・実習科目

美術工芸学科

講義名	芸術導入演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 工芸学部
講師	岡 達也	KYOB I 工芸学部

到達目標	専門教育のための基礎として描画力を養う。 芸術的なアプローチを試み、描画表現によるメッセージの伝達スキルを学ぶ。
授業概要	専門教育を受けるための基礎的な表現力を身に着ける。 課題のテーマを基に表現イメージを想像する。 想像を確実なものとするために既存の作品や画像を集め想像を明確化する。 明確化した像を表現に写す。 表現は細密描写を前提とする。 美術工芸学科ディプロマポリシー1に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス 第2回 テーマに関する調査 第3回 テーマに関する調査 第4回 テーマに関する調査 第5回 下書き 第6回 下書き 第7回 進捗報告会 第8回 本制作 第9回 本制作 第10回 本制作 第11回 本制作 第12回 本制作 第13回 本制作 第14回 本制作 第15回 合評会 * 課題の詳細はガイダンス時に示す
成績評価	演習態度・課題の取り組み50%、提出作品50%によって評価する
教科書	適宜資料を配布する
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介する
履修上の注意	プロセス上の不明点や疑問点等は担当教員に速やかに相談する。 教員のアドバイス等を十分に理解する。 教員とのコミュニケーションを出来るだけとる。 プレゼンテーションの準備をしっかりと行う、また積極的に質問を行う。
予習・復習指導	描く習慣をつけるため、平素から身の回りの物や人、風景をスケッチする。 一講義（2コマ）に対して3 時間の予習復習をすること。
関連科目	「芸術導入実習」「造形基礎演習I」
課題に対するフィードバックの方法	適宜講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP101S

講義名	芸術導入実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 工芸学部
教授	津村 健一	KYOB I 工芸学部
教授	浅見 武	KYOB I 工芸学部
講師	青木 太一	KYOB I 工芸学部
講師	遠藤 公誉	KYOB I 工芸学部
講師	玉村 嘉章	KYOB I 工芸学部
特任准教授	三木 表悦	KYOB I 工芸学部
特任准教授	富家 大器	KYOB I 工芸学部

到達目標	導入教育の一環として専門教育を受けるための基盤を学ぶ。 各々の領域および分野における知識と技術を学ぶ。
授業概要	領域および分野の基礎的な内容について触れ、自己の思考に照らし今後の進むべき方向性を確認する。 美術工芸学科ディプロマポリシー 1, 2, 3, 4に該当する。
授業計画 授業内容	第 1週 ガイダンス（領域および分野別） ・ 第15週 講評（領域および分野別） * 領域および分野ごとの課題はガイダンス時に提示する。 デザイン…企画/構想、調査/分析、問題発見/整理、コンセプト立案/計画等のプロセス。それらを明確化するための表現、エスキス/ドローイング/モデリング、プレゼンテーション等デザインに必要な一連の流れを学ぶ。 また、表現に必要な画材や材料の加工方法などを習得する。 漆芸…漆芸技法の内、基本となる髹漆技法（下地・塗りの工程）に不可欠な道具作りの方法を習得する。塗師屋小刀（包丁）・切出小刀と呼ばれる刃物類の研ぎ、ヒノキベラの削り、漆刷毛の布着せと漆塗り・切り出し・叩きほぐしが作業内容である。各自所有の刃物を自分で研ぎ、その他の道具もその刃物で加工する。専用の漆刷毛には補強用に漆で布を貼り、表面に漆を塗り込む。ごく初歩の刷毛と漆の扱いも併せて習得する。 陶芸…陶磁器工芸と文化との関係について歴史的な変遷を学ぶ。桃山時代に確立した灰釉陶磁器（織部・唐津など）を通して、釉薬と素地の素材技術・成形技術および焼成技術を理解する。また陶磁器の製造技術の基礎であるタタラ成形による器作りや呉須・鉄絵による下絵付け技法、更には色絵陶器の基礎である上絵付け技法を学び、そして制作することで陶磁器工芸の基礎知識を習得する。 木工・彫刻…木工技法の1つである指物と、彫刻技法の基本である地紋彫りを行う。指物では鉋・鑿の刃の研磨 方法に始まり、道具を使用出来る状態にするための調整・仕込み法を学ぶ。それらの道具を用いてあらね組、蟻組の加工方法を学ぶ。彫刻では輪子文様の地紋彫りを行い、作図法、彫刻等の仕込みと研磨法、運刀の基本を学ぶ。その後には櫻花菱文様の地紋彫りを行い丸刀の研磨法やより複雑な文様の彫刻を学ぶ。
成績評価	実習中の態度50%、習得度20%、提出作品30%等を基本に総合的に判断する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
履修上の注意	予習・復習をすることで材料技法を深く理解するように努めること。
予習・復習指導	実習1コマに対し1.5時間の復習を行う。 実習後に内容の確認と次回への準備を確実にを行う。
課題に対するフィードバックの方法	授業内で質疑応答を行う。領域、分野別に講評を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP002P

講義名	造形基礎演習 I		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 渡邊 俊博	KYOB I 工芸学部
助教	加納 奈都	KYOB I 工芸学部
特任准教授	富家 大器	KYOB I 工芸学部

到達目標	一般にはセンスという言葉で表されている造形感覚を身に着ける。
授業概要	点・線・面、比率、量、空間などを意識した際に現れる美的なバランスを学ぶ。 工芸学部ディプロマポリシー2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第 1回 オリエンテーション 第 2回 平面構成 : 比率・形態について 第 3回 平面構成 : エスキース 第 4回 平面構成 : 制作 第 5回 平面構成 : 合評会 第 6回 立体構成 : 関係を考える 第 7回 立体構成 : エスキース 第 8回 立体構成 : 制作 第 9回 立体構成 : 制作 第10回 立体構成 : 合評会 第11回 空間構成 : 構造とフォルム 第12回 空間構成 : エスキース 第13回 空間構成 : 制作 第14回 空間構成 : 制作 第15回 空間構成 : 合評会
成績評価	授業態度40%、3課題の完成度60%（各20%）により評価する。
参考書 参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	構想や試作段階で数多くの検討をする事。
予習・復習指導	試作を数多く作り、教員の意見を聞く事。 一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。
関連科目	素描、構成基礎演習
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP103S

講義名	造形基礎演習Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 渡邊 俊博	KYOB I 工芸学部
助教	加納 奈都	KYOB I 工芸学部
特任准教授	富家 大器	KYOB I 工芸学部

到達目標	身近な素材を使って芸術的な価値をもたせるためには、まず多様な思考のもとに生み出されるアイデアが重要となる。そのアイデアを生むための多様な思考の必要性を理解することを目指す。
授業概要	「紙」を基本的な素材とする「あかり」を制作する。私たちが暮らす上で「あかり」の存在は不可欠である。 その「あかり」は大きさ、強さ、色合いなど様々である。また、それらが見せる陰影は心理的な感情を左右するメッセージを有する。そのメッセージは時間とともに変化すると考えようのないもので、不確実なものである。 そのような性質をもつ「あかり」をコントロールすることの重要性を学ぶ。 美術工芸学科ディプロマポリシー2に該当する
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション、課題説明・アイデアの探し方 第2回 アイデアと素材（素材に触れる） 第3回 アイデアと素材（素材の観察） 第4回 アイデアと素材（立体構成） 第5回 アイデアと材料（エスキスと立体模型 1） 第6回 アイデアと素材（エスキスと立体造形 2） 第7回 中間プレゼンテーション（アイデア発表） 第8回 中間プレゼンテーション（アイデア発表） 第9回 実物の検証（大きさと明るさの検証） 第10回 実物の検証（光と色を考える） 第11回 実制作・紙立体照明の組み合わせ 1 第12回 実制作・紙立体照明の組み合わせ 2 第13回 実制作・紙立体照明の組み合わせ 4 第14回 実制作・紙立体照明の組み合わせ 5 第15回 プレゼンテーション・講評会
成績評価	授業態度20% 課題制作の完成度60%、プレゼンテーション20%によって評価する。
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書 参考資料	必要に応じて資料を配布する。
履修上の注意	授業の性格上、各自の積極性・自主性が求められる。
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。
関連科目	造形基礎演習Ⅰ
課題に対するフィードバックの方法	中間、最終講評、質疑応答を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP204S

講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（漆芸）		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 遠藤 公誉	KYOB I 工芸学部
特任准教授	三木 表悦	KYOB I 工芸学部

到達目標	基礎的な髹漆技法について知識のみでなく、経験に基づいたより深い理解・認識を得ることを目標とする。目的に応じた道具類と素材の適切な調整方法と使用方法を身につけ、作業工程の理解・認識を深める。
授業概要	漆芸技法の内、基礎となる髹漆技法（きゅうしつぎほう：器物制作における下地・塗りの技法）の習得と理解を目指す。手板木地を土台に用いた布着せ本堅地呂色仕上げの技法、並びに原型に布を貼り重ねて胎を形成する布乾漆の技法を学ぶ。これらの下地・塗りの作業を反復して行うことを通じ、髹漆の技術を身につける。同時に作業に必要な道具の調整の方法も、工程に応じて学習する。 関連するディプロマポリシー：京都美術工芸大学ディプロマポリシー 1 美術工芸学科のディプロマポリシー 1・3 に係る
授業計画 授業内容	全15日／週2日（遠藤：2日／週） 第1週 本科目の概要説明 下地作業1：木地固め 乾漆作業1：和紙水貼り 第2週 下地作業2：木地固め研ぎ、布着せ 乾漆作業2：布貼り 第3週 下地作業3：布目揃え、目摺り錆 乾漆作業3：布目揃え、目摺り錆 第4週 下地作業4：地付け、地研ぎ 乾漆作業4：目摺り錆研ぎ、布貼り 第5週 下地作業5：地付け、地研ぎ 乾漆作業5：目摺り錆研ぎ、布貼り 第6週 下地作業6：地研ぎ、地固め 乾漆作業6：目摺り錆研ぎ、布貼り 第7週 下地作業7：錆付け、錆研ぎ 乾漆作業7：目摺り錆研ぎ、布貼り 第8週 下地作業8：錆付け、錆研ぎ 乾漆作業8：原型除去 第9週 下地作業9：錆付け、錆研ぎ、繕い錆付け 乾漆作業9：内側布貼り 第10週 下地作業10：繕い錆研ぎ、面取り、中塗り 乾漆作業10：内側布目揃え、目摺り錆 第11週 塗り作業11：中塗り研ぎ、中塗り 乾漆作業11：中塗り 第12週 塗り作業12：中塗り研ぎ、上塗り 乾漆作業12：中塗り 第13週 塗り作業13：上塗り呂色研ぎ、胴摺り、上摺 乾漆作業13：上塗り 第14週 塗り作業14：呂色磨き、上摺 乾漆作業14：上塗り 第15週 塗り作業15：呂色仕上げ磨き 乾漆作業15：研ぎ、仕上げ磨き 髹漆作業完成確認、総括
成績評価	技術の習得度40%、作品完成度40%、実習受講の積極性20%によって評価する。
教科書	なし 必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	「やさしく身につく漆のはなし」Ⅰ～Ⅳ 社団法人 日本漆工協会編 「漆芸品の鑑賞基礎知識」至文堂 「漆塗りの技法書」誠文堂新光社
履修上の注意	作業に使用する小刀・ヘラ木・刷毛・砥石などの道具の手入れを日常行うこと。また、参考書等文献からの関連する予備知識を得ておくこと。
予習・復習指導	予習：道具類の手入れ。主には刃物研ぎ、消耗したへらの削り直し。 復習：道具類の手入れ。遅れている作業がある場合には次回の実習までに極力追いつくように作業を進める。作業工程をポートフォリオにまとめ、学習の振り返りに役立てる。 1コマに対し0.5時間の事前学習及び1.0時間の復習をすること
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答をおこなう。
科目ナンバリング	CAC-SP105P

講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（木工・彫刻）		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
講師	◎ 青木 太一	KYOB I 工芸学部
講師	玉村 嘉章	KYOB I 工芸学部

到達目標	・各種道具（印刀・丸刀）の使用方法、研ぎ方の習得を深める。 ・基礎的な立体造形表現と技法を習得する。 ・削物の基本的な技法を習得する。
授業概要	「芸術導入実習（木工・彫刻）」で学んだ木彫刻の基礎をもとに、宝相華唐草文様の透かし彫り彫刻の制作を行う。透かし彫り彫刻は、表裏両面の浮彫り、地の部分の彫りぬぎを経て完成させる。次の工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（木工・彫刻）での課題のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作。 削物による器物の制作を通して適切な木取り法を理解し、荒取りから仕上げに到る工程を学ぶ。また基本的な塗装の方法についても学ぶ。 美術工芸学科のディプロマポリシー1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全15週 第1週 ・オリエンテーション（課題説明、課題作品の造形・各種道具の使用方法についての理解） ・削物作品考案、図案作成 第2週 ・透かし彫り用宝相華唐草文様の作図、作図の板材への転写 ・豆鉋制作①鉋台墨付練習 第3週 ・透かし彫り用宝相華唐草文様の作図、作図の板材への転写 ・豆鉋制作②檜鉋台豆平 第4週 ・糸のこにて透かす部分の抜き取り ・豆鉋制作③檜鉋台四方反り 第5週 ・糸のこにて透かす部分の抜き取り ・荒彫り①木取、図面転写、型紙作成 第6週 ・糸のこにて透かす部分の抜き取り、表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・荒彫り②丸のみ研ぎ、仕立て 第7週 ・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・荒彫り③ 第8週 ・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・中仕上げ①（内側 四方反り） 第9週 ・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・中仕上げ②（外側 豆平） 第10週 ・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・中仕上げ③ 第11週 ・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・仕上げ①ペーパー当て木製作 第12週 ・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り両面の仕上げ彫りから完成へ ・仕上げ② 第13週 ・立体彫刻の課題説明（課題作品の造形・各種道具の使用方法についての理解） ・仕上げ③塗装講座 第14週 ・木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・仕上げ④オイル塗装等 第15週 ・まとめ・合評
成績評価	履修態度（30%）・技術習得度（30%）・作品完成度（40%）によって評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	西川新次著 『平等院大観 第2巻 彫刻』（岩波書店 1987） 「盆百選」（平安堂書店 1972）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	透かし彫り彫刻の実際の作品を古寺社寺で見学、スケッチするなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。 実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する彫刻刀及び叩き鑿を研ぎ、切れ味のよい状態で課題に入れるように準備しておく。 1コマに対し1.5時間の復習をする事。
関連科目	「芸術導入実習（木工・彫刻）」「日本工芸美術史」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP105P

講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅰ(陶芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 浅見 武	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	小野 多美枝	KYOB I 工芸学部

到達目標	日本の伝統的な灰釉を用いた祥瑞・色絵陶器について、その歴史的な変遷と基礎的な製作工程を理解し、現在における陶磁器工芸の基礎を理解することを目的に、基礎となる灰釉調合調製方法から当時の祥瑞・色絵陶器の素材調製方法・成形技法・加飾技法を実習し、さらに陶磁器製造技術を深く就学することを目標とする。
授業概要	江戸後期に確立された日本の伝統的な祥瑞・色絵陶器について、素材である素地と灰釉薬の素材実習と、基礎的なろくろ成形実習、および基礎的な下絵付・上絵付・化粧技法の加飾実習を行い、陶磁器製造の基礎を習得する。 美術工芸学科ディプロマポリシー 1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全15週 第1週 課題説明・テストピース用石膏型作り・小煎茶碗道具作成 第2週 テストピース作り 化粧(生) 第3週 荒もみ・菊もみ ロクロ実習(土殺し・土取り・盃引き)・灰釉ピース素焼焼成実習(OF) 第4週 ロクロ成形(小煎茶碗水挽き)(信楽30個)(カンナ等道具作り) 第5週 ロクロ成形(小煎茶碗水挽き)(磁器30個) 第6週 ロクロ成形(小煎茶碗水挽き)(磁器30個) 第7週 ロクロ成形(小煎茶碗削り) 第8週 ロクロ成形(小煎茶碗削り)・素焼焼成実習(OF)・長石を用いた灰釉の調合・施釉 第9週 陶石・含鉄を用いた灰釉の調合・施釉・本焼焼成実習(OF・RF) 第10週 灰釉・化粧土のピース貼り付け・レポート 第11週 染付：小煎茶碗(ろくろ線)練習 第12週 染付：小煎茶碗(割付け・小紋)練習 第13週 染付：小煎茶碗(小紋)練習 第14週 染付：小煎茶碗(ろくろ線・割付け・小紋)清書・本焼焼成実習(RF) 第15週 染付：小煎茶碗(ろくろ線・割付け・小紋)清書 成形実習・加飾実習・釉薬実習の講評 ※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。
成績評価	授業態度30%・技術習得30%・レポートと作品完成度40%により総合的に評価する。
教科書	実習プランを含めたテキストを配布、必要に応じて適宜資料を配布。
参考書 参考資料	日本陶磁大系(平凡社) やきものと釉薬—基本的な考え方(理工学社) [その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する]
履修上の注意	陶磁器の素材・制作技術・加飾技術の予備知識を得る。デザインはあらかじめ予習し、実習時には決定しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	(内容) 実習において配布する資料や実践指導で習得過程目標としている成形技法・加飾技法の反復練習に励むこと、また時間に余裕があれば事前に素材の成分や効果を調べておく。 (時間) 実習1コマに対して1.5時間の復習をすること。
関連科目	「芸術導入実習(陶芸)」 「日本美術史」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP105P

講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅰ(デザイン)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
教授	◎ 津村 健一	KYOB I 工芸学部
教授	中井川 正道	KYOB I 工芸学部
教授	渡邊 俊博	KYOB I 工芸学部
講師	岡 達也	KYOB I 工芸学部

到達目標	1年次に学んだ造形的バランス感覚を、目的（用途）に基づいて応用し、視覚性（造形性）・機能性を統合するデザインの思考を身に着ける。 ・表現手法を習得し、次年度からの展開に応用する力をつける。
授業概要	導入教育では純視覚性（造形性）・独自性に力点を置いた芸術的アプローチを行ったが、本科目では平面系・立体系それぞれの課題ごとに指定された目的（用途）・デザイン計画を基に、事例研究から目標設定というデザインのアプローチを行い、目標達成のために造形的要素がどの様に機能し得るのか、実制作を通して考察する。
授業計画 授業内容	全15回/週2日 第1週 オリエンテーション 第2週 事例研究 第3週 目標設定 第4週 アイデア創出 第5週 コンセプト立案 第6週 エスキース制作1 第7週 エスキース制作2 第8週 中間発表 第9週 設計・レイアウト1 第10週 設計レイアウト2 第11週 実制作1 第12週 実制作2 第13週 実制作3 第14週 実制作4 第15週 合評会 ＊選択したコースにより若干の変更があります。
成績評価	授業態度（40％）、提出課題完成度（60％）によって総合的に評価する。
参考書 参考資料	授業を通して適宜紹介する。
履修上の注意	演習作品は各テーマ切り替えまでに完成させる事。 道具の整理整頓、後片づけに留意のこと。
予習・復習指導	試作を2点以上作り、授業時に指導教員の意見を聞くこと。
関連科目	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP105P

講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（漆芸）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 遠藤 公誉	KYOB I 工芸学部
特任准教授	三木 表悦	KYOB I 工芸学部

到達目標	基礎的な加飾技法について、知識だけでなく経験に基づいた深い理解と認識を得ることを目標とする。目的に応じた蒔絵筆などの道具類と素材の適切な調整方法や使用方法を身につける。																															
授業概要	漆芸技法の内、加飾技法（かしよくぎほう：無地の器物表面に図案などを描き加え模様として表す技法）の基礎的な技術の習得を目指す。蒔絵筆の扱いの基本動作を身につけるための線描き蒔絵を、銀丸粉1号と呼ばれる磨き仕上げの金属粉を用いて学習する。図案は3種類課題として用意している。青貝技法ではアワビの薄貝を素材に用い、模様を切り出し漆で貼りつけて表わす。作業に必要な道具類の調整の方法も工程に応じて学習する。 関連するディプロマポリシー：京都美術工芸大学ディプロマポリシー 1 美術工芸学科のディプロマポリシー 1・3 に係る																															
授業計画 授業内容	全30日／週2日（遠藤：2日／週） <table><tr><td>第1週 準備作業1：本科目の概要説明、置き目作成</td><td>青貝作業1：薄貝切り出し</td></tr><tr><td>第2週 準備作業2：置き目作成</td><td>青貝作業2：薄貝切り出し、貼り付け</td></tr><tr><td>第3週 準備作業3：置き目作成</td><td>青貝作業3：薄貝切り出し、貼り付け</td></tr><tr><td>第4週 準備作業4：絵漆調合、焼き漆作成、置き目留め・押し</td><td>青貝作業4：括り</td></tr><tr><td>第5週 準備作業5：置き目留め・押し</td><td>青貝作業5：中塗り</td></tr><tr><td>第6週 蒔絵作業1：線描き、粉入れ</td><td>青貝作業6：中塗り研ぎ</td></tr><tr><td>第7週 蒔絵作業2：木砥掃除、線描き、粉入れ</td><td>青貝作業7：中塗り</td></tr><tr><td>第8週 蒔絵作業3：木砥掃除、線描き、粉入れ</td><td>青貝作業8：中塗り研ぎ</td></tr><tr><td>第9週 蒔絵作業4：木砥掃除、線描き、粉入れ</td><td>青貝作業9：上塗り</td></tr><tr><td>第10週 蒔絵作業5：木砥掃除、線描き、粉入れ</td><td>青貝作業10：上塗り炭研ぎ</td></tr><tr><td>第11週 蒔絵作業6：木砥掃除、線描き、粉入れ</td><td>青貝作業11：上塗り炭研ぎ、胴摺り</td></tr><tr><td>第12週 蒔絵作業7：粉固め、胴摺り</td><td>青貝作業12：上摺り、呂色磨き1回目</td></tr><tr><td>第13週 蒔絵作業8：摺り漆、磨き</td><td>青貝作業13：上摺り、呂色磨き2回目</td></tr><tr><td>第14週 蒔絵作業9：摺り漆、磨き</td><td>青貝作業14：上摺り、呂色磨き3回目</td></tr><tr><td>第15週 蒔絵作業10：摺り漆、磨き</td><td></td></tr></table> 蒔絵・青貝手板作業完成確認、総括		第1週 準備作業1：本科目の概要説明、置き目作成	青貝作業1：薄貝切り出し	第2週 準備作業2：置き目作成	青貝作業2：薄貝切り出し、貼り付け	第3週 準備作業3：置き目作成	青貝作業3：薄貝切り出し、貼り付け	第4週 準備作業4：絵漆調合、焼き漆作成、置き目留め・押し	青貝作業4：括り	第5週 準備作業5：置き目留め・押し	青貝作業5：中塗り	第6週 蒔絵作業1：線描き、粉入れ	青貝作業6：中塗り研ぎ	第7週 蒔絵作業2：木砥掃除、線描き、粉入れ	青貝作業7：中塗り	第8週 蒔絵作業3：木砥掃除、線描き、粉入れ	青貝作業8：中塗り研ぎ	第9週 蒔絵作業4：木砥掃除、線描き、粉入れ	青貝作業9：上塗り	第10週 蒔絵作業5：木砥掃除、線描き、粉入れ	青貝作業10：上塗り炭研ぎ	第11週 蒔絵作業6：木砥掃除、線描き、粉入れ	青貝作業11：上塗り炭研ぎ、胴摺り	第12週 蒔絵作業7：粉固め、胴摺り	青貝作業12：上摺り、呂色磨き1回目	第13週 蒔絵作業8：摺り漆、磨き	青貝作業13：上摺り、呂色磨き2回目	第14週 蒔絵作業9：摺り漆、磨き	青貝作業14：上摺り、呂色磨き3回目	第15週 蒔絵作業10：摺り漆、磨き	
第1週 準備作業1：本科目の概要説明、置き目作成	青貝作業1：薄貝切り出し																															
第2週 準備作業2：置き目作成	青貝作業2：薄貝切り出し、貼り付け																															
第3週 準備作業3：置き目作成	青貝作業3：薄貝切り出し、貼り付け																															
第4週 準備作業4：絵漆調合、焼き漆作成、置き目留め・押し	青貝作業4：括り																															
第5週 準備作業5：置き目留め・押し	青貝作業5：中塗り																															
第6週 蒔絵作業1：線描き、粉入れ	青貝作業6：中塗り研ぎ																															
第7週 蒔絵作業2：木砥掃除、線描き、粉入れ	青貝作業7：中塗り																															
第8週 蒔絵作業3：木砥掃除、線描き、粉入れ	青貝作業8：中塗り研ぎ																															
第9週 蒔絵作業4：木砥掃除、線描き、粉入れ	青貝作業9：上塗り																															
第10週 蒔絵作業5：木砥掃除、線描き、粉入れ	青貝作業10：上塗り炭研ぎ																															
第11週 蒔絵作業6：木砥掃除、線描き、粉入れ	青貝作業11：上塗り炭研ぎ、胴摺り																															
第12週 蒔絵作業7：粉固め、胴摺り	青貝作業12：上摺り、呂色磨き1回目																															
第13週 蒔絵作業8：摺り漆、磨き	青貝作業13：上摺り、呂色磨き2回目																															
第14週 蒔絵作業9：摺り漆、磨き	青貝作業14：上摺り、呂色磨き3回目																															
第15週 蒔絵作業10：摺り漆、磨き																																
成績評価	技術の習得度40%、作品完成度40%、実習受講の積極性20%によって評価する。																															
教科書	なし 必要に応じて適宜資料を配布する。																															
参考書 参考資料	「やさしく身につく漆のはなし」Ⅰ～Ⅳ 社団法人 日本漆工協会編 「漆芸品の鑑賞基礎知識」至文堂																															
履修上の注意	作業に使用する蒔絵筆などの諸道具の手入れを日常行うこと。また、参考書等文献からの関連する予備知識を得ておくこと。																															
予習・復習指導	予習：道具類の手入れ。主には蒔絵筆の状態確認。 復習：道具類の手入れ。遅れている作業がある場合には次回の実習までに極力追いつくように作業を進める。また、筆運びの練習を自主的に行うなど。作業工程をポートフォリオにまとめ、学習の振り返りに役立てる。1コマに対し0.5時間の事前学習及び1.0時間の復習をすること																															
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「芸術導入実習」																															
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答をおこなう。																															
科目ナンバリング	CAC－SP206P																															

講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（木工・彫刻）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 玉村 嘉章	KYOB I 工芸学部
講師	青木 太一	KYOB I 工芸学部

到達目標	・各種道具(印刀・丸刀)の使用法、研ぎ方の習得を深める。 ・工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（木工・彫刻）で学んだ彫刻技法に基づき古典をモデルとした木彫彫像を通して、表現力および彫刻造形技法を習得する。 ・隠蟻組の技法を習得する。 ・拭漆の基本的な技法を習得する。
授業概要	工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（木工・彫刻）で学んだ木彫刻の基礎をもとに、古典彫刻をモデルとして佛手の木彫刻を伝統彫刻技法を駆使しながら完成させる。 基礎実習Ⅰで制作した複数の仕口加工の発展として隠蟻組の練習を実施する。反復練習を通して加工精度を上げる。また、使用する道具も増えてくるので、それぞれの刃の研ぎ方を並行して指導する。拭漆塗りを行う。また、最後に装飾金物の取付指導を行う。加工をとおして、材料の反りが発生する可能性がある。その対処方法を学ぶことで木材特性をさらに習得することにつなげる。 美術工芸学科のディプロマポリシー1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全15週 第1週・オリエンテーション（課題説明、課題作品の造形・各種道具の使用法についての理解） ・隠蟻組練習①（木取り） 第2週・古典をモデルとした木彫彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・隠蟻組練習②（墨付） 第3週・古典をモデルとした木彫彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・隠蟻組練習③（仕口加工） 第4週・古典をモデルとした木彫彫像の見本となるモデリングを油土で製作・材への作図の転写 ・隠蟻組練習④（仕口加工） 第5週・古典をモデルとした木彫彫像の習作・材への作図の転写、木取り、荒取り工程 ・隠蟻組練習⑤（留加工） 第6週・木彫刻の荒取り工程 ・隠蟻組練習⑥（留加工） 第7週・木彫刻の荒取り工程 ・隠蟻組練習⑦（仕上） 第8週・木彫刻の荒取り行程、中取り工程 ・隠蟻組練習⑧（仕上） 第9週・木彫刻の中取り工程 ・小箱製作①（木取り） 第10週・木彫刻の小造り行程 ・小箱製作②（木取り） 第11週・木彫刻の小造り行程、仕上げ彫り工程 ・小箱製作③（墨付） 第12週・木彫刻の仕上げ彫り行程 ・小箱製作③（墨付） 第13週・立体彫刻の課題説明（課題作品の造形・各種道具の使用法についての理解） ・小箱製作④（仕口加工） 第14週・木彫彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・小箱製作⑤（仕口加工） 第15週・まとめ・合評
成績評価	履修態度（30%）・技術習得度（30%）・作品完成度（40%）によって評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	丸尾 彰三郎 水野敬三郎著 『日本彫刻史基礎資料集成』（中央公論美術出版） 「ろくろ」（法政大学出版局 1979）、「漆碗百選」（光琳社出版 1975）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。

予習・復習指導	古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる彫刻作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。 実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する彫刻刀及び叩き鑿を研ぎ、切れ味の良い状態で課題に入れるように準備しておく。 1コマに対し1.5時間の復習をする事。
関連科目	「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（木工）」「科学と芸術」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP206P

メンタルズ [2021年度版]

講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(陶芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 浅見 武	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	小野 多美枝	KYOB I 工芸学部

到達目標	江戸後期・明治期より現在まで京焼の主流である栗田坏土による色絵陶器の製陶技術の知識と技法の習得を目的とする。現在の陶磁器の基礎となった化学計算を用いた釉薬調製方法の基礎を実習し、ろくろ・鑄込み成型法と和絵具・洋絵具を用いた色絵陶磁器技法の習得を目標とする。
授業概要	明治時期に導入された土石原料・工業原料を用いた釉薬調製方法・磁器泥漿の素材基礎を習得する。また、栗田坏土を用いたろくろ成型法を実習する。加飾実習では、和・洋絵具（金欄手）を用いた色絵陶器技法について実習する。 美術工芸学科ディプロマポリシー 1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 週 第 1 週 課題説明(資料説明) テストピース作り(土石釉・色釉実験用) 第 2 週 ロクロ成形(磁器五寸皿：道具作り) テストピース素焼焼成 第 3 週 ロクロ成形(磁器五寸皿：水挽き) 第 4 週 ロクロ成形(磁器五寸皿：水挽き) ・土石釉・色釉調合 第 5 週 ロクロ成形(磁器五寸皿：削り) 第 6 週 ロクロ成形(磁器五寸皿：削り) 第 7 週 磁課題説明・ロクロ成形(仁清茶碗：道具作り)・本焼焼成実習(OF・RF) 第 8 週 ロクロ成形(仁清茶碗：水挽き) 第 9 週 ロクロ成形(仁清茶碗：削り) 第 10 週 土石・色釉施釉および窯詰め 第 11 週 赤絵(磁器五寸皿)練習 第 12 週 赤絵(磁器五寸皿)清書 第 13 週 秋草紋(仁清茶碗)練習 本焼焼成実習(OF・RF) 第 14 週 秋草紋(仁清茶碗)清書 第 15 週 環珞紋(仁清茶碗)練習・清書 本焼焼成実習(OF) 成形実習・加飾実習・釉薬実習の講評 ※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。
成績評価	授業態度30%・技術習得30%・レポートと作品完成度40%により総合的に評価する。
教科書	実習プランを含めたテキストを配布、必要に応じて適宜資料を配布。
参考書 参考資料	日本陶磁大系(平凡社) やきものと釉薬—基本的な考え方(理工学社) [その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する]
履修上の注意	美術工芸書籍により江戸・明治期の陶磁器作品・技法の予備知識を得る。陶磁器窯業化学の予備知識を得る。デザインはあらかじめ予習し、実習時には決定しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。 整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	(内容)実習において配布する資料や実践指導で習得過程目標としている成形技法・加飾技法の反復練習に励むこと、また時間に余裕があれば事前に素材の成分や効果を調べておく。 (時間)実習 1 コマに対して 1.5 時間の復習をすること。
関連科目	「工芸・デザイン 基礎実習Ⅰ(陶芸)」 「日本工芸美術史」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP206P

講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ (デザイン)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 津村 健一	KYOB I 工芸学部
教授	安藤 眞吾	KYOB I 工芸学部
教授	中井川 正道	KYOB I 工芸学部
教授	渡邊 俊博	KYOB I 工芸学部
講師	岡 達也	KYOB I 工芸学部
特任准教授	富家 大器	KYOB I 工芸学部

到達目標	平面系・立体系・空間系デザインの視覚化プロセスにおいて必要となる実践的な手法を身に着け、視覚化によって得られる情報の重要性を理解する。
授業概要	本科目ではアイデアの視覚化に必要なアウトプット技術として印刷の基礎原理の理解やプロトタイプ・スケールモデルの制作を行い、その成果物からデザイン検討を行いデザイン方針を立てる。
授業計画 授業内容	全15回/週2日 第1週 オリエンテーション 第2週 情報収集 第3週 アイデア抽出 第4週 コンセプト立案 第5週 ラフスケッチ 第6週 ラフモック 第7週 中間発表 第8週 コンセプト修正 第9週 アイデアスケッチ 第10週 設計 第11週 スケールモデル 第12週 プロトタイプ 第13週 デザイン評価・デザイン検討 第14週 デザイン方針作成 第15週 合評会 *選択したコースにより若干の変更があります。
成績評価	授業態度40%、課題制作の完成度60%によって評価する。
参考書 参考資料	必要に応じて資料を配布する。
履修上の注意	授業中には必ず作業着を着用すること。 薬品の使用に際しては指定された分量を厳守すること。
予習・復習指導	世の中にある様々な「握るかたち」を調べ、ファイリングしておく。 日ごろから身の回りにある印刷物に目を向けておくこと。
関連科目	工芸デザイン基礎実習Ⅰ
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP206P

講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（文化財）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小林 泰弘	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	田川 新一朗	KYOB I 工芸学部

到達目標	文化財の基礎として模刻を行い時代による形状の相違を学び、古典技法を体験し、文化財の幅広い知識と技術を習得し、理解を深めます。
授業概要	古典技法を体験し、素材・技法・構造等を見極める観察力を身に付け、『ものづくり』における知恵と心を学びます。造形の基本を学び、観察力を養い、文化財の調査や修復の理念を習得します。また文化財の宝庫である京都という地の利を生かし社寺等を見学し、文化財の環境等、文化財を総合的に理解し、観光資源としての文化財の在り方も学びます。 美術工芸学科ディプロマポリシーの①、③に該当する。
授業計画 授業内容	全15週/週2回 課題2点 講義・道具作り・フィールドワーク等については随時状況を見て行う 道具作りを通して材料の特性を学ぶ 1週 オリエンテーション・ 2週 模刻 連弁 調査・採寸・作図 3週 模刻 連弁 型紙製作 4週 模刻 連弁 木取 5週 模刻 連弁 木取 6週 模刻 連弁 荒取り 7週 模刻 連弁 荒取り 8週 模刻 連弁 小作り 9週 模刻 連弁 小作り 10週 模刻 連弁 小作り 11週 模刻 連弁 小作り 12週 模刻 連弁 仕上げ 13週 模刻 連弁 仕上げ 14週 模刻 連弁 仕上げ 15週 総評 講義は6コマ前後 道具作り等は随時状況を見て行う
成績評価	実習中の態度（30%）、習得度（調査等も含む）（30%）、研究成果等（40%）を基本に、総合的に判断する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
参考書 参考資料	天平・白鳳時代の書籍
履修上の注意	健康管理に留意し、道具・材料の安全な取り扱いを徹底すること。 文化財を汚したり傷つけることのないように常に心掛けること。
予習・復習指導	予習は制作および道具の手入れ（刃物研ぎ等）1.5時間 復習は制作および道具の手入れ（刃物研ぎ等）1.5時間
課題に対するフィードバックの方法	実習時間内で課題に対して常に質疑応答等を行う
科目ナンバリング	CAC-SP206P

講義名	専門実習Ⅰ（漆芸）		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 遠藤 公誉	KYOB I 工芸学部

到達目標	より専門的な加飾技法である蒔絵3 技法及び螺鈿（厚貝）について、経験に基づいた深い理解と技術の獲得を目標とする。前期よりも難易度の高い蒔絵・螺鈿技法であるが、作業を通じより高度な加飾技法の習得を目指す。
授業概要	前期「工芸・デザイン基礎実習Ⅱ」において学んだ線描き蒔絵よりも、より高度である蒔絵の代表的な3 技法（平蒔絵・高上蒔絵・研出蒔絵）及び螺鈿技法（厚貝の加工）を習得する。蒔絵では様々な粒度の金銀粉を、螺鈿では厚さ1mm程の貝を用いる。図案は課題として設定されたものを使用。作業に必要な道具の調整の方法も、工程に応じて学習する。 関連するディプロマポリシー：京都美術工芸大学ディプロマポリシー 1 美術工芸学科のディプロマポリシー 1・3 に係る
授業計画 授業内容	全30日／週2日（遠藤：2日／週） 第1週 準備作業1：本科目の概要説明 各技法置目作成 第2週 蒔絵作業1：平蒔絵粉入れ 第3週 蒔絵作業2：平蒔絵固め、胴摺り、線描き粉入れ 高蒔絵炭粉上げ 第4週 蒔絵作業3：平蒔絵固め、胴摺り 高蒔絵炭粉上げ研ぎ 第5週 蒔絵作業4：平蒔絵上摺り、仕上げ磨き 研ぎ出し蒔絵粉入れ 高蒔絵炭粉上げ 第6週 蒔絵作業5：研ぎ出し蒔絵固め 蒔絵炭粉上げ研ぎ 螺鈿作業1：厚貝切り出し 第7週 蒔絵作業6：研ぎ出し蒔絵固め 高蒔絵高上げ漆塗り込み 螺鈿作業2：厚貝ヤスリがけ 第8週 蒔絵作業7：研ぎ出し蒔絵固め研ぎ、固め 高蒔絵高上げ漆塗り込み研ぎ、再塗り込み 螺鈿作業3：厚貝ヤスリがけ 第9週 蒔絵作業8：研ぎ出し蒔絵固め研ぎ、胴摺り 高蒔絵高上げ漆塗り込み研ぎ、胴摺り 螺鈿作業4：厚貝面取り、胴摺り 第10週 蒔絵作業9：研ぎ出し蒔絵粉入れ 高蒔絵粉入れ 螺鈿作業5：平蒔絵部分粉入れ 第11週 蒔絵作業10：研ぎ出し蒔絵粉入れ 高蒔絵粉入れ 螺鈿作業6：平蒔絵部分固め・胴摺り 第12週 蒔絵作業11：研ぎ出し蒔絵固め 高蒔絵固め 螺鈿作業7：平蒔絵部分粉入れ 第13週 蒔絵作業12：研ぎ出し蒔絵・高蒔絵固め研ぎ、胴摺り 螺鈿作業8：平蒔絵部分固め・胴摺り 第14週 蒔絵作業13：研ぎ出し蒔絵・高蒔絵毛打ち粉入れ 第15週 蒔絵作業14：研ぎ出し蒔絵・高蒔絵毛打ち固め、仕上げ磨き 螺鈿作業9：平蒔絵部分上摺り・仕上げ磨き・厚貝貼り付け 蒔絵・螺鈿作業完成確認、総括
成績評価	技術の習得度40%、作品完成度40%、実習受講の積極性20%によって評価する。
教科書	なし 必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	「やさしく身につく漆のはなし」Ⅰ～Ⅳ 社団法人 日本漆工協会編 「漆芸品の鑑賞基礎知識」至文堂
履修上の注意	作業に使用する蒔絵筆などの諸道具の手入れを日常行うこと。また、参考書等文献からの関連する予備知識を得ておくこと。
予習・復習指導	予習：道具類の手入れ。蒔絵筆の状態確認、研ぎ炭・砥石の準備など。 復習：道具類の手入れ。遅れている作業がある場合には次回の実習までに極力追いつくように作業を進める。作業工程をポートフォリオにまとめ、学習の振り返りに役立てる。 1コマに対し0.5時間の事前学習及び1.0時間の復習をすること
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「伝統工芸産業工学」「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ」「工芸・デザイン基礎実習Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答をおこなう。
科目ナンバリング	CAC-SP207P

講義名	専門実習 I (木工・彫刻)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 青木 太一	KYOB I 工芸学部
講師	玉村 嘉章	KYOB I 工芸学部

到達目標	・各種道具(印刀・丸刀)の使用方法、研ぎ方の習得を深める。 ・挽物の基本的な技法を習得する。 ・小箱制作の手法を習得する。 ・工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(木工・彫刻)で学んだ佛手彫刻の彫刻技法に基づき古典をモデルを課題とした木彫刻を通して構想・表現力および彫刻造形技法の習得。
授業概要	ここでは本格的な立体彫刻制作に取り組む。伝統彫刻技法を駆使しながら木彫刻の基本造形となる課題で木彫刻を完成させる。 反復練習を通して、隠蟻組の加工精度を上げた後に小箱の制作を行う。また、使用する道具も増えてくるので、それぞれの刃の研ぎ方を並行して指導する。 挽物による器物の制作を通して適切な木取り法を理解し、荒取りから仕上げに到る工程を学ぶ。またこれらに使用する道具と機械の仕組みを理解し道具の製作や機械の保守も合わせて学ぶ。これらの工程を学びながら常に工芸の本道を見失わない心を育てていく。本授業では挽物の基本的な技法を習得する事を目標とする。また器物の制作を通じて指物との共通点や相違点を考察し、器物と人との関わり合いの認識を深める事を目的とする。拭漆の基本的な技法を習得する。 美術工芸学科のディプロマポリシー1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 週 第 1 週・ オリエンテーション (彫刻課題説明) ・ 拭漆についての説明 第 2 週・ 古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・ 拭漆練習 第 3 週・ 古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・ 小箱制作① (仕口加工) 第 4 週・ 古典をモデルとした木彫刻彫像の習作・材への作図の転写 ・ 小箱制作② (仕口加工) 第 5 週・ 古典をモデルとした木彫刻彫像の習作・材への作図の転写、木取り、荒取り工程 ・ 小箱制作③ (仕口加工) 第 6 週・ 木彫刻の木取り、荒取り工程 ・ 小箱制作④ (仕口加工) 第 7 週・ 木彫刻の荒取り工程 ・ 小箱制作⑤ (仕口加工) 第 8 週・ 木彫刻の荒取り工程 ・ 小箱制作⑥ (仮組) 第 9 週・ 木彫刻の荒取り行程、中取り工程 ・ 小箱制作⑦ (底板加工) 第 10 週・ 木彫刻の中取り工程 ・ 小箱制作⑧ (蓋加工) 第 11 週・ 木彫刻の中取り工程 ・ 小箱制作⑨ (組立) 第 12 週・ 木彫刻の中取り工程、小造り工程 ・ 小箱制作⑩ (仕上) 第 13 週・ 木彫刻の中取り工程、小造り行程 ・ 挽物① 第 14 週・ 木彫刻の小造り行程、仕上げ彫り工程 ・ 挽物② 第 15 週・ 木彫刻の仕上げ彫り行程から完成へ、講評・総括
成績評価	履修態度 (30%) ・ 技術習得度 (30%) ・ 作品完成度 (40%) によって評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	丸尾 彰三郎 水野敬三郎著 『日本彫刻史基礎資料集成』 (中央公論美術出版) 近藤豊著 『古建築装飾文様集成 草木編・鳥獣編・風月編』 (光村推古書院 1972)

履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる彫刻作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。 実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する彫刻刀及び叩き鑿を研ぎ、切れ味の良い状態で課題に入れるように準備しておく。 1コマに対し1.5時間の復習をする事。
関連科目	「工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（木工・彫刻）」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP207P

シラバス「2021年度版」

講義名	専門実習Ⅰ（陶芸）		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 浅見 武	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	小野 多美枝	KYOB I 工芸学部

到達目標	明治期導入された西欧の化学的な陶磁器製造技術の基本的な知識とその調製法の習得を目標とする。磁器坏土を用いた大物ろくろ成形技法の習得と、土石色釉薬を用いた陶磁器製造技法、低火度釉・いっちゃん技法を用いた交趾焼技法及び、耐熱素地を用いた中火度陶器の製造技術の習得を目標とする。
授業概要	土石合わせ色釉薬を用いた高火度陶磁器技術・市販無鉛フリットを用いた低火度陶器・中火度陶器技術について実習する。これらの素材を用い、磁器坏土を用いた大物ろくろ基礎成形技法・いっちゃん技法加飾技法を習得する。また土鍋製作をととして耐熱素地・中火度陶器技法を習得する。 美術工芸学科ディプロマポリシー１、２、３に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 週 第 1 週 課題説明・ロクロ成形(酒器揃[徳利・盃]：道具作り／水挽き 第 2 週 成形実習(ロクロ成形[酒器揃])：水挽き 第 3 週 成形実習(ロクロ成形[酒器揃])：水挽き 第 4 週 成形実習(ロクロ成形[酒器揃])：削り 第 5 週 成形実習(ロクロ成形[大皿])：道具作成・水挽き 第 6 週 成形実習(ロクロ成形[大皿])：水挽き・中火度釉調製 第 7 週 成形実習(ロクロ成形[大皿])：水挽き 第 8 週 成形実習(ロクロ成形[大皿])：削り 素焼焼成実習 第 9 週 成形実習(ロクロ成形[土鍋])：水挽き・中火度製品化 第 10 週 成形実習(ロクロ成形[土鍋])：削り・仕上げ 第 11 週 加飾実習(大皿)：いっちゃん・影青 第 12 週 京薩摩金襴手技法(酒器揃) 第 13 週 加飾実習(大皿)：いっちゃん彩色 本焼焼成実習(OF・RF) 第 14 週 加飾実習(大皿)：上絵付 上絵付焼成実習(OF) 第 15 週 成形実習・加飾実習・釉薬実習の講評 ※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。
成績評価	授業態度30%・技術習得30%・レポートと作品完成度40%により総合的に評価する。
教科書	実習プランを含めたテキストを配布、必要に応じて適宜資料を配布。
参考書 参考資料	日本陶磁大系(平凡社) やきものと釉薬—基本的な考え方(理工学社) [その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する]
履修上の注意	美術工芸書籍により明治期の陶磁器作品・技法の予備知識を得る。デザインはあらかじめ予習し、実習時には決定しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。 整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	(内容)実習において配布する資料や実践指導で習得過程目標としている成形技法・加飾技法の反復練習に励むこと、また時間に余裕があれば事前に素材の成分や効果を調べておく。 (時間)実習 1 コマに対して 1.5 時間の復習をすること。
関連科目	「工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(陶芸)」 「色彩理論演習」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
科目ナンバリング	GAC-SP207P

講義名	専門実習Ⅰ(デザイン)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 津村 健一	KYOB I 工芸学部
教授	安藤 眞吾	KYOB I 工芸学部
教授	中井川 正道	KYOB I 工芸学部
講師	木村 奈保	KYOB I 工芸学部
講師	岡 達也	KYOB I 工芸学部
特任准教授	富家 大器	KYOB I 工芸学部

到達目標	様々な分野における表現活動を、人に伝わるものとする為の効率的な手法としてデザインプロセスを実践的に学び身に着ける。
授業概要	デザインとは全体の要素を集約し、アートの表現、グラフィックの表現、立体の造形制作など、それらあらゆる要素を集約しコンセプトを表現することである。本授業では与えられたテーマによる実作品やスケールモデル、コンセプトパネルなどの制作の中で、事例調査・分析、コンセプト立案、からアウトプット、フィードバック、ブラッシュアップという基本的なデザインプロセスを体験する。 美術工芸学科のディプロマポリシー1、3、4に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 回/週 2 日 第 1 週 オリエンテーション スライド 第 2 週 事例調査 学外調査(スケッチ、写真) 第 3 週 事例発表 調査レポート提出 第 4 週 デザインコンセプト作成 第 5 週 デザインコンセプト作成 デザインコンセプト提出 第 6 週 アイデアスケッチ作成 第 7 週 アイデアスケッチ発表 アイデアスケッチ提出 第 8 週 デザインスケッチの図面化 第 9 週 デザインスケッチの図面化 図面提出 第 10 週 実作品、プロトタイプ、スケールモデル制作 第 11 週 実作品、プロトタイプ、スケールモデル制作 第 12 週 実作品、プロトタイプ、スケールモデル制作 第 13 週 プレゼンパネル制作 第 14 週 プレゼンパネル制作 第 15 週 合評会 * 選択したコースにより若干の変更があります。
成績評価	授業態度 (30%)、作品 (50%)、プレゼンテーション内容 (20%) によって総合的に評価する。
参考書 参考資料	授業を通して適宜紹介する。
履修上の注意	調査分析資料、試作作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	平素から街中や身の回りにある情報を収集し、ファイリングしておく。
関連科目	「専門実習Ⅱ(デザイン)」
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	GAC-SP207P

講義名	専門実習Ⅱ（文化財）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小林 泰弘	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	藤岡 春樹	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	高橋 利明	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	小田 珠生	KYOB I 工芸学部

到達目標	時代的な表現・材質・そのために確立された各工程の方法と技術の基本を習得して、材料の変化に対応した修理技術と表現法の変遷を学ぶことで、文化財修理の本質を理解するとともに、報告書作成のノウハウを学ぶ。また共同作業を通して連携作業を学ぶ。 2課題とし、立体・平面の修理を学ぶ。		
授業概要	現在の文化財修理の理念を学び、修理の全工程を実習するとともに、それに不可欠な、さまざまな材料を用いた文化財修理に必要な技法を学ぶ。 美術工芸学科ディプロマポリシーの①、③に係る。		
授業計画 授業内容	全15週/週2回 2課題 講義・フィールドワーク等については随時状況を見て行う <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 立体 1週 導入・ガイダンス 2週 文化財（仏像）の調査作成。（保存状態調査） 3週 文化財（仏像）の調査作成。（写真撮影法） 4週 修理仕様書作成。 5週 クリーニング法。剥落止め（実験） 6週 クリーニング法。剥落止め 7週 クリーニング法。剥落止め 8週 解体作業の注意 接着剤除去方法 9週 解体作業 10週 解体写真撮影法。調査・採寸・作図 11週 材質補強（材料選択、実験） 12週 材質補強（材料選択、実験） 13週 組み立て（材料選択、試作） 14週 組み立て（材料選択、試作） 15週 総評 </td><td style="vertical-align: top;"> 平面 掛け軸の修理 軸の調査 クリーニング クリーニング 解体 解体 表の仮張り 肌裏紙除去 肌裏紙除去 折伏せの処理 折伏せの処理 肌裏打ち 軸装仕立て 軸装仕立て 軸装仕立て 総評 </td></tr> </table>	立体 1週 導入・ガイダンス 2週 文化財（仏像）の調査作成。（保存状態調査） 3週 文化財（仏像）の調査作成。（写真撮影法） 4週 修理仕様書作成。 5週 クリーニング法。剥落止め（実験） 6週 クリーニング法。剥落止め 7週 クリーニング法。剥落止め 8週 解体作業の注意 接着剤除去方法 9週 解体作業 10週 解体写真撮影法。調査・採寸・作図 11週 材質補強（材料選択、実験） 12週 材質補強（材料選択、実験） 13週 組み立て（材料選択、試作） 14週 組み立て（材料選択、試作） 15週 総評	平面 掛け軸の修理 軸の調査 クリーニング クリーニング 解体 解体 表の仮張り 肌裏紙除去 肌裏紙除去 折伏せの処理 折伏せの処理 肌裏打ち 軸装仕立て 軸装仕立て 軸装仕立て 総評
立体 1週 導入・ガイダンス 2週 文化財（仏像）の調査作成。（保存状態調査） 3週 文化財（仏像）の調査作成。（写真撮影法） 4週 修理仕様書作成。 5週 クリーニング法。剥落止め（実験） 6週 クリーニング法。剥落止め 7週 クリーニング法。剥落止め 8週 解体作業の注意 接着剤除去方法 9週 解体作業 10週 解体写真撮影法。調査・採寸・作図 11週 材質補強（材料選択、実験） 12週 材質補強（材料選択、実験） 13週 組み立て（材料選択、試作） 14週 組み立て（材料選択、試作） 15週 総評	平面 掛け軸の修理 軸の調査 クリーニング クリーニング 解体 解体 表の仮張り 肌裏紙除去 肌裏紙除去 折伏せの処理 折伏せの処理 肌裏打ち 軸装仕立て 軸装仕立て 軸装仕立て 総評		
成績評価	実習中の態度（30%）、習得度（調査等も含む）（30%）、研究成果等（40%）を基本に、総合的に判断する		
教科書	必要に応じて適宜資料を配布		
参考書 参考資料	修復の理論・美術院紀要・文化財修理報告書（楽浪文化財修理所）など		
履修上の注意	健康管理に留意し、道具・材料の安全な取り扱いを徹底すること。 文化財を汚したり傷つけることのないように常に心掛けること。 授業中は、常に『作業記録』『作品の観察記録』を取り、扱っている作品の状態を把握すること。 記録情報は、作業メンバーで共有すること。		
予習・復習指導	予習は制作および道具の手入れ（刃物研ぎ等）1.5時間 復習は授業内容の記録および道具の手入れ（刃物研ぎ等）1.5時間		
関連科目	「文化財保存概論」「文化財修理論」等の講義系科目		
課題に対するフィードバックの方法	実習時間内で課題に対して常に質疑応答等を行う		
科目ナンバリング	CAC-SP308P		

講義名	専門実習Ⅱ (漆芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任准教授	◎ 三木 表悦	KYOB I 工芸学部
講師	遠藤 公誉	KYOB I 工芸学部

到達目標	髹漆技法の内、乾漆の制作技法を学ぶ。アイデア抽出・デザイン・胎素地制作の工程を通じて、工芸・デザイン基礎実習Ⅰ (漆芸) を応用しつつ、ものづくりにおける「考える力」と高度な髹漆技術の習得を目指す。
授業概要	乾漆の制作が課題。デザイン、原型制作、胎形成の工程を通じて漆による立体造形の技術を習得する。同時に作品を実体化する過程を通じ、「何を・なぜ・どのように」つくり出すかを学ぶ機会である。下地・塗りの工程である髹漆において、より高度で応用的な技法を習得するが、それにとどまらず「ものづくりを如何にマネジメントするか」という点にも重きを置く。そのために素材・道具の自己調達や作品についてのプレゼンテーションについても行う。 関連するディプロマポリシー：京都美術工芸大学ディプロマポリシー 1・2 美術工芸学科のディプロマポリシー 1・2・3・4 に係る
授業計画 授業内容	第1週 本科目の概要説明 デザイン1：アイデア抽出 第2週 デザイン2：アイデア抽出 第3週 デザイン3：アイデア抽出 第4週 デザイン4：アイデア抽出 プレゼンテーション 第5週 原型1：成形 (削り・捻塑など) 第6週 原型2：成形 (削り・捻塑など) 第7週 原型3：成形 (削り・捻塑など) 第8週 原型4：成形 (削り・捻塑など) 第9週 胎1：布着せ1回目・布目揃え・目摺り錆 第10週 胎2：布着せ2回目・布目揃え・目摺り錆 第11週 胎3：布着せ3回目・布目揃え・目摺り錆 第12週 胎4：布着せ4回目・布目揃え・目摺り錆 第13週 胎5：布着せ5回目・布目揃え・目摺り錆 第14週 胎6：布着せ6回目・布目揃え・目摺り錆 第15週 胎7：布着せ予備回 総括
成績評価	アイデア抽出・デザイン力40%、技術の習得度・課題作品の進捗度40%、受講態度20%によって評価する。
教科書	なし 必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	「やさしく身につく漆のはなし」Ⅰ～Ⅳ 社団法人 日本漆工協会編 「漆芸品の鑑賞基礎知識」至文堂 「漆塗りの技法書」誠文堂新光社 「うるし工芸辞典」光芸出版
履修上の注意	作業に使用する時給筆などの諸道具の手入れを日常行うこと。また、参考書等文献からの関連する予備知識を得ておくこと。
予習・復習指導	予習・復習 予習：スケッチや文字によるアイデア抽出作業。デザインを確認するための雛型の各種素材 (ウレタンフォームや紙粘土など) による制作。その他刃物研ぎ、へらの削り直しなど道具類の手入れ・調整。必要な素材・道具の調達。 復習：遅れている作業がある場合には次回の実習までに極力追いつくように作業を進める。道具類の手入れ。作業工程をポートフォリオなどにまとめ、学習の振り返りに役立てる。 1コマに対し0.5時間の事前学習及び1.0時間の復習をすること
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「伝統工芸産業工学」「芸術導入実習」「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答をおこなう。
科目ナンバリング	CAC-SP309P

講義名	専門実習Ⅱ（木工・彫刻）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 宮本 貞治	KYOB I 工芸学部
講師	青木 太一	KYOB I 工芸学部
講師	玉村 嘉章	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	中岡 功	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	江元 遥	KYOB I 工芸学部

到達目標	・ 棚制作の全体過程を習得する。 ・ より高度で専門的な拭漆の技法を習得する。 ・ 木の特性について理解を深める。 ・ 専門実習Ⅰ（木工・彫刻）で学んだ佛手彫刻の彫刻技法に基づき古典をモデルとした木彫刻彫を通して、 構想・表現力および彫刻造形技法の習得。
授業概要	今までに学んだ技術をベースに指物作品を制作する。制作する作品は小棚とし、図面引き、木取りを通して、板材から作品となるまでの全体過程を習得する。完成した作品には仕上げとして、拭漆塗りを行う。また、最後に装飾金物の取付指導を行う。加工をとおして、材料の反りが発生する可能性がある。その対処方法を学ぶことで木材特性をさらに習得することにつなげる。 本格的な彫刻制作に取り組む。古典彫刻をモデルとして比較的小品の木彫刻彫像を完成させる。伝統彫刻技法を駆使しながら仏像彫刻、欄間彫刻、建築装飾彫刻といったジャンルにとらわれない比較的小品の自由課題を制作する。 美術工芸学科のディプロマポリシー1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 週 第 1 週・オリエンテーション（課題説明） ・ 小棚作品考案・図面作成 第 2 週・古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・ 割り付け・ 第 3 週・古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・ 木取り 第 4 週・古典をモデルとした木彫刻彫像の習作・材への作図の転写、木取り、荒取り工程 ・ 木作り①（鉋掛け） 第 5 週・木彫刻の荒取り工程 ・ 木作り②（寸法切り） 第 6 週・木彫刻の荒取り工程 ・ 仕口加工① 第 7 週・木彫刻の荒取り工程、中取り工程 ・ 仕口加工② 第 8 週・木彫刻の中取り工程 ・ 仕口加工③ 第 9 週・木彫刻の中取り工程 ・ 仕口加工④ 第 10 週・木彫刻の中取り工程、小造り工程 ・ 仮組・部材調整 成形① 第 11 週・木彫刻の小造り工程 ・ 仮組・部材調整 成形② 第 12 週・木彫刻の小造り工程 ・ 本組 第 13 週・木彫刻の小造り工程、仕上げ彫り工程 ・ 面取り 第 14 週・木彫刻の仕上げ彫り工程から完成へ ・ 仕上げ 第 15 週・組上げ 合評
成績評価	履修態度（30%）・技術習得度（30%）・作品完成度（40%）によって評価する。

教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	図解木工の継手と仕口（理工学社 1987） 丸尾 彰三郎 水野敬三郎著 『日本彫刻史基礎資料集成』（中央公論美術出版） 近藤豊著 『古建築装飾文様集成 草木編・鳥獣編・風月編』（光村推古書院 1972） シラバス「2021年度版」
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する刃物等を研ぎ、切れ味の良い状態で課題に入れるように準備しておく。 古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる彫刻作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。 木彫刻彫像、自由課題ともに、授業で作図にとりかかれるよう、予め資料を収集するなど準備し、十分に構想を練っておくこと。 1コマに対し1.5時間の復習をする事。
関連科目	「専門実習Ⅰ（木工・彫刻）」「伝統工芸産業工学」「工芸経営論」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP308P

講義名	専門実習Ⅱ（陶芸）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 浅見 武	KYOB I 工芸学部

到達目標	中国・韓国・日本の伝統的な高火度陶磁器の製造技術について、技術的な習得を目的とする。文化財として継承されている伝統的な陶磁器の製造技術と化学的な陶磁器の製造技術を比較し、色釉陶器の特質を理解し、さらにこれら素材を用いた加飾技術を習得することを目標とする。
授業概要	伝統釉（灰釉と土石釉）を調製し、文化財として継承されている陶磁器の比較検討を行う。磁器坯土を用いた複雑な形状のろくろ技法、磁器泥漿を用いた鋳込み成形技法の実習や各種色釉薬を用いた加飾技術の実習を行う。 美術工芸学科ディプロマポリシー 1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 週 第 1 週 課題説明：テストピースの作成 第 2 週 成形実習（鋳込み成形 [オリジナル作品]）：説明・図面作成・ミニチュール作成 第 3 週 成形実習（鋳込み成形 [オリジナル作品]）：原型作成 第 4 週 成形実習（鋳込み成形 [オリジナル作品]）：原型仕上げ 第 5 週 成形実習（鋳込み成形 [オリジナル作品]）：鋳込み型作成 第 6 週 伝統釉（鉄釉と銅釉）の調製 第 7 週 伝統釉（鉄釉と銅釉）の調製・施釉 本焼焼成実習 (OF) 第 8 週 伝統釉（鉄釉と銅釉）の施釉 本焼焼成実習 (RF) 第 9 週 成形実習（ロクロ成形 [急須]）：図面作成・道具作成 第 10 週 成形実習（ロクロ成形 [急須]）：水挽き 第 11 週 成形実習（ロクロ成形 [急須]）：水挽き 第 12 週 成形実習（ロクロ成形 [急須]）：削り 第 13 週 成形実習（ロクロ成形 [急須]）：削り・仕上げ 第 14 週 鉄釉と銅釉の製品化（天目碗・黄瀬戸・織部向付けの制作）本焼焼成実習 (OF・RF) 第 15 週 製品化の講評とレポート提出 ※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。
成績評価	授業態度30%・技術習得30%・レポートと作品完成度40%により総合的に評価する。
教科書	実習プランを含めたテキスト（伝統釉を含む）を配布、必要に応じて適宜資料を配布。
参考書 参考資料	釉調合の基本（改訂版）（加藤悦三著）窯技社 [必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する]
履修上の注意	実習を始めるまでに、現在伝承している陶磁器の釉薬や素地、焼成などを調査しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	（内容）実習において配布する資料や実践指導で習得過程目標としている成形技法・加飾技法の反復練習に励むこと、また時間に余裕があれば事前に素材の成分や効果を調べておく。 （時間）実習 1 コマに対して 1.5 時間の復習をすること。
関連科目	「専門実習Ⅰ（陶芸）」「伝統工芸産業工学」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP308P

講義名	専門実習Ⅱ (デザイン)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 工芸学部
教授	津村 健一	KYOB I 工芸学部
教授	安藤 眞吾	KYOB I 工芸学部
講師	木村 奈保	KYOB I 工芸学部
講師	岡 達也	KYOB I 工芸学部
特任准教授	富家 大器	KYOB I 工芸学部

到達目標	3コースにそれぞれにおける課題において、企画・立案する力を身につける。 実践的な表現方法を学び、デザインプロセスにおける一連の流れを推進できる力をつける。
授業概要	本授業は、3コース別に課題を行う。 ビジュアルデザインコース（グラフィックデザイン/ブランディングデザイン） インテリア・空間デザインコース（店舗デザイン/家具デザイン） カルチャーデザイン（プロモーション1.2） 美術工芸学科ディプロマポリシー 1, 2, 3, 4 に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 回/週 2 日 第 1 週 オリエンテーション 第 2 週 企画・アイデア発想法演習 第 3 週 市場調査、情報収集及び分析 第 4 週 デザイン企画(アイデア抽出) 第 5 週 デザイン企画(コンセプトの検討) 第 6 週 デザイン企画(デザイン検討) 第 7 週 デザイン企画(設計作業) 第 8 週 中間講評、合評会 第 9 週 デザイン計画 第 10 週 デザイン計画 第 11 週 デザイン計画 第 12 週 試作によるユーザー調査 第 13 週 デザイン計画 第 14 週 デザイン計画 第 15 週 課題総括、総合評 *各コースおよび課題によって日程が多少異なります
成績評価	授業態度30%、作品50%、プレゼンテーション内容20%によって総合的に評価する。
教科書	適宜、参考資料を配布する。
参考書 参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	実習1コマに対し1.5時間の事前学習をすること。
関連科目	専門実習Ⅰ(デザイン)
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評および質疑応答を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP308P

講義名	専門実習Ⅱ（文化財）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小林 泰弘	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	藤岡 春樹	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	高橋 利明	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	小田 珠生	KYOB I 工芸学部

到達目標	時代的な表現・材質・そのために確立された各工程の方法と技術の基本を習得して、材料の変化に対応した修理技術と表現法の変遷を学ぶことで、文化財修理の本質を理解するとともに、報告書作成のノウハウを学ぶ。また共同作業を通して連携作業を学ぶ。 2課題とし、立体・平面の修理を学ぶ。		
授業概要	現在の文化財修理の理念を学び、修理の全工程を実習するとともに、それに不可欠な、さまざまな材料を用いた文化財修理に必要な技法を学ぶ。 美術工芸学科ディプロマポリシーの①、③に係る。		
授業計画 授業内容	全15週/週2回 2課題 講義・フィールドワーク等については随時状況を見て行う <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 立体 1週 導入・ガイダンス 2週 文化財（仏像）の調書作成。（保存状態調査） 3週 文化財（仏像）の調書作成。（写真撮影法） 4週 修理仕様書作成。 5週 クリーニング法。剥落止め（実験） 6週 クリーニング法。剥落止め 7週 クリーニング法。剥落止め 8週 解体作業の注意 接着剤除去方法 9週 解体作業 10週 解体写真撮影法。調査・採寸・作図 11週 材質補強（材料選択、実験） 12週 材質補強（材料選択、実験） 13週 組み立て（材料選択、試作） 14週 組み立て（材料選択、試作） 15週 総評 </td><td style="vertical-align: top;"> 平面 掛け軸の修理 軸の調査 クリーニング クリーニング 解体 解体 表の仮張り 肌裏紙除去 肌裏紙除去 折伏せの処理 折伏せの処理 肌裏打ち 軸装仕立て 軸装仕立て 軸装仕立て 総評 </td></tr> </table>	立体 1週 導入・ガイダンス 2週 文化財（仏像）の調書作成。（保存状態調査） 3週 文化財（仏像）の調書作成。（写真撮影法） 4週 修理仕様書作成。 5週 クリーニング法。剥落止め（実験） 6週 クリーニング法。剥落止め 7週 クリーニング法。剥落止め 8週 解体作業の注意 接着剤除去方法 9週 解体作業 10週 解体写真撮影法。調査・採寸・作図 11週 材質補強（材料選択、実験） 12週 材質補強（材料選択、実験） 13週 組み立て（材料選択、試作） 14週 組み立て（材料選択、試作） 15週 総評	平面 掛け軸の修理 軸の調査 クリーニング クリーニング 解体 解体 表の仮張り 肌裏紙除去 肌裏紙除去 折伏せの処理 折伏せの処理 肌裏打ち 軸装仕立て 軸装仕立て 軸装仕立て 総評
立体 1週 導入・ガイダンス 2週 文化財（仏像）の調書作成。（保存状態調査） 3週 文化財（仏像）の調書作成。（写真撮影法） 4週 修理仕様書作成。 5週 クリーニング法。剥落止め（実験） 6週 クリーニング法。剥落止め 7週 クリーニング法。剥落止め 8週 解体作業の注意 接着剤除去方法 9週 解体作業 10週 解体写真撮影法。調査・採寸・作図 11週 材質補強（材料選択、実験） 12週 材質補強（材料選択、実験） 13週 組み立て（材料選択、試作） 14週 組み立て（材料選択、試作） 15週 総評	平面 掛け軸の修理 軸の調査 クリーニング クリーニング 解体 解体 表の仮張り 肌裏紙除去 肌裏紙除去 折伏せの処理 折伏せの処理 肌裏打ち 軸装仕立て 軸装仕立て 軸装仕立て 総評		
成績評価	実習中の態度（30%）、習得度（調査等も含む）（30%）、研究成果等（40%）を基本に、総合的に判断する		
教科書	必要に応じて適宜資料を配布		
参考書 参考資料	修復の理論・美術院紀要・文化財修理報告書（楽浪文化財修理所）など		
履修上の注意	健康管理に留意し、道具・材料の安全な取り扱いを徹底すること。 文化財を汚したり傷つけることのないように常に心掛けること。 授業中は、常に『作業記録』『作品の観察記録』を取り、扱っている作品の状態を把握すること。 記録情報は、作業メンバーで共有すること。		
予習・復習指導	予習は制作および道具の手入れ（刃物研ぎ等）1.5時間 復習は授業内容の記録および道具の手入れ（刃物研ぎ等）1.5時間		
関連科目	「文化財保存概論」「文化財修理論」等の講義系科目		
課題に対するフィードバックの方法	実習時間内で課題に対して常に質疑応答を行う		
科目ナンバリング	CAC-SP308P		

講義名	専門実習Ⅲ(漆芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任准教授	◎ 三木 表悦	KYOB I 工芸学部
講師	遠藤 公誉	KYOB I 工芸学部

到達目標	専門実習Ⅱを引継ぎ、乾漆作品の完成を目指す。並行して髹漆技法の内、回転体である挽物木地（丸もの）の加工を学ぶ。乾漆並びに挽物の下地工程・塗り工程を通じて、より高い次元の技術の習得を目指す。
授業概要	専門実習Ⅱの課題である乾漆の下地と塗りの工程を作業し仕上げる。併せて、より難易度が高い髹漆の技法である、挽物の下地・塗りを課題として設定し、技を習得する。手板と異なり器物の全体に下地と塗りを施すが、補助具を用い木地を回転させながら表裏に分けて行うことが特徴である。ヘラやつまみ砥石など、木地の形に合わせた道具の調整方も併せて学ぶ。皿は塗り仕上げで一旦完成であるが、4年次の卒業制作研究の試験素材として活用しても可。関連するディプロマポリシー：京都美術工芸大学ディプロマポリシー 1 美術工芸学科のディプロマポリシー 1・3に係る
授業計画 授業内容	第1週 本科目の概要説明 乾漆進捗プレゼンテーション 乾漆下地1：地付け 皿下地1：木地固め・布着せ 第2週 乾漆下地2：地研ぎ 地付け 皿下地2：布目揃え・目摺り錆・目摺り錆研ぎ・地付け 第3週 乾漆下地3：地研ぎ 錆付け 皿下地3：つまみ砥石合わせ・地研ぎ・地付け 第4週 乾漆下地4：錆研ぎ 錆付け 皿下地4：地研ぎ・括り錆 第5週 乾漆下地5：錆研ぎ 錆付け 皿下地5：括り錆研ぎ・錆付け 第6週 乾漆下地6：錆研ぎ 錆付け 皿下地6：錆研ぎ・錆付け 第7週 乾漆下地7：錆研ぎ 錆付け 皿下地7：錆研ぎ・錆付け 第8週 乾漆下地7：錆研ぎ 錆付け 皿下地7：錆研ぎ・錆付け 第9週 乾漆下地9：錆研ぎ 錆付け 皿下地9：錆研ぎ・錆付け 第10週 乾漆塗り1：捨て中塗り 皿下地10：錆仕上げ研ぎ・面取り・仕上げ固め 第11週 乾漆塗り2：捨て中塗り 皿塗り1：捨て中塗り 第12週 乾漆塗り3：中塗り 皿塗り2：捨て中塗り 第13週 乾漆塗り4：中塗り研ぎ 皿塗り3：中塗り 第14週 乾漆塗り5：上塗り 皿塗り4：中塗り研ぎ 第15週 乾漆塗り6：上塗り予備回 皿塗り5：上塗り 総括
成績評価	技術の習得度40%、課題作品の進捗・完成度40%、受講態度20%によって評価する。
教科書	なし 必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	「やさしく身につく漆のはなし」Ⅰ～Ⅳ 社団法人 日本漆工協会編 「漆芸品の鑑賞基礎知識」至文堂 「漆塗りの技法書」誠文堂新光社 「うるし工芸辞典」光芸出版
履修上の注意	作業に使用する小刀・ヘラ木・刷毛・砥石などの道具の手入れを日常行うこと。また、参考書等文献からの関連する予備知識を得ておくこと。
予習・復習指導	予習：道具類の手入れ。刃物研ぎ、へらの削り直し、刷毛の調整。 復習：道具類の手入れ。遅れている作業がある場合には次回の実習までに極力追いつくように作業を進める。作業工程をポートフォリオなどにまとめ、学習の振り返りに役立てる。1コマに対し0.5時間の事前学習及び1.0時間の復習をすること
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「伝統工芸産業工学」「伝統工芸材料科学」「芸術導入実習」「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答をおこなう。
科目ナンバリング	CAC-SP308P

講義名	専門実習Ⅲ(木工・彫刻)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 宮本 貞治	KYOB I 工芸学部
講師	青木 太一	KYOB I 工芸学部
講師	玉村 嘉章	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	中岡 功	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	江元 遥	KYOB I 工芸学部

到達目標	・椅子・テーブルの構造について理解する。 ・より高度で精密な加工技術を得得する。 ・塗装技法をより向上させる。 ・専門実習Ⅱ(木工・彫刻)で学んだ彫刻技法に基づく木彫刻彫像の表現および彫刻技法の習得。 ・自由課題を通して、彫刻を一つの作品としてまとめる全体的な構想・表現力および彫刻造形技法の習得。
授業概要	椅子を制作する。複数の椅子のデザイン計画、設計をした上で、1/5 サイズで模型を制作するなどしてそれぞれの寸法の妥当性を検討する。作品としての問題点を抽出し、解決に向けての模索を通してより良い作品を制作するセンスを養う。その後、原寸サイズの椅子の制作を行い、より複雑な木工立体加工技術を修得する。また、ペーパーコード、ウレタン等による座面、椅子張りの概要についても学ぶ。 彫刻前期の課題では古典彫刻をモデルとして比較的小品の木彫刻彫像を完成させたが、それをふまえて伝統彫刻技法を駆使しながら、仏像彫刻、欄間彫刻、建築装飾彫刻といったジャンルにとらわれない自由課題を行なう。 美術工芸学科のディプロマポリシー1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全15週 第1週・オリエンテーション(課題説明) 自由課題の作図 ・椅子作品考案・図面作成 第2週・自由課題の習作・木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングの製作 ・割り付け・木取り・小割・木作り(鉋がけ等) 木作り①(鉋がけ・寸法切り) 第3週・自由課題の習作・木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングの製作 ・木作り②(鉋がけ・寸法切り) 木作り③(鉋がけ・寸法切り) 第4週・木彫刻彫像の習作・材への作図の転写、木取り ・仕口加工① 第5週・木彫刻彫像の習作・材への作図の転写、木取り ・仕口加工② 第6週・自由課題の作品制作・材への作図の転写木取り、木彫刻の荒取り工程 ・仕口加工③ 第7週・木彫刻の荒取り工程 ・仮組・部材調整 第8週・木彫刻の荒取り工程 ・成形、仕上げ① 第9週・木彫刻の荒取り工程、中取り工程 ・成形、仕上げ② 第10週・木彫刻の中取り工程 ・成形、仕上げ③ 第11週・木彫刻の小造り行程 ・成形、仕上げ④ 第12週・木彫刻の小造り行程 ・組上げ、調整接着① 第13週・木彫刻の小造り行程 仕上げ彫り工程 ・組上げ、調整接着② 第14週・木彫刻の仕上げ彫り工程から完成へ ・塗装 第15週・最終調整・合評

成績評価	履修態度（30%）・技術習得度（30%）・作品完成度（40%）によって評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。 シラバス〔2021年度版〕
参考書 参考資料	椅子と日本人のからだ（矢田部英正 晶文社 2003）、1000chairs（Taschen America2000） 日本の木の椅子（商店建築社 1996） 丸尾 彰三郎 水野敬三郎著 『日本彫刻史基礎資料集成』（中央公論美術出版） 近藤豊著 『古建築装飾文様集成 草木編・鳥獣編・風月編』（光村推古書院 1972）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する刃物等を研ぎ、切れ味の良い状態で課題に入れるように準備しておく。 古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる彫刻作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。 木彫刻彫像、自由課題ともに、授業で作図にとりかかれるよう、予め資料を収集するなど準備し、十分に構想を練っておくこと。 1コマに対し1.5時間の復習をする事。
関連科目	「専門実習Ⅱ（木工・彫刻）」「伝統工芸産業工学」「工芸経営論」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP309P

講義名	専門実習Ⅲ (陶芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 浅見 武	KYOB I 工芸学部

到達目標	上絵付技法について、文化財として継承されている伝統的な陶磁器の製造技術と化学的な陶磁器の製造技術を比較し、低火度絵具色彩調製技術を習得することを目的とする。また陶磁器の特質を理解していくとともにあらゆる石膏型成形技法を習得し、その素材を用いた加飾技術を習得することを目標とする。
授業概要	陶磁器坯土を用いた低火度・中火度・高火度陶磁器の製造技術として、複雑な形状の石膏型成形技法の実習を行う。無鉛フリットによる低火度絵具色彩調製、中火度釉薬調製実習を行ない、低火度・中火度焼成技術について実習を行う。 美術工芸学科ディプロマポリシー 1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 週 第1週 低火度絵具調製(京無鉛楽フリットベースの調製)：テストベース作成 第2週 低火度絵具調製(京無鉛楽フリットベースの調製)：基礎調製 第3週 低火度絵具調製(京無鉛楽フリットベースの調製)：絵具調製 第4週 低火度絵具調製(京無鉛楽フリットベースの調製)：絵付け・低火度 (0F) 焼成実習 第5週 成形実習(鑄込み成形)：泥漿調製 第6週 成形実習(鑄込み成形)：鑄込み 第7週 成形実習(鑄込み成形)：鑄込み 第8週 高火度釉・低火度釉(オリジナル調製テスト) 第9週 高火度釉・低火度釉(オリジナル調製テスト) (0F・RF) 焼成実習 第10週 成形実習(押し型成形[蓋物])：図面作成・石膏型作成 第11週 成形実習(押し型成形[蓋物])：押し型 第12週 成形実習(押し型成形[蓋物])：削り仕上げ 第13週 高火度釉・低火度釉(オリジナル調製テスト)の施釉[蓋物]：製品化 第14週 高火度釉・低火度釉(オリジナル調製テスト)の施釉[蓋物]：製品化 (0F・RF) 焼成実習 第15週 製品化の講評とレポート提出 ※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。
成績評価	授業態度30%・技術習得30%・レポートと作品完成度40%により総合的に評価する。
教科書	実習プランを含めたテキスト(伝統釉を含む)を配布、必要に応じて適宜資料を配布。
参考書 参考資料	釉調合の基本(改訂版) (加藤悦三著) 窯技社 [必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する]
履修上の注意	実習を始めるまでに、現在伝承している陶磁器の釉薬や素地、焼成などを調査しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。 整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	(内容)実習において配布する資料や実践指導で習得過程目標としている成形技法・加飾技法の反復練習に励むこと、また時間に余裕があれば事前に素材の成分や効果を調べておく。 (時間)実習1コマに対して1.5時間の復習をすること。
関連科目	「専門実習Ⅱ (陶芸)」 「伝統工芸産業工学」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP309P

講義名	専門実習Ⅲ(デザイン)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 工芸学部
教授	津村 健一	KYOB I 工芸学部
教授	安藤 眞吾	KYOB I 工芸学部
講師	木村 奈保	KYOB I 工芸学部
講師	岡 達也	KYOB I 工芸学部
特任准教授	富家 大器	KYOB I 工芸学部

到達目標	3コースにそれぞれにおける課題において、以下の内容を習得する。 ・実践的な市場調査を体験し、情報収集力や分析力を身につける。 ・企画・立案する力を身につける。 ・デザイン開発プロセスにおける一連の流れを推進できる力をつける。
授業概要	本授業は、3コース別に課題を行う。 ビジュアルデザインコース（エディトリアルデザイン/表現のベクトル展） インテリア・空間デザインコース（複合施設デザイン/表現のベクトル展） カルチャーデザイン（プロダクト/表現のベクトル展） *表現のベクトル展はプレ卒業制作と位置づけ展示発表機会を設ける。 美術工芸学科ディプロマポリシー 1, 2, 3, 4に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 回/週 2 日 第 1 週 オリエンテーション 第 2 週 企画・アイデア発想法演習 第 3 週 市場調査、情報収集及び分析 第 4 週 アイデア抽出 第 5 週 コンセプトの検討 第 6 週 デザイン検討 第 7 週 デザイン検討 第 8 週 中間講評、合評会 第 9 週 コンセプトの再検討 第 10 週 デザイン作業 第 11 週 デザイン作業 第 12 週 デザイン作業 第 13 週 デザイン作業 第 14 週 デザイン作業 第 15 週 課題総括、総合合評 *各コースおよび課題によって日程および内容が多少異なります
成績評価	授業態度30%、作品50%、プレゼンテーション内容20%によって総合的に評価する。
教科書	適宜、参考資料を配布する。
参考書 参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	実習1コマに対し1.5時間の事前学習をすること。
関連科目	専門実習Ⅱ(デザイン)
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評および質疑応答を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP312S

講義名	専門実習Ⅲ (文化財)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小林 泰弘	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	高橋 利明	KYOB I 工芸学部

到達目標	時代的な表現・材質・そのために確立された各工程の方法と技術の基本を習得して、材料の変化に対応した修理技術と表現法の変遷を学ぶことで、文化財修理の本質を理解するとともに、報告書作成のノウハウを学ぶ。
授業概要	現在の文化財修理の理念を学び、修理の全工程を実習するとともに、それに不可欠な、さまざまな材料を用いた文化財修理に必要な技法を学ぶ。 美術工芸学科ディプロマポリシーの①、③に該当する。
授業計画 授業内容	全15週/週2回 1週 組立 2週 組立 3週 組立 4週 接ぎ目処理 (材料選択、テストピース作成、実験) 5週 接ぎ目処理 (材料選択、テストピース作成、実験) 6週 接ぎ目処理 (材料選択、テストピース作成、実験) 7週 接ぎ目処理 (材料選択、テストピース作成、実験) 8週 漆箔・彩色 (材料選択) 9週 漆箔・彩色 (材料選択) 10週 漆箔・彩色 (材料選択) 11週 漆箔・彩色 (材料選択) 12週 修理記録 (報告書) 作成 完成写真撮影法 作図、採寸 13週 修理記録 (報告書) 作成 完成写真撮影法 作図、採寸 14週 修理記録 (報告書) 作成 完成写真撮影法 作図、採寸 15週 総評 現地納入
成績評価	実習中の態度 (30%)、習得度 (調査等も含む) (30%)、研究成果等 (40%) を基本に、総合的に判断する
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
参考書 参考資料	美術院紀要。他の修理報告書
履修上の注意	健康管理に留意し、道具・材料の安全な取り扱いを徹底すること。 文化財を汚したり傷つけることのないように常に心掛けること。 授業中は、常に『作業記録』『作品の観察記録』を取り、扱っている作品の状態を把握すること。 記録情報は、作業メンバーで共有すること。
予習・復習指導	予習は制作および道具の手入れ (刃物研ぎ等) 1.5時間 復習は授業内容の記録および道具の手入れ (刃物研ぎ等) 1.5時間
関連科目	「文化財保存概論」「文化財修理論」等の講義系科目
課題に対するフィードバックの方法	実習時間内で課題に対して常に質疑応答等を行う
科目ナンバリング	CAC-SP309P

講義名	プロジェクト演習 I		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 安藤 眞吾	KYOB I 工芸学部
教授	中井川 正道	KYOB I 工芸学部
教授	渡邊 俊博	KYOB I 工芸学部
講師	遠藤 公誉	KYOB I 工芸学部
特任教授	小林 泰弘	KYOB I 工芸学部
特任准教授	富家 大器	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	内田 俊秀	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	八田 誠治	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	齋藤 一陽	KYOB I 工芸学部

到達目標	・チームワークで課題解決するためのコミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキルの向上
授業概要	社会に実際にある課題をテーマにした問題解決型の実習で、実社会とつながる産学連携プロジェクトとしての側面をもち、地域の企業や団体と協力して取り組む。 数テーマに分かれて実施、専門コースを問わない学科内の横断的な演習授業とする。 美術工芸学科ディプロマポリシー2, 4に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 日/週 1 日 第 1 週 プロジェクト演習全体ガイダンス(グループ分け) 第 2 週 オリエンテーション 第 3 週～第 6 週 アイデアの具現化 第 7 週 中間発表 第 8 週 アイデア修正 第 9 週～第 14 週 実制作 第 15 週 最終プレゼンテーション 前年度の事例 「京都花灯路プロジェクト」 京都東山花灯路に連動して、京都の美大が創作行灯を制作。円山公園南の大谷祖廟参道に設置。 「駅ナカアートプロジェクト」 「国際文化都市・京都」をテーマにしたアート作品を地下鉄駅に展開することで、学生の視点で駅から京の文化を世界へ発信。(連携先：京都市交通局) 「京風パッケージデザインコンテスト」 次代を担う大学生を対象とした「食」をテーマにした京風パッケージデザインコンテスト。(主催：京都中央信用金庫)
成績評価	授業態度 (30%)、作品 (50%)、プレゼンテーション内容 (20%) によって総合的に評価する。
参考書 参考資料	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	調査分析資料、試作作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	授業でのディスカッションにおいて自身の案をプレゼンするために必要な資料を作成しておく。
関連科目	「専門実習 I (デザイン)」
課題に対するフィードバックの方法	成果発表において、講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP210S

講義名	プロジェクト演習Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 工芸学部
講師	遠藤 公誉	KYOB I 工芸学部
特任教授	小林 泰弘	KYOB I 工芸学部
特任准教授	富家 大器	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	田川 新一朗	KYOB I 工芸学部

到達目標	・チームワークで課題解決するためのコミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキルの向上
授業概要	社会に実際にある課題をテーマにした問題解決型の実習で、実社会とつながる産学連携プロジェクトとしての側面をもち、地域の企業や団体と協力して取り組む。 「デザイン系」「工芸系」の数テーマに分かれて実施。専門コースを問わない学科内の横断的な実習授業とする。 美術工芸学科ディプロマポリシー 1, 2, 3, 4に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 日/週 1 日 第 1 週 プロジェクト演習全体ガイダンス(グループ分け) 第 2 週 オリエンテーション 第 3 週～第 6 週 アイデアの具現化 第 7 週 中間発表 第 8 週 アイデア修正 第 9 週～第 14 週 実制作 第 15 週 最終プレゼンテーション 過年度の事例 「一坪茶室プレゼンテーション出展」 お茶の京都博での宇治茶を味わう新たな空間提案を京都府山城地区の市町村の一つとタイアップし企画立案制作を行う。(連携先：京都府) 「京風パッケージデザインコンテスト」 京都中央信用金庫主催の京風パッケージデザインコンテストに作品応募する。(連携先：京都中央信用金庫) 「夜久野町-宮神社御神木再生プロジェクト」 伐採された御神木(銀杏)を新たな神として創作し継承する。(連携先：夜久野町)
成績評価	授業態度30%、作品50%、プレゼンテーション内容20%によって総合的に評価する。
教科書	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
参考書 参考資料	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	調査分析資料、試作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	演習1コマに対し1.5時間の事前学習をすること。
関連科目	専門実習Ⅱ(デザイン)
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評および質疑応答を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP311S

講義名	プロジェクト演習Ⅲ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 工芸学部
教授	安藤 眞吾	KYOB I 工芸学部
教授	渡邊 俊博	KYOB I 工芸学部
講師	遠藤 公誉	KYOB I 工芸学部
特任教授	小林 泰弘	KYOB I 工芸学部
特任准教授	富家 大器	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	田川 新一朗	KYOB I 工芸学部

到達目標	・チームワークで課題解決するためのコミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキルの向上
授業概要	社会に実際にある課題をテーマにした問題解決型の実習で、実社会とつながる産学連携プロジェクトとしての側面をもち、地域の企業や団体と協力して取り組む。 「デザイン系」「工芸系」の数テーマに分かれて実施。専門コースを問わない学科内の横断的な実習授業とする。 美術工芸学科ディプロマポリシー 1, 2, 3, 4 に該当する。
授業計画 授業内容	全15日/週1日 第1週 プロジェクト演習全体ガイダンス(グループ分け) 第2週 オリエンテーション 第3週～第6週 アイデアの具現化 第7週 中間発表 第8週 アイデア修正 第9週～第14週 実制作 第15週 最終プレゼンテーション 過年度の事例 「カフェの食器開発プロジェクト」 東山キャンパスの近くに新規開店するカフェの食器を四季をテーマに企画デザインし実制作する。 (連携先：株式会社灰孝本店) 「きものデザインコンペ」 京都市内の学生を対象に、京都の基幹産業である和装の振興、人材育成及び学生のまち京都の推進寄与することを目的にしたコンペティション。(連携先：京都産業会館) 「東山花灯路プロジェクト」 大谷祖廟参道(円山公園南)の「大学の街京都・伝統の灯り展」に灯りのオブジェを出展する。 (連携先：京都東山花灯路実行委員会) 「七条通スタンブラリー&アートフェスタ」 七条通沿いのイベント参加店舗や施設内にアート作品を展示する。 (連携先：七条通商店街振興組合)
成績評価	授業態度30%、作品50%、プレゼンテーション内容20%によって総合的に評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	調査分析資料、試作作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	演習1コマに対し1.5時間の事前学習をすること。
関連科目	専門実習Ⅲ(デザイン)
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評および質疑応答を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP312S

講義名	卒業制作研究(漆芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 藤井 収	KYOB I 工芸学部

到達目標	3年次通期に履修した専門実習Ⅱ(漆芸)を引き継ぎ、形態の異なる課題(乾漆)を完成させる。3年間履修した髹漆技法を結集し、漆芸の総合的な理解を鑑み制作に挑む。
授業概要	専門実習Ⅱの課題である乾漆を完成させる。髹漆及び加飾仕上げの選択肢並びに漆芸技法の総合的な理解と習得を実践する。卒業制作研究としてデザインと技法等について、卒制企画案を作成する。美術工芸学科ディプロマポリシー1、2に該当する。
授業計画 授業内容	全30日／週2日(藤井：2日／週) 第1週 卒制について：概要説明、乾漆作品の作業継続等説明 第2週 作図1：作図及び製図、制作計画 第3週 作図2：作図及び製図、制作計画 乾漆作品完成作業1：継続作業 第4週 乾漆作品完成作業2：継続作業 卒業制作研究1 第5週 乾漆作品完成作業3：継続作業 卒業制作研究2 第6週 乾漆作品完成作業4：継続作業 卒業制作研究3 第7週 乾漆作品完成作業5：継続作業 卒業制作研究4 第8週 乾漆作品完成作業6：継続作業 卒業制作研究5 第9週 乾漆作品完成作業7：継続作業 卒業制作研究6 第10週 乾漆作品完成作業8：継続作業 卒業制作研究7 第11週 乾漆作品完成作業9：継続作業 卒業制作研究8 第12週 乾漆作品完成作業10：継続作業 卒業制作研究9 第13週 乾漆作品完成作業11：継続作業 卒業制作研究10 第14週 乾漆作品完成作業12：継続作業 卒業制作研究11 第15週 乾漆作品完成作業13：継続作業 卒業制作研究12
成績評価	技術習得度40%、作品完成度40%、レポート20%によって評価する。
教科書	特に指定しない、適宜資料を配付する。
参考書 参考資料	「やさしく身につく漆のはなし」1～4 (社団法人 日本漆工協会編)
履修上の注意	課題制作に限らず、工程のレポート作成も出来るように、参考文献等の知識も参考にし、技法や素材の名称や種類を正確に認識する必要がある。
予習・復習指導	工芸美術に関する情報を各自が収集し、技術や感性の錬磨に努めること。 (具体的な内容) 身近な画廊や美術館等で開催される展覧会情報を集め、多くの知識を蓄える。
関連科目	工芸概論、発想と表現、伝統工芸材料科学、伝統文様等
課題に対するフィードバックの方法	実習内容についての疑問点は、各自質疑すること。
科目ナンバリング	CAC-SP 4 13 P

講義名	卒業制作研究(木工・彫刻)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 青木 太一	KYOB I 工芸学部
講師	玉村 嘉章	KYOB I 工芸学部
特任教授	宮本 貞治	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	中岡 功	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	江元 遥	KYOB I 工芸学部

到達目標	・工芸品に対する美意識をより深いものとする。 ・卒業作品の具体的な設計と材料の準備をする。 ・塗装技法をより向上させる。 ・木彫刻技法・木彫刻のプロセス（彫り進め方）について理解を深める。 ・適切な道具の使い方（適材適所での各道具の使用）に習熟する。 ・卒業作品の構想をし木材材料の準備をする。
授業概要	今までに修得してきた三次元的な木工加工技術を用いて作品制作を行う。そしてより工芸品に対する美的感覚を習得する。ここでは、「小さな空間に技と美を収斂する上で大切なことは何なのか」を作品制作を通して体得することを目標とする。また同時に卒業作品の設計と、使用する材料の乾燥養生を並行して行う。 これまでに学んだ仏像彫刻、木彫刻彫像の技法の集大成として、今までの課題作品よりも大きな木彫刻を制作する。後期からの卒業制作に向けて材料の選択及び技法など卒業作品制作のプロセスを研究し確立させる。 美術工芸学科のディプロマポリシー1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全15週 第1週・図面作成①（彫刻・指物・割物・挽物いずれも可） ・木彫刻の作図、デッサン、見本となるモデリングを油土を用い製作 第2週・板材への墨付け・木割作業 ・木彫刻の作図、デッサン、見本となるモデリングを油土を用い製作 第3週・部材加工：鋸による粗取り ・木彫刻の習作・材への作図の転写、木取り、荒取り工程 第4週・部材加工：各部材の飽がけ① ・材への作図の転写、木取り、荒取り工程 第5週・部材加工：各部材の飽がけ② ・荒取り工程 第6週・部材加工：仕口加工① ・荒取り工程、中取り工程 第7週・部材加工：仕口加工② ・中取り工程 第8週・部材加工：仕口加工③ ・中取り工程 第9週・卒業制作プレゼンテーション① ・中取り工程、小造り工程 第10週・部材組立 ・小造り工程 第11週・拭漆作業 ・小造り工程 第12週・卒業制作設計図作成 ・小造り工程、仕上げ工程 第13週・卒業制作プレゼンテーション② ・仕上げ工程 第14週・拭漆作業 ・仕上げ工程 第15週・全体講評 ・講評、卒業制作構想発表
成績評価	履修態度（30%）・技術習得度（30%）・作品完成度（40%）によって評価する。

教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	木工大図鑑（講談社 2008） 太田古朴著 『仏像彫刻技法』（綜芸舎 1965） 近藤豊著 『古建築装飾文様集成 草木編・鳥獸編・風月編』（光村推古書院 1972） シラバス [2021年度版]
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。 古社寺や美術館を訪れて実際の木彫刻作品を見学するなど、課外学習を積極的に行なうことが望ましい。 授業で木彫刻作品の作図にとりかかれるよう、予め資料を収集するなど準備し、十分に構想を練っておくこと。
予習・復習指導	実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する刃物等を研ぎ、切れ味の良い状態で 課題に入れるように準備しておく。 1コマに対し1.5時間の復習をする事。
関連科目	「専門実習Ⅲ（木工・彫刻）」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP413P

講義名	卒業制作研究(陶芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 浅見 武	KYOB I 工芸学部

到達目標	これまでに習得した陶磁器製造技術は日本の長い歴史の伝統の中で切磋琢磨されてきた技術であり、各時代でさらに展開し、新しい技術・考え方を導入し、衣食住の文化を考慮した工芸製品の作成を目標に、新しい釉薬・素地・成形技術・加飾技法を考察し、進化してきた。卒業制作研究では、これまでに就学したことをふまえ、現在の新素材や新技術を取り入れ、これまでにない新しい文化的要素・意匠・用途・新たな価値観を考え、さらに進化する伝統工芸品の作成に向け、卒業制作研究することを目指す。
授業概要	陶芸実習の三年間で培った素材研究・成形研究・加飾研究・焼成研究を基礎として、各自の卒業制作テーマに向けて更なる研究を行う。 美術工芸学科ディプロマポリシー 1、2、3 に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 週 第 1 週 制作テーマの設定・ミーティング (担当職員と随時) 第 2 週 制作テーマ検討 (素地のテストピースの作成) 第 3 週 素地のテストピースの作成 第 4 週 素地のテストピースの作成・素焼き 第 5 週 技法実習 I (加飾技法の検討: 選択と応用検討) 実施計画 第 6 週 技法実習 II (加飾技法の検討: 選択と応用検討) テストピースによる検討 第 7 週 技法実習 III (焼成技法の検討: 選択と応用検討) 焼成と評価 第 8 週 技法実習 IV (素材技法の検討: 選択と応用検討) エスキースによる検討 第 9 週 技法実習 V (加飾技法の検討: 選択と応用検討) エスキースによる検討 第 10 週 技法実習 VI (焼成技法の検討: 焼成技法の選択と応用検討) 焼成・評価 第 11 週 技法実習 VII 試作品制作実習 第 12 週 技法実習 VIII 試作品制作実習・進捗状況プレゼンテーション 第 13 週 技法実習 IX 試作品制作実習 第 14 週 技法実習 X 試作品制作実習・図面・レポートまとめ 第 15 週 試作品講評・レポート提出 (担当教員による評価) ※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。
成績評価	授業態度30%・技術習得30%・レポートと作品完成度40%により総合的に評価する。
教科書	卒業制作研究プランを含めたテキストを配布、必要に応じて適宜資料を配布。
参考書 参考資料	釉調合の基本(改訂版) (加藤悦三著) 窯技社 [必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する]
履修上の注意	専門実習Ⅱ・Ⅲ(陶芸)で確立した素地技術・成形技術・加飾技術・焼成技術を応用する。
予習・復習指導	(内容) 卒業制作研究において配布する資料や実践指導で3年間に習得した成形技法・加飾技法の反復練習に更に励むこと。また時間に余裕があれば素材・成形・加飾・焼成など卒業制作に活かすための更なる研究に励むこと。 (時間) 実習1コマに対して1.5時間の復習をすること。
関連科目	「専門実習Ⅱ(陶芸)」 「専門実習Ⅲ(陶芸)」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP413P

講義名	卒業制作研究(デザイン)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 工芸学部
教授	安藤 眞吾	KYOB I 工芸学部

到達目標	・卒業制作に向けて制作根拠となりうる研究を行う。 ・研究仮説を明確化し調査対象を定め計画を立てる。 ・資料や対象物の調査を行い分析し整理する。 ・整理をもとに卒業制作の課題の意義やテーマを構築する。
授業概要	本授業は後期の「卒業制作」のための研究と位置づけ、各自で設定したテーマをどのように論述することができるかを研究、検討する。これまでに学んできた演習や実習内容をさらに発展させ、市場やユーザー調査を実施して制作視点および根拠をしっかりと組み立てる。 美術工芸学科ディプロマポリシー1, 2, 3に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 回 第 1 週 オリエンテーション 第 2 週 研究仮説の検討 第 3 週 研究計画の策定 第 4 週 調査 第 5 週 調査 第 6 週 調査 第 7 週 進捗発表 第 8 週 分析 第 9 週 分析 第10週 分析 第11週 試作、表現 第12週 試作、表現 第13週 試作、表現 第14週 試作、表現 第15週 最終発表 ＊美術工芸学科卒業制作研究報告会にて発表する
成績評価	調査成果50%、分析 20%、まとめ、発表内容 30%（作品および試作を含む）を総合的に評価する。
教科書	適宜、参考資料を配布する。
参考書 参考資料	授業を通して適宜紹介する。 他大学および本大学過年度卒業制作作品集
履修上の注意	ブレ卒業制作のつもりで調査、分析、試作、作品等の作業に取り組むこと。
予習・復習指導	他大の卒業制作展の視察を十分に行っておくこと。
関連科目	専門実習Ⅲ(デザイン)
課題に対するフィードバックの方法	プロセスおよび報告時に適宜評価内容を伝達する。 最終成果を公開展示する。
科目ナンバリング	CAC-SP413P

講義名	卒業制作研究(文化財)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小林 泰弘	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	田川 新一朗	KYOB I 工芸学部

到達目標	これまで培ってきた実習成果をまとめ、卒業制作、卒業論文の研究課題を見つける。 また、材料等の技法・混合比等の実験、試作等を行い卒業制作の第1歩を得る。
授業概要	これまで実習で培ってきた修復技術や古典技法などの実習成果の記録をまとめ、 卒業制作・卒業論文に向けて材料、技法など試作研究を行う。 美術工芸学科ディプロマポリシーの①、③に係る。
授業計画 授業内容	全15週/週2回 第1週 卒業制作準備 実習成果のまとめ 第2週 卒業制作準備 実習成果のまとめ 第3週 卒業制作準備 製作物・製作論文等の調査・研究 第4週 卒業制作準備 製作物・製作論文等の調査・研究 第5週 卒業制作準備 製作物・製作論文等の調査・研究 第6週 卒業制作準備 製作物・製作論文等の調査・研究 第7週 卒業制作準備 製作物・製作論文等の調査・研究 第8週 卒業制作準備 材料の研究、試作（エスキース） 第9週 卒業制作準備 材料の研究、試作（エスキース） 第10週 卒業制作準備 材料の研究、試作（エスキース） 第11週 卒業制作準備 材料の研究、試作（エスキース） 第12週 卒業制作準備 材料の研究、試作（エスキース） 第13週 卒業制作準備 材料の研究、試作（エスキース） 第14週 卒業制作準備 材料の研究、試作（エスキース） 第15週 総評
成績評価	実習中の態度（30%）、習得度（調査等も含む）（30%）、研究成果等（40%）を基本に、総合的に判断する
教科書	研究対象の書籍
履修上の注意	専門書等の調査・研究を行う。復習を怠らないこと。
予習・復習指導	調査・研究で3時間
関連科目	文化財専門実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲが履修済みであること
課題に対するフィードバックの方法	実習時間内で課題に対して常に質疑応答を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP413P

9. 専門教育科目 – 専門演習・実習科目

建築学科

講義名	工芸実習導入（建築デザイン）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	3		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目 工芸基礎系		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新海 俊一	KYOB I 工芸学部
講師	岡北 一孝	KYOB I 工芸学部
講師	根来 宏典	KYOB I 工芸学部
助教	新谷 謙一郎	KYOB I 工芸学部

到達目標	①図面表現や模型制作の基礎的手法および道具の種類・使い方を正しく習得する。 ②図面描写や模型制作を通じて、建築の成り立ちについて理解できるようになる。 ③事例調査やダイアグラムの作成を通じて、建築空間がどのようなコンセプト（考え方）に基づいて設計されたのかを理解できるようになる。
授業概要	本科目は、建築設計の基礎科目である。課題を通じて、建築製図や模型製作に用いる各種道具の適切な使い方、建築空間の見方、読み方を学ぶ。 1) 線の太さ、強弱、濃淡の使い分けとともに、文字の記入方法を習得する。 2) 配置図・平面図・断面図・立面図など、基本的な建築の図面（一般図）および透視図（パース）など、2次元での立体空間の表現技法について学ぶ。 3) 模型製作を行うことで立体の表現技法を習得する。 4) 世界の名作建築を教材に、建築学科の学生として知っておくべき建築物の図面を読み取り、どのような考え方で空間が設計されているのかを理解する力を育む。 各課題に取り組む上で、建築がどのようにつくられ、どのような部材で構成されているかを理解しながら取り組む。建築学科のディプロマポリシー 1、4に係る科目である。
授業計画 授業内容	全15週/週90分×3時限×15回 第1週：ガイダンス（用具の使い方、スケジュール、課題の説明） 第2週：線の練習（1） 第3週：線の練習（2） 第4週：文字の練習 第5週：建築図面のトレース（1） 平面図 1 第6週：建築図面のトレース（2） 平面図 2 第7週：建築図面のトレース（3） 配置図 第8週：建築図面の模写（4） 断面図・立面図 第9週：建築空間の立体表現 透視図（パース）、アクソノメトリック 第10週：建築模型の製作（1） 第11週：建築模型の製作（2） 第12週：建築模型の製作（3） 第13週：空間構成の読み取り（1） 図面の読み取り 第14週：空間構成の読み取り（2） ダイアグラムの作成 第15週：プレゼンテーション、まとめ ※課題の詳細および日程については、各課題の授業初回に指示する。
成績評価	受講態度（20%）、提出物（作品）の完成度（80%）によって総合的に評価する。
教科書	安藤直見、柴田晃宏、比護結子 共著『建築のしくみ 住吉の長屋／サヴォア邸／ファンズワース邸／白の家』、丸善株式会社、2008年
参考書 参考資料	日本建築学会編『第3版コンパクト建築設計資料集成』、丸善株式会社、2005年
履修上の注意	模型製作等で使用する道具に関して、安全対策の指導には必ずしたがう。
予習・復習指導	実習課題はその都度与えるが、提出期限は厳守する。 1.5時間の事前学習、3時間の復習が必要である。 事前学習としては、教科書や参考資料の熟読の他、興味のある建築書の読み込み、建築物の見学を自発的に行う。 復習としては、課題の振り返りと繰り返しの練習を行う。
関連科目	「構成基礎演習」「工芸実習基礎Ⅰ」「工芸実習基礎Ⅱ」

課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに口頭発表、講評、質疑応答等を行う。
教員の実務経験	建築・インテリア設計、都市計画、景観設計、プロダクト、グラフィックデザインなど、幅広い分野にわたる実務経験を持つ教員が指導する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CAT-SP 0 01 P

講義名	工芸実習基礎Ⅰ（建築デザイン）		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目 工芸基礎系		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 晋一	KYOB I 工芸学部
教授	山内 貴博	KYOB I 工芸学部
准教授	井上 年和	KYOB I 工芸学部
准教授	河村 大助	KYOB I 工芸学部
講師	人見 将敏	KYOB I 工芸学部
講師	根来 宏典	KYOB I 工芸学部
特任教授	種村 俊昭	KYOB I 工芸学部
特任教授	大上 直樹	KYOB I 工芸学部
特任講師	杏 義啓	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	大田 精一	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	堀井 大継	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	細尾 直久	KYOB I 工芸学部

到達目標	設定条件を満たした適切な設計が行えること。設計手順を理解し、同種建築の分析を通して適切な建築計画を行い、自身の作品を正確な方法で表現できること。また、伝統建築特有の基礎的知識を構法も含め理解すること。
授業概要	基本的な手順に沿って一通りの建築設計プロセスを体験する。第1課題は、小規模建築（10mキューブ）の課題を通して基本的な設計方法を習得する。第2課題は、伝統建築の理解の一助として茶室・茶屋の描写を行う。第3課題は、小規模ギャラリーを設計する。敷地や先行事例の調査、コンセプト（設計意図）の立案、それを具体化する設計作業・表現を行うことで建築作品としてまとめあげていくプロセスを習得する。 建築学科のディプロマポリシー 1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全15 週/ 週2日・4コマ 第1 週 ガイダンス、課題A<10mキューブ>：課題説明・課題分析 第2 週 課題A： コンセプトワーク・模型制作・エスキース 第3 週 課題A： 図面作成（平面図・断面図・立面図）・エスキース 第4 週 課題A： 中間提出・作品修正 第5 週 課題A： エスキース・成果品（プレゼンボード・完成模型）作成作業 第6 週 課題A： 最終提出・優秀作品発表、課題B<茶室のトレース>：課題説明・起し絵図作成 第7 週 課題B： 建築図面の表現と理解（1）/平面図 第8 週 課題B： 建築図面の表現と理解（2）/立面図 第9 週 課題B： 建築図面の表現と理解（3）/断面図・最終提出 第10 週 課題C<小規模ギャラリー>：課題説明・課題分析・敷地見学・事例調査 第11 週 課題C： コンセプトワーク・図面作成（配置図・平面図）・エスキース 第12 週 課題C： 図面作成（断面図・立面図）・模型制作・エスキース 第13 週 課題C： 中間提出・作品修正 第14 週 課題C： エスキース・成果品（プレゼンボード・完成模型）作成作業 第15 週 課題C： 最終提出・優秀作品発表
成績評価	授業態度（20%）、各課題の成果品の総合点（80%）で成績評価を行う。 成果品提出遅延の場合は大幅に減点されるので注意すること。
教科書	自作プリント、「第3版 コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 丸善
参考書 参考資料	「建築概論」、「建築計画Ⅰ」の教科書及び講義の中で配布された資料等
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT 作業（CAD 等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。

予習・復習指導	設計課題と類似する事例の資料の調査ならびに実際の建築物を日頃より視察し、分析すること。 「工芸実習導入」で習得した図面・模型の作成方法、事例の読解方法を事前に確認しておくこと。 各課題共通で教科書のSection1, 3を読み、かつ課題CについてはSection4を参照。
関連科目	「工芸実習導入」、「工芸実習基礎Ⅱ」、「構成基礎演習」、「情報基礎演習」、「コンピュータデザイン演習」、「建築概論」、「建築計画Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとのエスキースや中間・最終成果品に対して講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CAT-SP 1 02 P

シラバス [2021年度版]

講義名	工芸実習基礎Ⅱ（建築デザイン）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目 工芸基礎系		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 種村 俊昭	KYOB I 工芸学部
准教授	森重 幸子	KYOB I 工芸学部
准教授	生川 慶一郎	KYOB I 工芸学部
准教授	河村 大助	KYOB I 工芸学部
講師	人見 将敏	KYOB I 工芸学部
講師	永井 秀幸	KYOB I 工芸学部
助教	江本 弘	KYOB I 工芸学部
特任教授	大上 直樹	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	大田 精一	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	大庭 徹	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	細尾 直久	KYOB I 工芸学部

到達目標	小規模な空間および住宅の設計により、基本的な建築空間の設計能力を身に付けるとともに、設計提案を図面および模型を用いて表現する方法を習得する。また、小規模の伝統建築について、構法を含めた知識を習得する。
授業概要	第一課題として、小規模なカフェ空間の設計を通して、建築や空間のプロポーショナル、動線の計画、光や影の演出、景色の切り取りといった基本的な空間造形および演出方法について学び、プレゼンテーションを行う。中間に伝統建築の理解の一助として民家の描写を行う。第二課題として、趣味空間のある住まい方を提案しながらより豊かな住空間の創造を目指しエスキスをを行い、基本設計図書を作成し、プレゼンテーションを行う。 建築学科のディプロマポリシー 1、2、3、4に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 週／週2日・4コマ 第 1 週 ガイダンス、課題A・[ライブラリーカフェ]①：課題説明、敷地調査 第 2 週 ギャラリー②：コンセプト・基本構想報告 第 3 週 ギャラリー③：平面・断面・エスキス模型報告 第 4 週 ギャラリー④：成果品作成作業 第 5 週 ギャラリー⑤：作品発表 第 6 週 伝統建築①：[民家]建築図面の表現と理解 (1) / 平面図 第 7 週 伝統建築②：[民家]建築図面の表現と理解 (2) / 平面図 第 8 週 伝統建築③：[民家]建築図面の表現と理解 (3) / 矩計図 第 9 週 伝統建築④：[民家]建築図面の表現と理解 (4) / 矩計図 第 10 週 課題B：[趣味空間を活かした住宅]①：課題説明、敷地調査、事例分析、コンセプト立案 第 11 週 住宅②：コンセプトシート報告・基本構想作成作業 第 12 週 住宅③：基本構想発表・平面・断面・エスキス模型作成作業 第 13 週 住宅④：平面・断面・エスキス模型報告・成果品作成作業 第 14 週 住宅⑤：成果品（プレゼンボード・完成模型）作成作業 第 15 週 住宅⑥：作品発表
成績評価	授業態度20%、「基本型課設計・製図・展開型課題成果品」80%の内容から総合評価を行う。
教科書	「第3版 コンパクト建築設計資料集」日本建築学会編 丸善
参考書 参考資料	「建築概論」、「建築計画Ⅰ・Ⅱ」の教科書及び講義の中で配布された資料等
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT作業（CAD等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。 敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。 講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。

予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 設計課題と類似する実例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。 課題AおよびBに当たっては、教科書のsection3「室と場面」を読み、行方と必要な空間の寸法について確認しておくこと。
関連科目	1年次の「工芸実習導入」「工芸実習基礎Ⅰ」から発展した内容を取り扱う。 同時期に開講する「IT活用応用演習」は、設計提案の表現手法として本演習に活用できる内容を取り扱う。「建築計画Ⅱ」は特に住空間の計画上の考え方として本演習と関連がある。
課題に対するフィードバックの方法	毎回ごとに進捗状況や構想内容についての質疑応答を行う。 提出作品に対して、グループごと、および全体での講評・質疑応答を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CAT - SP 2 03 P

シラバス[2021年度版]

講義名	建築デザイン演習 I		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目 建築デザイン系		
配当年次	2		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新海 俊一	KYOB I 工芸学部
教授	安田 光男	KYOB I 工芸学部
准教授	井上 年和	KYOB I 工芸学部
講師	岡北 一孝	KYOB I 工芸学部
講師	永井 秀幸	KYOB I 工芸学部
助教	江本 弘	KYOB I 工芸学部
特任教授	小椋 吉隆	KYOB I 工芸学部
特任講師	杏 義啓	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	大田 精一	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	山口 尚之	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	大庭 徹	KYOB I 工芸学部

到達目標	(建築デザイン) ①小・中規模建築物の設計手法を習得する。 ②基本コンセプト、ゾーニング、配置計画、動線計画、環境設計、構造設計、プランニングを体系的に進める事が出来るようになる。 (伝統建築) 製図器具の使い方や図面表現の基本知識を理解し、伝統建築特有の複雑な様式を表現できる製図技術力を習得するとともに、伝統建築設計図面を読解できる技術力を体得する。
授業概要	第1課題は共通課題、第2課題は建築デザイン・伝統建築の課題の選択制で行われる。 (建築デザイン) 小・中規模の集合住宅、教育施設、商業施設、コミュニティ施設などの設計を行い、課題を通して、計画・構造・設備・デザイン・透視図など、建築設計の基礎的要素を体験的に学ぶことを目的とする。具体的な敷地に対してフィールドサーベを行い、コンセプト(設計意図)を立て、それを具体化する設計を行う。各学生が分析・検討した成果を個別にチェックを行い、最適解とするための指導を行う。 建築学科のディプロマポリシーの2・3・4に係る。 (伝統建築) 伝統建築設計図が表現している意味を理解し、製図技術力を習得する為、代表的な寺院・神社建築の平面図・断面図・立面図(縮尺=1/40 ~ 1/50 程度)を作図する。 建築学科のディプロマポリシーの2に係る。
授業計画 授業内容	全 15 週/ 週 90 分×4時限× 15 回 共通課題 (第1課題) 第1週 ガイダンス、課題 A「集合住宅」: 課題説明・課題分析作業 第2週 課題・敷地・事例分析結果報告<グループ別> 第3週 平面計画・断面計画・エスキスチェック 第4週 基本構想発表<グループ別・全体> 第5週 構造計画・環境計画・エスキスチェック 第6週 プレゼンテーション作成・面積表・仕上表作成 第7週 作品提出・作品発表<全員公聴・評価> 建築デザイン課題 (第2課題選択制) 第8週 課題 B・「住宅地に建つ幼稚園」: 課題説明・課題分析作業

シラバス [2021年度版]

	第9週 課題・敷地・事例分析結果報告<グループ別> 第10週 平面計画・断面計画・エスキスチェック 第11週 基本構想発表<グループ別・全体> 第12週 平面・断面・エスキスチェック 第13週 構造計画・環境計画・エスキスチェック 第14週 プレゼンテーション作成・面積表・仕上表作成 第15週 作品提出・作品発表<全員公聴・評価> 伝統建築課題（第2課題選択制） 第8週 課題説明・図面作成 第9週 図面作成 第10週 見学会 第11週 模型作成 第12週 模型作成 第13週 模型作成 第14週 模型作成 第15週 模型作成
成績評価	学習状況（20%）、提出作品（80%）の完成度によって総合的に評価する。
教科書	「第3版 コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 丸善
参考書 参考資料	演習におけるレクチャー等で配布される資料
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT 作業（CAD等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理し常備すること。
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 課題着手までに類似物件を数多く調査・見学しておくこと。 製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT 作業（CAD等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理し常備すること。
関連科目	「工芸実習導入」、「工芸実習基礎I」、「工芸実習基礎II」
課題に対するフィードバックの方法	建築デザイン（第1課題・第2課題） 20名程度の学生に一人の教員指導によるスタジオ制とし、発表会において全ての学生の作品に対して講評を行う。さらに、すべての作品について教員・学生投票を行い、投票数を多く獲得した学生発表について講評を行う。 伝統建築（第2課題） 最終回に手成果品に対し総評を行う。
教員の実務経験	各種建築計画・設計実務経験を有する。
科目ナンバリング	CAT-SP 2 04 S

講義名	建築デザイン演習Ⅱ		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目 建築デザイン系		
配当年次	3		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 晋一	KYOB I 工芸学部
教授	安田 光男	KYOB I 工芸学部
教授	山内 貴博	KYOB I 工芸学部
准教授	井上 年和	KYOB I 工芸学部
准教授	森重 幸子	KYOB I 工芸学部
准教授	生川 慶一郎	KYOB I 工芸学部
准教授	河村 大助	KYOB I 工芸学部
講師	永井 秀幸	KYOB I 工芸学部
講師	根来 宏典	KYOB I 工芸学部
助教	新谷 謙一郎	KYOB I 工芸学部
助教	江本 弘	KYOB I 工芸学部
特任教授	小梶 吉隆	KYOB I 工芸学部
特任講師	杏 義啓	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	山田 滋也	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	中村 卓	KYOB I 工芸学部

到達目標	【前期】 オフィスデザインと、構造デザイン（ストラクチャから建築を考える）の課題を通して、より専門性の高い設計手法を習得し、建築設計の根幹となる知識を獲得することを到達目標とする。 【後期】 上記の設計課題を通して、設計条件分析や発想・概念のまとめ方、機能や空間の構成法、形態化、構造・設備計画法等を習得すると共に、各種の構工法、製図法の知識と表現技術を習得することを到達目標とする。
授業概要	【前期】 前半はオフィスデザイン課題、後半は建築構造課題に取り組むことで、建築設計に必要な基礎知識を習得し、後期課題に向けての準備を行う。オフィスデザイン課題では、小規模事務所ビル設計と近年の新しい働き方に対応したオフィスインテリアに関する計画について、設備・内装材料等も含めた統合的なデザイン手法を身に付ける。建築構造課題では各種構造形式を習得するなど建築構造の理解を深める。 【後期】 メディアセンター、社会教育施設、商業施設、展示施設、コミュニティ施設、駅前広場などの地域複合施設の設計を行う。そのことを通じてRC造などの建築の構工法、製図法の知識と表現技術を学ぶと共に、複合的な建築物の設計、リサーチによる課題の発見とコンセプトメイキング、プログラムの提案を習得する。（小グループに分け各グループを各教員が指導するスタジオ制で行う。） 建築学科のディプロマポリシー 1、2、3、4に該当する。
授業計画 授業内容	【前期】全15週/週1日・2コマ 第1週 ガイダンス・「オフィスデザイン」課題説明 第2週 エスキース1：リサーチ 第3週 エスキース2：報告共有、設計開始 第4週 エスキース3：テーマ、コンセプト作成 第5週 エスキース4：平面計画・断面計画・構造計画

シラバス [2021年度版]

	第 6 週 エスキース5: 基本構想発表・提出 第 7 週 エスキース6: 内装計画・環境計画 第 8 週 エスキース7: 作図 (仕上げ) 第 9 週 エスキース8: プレゼンテーション 第10週 作品発表・指摘内容の修正加筆 (指摘作品) 第11週 建築構造課題説明、S造、RC造 第12週 構造デザイン エスキース 第13週 模型製作 1 第14週 模型製作 2 第15週 模型製作 3 ※課題の詳細についてや日程については、各課題の講義初日に各教員が指示する。 【後期】全15週／週2日・4コマ 第 1 週 ガイダンス、課題A(1) <メディアセンター>課題説明・班分け・作業 第 2 週 課題A(2): 課題・機能・社会的課題分析発表 第 3 週 課題A(3): サーベイプレゼン・提出 (課題・敷地分析、類似施設見学報告) 第 4 週 課題A(4): 基本構想発表・提出 (平面構成、空間構成、造形デザイン) 第 5 週 課題A(5): スタディ模型等エスキース (平面構成、空間構成、造形デザイン) 第 6 週 課題A(6): 作図 (仕上げ)、提出模型製作 第 7 週 課題A(7): 作図 (仕上げ)、提出模型製作 第 8 週 課題A(8): 作品発表・指摘内容の修正加筆 (指摘作品)・展示 自己評価 第 9 週 課題B(1): <選択制 (駅前広場と付帯施設)>課題説明 第10週 課題B(2): 課題・機能・社会的課題分析発表 第11週 課題B(3): サーベイプレゼン・提出 (課題・敷地分析、類似施設見学報告) 第12週 課題B(4): 基本構想発表・提出 (平面構成、空間構成、造形デザイン) 第13週 課題B(5): スタディ模型等エスキース (平面構成、空間構成、造形デザイン) 第14週 課題B(6): 作図 (仕上げ)、提出模型製作 第15週 課題B(7): 作品発表・指摘内容の修正加筆 (指摘作品) ※課題の詳細についてや日程については、各課題の講義初日に各教員が指示する。
成績評価	【前期】授業態度 (20%)、前半・後半「成果品」 (80%) から総合評価を行う。 【後期】授業態度 (20%)、課題A・課題B「成果品」 (80%) から総合評価を行う。
教科書	【前・後期】自作プリント、「第3版 コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 丸善
参考書 参考資料	「建築計画I・II・III・IV」の講義の中で配布された資料等
履修上の注意	【前・後期】製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。 VDT 作業(CAD等)の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	【前期】一講義 (2コマ) に対して3時間の予習復習をすること。 【後期】一講義 (2コマ) に対して3時間の予習復習をすること。 設計課題と類似する実例 (複数) を日頃見学、視察し分析すること。
関連科目	【前・後期】「工芸実習導入」、「工芸実習基礎 I・II」、「建築デザイン演習 I」、各種座学
課題に対するフィードバックの方法	各回ごとに進捗状況や構想内容についての質疑応答を行う。 作品発表時は全体での講評・質疑応答を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CAT-SP 3 05 S

講義名	建築デザイン演習Ⅲ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目 建築デザイン系		
配当年次	4		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 高田 光雄	KYOB I 工芸学部
教授	安田 光男	KYOB I 工芸学部
教授	井上 晋一	KYOB I 工芸学部
教授	山内 貴博	KYOB I 工芸学部
准教授	森重 幸子	KYOB I 工芸学部
講師	人見 将敏	KYOB I 工芸学部
講師	岡北 一孝	KYOB I 工芸学部
特任教授	種村 俊昭	KYOB I 工芸学部
特任講師	杏 義啓	KYOB I 工芸学部

到達目標	「建築デザイン演習Ⅰ・Ⅱ」や各種座学で得た知識を基に、建築・地域・都市の課題を通じて、卒業研究や卒業設計としての具体的な成果へとつながる資料収集力・調査分析力・構想力・発想力・デザイン力・スケジュール管理能力を身につける。
授業概要	ゼミ制として各指導教官に配属し、卒業制作へと繋げることを念頭に置き、建築・地域・都市に関するテーマを各自設定し、建築デザインコンペの参加も視野に入れ、論文／設計の制作を行う。 [建築・地域・都市的デザイン、伝統的建築群含む群建築・再開発・複合施設・外部空間構成・リノベーション・コンバージョン等] 建築学科のディプロマポリシー 1、2、3、4に該当する
授業計画 授業内容	全15週／週2日 第1週 ガイダンス 第2週 ゼミ・チェック（制作方針について）1 第3週 ゼミ・チェック（制作方針について）2 第4週 ゼミ・チェック（敷地／資料調査）1 第5週 ゼミ・チェック（敷地／資料調査）2 第6週 ゼミ・チェック（制作コンセプト草案）1 第7週 ゼミ・チェック（制作コンセプト草案）2 第8週 ゼミ・チェック（中間報告草案） 第9週 中間報告（全体） 第10週 ゼミ・チェック（図面・模型）1 第11週 ゼミ・チェック（図面・模型）2 第12週 ゼミ・チェック（図面・模型）3 第13週 ゼミ・チェック（図面・模型）4 第14週 ゼミ・チェック（図面・模型）5 第15週 最終プレゼンテーション・講評
成績評価	授業態度（出席等30%）、中間・最終「成果品」（評価等70%）から総合評価を行う。
教科書	自作プリント、「第3版 コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 丸善
参考書 参考資料	「建築計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「伝統建築環境学」等の講義の中で配布された資料等 「建築設計資料集成」[地域・都市Ⅰ～プロジェクト編] 及び[地域・都市Ⅱ～データ編]日本建築学会編 丸善株
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT作業（CAD等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。 敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。 講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。

予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 設計課題と類似する実例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。
関連科目	「工芸実習導入」、「工芸実習基礎Ⅰ・Ⅱ」、「建築デザイン演習Ⅰ・Ⅱ」、各種座学
課題に対するフィードバックの方法	それぞれの成果品を発表し、講評・質疑応答を行う
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CAT-SP 4 06 S

シラバス「2021年度版」

講義名	伝統建築専門実習 I		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門実習科目 伝統建築系		
配当年次	2		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井上 年和	KYOB I 工芸学部

到達目標	建築デザイン演習 I に倣う。
授業概要	建築デザイン演習 I と統合する。
授業計画 授業内容	全15 週 第 1 ～ 15 週 建築デザイン演習 I に倣う
成績評価	建築デザイン演習 I に倣う
教科書	建築デザイン演習 I に倣う
参考書 参考資料	建築デザイン演習 I に倣う
履修上の注意	建築デザイン演習 I に倣う
予習・復習指導	一講義（2 コマ）に対して 3 時間の予習復習をすること。
関連科目	建築デザイン演習 I に倣う
課題に対するフィードバックの方法	建築デザイン演習 I に倣う
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CAT-SP 2 07 P

講義名	伝統建築専門実習Ⅱ		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目 伝統建築系		
配当年次	3		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井上 年和	KYOB I 工芸学部
特任教授	大上 直樹	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	大田 精一	KYOB I 工芸学部

到達目標	前期は建築デザイン演習Ⅱに倣う。 後期は歴史的建造物の現地調査（実測調査、破損調査、仕様調査）を行い、実測図を作成するとともに、修理計画を立案し、調査研究、設計、施工に関するそれぞれの手法を習得する。
授業概要	前期は建築デザイン演習Ⅱと統合する。 後期は歴史的建造物の調査、設計に関する論文の執筆、図面・模型の制作などを行う。
授業計画 授業内容	全30 週 〈前期〉第1～15週 建築デザイン演習Ⅱと統合 〈後期〉第16週 オリエンテーション 第17週 実測調査① 第18週 実測調査② 第19週 実測調査③ 第20週 実測調査④ 第21週 実測調査⑤ 第22週 図面作成① 第23週 図面作成② 第24週 図面作成③ 第25週 図面作成④ 第26週 図面作成⑤ 第27週 報告書・プレゼンテーション資料作成① 第28週 報告書・プレゼンテーション資料作成② 第29週 報告書・プレゼンテーション資料作成③ 第30週 プレゼンテーション、講評 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	〈前期〉建築デザイン演習Ⅱに倣う。 〈後期〉それぞれの成果物の完成度、発表の内容で評価する。
教科書	〈前期〉建築デザイン演習Ⅱに倣う。 〈後期〉適宜プリントを配布する
参考書 参考資料	〈前期〉建築デザイン演習Ⅱに倣う。 〈後期〉文化財建造物等の修理工事報告書、『日本建築史図面史料集成』中央公論美術出版
履修上の注意	〈前期〉建築デザイン演習Ⅱに倣う。 〈後期〉各自が主体的に取り組み、成果達成に向けて時間配分を充分に考慮すること。
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。
関連科目	〈前期〉建築デザイン演習Ⅱに倣う。 〈後期〉伝統住居概論、社寺建築概論、伝統構造学
課題に対するフィードバックの方法	最終日に総評を行う。
教員の業務経験有無	有
科目ナンバリング	CAT-SP 3 08 P

講義名	伝統建築専門実習Ⅲ		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目 伝統建築系		
配当年次	4		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 大上 直樹	KYOB I 工芸学部
准教授	井上 年和	KYOB I 工芸学部

到達目標	「伝統建築専門実習Ⅱ」で得た知見を基に、歴史的建造物の調査研究、設計、施工に関する制作手法を発展させる。
授業概要	各自が歴史的建造物の調査、設計に関するテーマを設定し、論文の執筆、図面・模型の制作を行う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週 オリエンテーション 第2週 テーマ設定① 第3週 テーマ設定② 第4週 論文執筆、図面・模型制作① 第5週 論文執筆、図面・模型制作② 第6週 論文執筆、図面・模型制作③ 第7週 論文執筆、図面・模型制作④ 第8週 論文執筆、図面・模型制作⑤ 第9週 中間発表 第10週 論文執筆、図面・模型制作⑥ 第11週 論文執筆、図面・模型制作⑦ 第12週 論文執筆、図面・模型制作⑧ 第13週 論文執筆、図面・模型制作⑨ 第14週 論文執筆、図面・模型制作⑩ 第15週 プレゼンテーション、講評 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。 建築学科のディプロマポリシーの2、3に係る
成績評価	それぞれの成果物の完成度、発表の内容で評価する。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書 参考資料	文化財建造物等の修理工事報告書、『日本建築史図面史料集成』中央公論美術出版
履修上の注意	学生個々に卒業制作との関連を確認しながら進めること。
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 学生個々に卒業制作との関連を確認しながら進めること。
関連科目	伝統建築専門実習Ⅱ、伝統住居概論、社寺建築概論、伝統構造学
課題に対するフィードバックの方法	課題をすべて提出しチームごとに発表会をおこないその講評・質疑応答をおこなう
教員の実務経験	担当教員の大上教授および井上准教授ともに長年文化財建造物保存修理工事の設計監理の経験があり、伝統的建造物の実測調査と図面作成の専門家である
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CAT-SP 4 09 P

講義名	卒業制作（建築）		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 高田 光雄	KYOB I 工芸学部
教授	安田 光男	KYOB I 工芸学部
教授	井上 晋一	KYOB I 工芸学部
教授	山内 貴博	KYOB I 工芸学部
准教授	井上 年和	KYOB I 工芸学部
准教授	森重 幸子	KYOB I 工芸学部
講師	人見 将敏	KYOB I 工芸学部
講師	岡北 一孝	KYOB I 工芸学部
特任教授	種村 俊昭	KYOB I 工芸学部
特任教授	大上 直樹	KYOB I 工芸学部
特任講師	杏 義啓	KYOB I 工芸学部

到達目標	各自の設定したテーマに沿って、独自の調査、分析、研究などに基づき作品を構想し、設計／論文を制作する。 幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見いだす力を養う。
授業概要	学生各自がテーマを設定し、指導教官の指揮の下で卒業制作を行う。テーマの選定にあたっては、予め十分な討議を指導教官及び学生間でおこない、4年間の講義、実習、演習を通じて習得した建築に関する知識や技術に基づき、建築分野の卒業論文あるいは卒業設計に相応しい課題を選定する。 建築学科のディプロマポリシー 1、2、3、4に該当する。
授業計画 授業内容	1. 卒業制作ガイダンス 2. 卒業テーマ、敷地／資料分析の検討 3. ゼミ・チェック（制作コンセプト草案）1 4. ゼミ・チェック（制作コンセプト草案）2 5. ゼミ・チェック（制作コンセプト草案）3 6. 卒業制作中間発表 7. ゼミ・チェック（設計／論文草案）1 8. ゼミ・チェック（設計／論文草案）2 9. ゼミ・チェック（設計／論文草案）3 10. ゼミ・チェック（設計／論文草案）4 11. ゼミ・チェック（まとめ、プレゼンテーション）1 12. ゼミ・チェック（まとめ、プレゼンテーション）2 13. ゼミ・チェック（まとめ、最終プレゼンテーション） 14. 作品展示、提出 15. 講評会
成績評価	4年間の学びの集大成として、卒業制作（設計・論文）のテーマや価値を見極めた「研究・計画・制作・発表」ができているかを評価する。
教科書	自作プリント、「第3版コンパクト設計資料集成」日本建築学会編 丸善
参考書 参考資料	「建築計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「伝統建築環境学」等の講義の中で配布された資料等 「建築設計資料集成」「日本建築学会梗概集・論文集」 「卒業制作作品集（各種）」「建築雑誌（各種）」
履修上の注意	成果物の提出締め切り日に必ず提出すること。 「卒業制作中間発表会」・「講評会」には必ず出席すること。 製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。 VDT作業（CAD等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。 敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。 講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	類似する実例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。
関連科目	「工芸実習導入」、「工芸実習基礎Ⅰ・Ⅱ」、「建築デザイン演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「伝統建築図（基礎）・（応用）・（発展）」、「伝統建築専門実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、各種座学
課題に対するフィードバックの方法	ゼミ・チェック時に担当教員より質疑応答・講評を行う。 「卒業制作中間発表会」及び「講評会」時に建築学科の教員により質疑応答・講評を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CAT-SP 4 10 P

10. 博物館学芸員養成科目

講義名	生涯学習論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 吉富 千恵	KYOB I 工芸学部

到達目標	①人間の生涯に渡る発達について学ぶ ②生涯学び続けることの意義と必要性を理解する ③生涯学習支援と推進の方法を学ぶ
授業概要	本講義では、生命誕生の瞬間から高齢期まで、それぞれの時期における発達と課題を詳しく学ぶことを通して、生涯学習について考えます。 本科目は、工芸学部ディプロマポリシーの3に該当します。
授業計画 授業内容	第1回 オリエンテーション 第2回 胎児期① 第3回 胎児期② 第4回 乳幼児期① 第5回 乳幼児期② 第6回 児童期① 第7回 児童期② 第8回 青年期① 第9回 青年期② 第10回 中年期① 第11回 中年期② 第12回 高齢期① 第13回 高齢期② 第14回 生涯学習論の背景① 第15回 生涯学習論の背景②
成績評価	受講態度30%、期末テスト70%
教科書	特に指定しない、適宜レジュメを配布する。
参考書 参考資料	『現代の生涯学習』 岩永雅也 放送大学教材
履修上の注意	私語厳禁です。
予習・復習指導	特になし
関連科目	博物館学芸員養成科目
課題に対するフィードバックの方法	コメント、質問のフィードバックを次回以降の講義内で行う。
科目ナンバリング	CRA-GE 1 06 L

講義名	博物館概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 岡 達也	KYOB I 工芸学部

到達目標	博物館活動の概要を把握するとともに、博物館の諸活動に従事するために不可欠な基礎的知識を総合的に習得する。
授業概要	博物館は、さまざまな博物館資料を調査・研究、さらに展示・活用し、幅広く社会と関わる学習活動の拠点である。本講義では、博物館活動の具体例を提示し、現代社会における博物館の役割と意義を理解することを目指す。 工芸学部のディプロマポリシー 1 に該当する。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス 第2回 博物館とはなにか 第3回 学芸員の仕事① 第4回 学芸員の仕事② 第5回 博物館建築と機能 第6回 博物館の歴史① 第7回 博物館の歴史② 第8回 博物館と収集・保存 第9回 博物館資料と情報化 第10回 博物館と展示① 第11回 博物館と展示② 第12回 博物館とデジタル技術 第13回 博物館と学校教育 第14回 博物館と地域 第15回 総括
成績評価	授業時の小レポート（40%）、期末試験（60%）によって総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	加藤有次、鷹野光行、西源二郎、山田英徳、米田耕司『新版博物館学講座1 博物館概論』雄山閣出版
履修上の注意	博物館学芸員資格取得希望者は必ず受講すること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	博物館学芸員養成関連科目
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを講義内でおこなう。
科目ナンバリング	CRA-GE108L

講義名	博物館経営論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	2		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 岩田 均	KYOB I 工芸学部

到達目標	博物館経営の基礎的な理論や事例を学び、博物館学芸員の役割や使命を理解すること。身近な博物館の経営改善や、理想とする博物館の構想などに取組むこと。
授業概要	博物館には、固有の文化的資源を発掘・評価し、資料を収集・保存・展示し、過去・現在・未来をつなぐ重要な使命がある。この授業では、主に経営学と文化経済学から得られる知見を基に、博物館経営の要諦を解説する。美術工芸学科のディプロマポリシー2,3に該当する。
授業計画 授業内容	第1回 博物館経営とは 第2回 博物館と法律 第3回 博物館の使命 第4回 博物館と経営戦略 第5回 博物館のマーケティング 第6回 博物館の文化経営 第7回 博物館の非営利性 第8回 博物館の組織 第9回 資金のマネジメント 第10回 学芸員の仕事 第11回 博物館の評価・改善 第12回 博物館と社会連携 第13回 博物館のリスク管理 第14回 博物館と観光 第15回 総括、到達度テスト
成績評価	ミニレポートや受講意欲などの平常点（50%）と最終段階での到達度テスト（記述、50%）によって総合的に評価する。
教科書	講義用資料を電子データで配信する。
参考書 参考資料	月刊『博物館研究』日本博物館協会
履修上の注意	学んだことを実際に使う・応用する、という積極的な心構えをもって受講すること。
予習・復習指導	1コマに対し、1時間の事前学習及び3時間の復習を目安とすること。 講義の中で提示する課題に真摯に取り組むことをはじめ、しっかり復習して講義内容を博物館経営の改善に役立てるように。
関連科目	学芸員資格科目
課題に対するフィードバックの方法	ミニレポートや質問などについて、次回以降の講義の中で解説するなどの方法で対応する。
教員の実務経験	京都府庁で24年間、シンクタンクで7年間の実務経験を有す。
科目ナンバリング	CRA-CU 2 01 L

講義名	博物館資料論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	2		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 岡 達也	KYOB I 工芸学部
非常勤講師	和田 積希	KYOB I 工芸学部

到達目標	博物館資料の分類とその方法に関する知識と、取扱いの基礎的能力を養う。
授業概要	博物館のコレクションを構築する博物館資料の名称、員数、時代表記、形状、品質、構造、伝来および解説を記述する方法を、各分野別に体系的かつ実践的に学び、高度に洗練された多様な文化の遺産を守り伝える博物館学芸員の素養を身につける。 工芸学部のディプロマポリシーIに該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス 第2回 博物館資料とは ―博物館資料の概念 第3回 博物館資料とは ―博物館資料の分類 第4回 博物館資料の情報化 第5回 博物館資料の公開 第6回 博物館資料の実例 ―デザイン資料 第7回 博物館資料の実例 ―ポスター資料 第8回 博物館資料の実例 ―教育資料 第9回 資料の調査の実例 ―染織品 第10回 資料の調査の実例 ―美術工芸品 第11回 資料の保管管理の実例 ―図書館資料 第12回 資料の保管管理の実例 ―ガラススライド 第13回 資料の展示の実例 ―ラジオコレクション 第14回 資料の展示の実例 ―染織品 第15回 総括
成績評価	授業時のレポート（40%）と期末レポート（60%）を合わせて総合的に評価する。
教科書	特に使用しない
参考書 参考資料	加藤有次、鷹野光行、西源二郎、山田英徳、米田耕司『新版博物館学講座1 博物館概論』雄山閣出版 ほか授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	博物館学芸員資格取得希望者は必ず受講すること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。
課題に対するフィードバックの方法	授業のフィードバックを講義内でおこなう。
科目ナンバリング	CRA-CU 2 02 L

講義名	博物館資料保存論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	3		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 内田 俊秀	KYOB I 工芸学部

到達目標	博物館に保管展示されている様々な種類の文化財について、材料、制作技法、保管環境について基礎的な事項を理解する。特に材料や制作技法、これに関連する劣化について、原因、防止方法を資料の種類や保管環境ごとに理解する。
授業概要	博物館資料を保存・展示するにあたり、貸し出しなどの機会も含めて、問題点を考える。本授業では資料を制作方法や材質の観点から考察し、どのような環境条件なら資料に負荷をかけないか検討し、劣化防止策などについても学ぶ。また、現在の様々な展示・保管の例を紹介し、資料に適した方法を学ぶ。また、近年、水害が各地で頻発するが、自然災害に対する博物館資料の防災対策について考える。
授業計画 授業内容	全15回 第1回：導入（多様な博物館資料を紹介し様々な材質や保管・展示環境に触れる） 第2回：「もの」としての博物館資料を分類、記録する方法の紹介 第3回：博物館資料の保管・展示などの方法と法律 第4回：博物館資料の保管・展示などについて、材質別に問題を整理する 第5回：博物館資料の点検・目視による点検、器機を利用した点検 第6回：博物館資料の保存環境（1）—温度と湿度の管理 第7回：博物館資料の保存環境（2）—光と熱の管理 第8回：博物館資料の保存環境（3）—館内の空気の管理 第9回：博物館資料の生物による劣化とその防止 第10回：和紙資料の構造と保管、洋紙資料と酸性紙の問題 第11回：館蔵品の汚れの除去方法と修理の考え方 第12回：屋外展示物の管理 第13回：博物館資料と災害時の応急対策 第14回：小テスト 第15回：まとめ（博物館を巡る様々な問題と対応策、外国の例の紹介）
成績評価	受講態度についての評価が60%、小テストを1回行い評価を40%とする。
教科書	特になし。授業中にプリントを配布する。
参考書 参考資料	動産文化財救出マニュアル編集委員会編『動産文化財救出マニュアル』2012年 クバプロ
履修上の注意	博物館資料の展示環境など、基準の数値を理解するものが多い。また簡単な化学知識が必要。
予習・復習指導	授業1コマに対し、約2時間の事前学習及び約2時間の復習をすること （具体的な内容） 授業で指示した参考のためのウェブサイトなどをよく読み、予習ではあらかじめ問題点を整理しておく。復習で疑問を持った点は、授業中に質問すること。
関連科目	「日本美術史」「歴史学」
課題に対するフィードバックの方法	授業の初めに、前回の授業について疑問点の質問を受け付けるなどして、理解を図る。
教員の実務経験	既に本学で、この授業を数年間講義している。
科目ナンバリング	CRA-CU 3 03 L

講義名	博物館展示論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	3		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 和田 積希	KYOB I 工芸学部

到達目標	博物館における展示の理念や歴史、展示の諸形態、展示方法における基礎的な知識を習得するとともに、実際に展覧会を企画することで、その面白さや意義を実感し、学芸員の仕事を理解する。
授業概要	博物館における展示は、ただ作品を並べるということではない。展覧会は、調査・研究の過程で得られた情報の発信の場であるとともに、作品、企画者である学芸員、観覧者をつなぐコミュニケーションの場でもある。本講義では、博物館展示の基礎知識を具体的な事例を用いて紹介するとともに、展覧会企画に取り組み、実践的な力を養う。 本科目は工芸学部ディプロマポリシーの1に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス—展示とはなにか 第2回 博物館展示の歴史と意義—欧米 第3回 博物館展示の歴史と意義—日本 第4回 展示のデザイン 第5回 展示の補足 第6回 展示の工夫と環境 第7回 展示の仕方 第8回 フィールドワーク 第9回 展覧会の作り方① 企画の流れと展示図面 第10回 展覧会の作り方② 借用と展示作業、図録の作成 第11回 展覧会の企画① 事前準備 第12回 展示の可能性① 所蔵者との連携 第13回 展示の可能性② 他館との連携 第14回 展覧会の企画② 発表 第15回 総括—展示の評価
成績評価	平常点30%、講義内課題（展覧会企画）40%、期末レポート30%
教科書	指定しない
参考書 参考資料	今村信隆編『博物館の歴史・理論・実践3：挑戦する博物館』京都造形芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 芸術学舎、2018年など
履修上の注意	博物館学芸員資格取得希望者は必修。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、1.5時間の事前学習及び3時間の復習をすること （具体的な内容） 予習：毎回、授業に関連すると思われるキーワードについて調べておく 復習：毎回、授業で言及された専門用語等についてまとめ、理解を深める。また、できるだけ博物館に足を運んで、事例に触れ、展示上の優れた点や不都合な点を考察する。
関連科目	博物館学芸員養成関連科目
課題に対するフィードバックの方法	講義内課題のフィードバックを次回以降の講義内でおこなう
教員の実務経験	あり／博物館における展覧会の企画や展示の経験
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-CU 3 04 L

講義名	博物館情報・メディア論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	4		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 加茂 瑞穂	KYOB I 工芸学部

到達目標	博物館が発信する情報と活用の重要性を知り、博物館を通じて情報を提供する方法や情報を活用するための基礎を理解する。
授業概要	昨今の博物館・美術館では、資料研究、展示、さらには教育を含めて情報の管理と発信に、デジタル技術を活用している。本講では、文化財に関わる情報をいかに整理して発信しているか実践的な取り組みを紹介する。また、博物館・美術館に関わる情報を適切に扱うための基礎についても学ぶ。 本科目は、①大学（工芸学部）のディプロマポリシーに該当する。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス 第2回 博物館における情報・メディアとは 第3回 さまざまな文化財 第4回 博物館・美術館におけるメディアの活用 1 第5回 博物館・美術館におけるメディアの活用 2 第6回 デジタルアーカイブとは 第7回 デジタルアーカイブの実際 1 第8回 デジタルアーカイブの実際 2 第9回 デジタルアーカイブの実践 1 画像情報 第10回 デジタルアーカイブの実践 2 メタデータの作成 第11回 デジタルアーカイブの実践 3 メタデータの作成 第12回 博物館・美術館における情報活用の現状と課題 第13回 プレゼンテーション 1（博物館・美術館における情報活用・発信） 第14回 プレゼンテーション 2（博物館・美術館における情報活用・発信） 第15回 総括
成績評価	授業態度（30%）、小プレゼンテーション（20%）、最終レポート（50%）によって総合的に評価する。
教科書	資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	赤間亮・富田美香編『イメージデータベースと日本文化研究』ナカニシヤ出版、2010年
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 （具体的な内容）可能であれば美術館・博物館の展示会に出かけるようにすること。文化財に関するWebページ、データベースなどを積極的に閲覧、利用してみること。
課題に対するフィードバックの方法	授業時に簡単な意見交換の時間を設ける。また、課題に対しては授業内でフィードバックをおこなう。
教員の実務経験	大学ミュージアム勤務経験あり。文化財に関するデータベースの構築・運用経験あり。
科目ナンバリング	CRA-CU 4 05 L

講義名	博物館教育論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	4		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 高志 緑	K Y O B I 工芸学部

到達目標	社会教育機関としての博物館の役割と取り組みを知り、博物館における教育のあり方を学ぶ。将来博物館の仕事に関わる場合に備え、学芸員に求められる博物館教育の具体像を学ぶ。
授業概要	博物館は、幼児から大学生に至る学校教育、生涯学習を視野に入れた社会教育など、あらゆる世代が関わる社会教育機関としての役割を担っている。この授業は博物館の教育活動について、具体例を通して実践的に学ぶことを目的としている。各館の様々な取り組みを理解し、これからの博物館教育についても考えていきたい。 本科目は工芸学部ディプロマポリシーの2・3に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス 第2回 博物館教育の種類と内容 第3回 ギャラリートーク、映像教材 第4回 ワークショップ 第5回 連続講座、市民講座 第6回 講演会、シンポジウム 第7回 図録 第8回 図書室、デジタルアーカイブ 第9回 学校教育との関わり 第10回 地域社会との関わり 第11回 特徴ある館の取り組み 第12回 小課題へのフィードバック 第13回 博物館教育のこれから 第14回 予備日 第15回 総括
成績評価	授業への参加度30%、小課題（内容は未定）20%、最終レポート50%。
教科書	使用しない。
参考書 参考資料	倉田公裕・矢島國雄『新編博物館学』東京堂出版（1997）、寺島洋子・大高幸編『博物館教育論』放送大学教育振興会（2012）など。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して、2時間の事前学習及び1.5時間の復習をすること。 （具体的な内容） 授業で扱う内容を自ら主体的に調べ、新しく学んだことについては復習すること。
関連科目	博物館学芸員養成科目
課題に対するフィードバックの方法	小課題のフィードバックを、授業内で個別または全体に対して行う。
教員の実務経験	自信が短期間に関わったミュージアム：大阪市立美術館（インターン）、京都国立博物館（ボランティア）、大阪大学総合学術博物館（金銅仏の企画展）、和泉市久保惣記念美術館（学芸部臨時職員）。
科目ナンバリング	CRA-CU 4 06 L

講義名	博物館実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	3		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	4		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 岡 達也	KYOB I 工芸学部

到達目標	各種の美術工芸品を対象にして、その取り扱いに関する知識や技術を習得することで、博物館資料の展示、保存、活用などの重要性を理解する。
授業概要	博物館資料の取扱い、保存、活用などに関して、実際に作品等に触れることで学芸員にとって必要な知識と技術を指導する。 工芸学部のディプロマポリシー 1 に係る。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス 第2回 陶磁器作品の取扱い① 第3回 陶磁器作品の取扱い② 第4回 漆芸作品の取扱い① 第5回 漆芸作品の取扱い② 第6回 木工作品の取扱い① 第7回 木工作品の取扱い② 第8回 彫刻作品の取扱い 第9回 刀剣の取扱い 第10回 卷子・軸装の取扱い 第11回 ポスターの取扱い① 第12回 ポスターの取扱い② 第13回 展示企画と展示計画 第14回 展示と展示環境 第15回 総括 ※順序と内容は変更する場合があります。
成績評価	授業態度（50%）、各回のレポート（50%）によって総合的に評価する。
参考書 参考資料	適宜紹介する。
履修上の注意	「博物館概論」「生涯学習論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館情報・メディア論」「博物館教育論」を履修しておくこと。
予習・復習指導	学外実習を視野に入れて予習復習をすること。
関連科目	「博物館概論」「生涯学習論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館情報・メディア論」「博物館教育論」
課題に対するフィードバックの方法	実習時間内で適宜対応する。
科目ナンバリング	CRA-CU407P